

Data

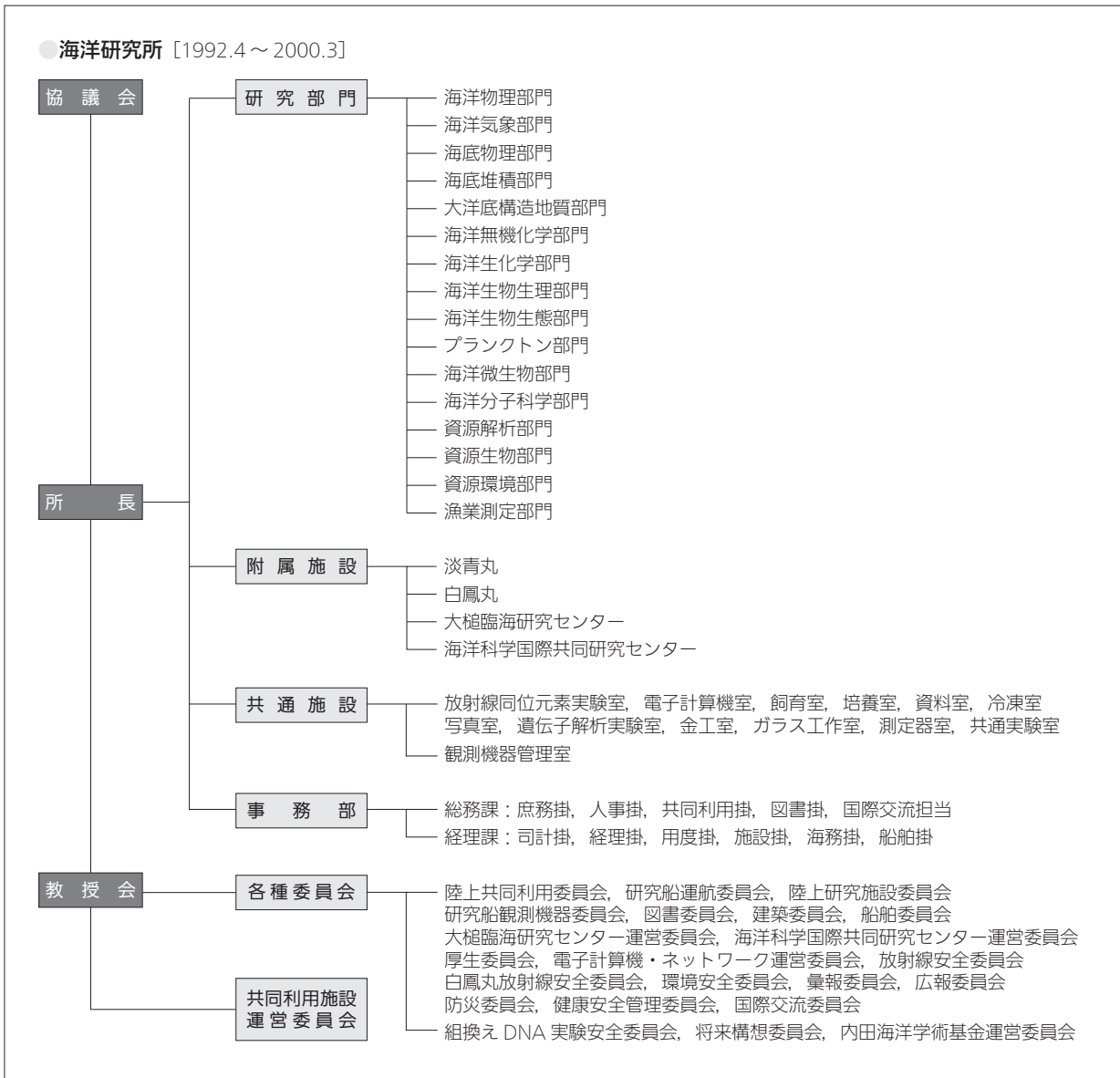
ATMOSPHERE AND OCEAN RESEARCH INSTITUTE, THE UNIVERSITY OF TOKYO 1962-2012

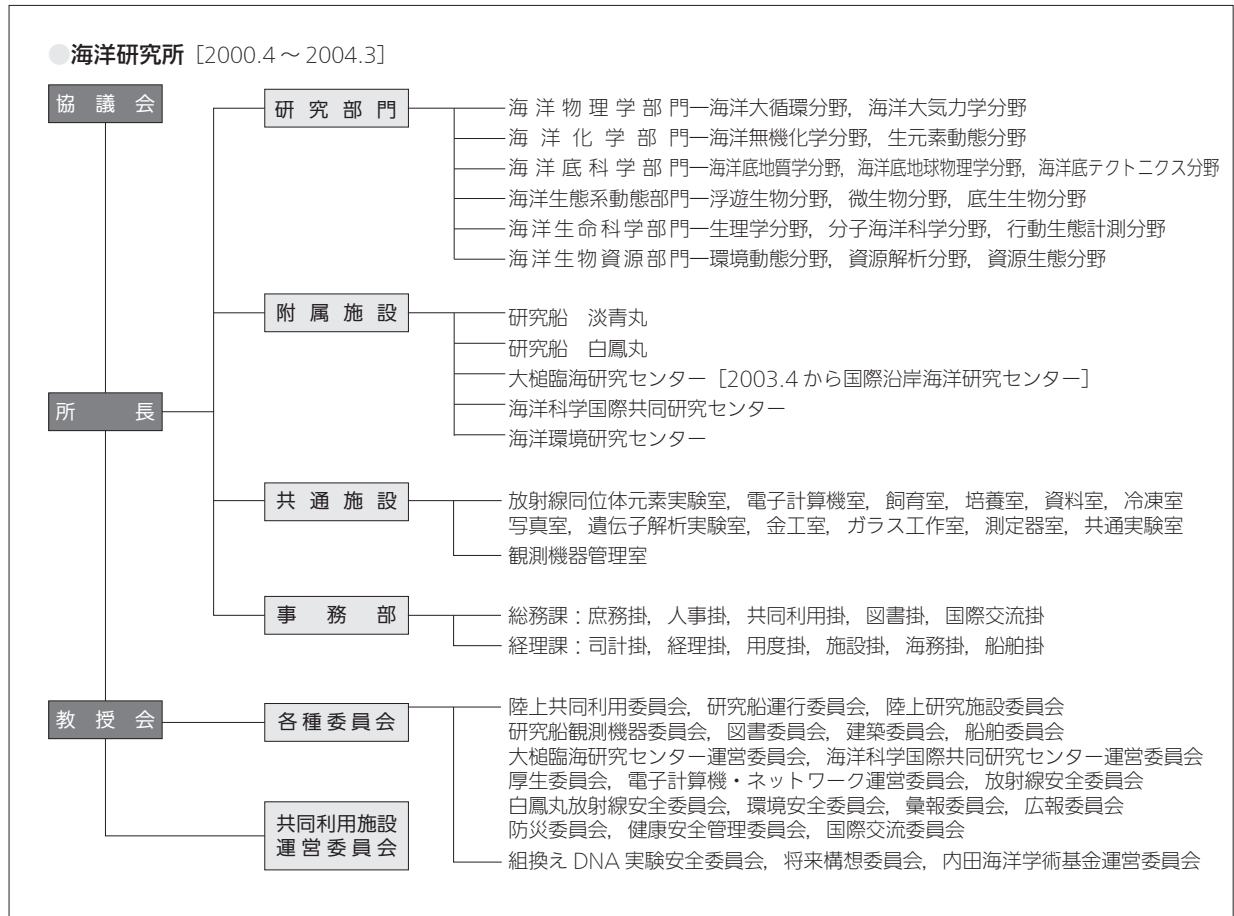
資料 [1991/1992~2012]

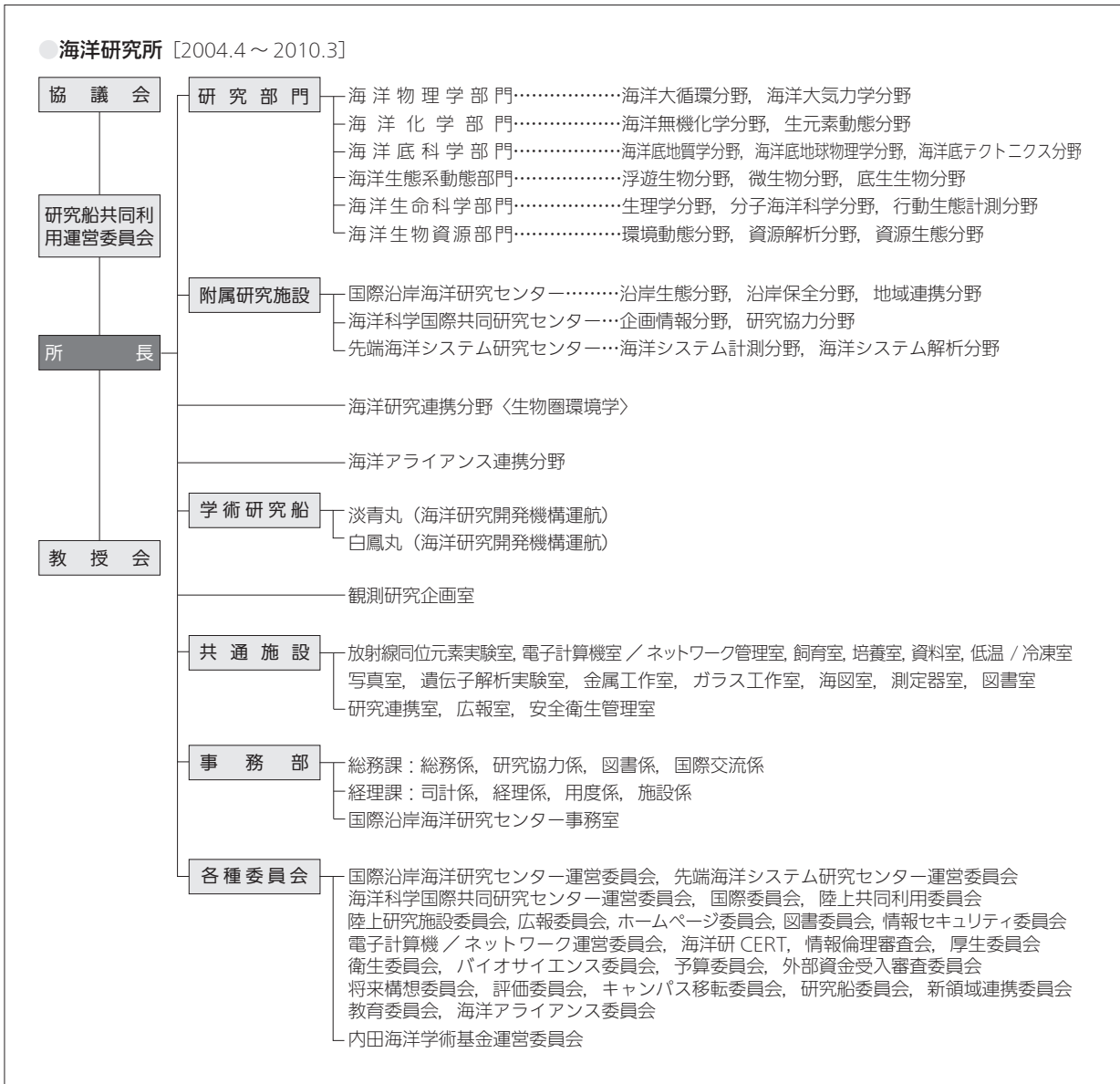


資料 1 組 織

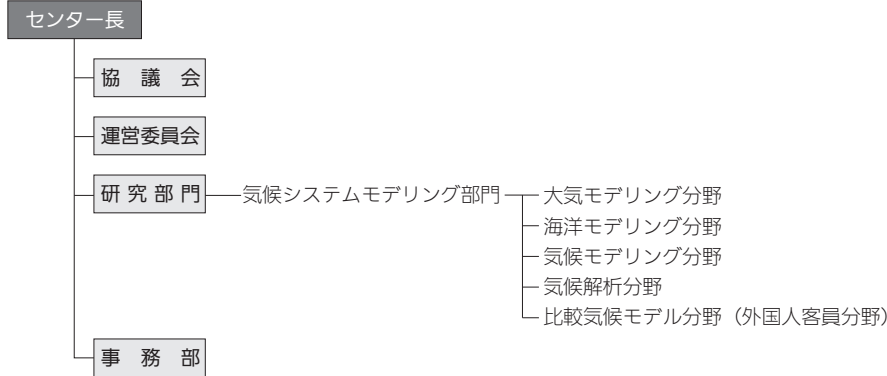
資料 1-1 機 構



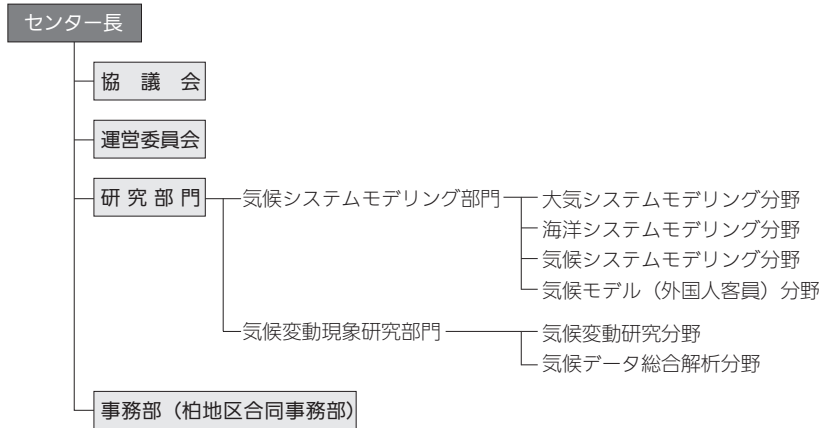




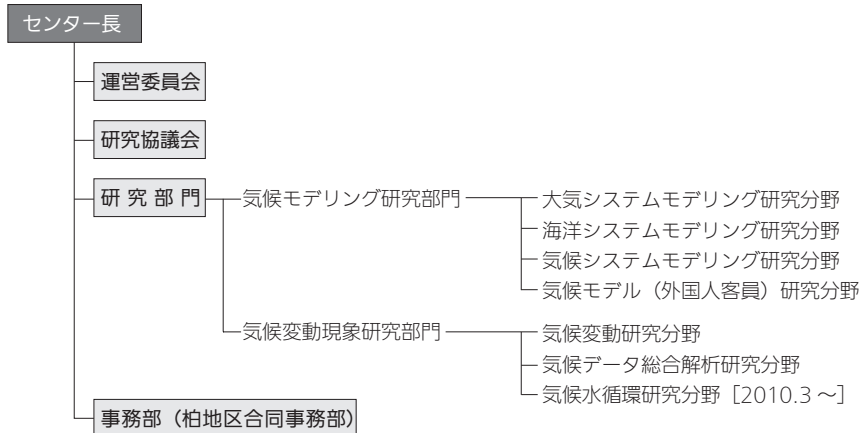
● 気候システム研究センター第1期 [1991.4.12 ~ 2001.3]

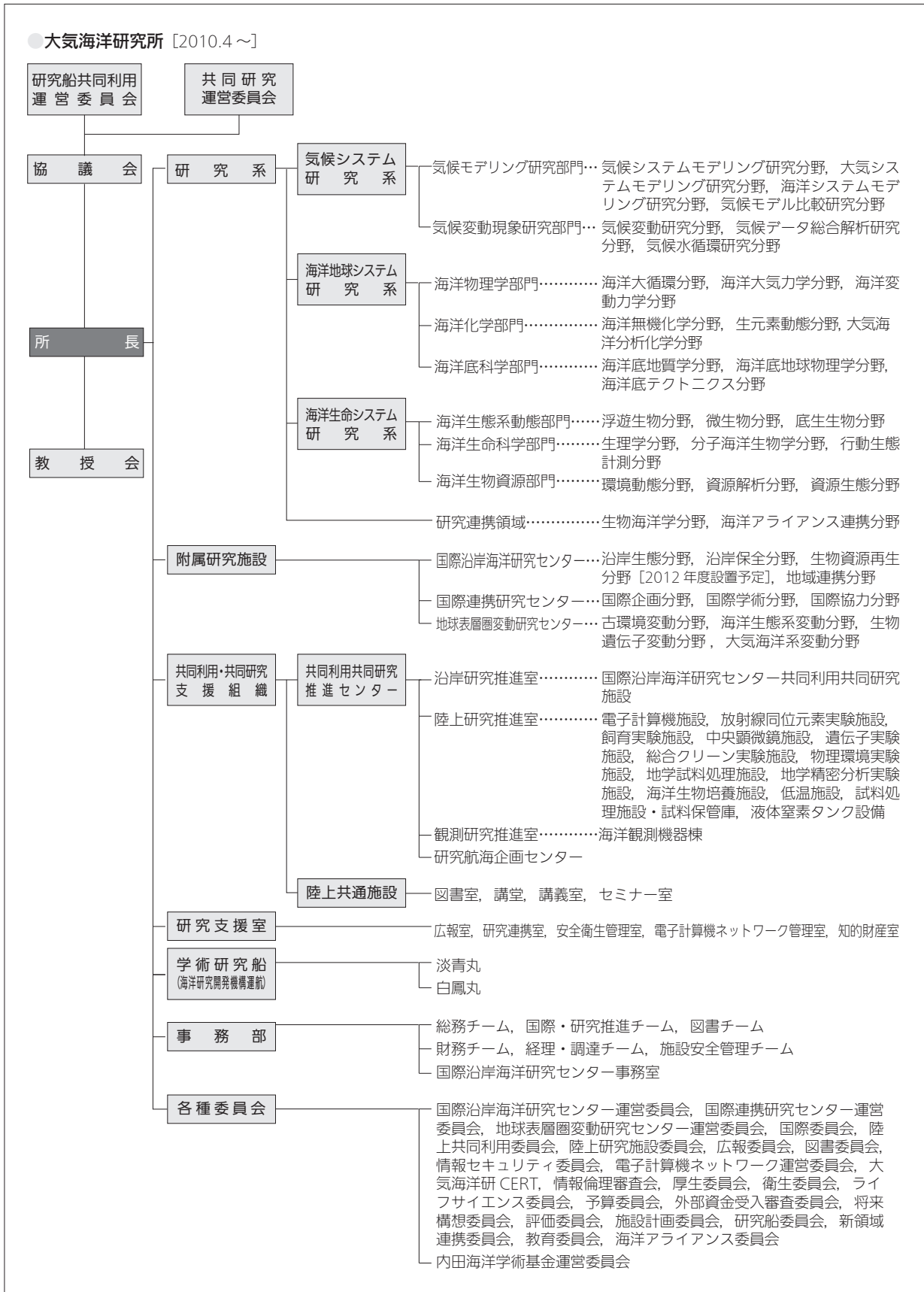


● 気候システム研究センター第2期前半 [2001.4 ~ 2004.3] 法人化前



● 気候システム研究センター第2期後半 [2004.4 ~ 2010.3] 法人化後





資料1-2 土地, 建物

●海洋研究所

中野キャンパス

〒164-8639 東京都中野区南台1-15-1

棟別	竣工(年)	面積(m ²)	構造
A棟	1964	5,715	鉄筋コンクリート造 地上5階地下1階
B棟	1968	3,596	鉄筋コンクリート造 地上3階地下1階
C棟	1981	624	鉄筋コンクリート造 地上2階
D棟	1981	630	鉄筋コンクリート造 地上2階
E棟	1992	159	鉄骨造 地上2階
F棟	1965	104	コンクリートブロック造 地上1階
F棟II	2002	69	鉄骨造 地上2階
G棟	1999	78	鉄骨造 地上2階
H棟	2000	94	鉄骨造 地上2階
I棟	2003	250	鉄骨造 地上2階
用具倉庫	1972	29	コンクリートブロック造 地上1階
危険物倉庫	1980	21	コンクリートブロック造 地上1階
危険物倉庫	1992	9	コンクリートブロック造 地上1階
計		11,378	

西千葉キャンパス

標本倉庫 213m²

大槌キャンパス 国際沿岸海洋研究センター

44,698m²

●気候システム研究センター

柏キャンパス

〒277-8568 千葉県柏市柏の葉5-1-5

棟別	竣工(年)	面積(m ²)	構造
総合研究棟*	2004	15,793	鉄筋コンクリート造 地上6階地下1階

※使用スペースは、下記の通り。ただし、共通部分は除く。

3階	441m ²
2階	1,019m ²
1階	188m ²
B1階	85m ²
計	1,733m ²

●大気海洋研究所

柏キャンパス

〒277-8564 千葉県柏市柏の葉5-1-5

棟別	竣工(年)	面積(m ²)	構造
大気海洋研究棟	2009	15,250	鉄筋コンクリート造 地上7階地下1階
総合研究棟	2004	1,724	
観測機器棟	2009	1,526	鉄筋コンクリート造 地上2階
廃棄物保管庫	2009	131	鉄骨造 地上1階
計		18,631	

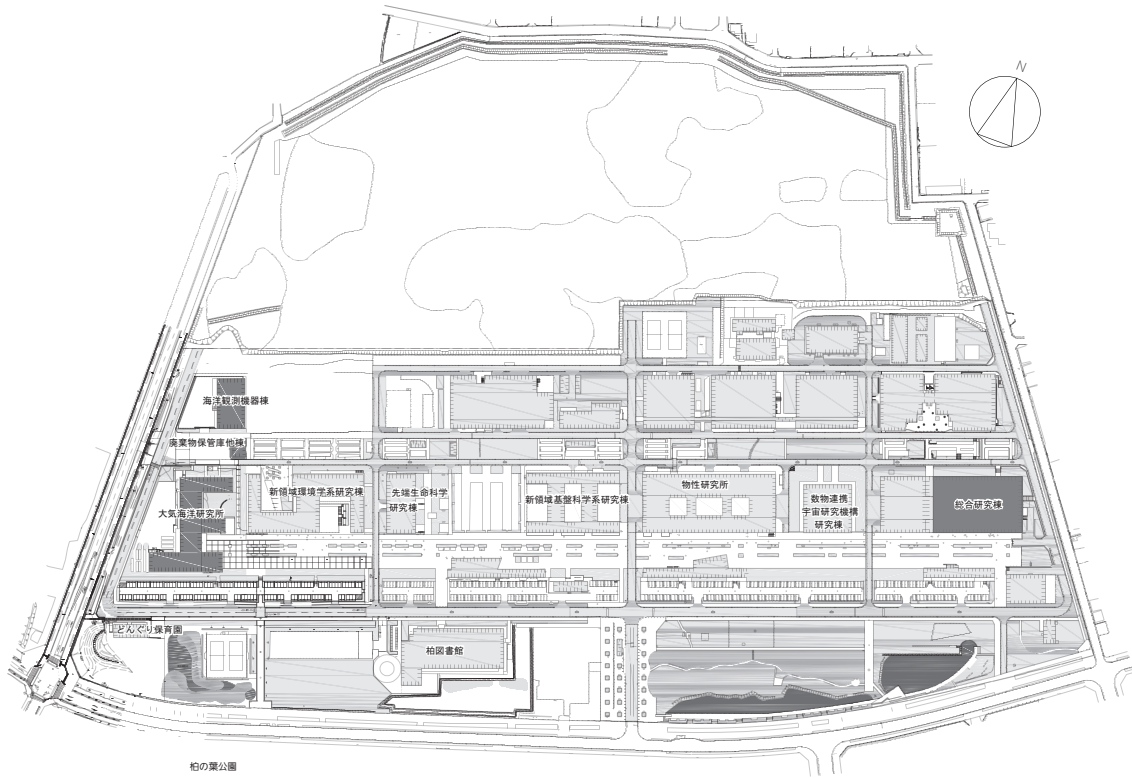
西千葉キャンパス

〒263-0022
千葉県千葉市稲毛区弥生町1-8標本倉庫 213m²

大槌キャンパス 国際沿岸海洋研究センター

〒028-1102
岩手県上閉伊郡大槌町赤浜2-106-144,698m²

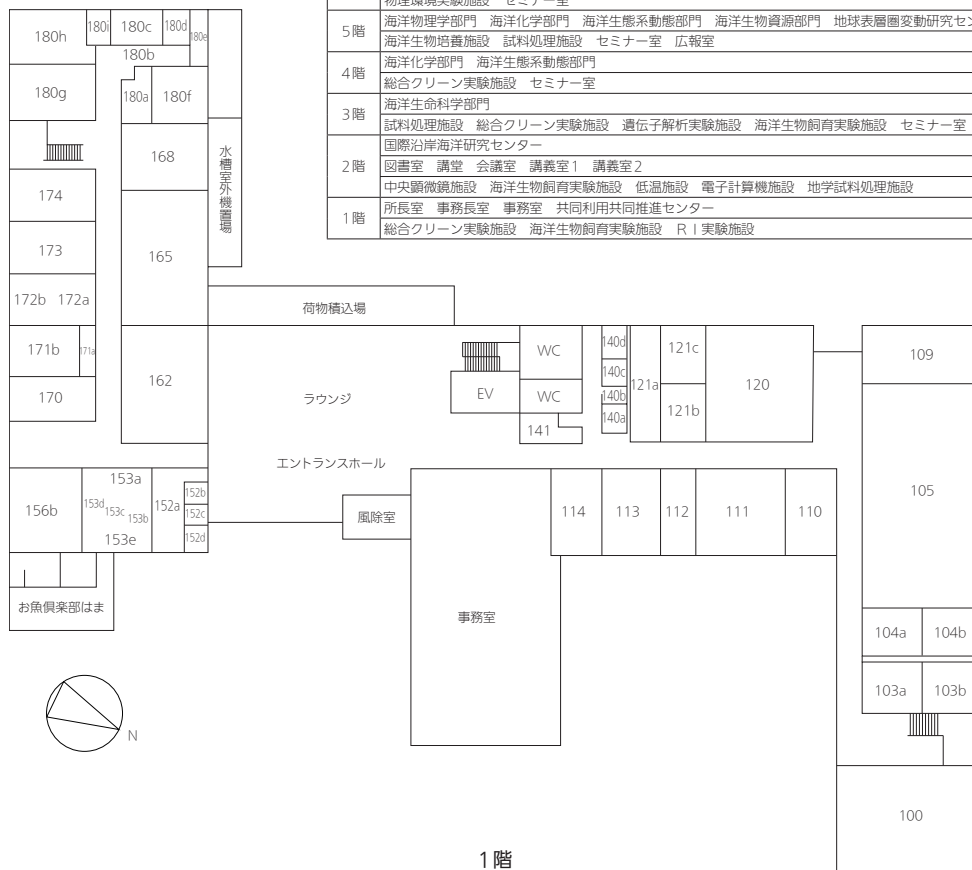
柏キャンパス



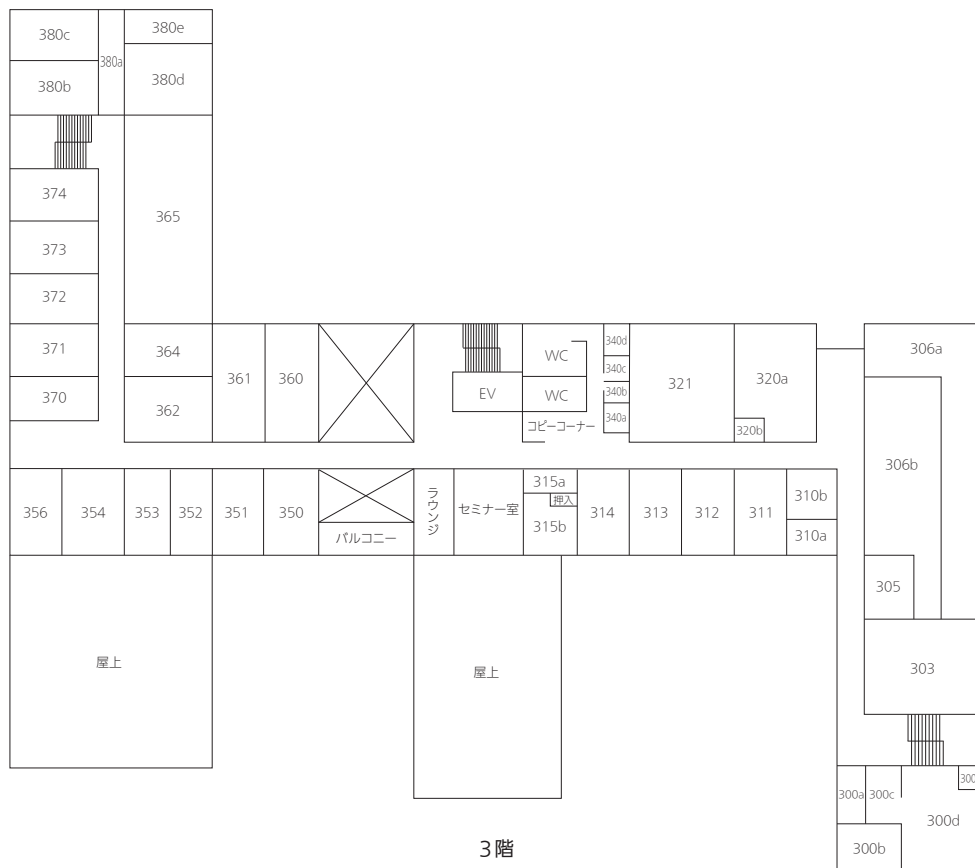
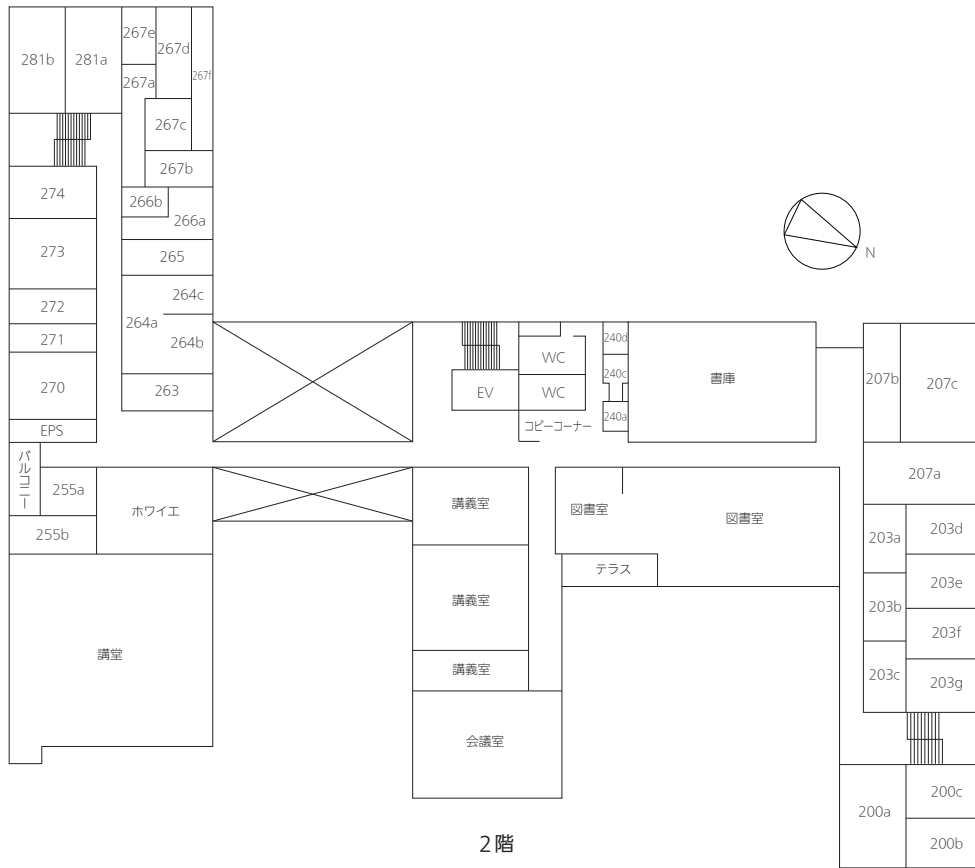
大気海洋研究棟フロア案内

7階	海洋底科学部門 国際連携研究センター 地学精密分析実験施設 セミナー室
6階	海洋物理学部門 海洋生物資源部門 国際連携研究センター 研究連携領域 物理環境実験施設 セミナー室
5階	海洋物理学部門 海洋化学部門 海洋生態系動態部門 海洋生物資源部門 地球表層圏変動研究センター 研究連携領域 海洋生物培養施設 試料処理施設 セミナー室 広報室
4階	海洋化学部門 海洋生態系動態部門 総合クリーン実験施設 セミナー室
3階	海洋生命科学部門 試料処理施設 総合クリーン実験施設 遺伝子解析実験施設 海洋生物飼育実験施設 セミナー室 国際沿岸海洋研究センター
2階	図書室 講堂 会議室 講義室1 講義室2 中央顕微鏡施設 海洋生物飼育実験施設 低温施設 電子計算機施設 地学試料処理施設
1階	所長室 事務長室 事務室 共同利用共同推進センター 総合クリーン実験施設 海洋生物飼育実験施設 RI実験施設

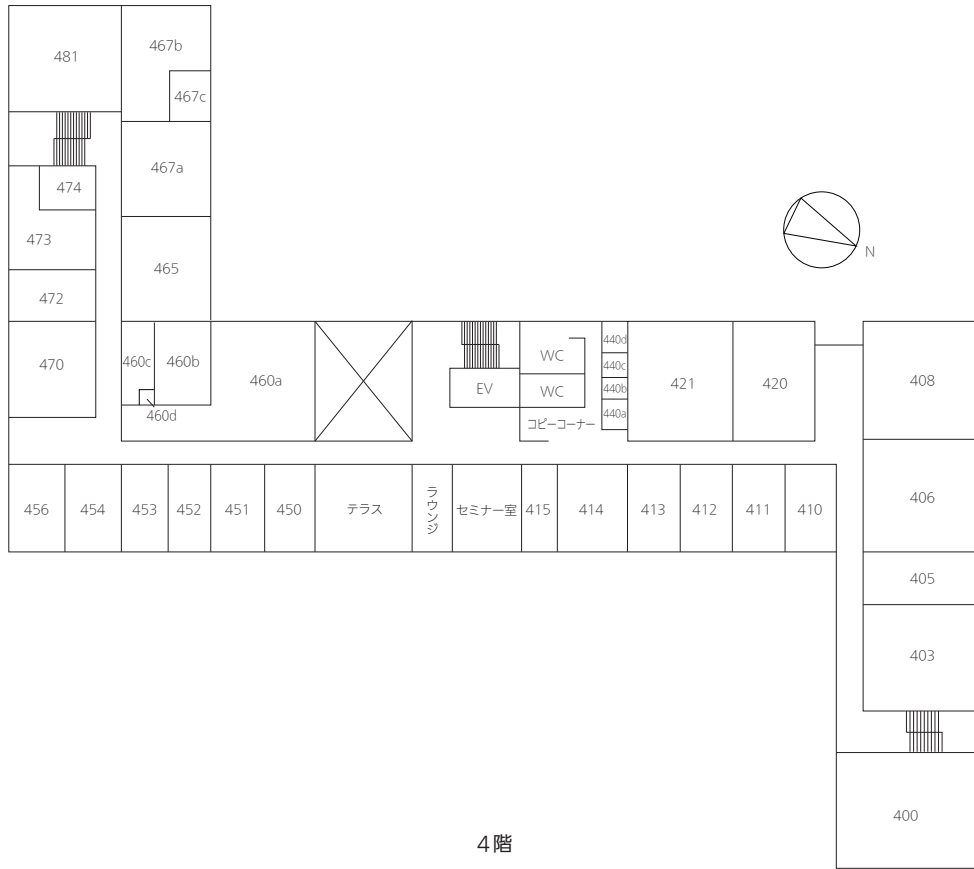
大気海洋研究棟 1/600



大気海洋研究棟 1/600



大気海洋研究棟 1/600

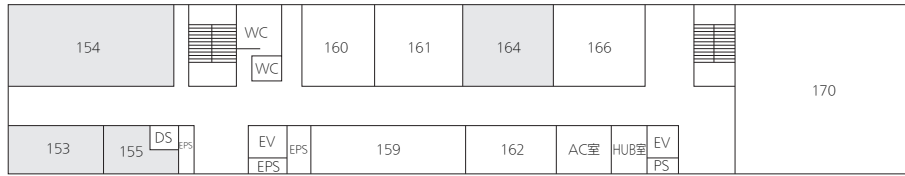


大気海洋研究棟 1/600

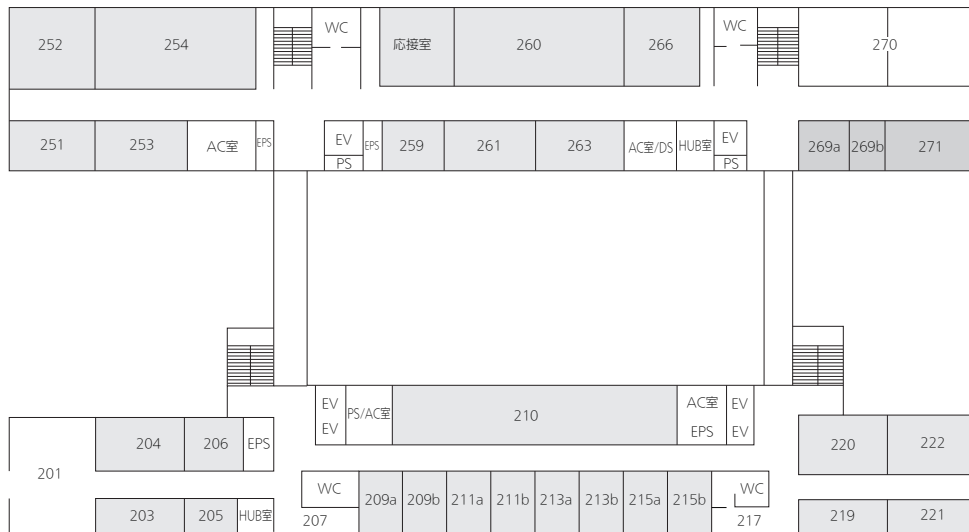


総合研究棟 1/600

*灰色の部分が大気海洋研究所気候システム研究系の使用スペース



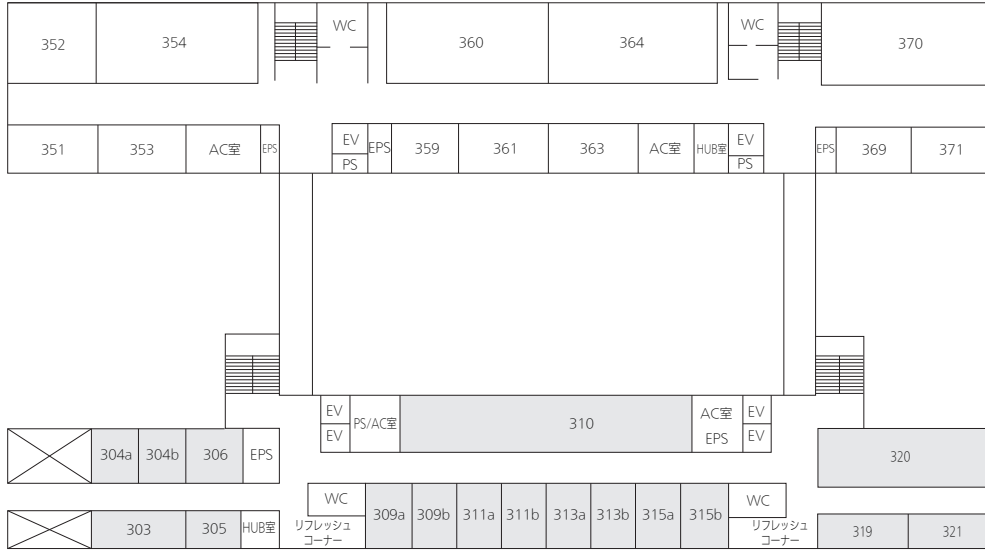
1階



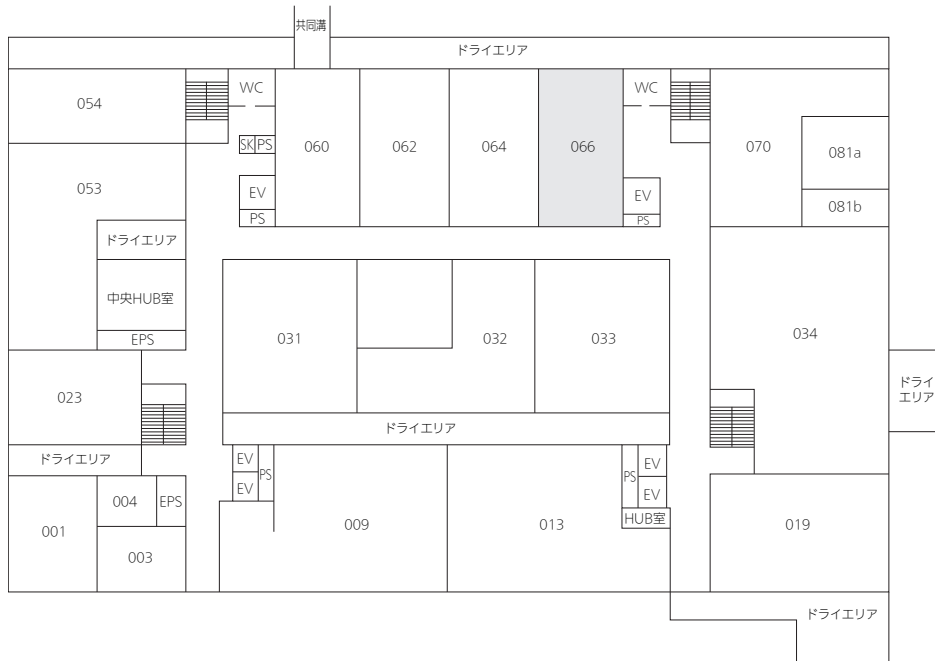
2階

総合研究棟 1/600

*灰色の部分が気象海洋研究所気候システム研究系の使用スペース

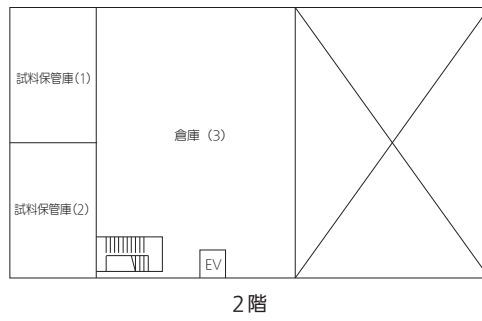
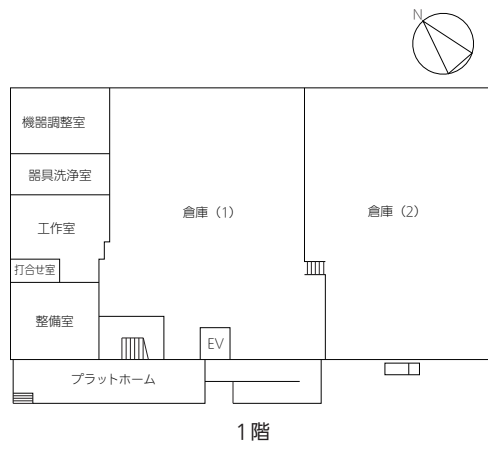


3階



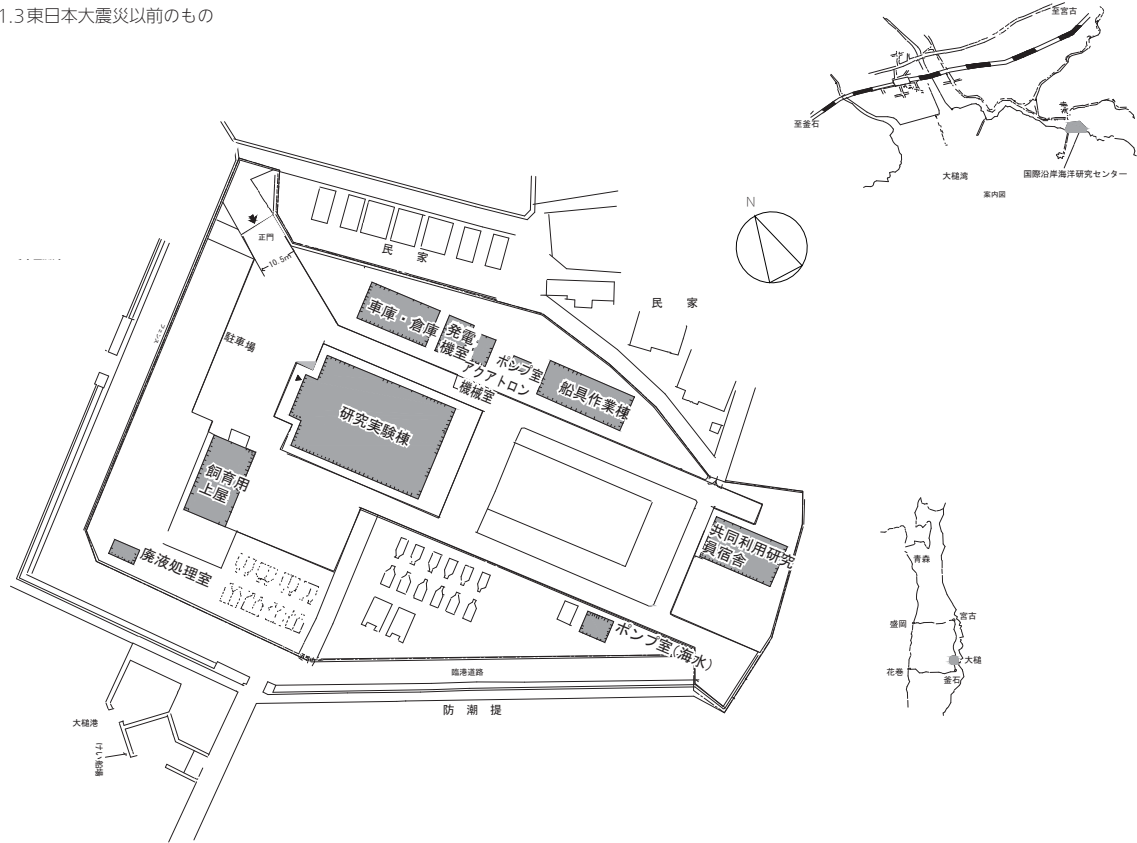
地階

海洋観測機器棟 1/600



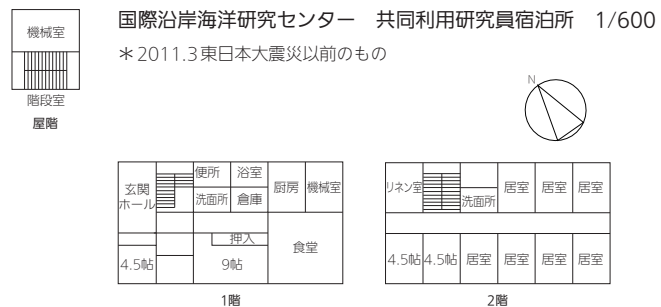
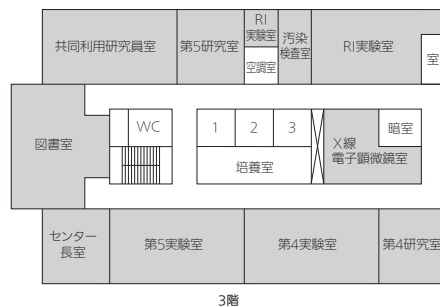
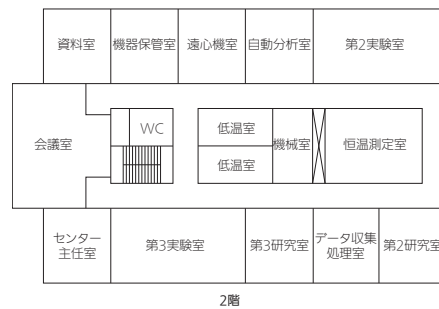
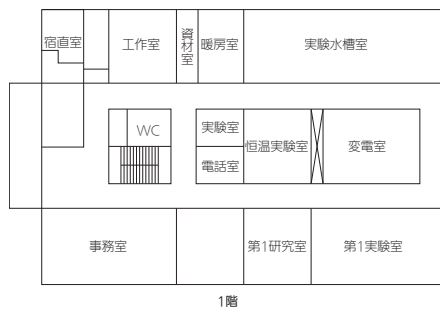
大槌地区 国際沿岸海洋研究センター

* 2011.3東日本大震災以前のもの



国際沿岸海洋研究センター 研究実験棟 1/600

* 2011.3東日本大震災以前のもの。ただし灰色の部屋を震災後も事務室、実験室等として暫定的に使用

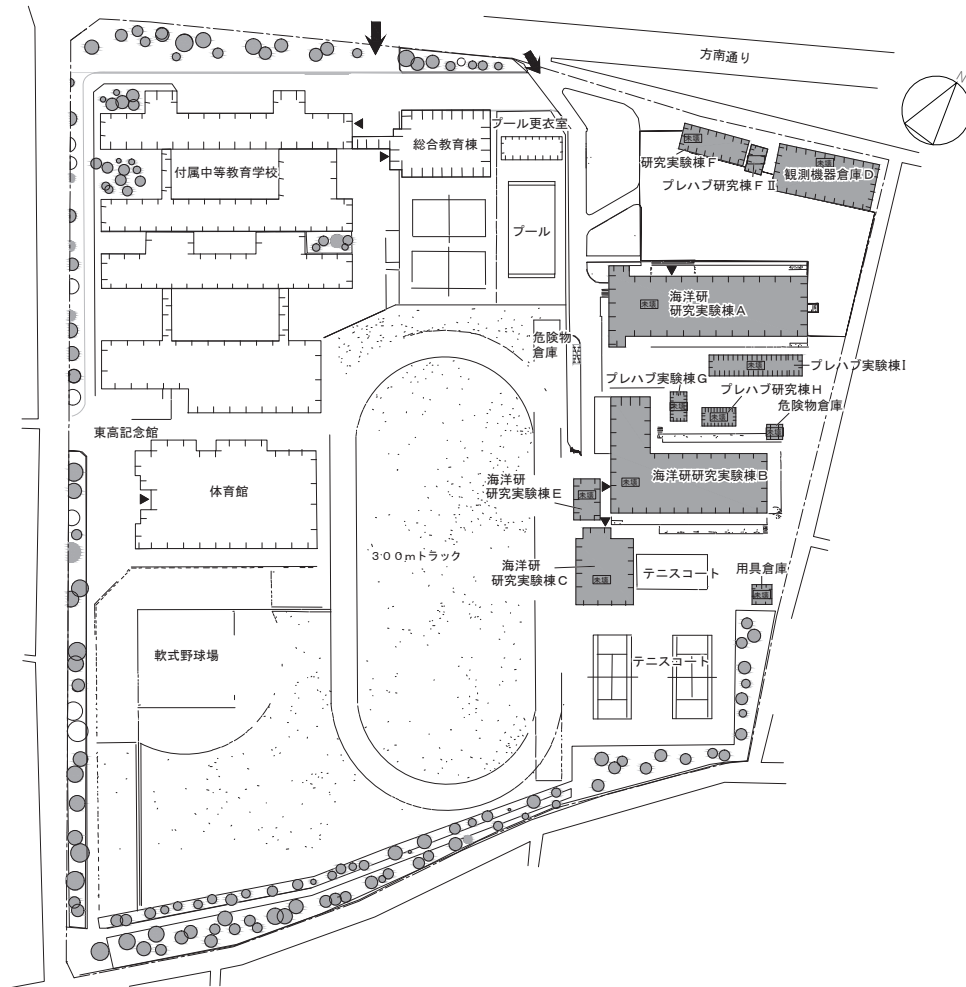


国際沿岸海洋研究センター 共同利用研究員宿泊所 1/600

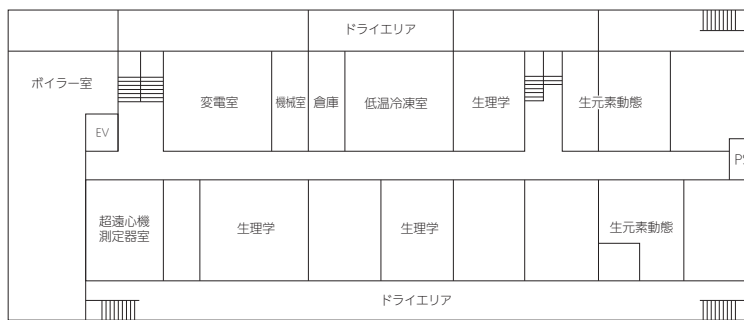
* 2011.3東日本大震災以前のもの

中野キャンパス

* 2010.3 海洋研究所柏キャンパス移転前のもの



海洋研究所 A 棟 1/600



地階

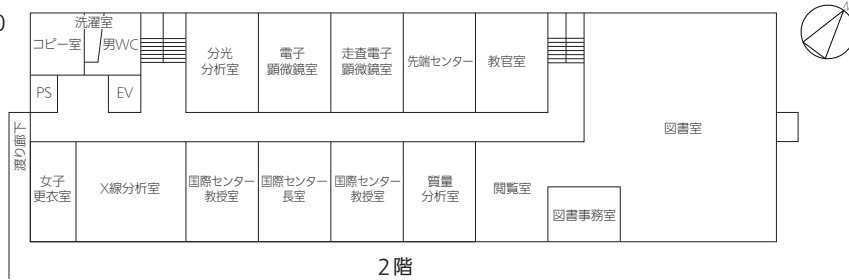


1階

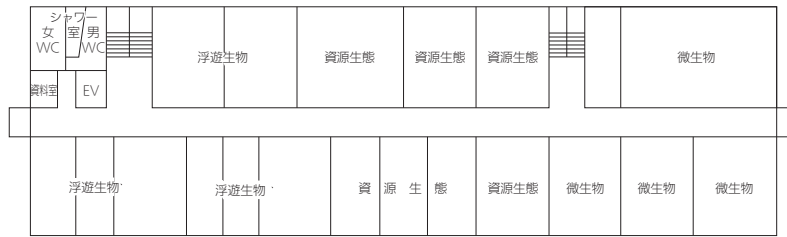
渡り廊下



海洋研究所A棟 1/600



2階



3階

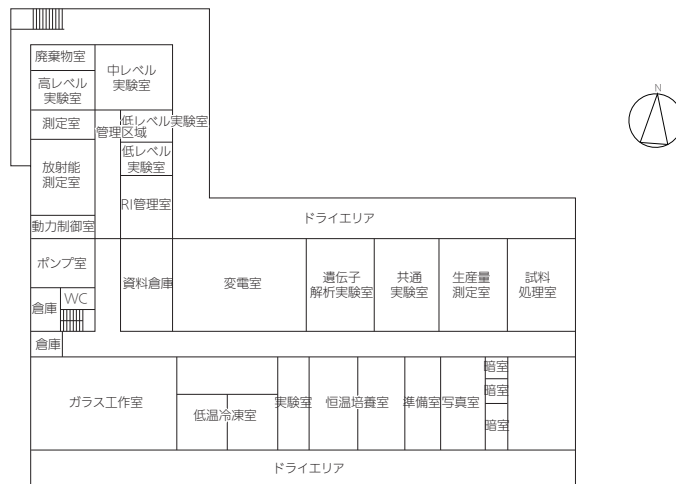


4階



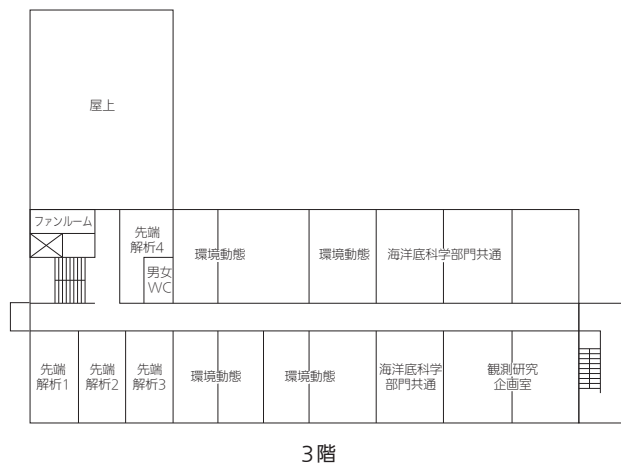
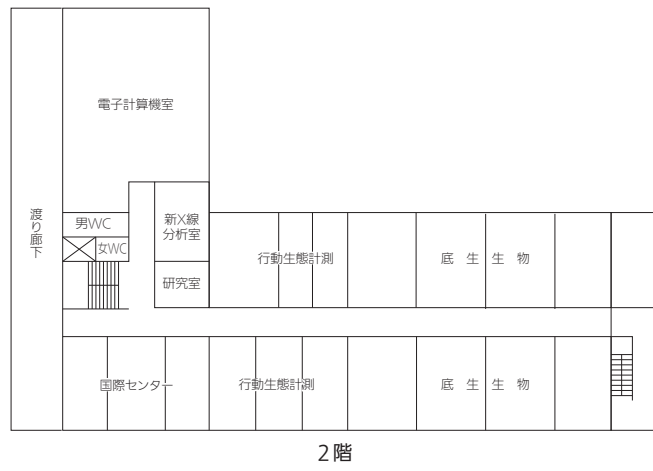
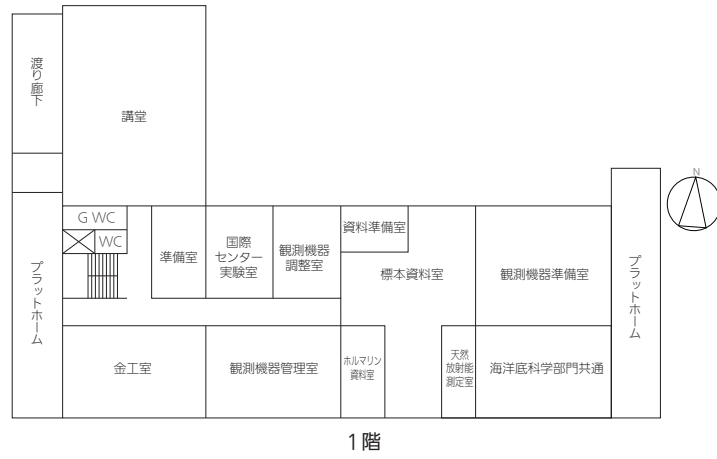
5階

海洋研究所B棟 1/600

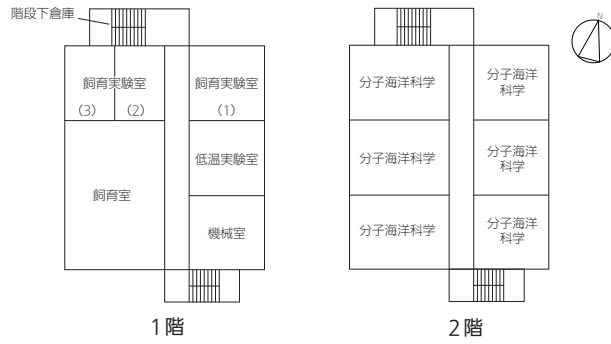


地階

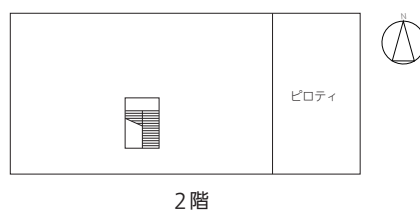
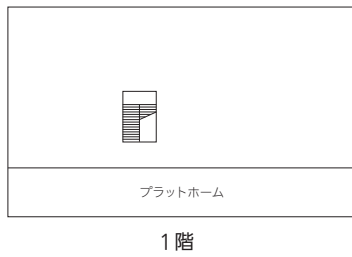
海洋研究所B棟 1/600



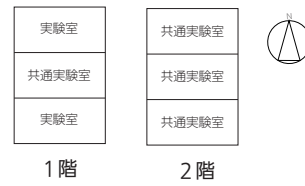
海洋研究所C棟 1/600



海洋研究所D棟 1/600



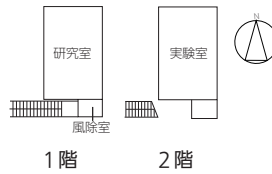
海洋研究所E棟 1/600



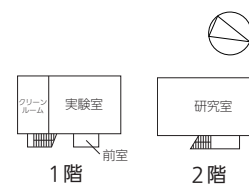
海洋研究所F棟 1/600



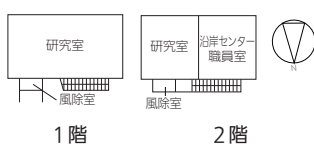
海洋研究所F II棟 1/600



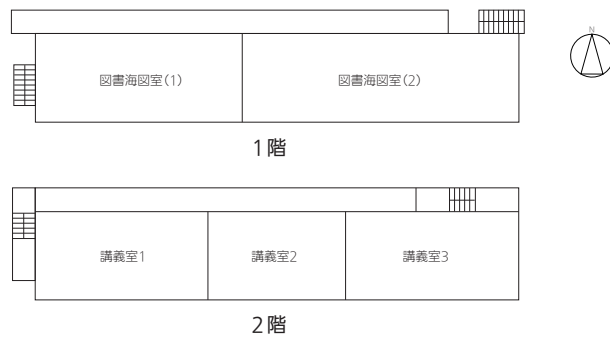
海洋研究所G棟 1/600



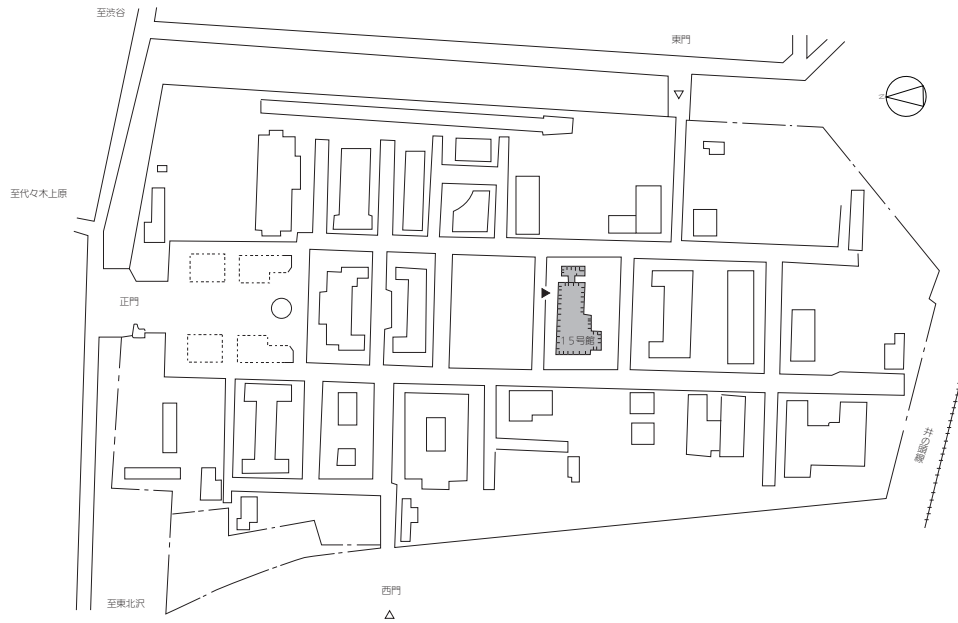
海洋研究所H棟 1/600



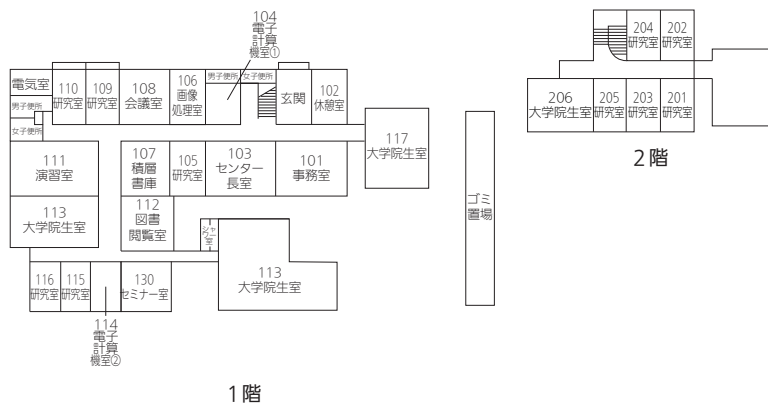
海洋研究所I棟 1/600



駒場IIキャンパス



気候システム研究センター [駒場II 15号館] 1/600



資料1-3 経 費

●海洋研究所 [法人化前]

単位：千円

年度	人件費	物 件 費							計
		経常費	設備費	共同利用 関係費	研究船 関係費	臨海研究センター 関係費	特別事業費	船舶建造 関係費	
1992	1,426,155	382,524	134,900	156,264	553,816	37,031	91,038	0	2,781,728
1993	1,427,486	372,299	289,404	156,634	554,442	37,898	119,036	0	2,957,199
1994	1,445,145	384,462	42,800	157,605	530,211	37,302	137,825	0	2,735,350
1995	1,499,676	398,318	152,000	157,730	592,727	62,322	132,479	0	2,995,252
1996	1,544,197	437,223	18,037	164,386	589,635	53,272	137,923	0	2,944,673
1997	1,569,530	479,829	251,250	165,514	542,227	57,756	111,842	0	3,177,948
1998	1,652,873	476,157	978,216	185,856	541,650	43,291	125,800	0	4,003,843
1999	1,579,379	447,864	241,158	168,651	544,247	42,751	126,623	0	3,150,673
2000	1,502,653	385,097	118,005	160,686	543,846	37,205	343,849	0	3,091,341
2001	1,513,979	427,518	326,012	138,922	542,399	45,861	349,749	0	3,344,440
2002	1,446,671	339,104	1,492,443	163,575	534,790	30,597	368,724	0	4,375,904
2003	1,415,224	370,806	268,638	166,901	543,138	41,640	248,743	0	3,055,090

●海洋研究所 [法人化後]

単位：千円

年度	人件費	大学運営費	特定事業費	間接経費	キャンパス整備事業費	計
2004	1,082,562	742,337	0	65,918	0	1,890,817
2005	1,191,463	453,687	242,939	73,386	0	1,961,475
2006	1,211,122	425,189	170,810	45,186	0	1,852,307
2007	1,087,909	556,758	236,045	44,377	0	1,925,089
2008	971,282	363,680	218,147	43,578	0	1,596,687
2009	1,069,630	709,158	218,147	68,194	233,245	2,298,374

●気候システム研究センター [法人化後]

単位：千円

年度	人件費	大学運営費	特定事業費	間接経費	キャンパス整備事業費	計
2004	141,278	182,374	0	8,056	0	331,708
2005	123,126	123,457	2,862	10,250	0	259,695
2006	119,722	121,108	0	920	0	241,750
2007	149,231	87,543	46,815	33,988	0	317,577
2008	107,510	119,662	47,250	25,045	0	299,467
2009	106,213	152,272	47,250	22,293	0	328,028

●大気海洋研究所

単位：千円

年度	人件費	大学運営費	特定事業費	間接経費	キャンパス整備事業費	計
2010	1,035,026	505,824	222,800	72,039	27,966	1,863,655
2011	1,124,898	586,781	127,520	81,679	566	1,921,444

*気候システム研究センターの法人化前のデータはなし

資料 1-4 定員、採用可能数

●海洋研究所 [法人化前, 定員]

▲印: 前年度からの減

年度	教 授		助 教 授		助 手		技官・事務官・ その他		計	
	増	減	定 員	増	減	定 員	増	減		定 員
1992			17		16		32		129	194
1993			17		16		32	▲ 2	127	192
1994	2		19	3	19	▲ 3	29	▲ 2	125	192
1995			19		19		29	▲ 2	123	190
1996			19		19		29	▲ 1	122	189
1997			19		19		29	▲ 2	120	187
1998			19		19		29	▲ 2	118	185
1999	1		20	1	20	▲ 1	28	▲ 2	114	182
2000			20		20		28	▲ 2	112	180
2001			20		20		28	▲ 2	110	178
2002			20		20	▲ 1	27	▲ 2	110	177
2003	1		21	2	22	▲ 2	25	▲ 2	108	176

●気候システム研究センター [法人化前, 定員]

▲印: 前年度からの減

年度	教 授		助 教 授		助 手		技官・事務官・ その他		計	
	増	減	定 員	増	減	定 員	増	減		定 員
1991			4		4		2		—	10
1992			4		4		2		—	10
1993			4		4		2		—	10
1994			4		4		2		—	10
1995			4		4		2		—	10
1996			4		4		2		—	10
1997			4		4		2		—	10
1998			4		4		2		—	10
1999			4		4		2		—	10
2000			4		4		2		—	10
2001			4		4		2		—	10
2002	1		5	1	5	▲ 2	0		—	10
2003			5		5		0		—	10

●海洋研究所 [法人化後, 採用可能数]

▲印: 前年度からの減

年度	教 授			助教授・准教授			助手・助教			技術職員・事務職員			計
	増	減	採用可能数	増	減	採用可能数	増	減	採用可能数	増	減	採用可能数	
2004			22			24			24			44	114
2005			22			24			24	▲ 1		43	113
2006	▲ 2		20	▲ 2		22	▲ 1		23			43	108
2007			20			22			23	▲ 1		42	107
2008			20	▲ 1		21			23	▲ 2		40	104
2009			20			21			23			40	104

●気候システム研究センター [法人化後, 採用可能数]

▲印: 昨年度からの減

年度	教 授			助教授・准教授			助手・助教			技術職員・事務職員			計
	増	減	採用可能数	増	減	採用可能数	増	減	採用可能数	増	減	採用可能数	
2004			5			5			0			—	10
2005			5			5			0			—	10
2006			5			5			0			—	10
2007			5			5			0			—	10
2008			5			5			0			—	10
2009			5			5			0			—	10

●大気海洋研究所 [採用可能数]

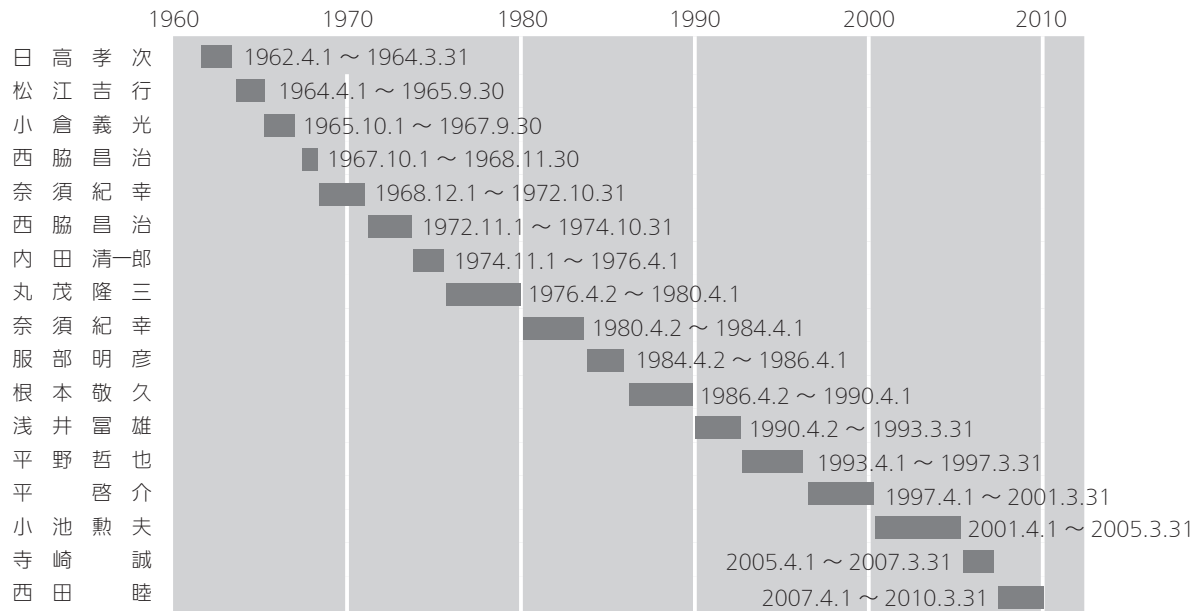
▲印: 昨年度からの減

年度	教 授			准 教 授			助 教			技術職員・事務職員			計
	増	減	採用可能数	増	減	採用可能数	増	減	採用可能数	増	減	採用可能数	
2010			26			26			22			42	116
2011		1	27		1	27	▲	3	19	▲	1	41	114

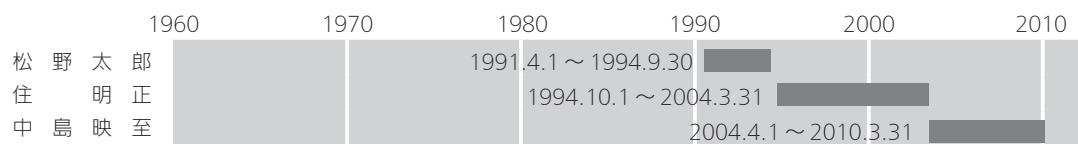
資料 1-5 教職員

資料 1-5-1 歴代所長, 歴代センター長 [1962 ~]

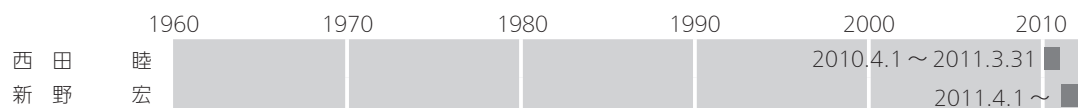
● 海洋研究所 (歴代所長)



● 気候システム研究センター (歴代センター長)

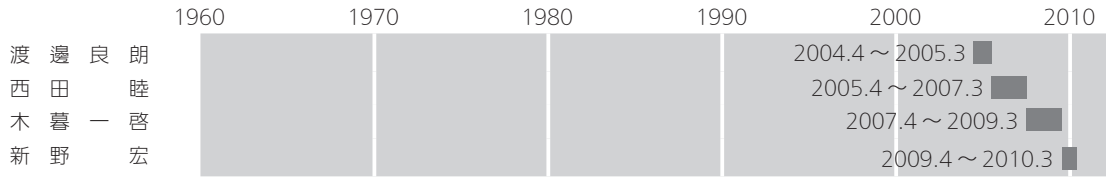


● 大気海洋研究所 (歴代所長)

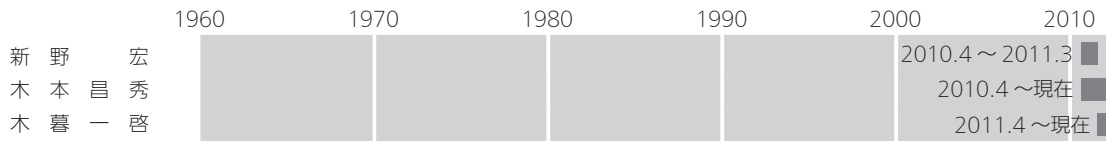


資料1-5-2 歴代副所長

●海洋研究所



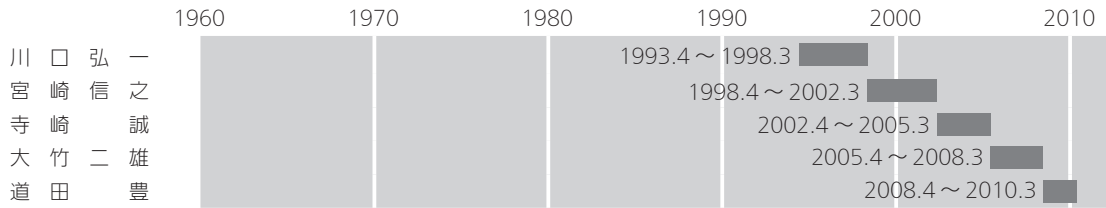
●大気海洋研究所



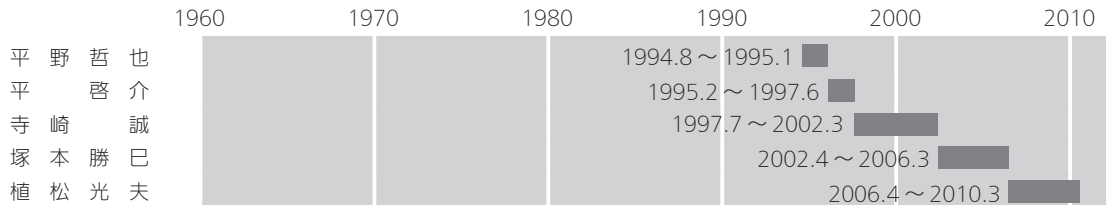
資料1-5-3 歴代センター長

●海洋研究所

大槌臨海研究センター／国際沿岸海洋研究センター



海洋科学国際共同研究センター



海洋環境研究センター／先端海洋システム研究センター



●大気海洋研究所

国際沿岸海洋研究センター



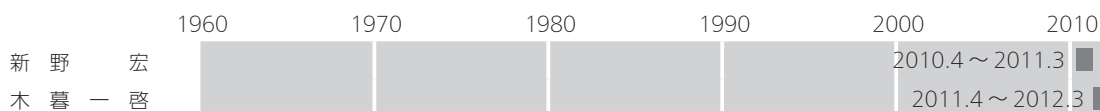
国際連携研究センター



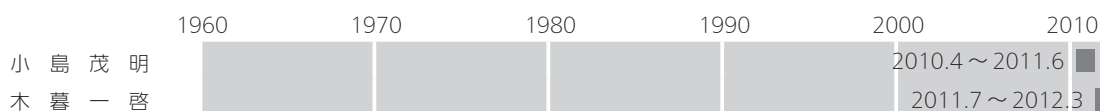
地球表層圏変動研究センター



共同利用共同研究推進センター



研究航海企画センター



資料 1-5-4 名誉教授 [1964 ~]

付与年度		氏名
1964	海洋研究所	日高孝次(故人)
1966	海洋研究所	松江吉行(故人)
1976	海洋研究所	内田清一郎(故人)
1982	海洋研究所	丸茂隆三(故人)
1983	海洋研究所	堀部純男
1984	海洋研究所	多賀信夫(故人)
1984	海洋研究所	奈須紀幸
1986	海洋研究所	友田好文(故人)
1987	海洋研究所	服部明彦
1987	海洋研究所	田中昌一
1987	海洋研究所	寺本俊彦
1987	海洋研究所	平野敏行
1993	海洋研究所	浅井富雄
1993	海洋研究所	小林和男
1993	海洋研究所	石井丈夫
1995	気候システム研究センター	松野太郎
1997	海洋研究所	瀬川爾朗
1998	海洋研究所	冲山宗雄
1998	海洋研究所	平野哲也
2001	海洋研究所	川口弘一(故人)
2001	気候システム研究センター	杉ノ原伸夫(故人)
2003	海洋研究所	木村龍治
2003	海洋研究所	平啓介
2003	海洋研究所	大和田紘一
2004	海洋研究所	杉本隆成
2007	海洋研究所	太田秀
2007	海洋研究所	小池勲夫
2007	海洋研究所	寺崎誠(故人)
2007	海洋研究所	平朝彦
2010	海洋研究所	宮崎信之

資料1-5-5 旧職員(教員)

●海洋研究所

所属と職名は在職期間終了時のもの

在職期間	氏名	所属	職名
1962. 7.15～1993. 3.31	石井 丈夫	漁業測定部門	教授
1965. 7. 1～1997. 3.31	瀬川 爾朗	海底物理部門	教授
1966. 4. 1～1998. 3.31	平野 哲也	海洋生物生理部門	教授
1966. 6. 1～1996. 3.31	児玉 幸雄	海洋無機化学部門	助手
1966. 7. 1～2006. 3.31	小泉 金一郎	海洋底科学部門海洋底地球物理学分野	助手
1967. 4. 1～2003. 3.31	木村 龍治	海洋物理学部門海洋大気力学分野	教授
1967. 7.16～2006. 3.31	蓮本 浩志	海洋科学国際共同研究センター企画情報分野	講師
1967. 8.16～2006. 3.31	乙部 弘隆	国際沿岸海洋研究センター沿岸生態分野	講師
1967. 9.16～1993. 3.31	小林 和男	大洋底構造地質部門	教授
1967.12. 1～2002. 8.31	平 啓介	海洋物理学部門海洋大循環分野	教授
1968. 3.30～1992. 3.31	大森 正之	海洋生化学部門	助教授
1969. 4. 1～2006. 3.31	立川 賢一	海洋生物資源部門資源解析分野	助手
1969. 5. 1～2001. 3.31	大和田 紘一	海洋生態系動態部門微生物分野	教授
1969. 5.16～2001. 3.31	川口 弘一	海洋生態系動態部門浮遊生物分野	教授
1970. 6.15～2010. 3.31	遠藤 圭子	海洋生命科学部門分子海洋科学分野	助教
1971. 3.30～2001. 3.31	相生 啓子	海洋生態系動態部門底生生物分野	助手
1971. 5. 1～2000. 3.31	石塚 明男	海洋化学部門海洋無機化学分野	助手
1971. 8. 1～1992. 3.31	向井 宏	海洋生物生態部門	助手
1971. 9. 1～1995. 3.19	鈴木 玲子	海洋生物生理部門	助手
1972. 4. 1～2007. 3.31	太田 秀	海洋生態系動態部門底生生物分野	教授
1973. 4. 1～1993. 3.31	浅井 富雄	海洋気象部門	教授
1965. 7.16～1993. 3.31	沼知 健一	資源解析部門	教授
1976. 4. 1～2007. 3.31	小池 勲夫	海洋化学部門生元素動態分野	教授
1976. 4. 1～2000. 3.31	藤本 博己	海底物理部門	助教授
1977. 4. 1～2000. 4.30	中田 英昭	海洋生物資源部門	助教授
1977. 4. 1～2007. 3.31	石井 輝秋	海洋底科学部門海洋底テクトニクス分野	助教授
1977. 5. 1～1998. 3.31	冲山 宗雄	資源生物部門	教授
1977.10. 1～2007. 3.31	寺崎 誠	国際沿岸海洋研究センター沿岸生態分野	教授
1977.12. 1～1997. 3.31	青木 一郎	漁業測定部門	助教授
1979. 3.16～1994. 3.31	芝 恒男	大槌臨海研究センター	助手
1979. 7. 1～1994.11.30	才野 敏郎	海洋生化学部門	助教授
1979. 9. 1～2003. 1. 4	野崎 義行	海洋化学部門海洋無機化学分野	教授
1980. 9. 1～2004. 3.31	杉本 隆成	海洋生物資源部門環境動態分野	教授
1981. 4. 1～2007. 6.30	中村 晃三	海洋物理学部門海洋大気力学分野	助教
1981. 8. 1～2012. 1.29	川辺 正樹	海洋物理学部門海洋大循環分野	教授
1984. 2.16～1997. 7.15	白山 義久	海洋生物生態部門	助教授
1985. 1. 1～2002. 3.31	平 朝彦	海洋科学国際共同研究センター	教授
1986. 3. 1～2004. 2.15	玉木 賢策	海洋底科学部門海洋底テクトニクス分野	教授
1987. 6. 1～1992. 6.30	福田 洋一	海底物理学部門	助手
1987.12. 1～1992. 3.31	轡田 邦夫	大槌臨海研究センター	助手
1988. 4. 1～1999. 3.31	末廣 潔	海底堆積部門	教授
1988. 5. 1～1993. 3.31	小林 敬典	資源解析部門	助手
1988. 5.16～1999. 3.31	藤 浩明	海底物理学部門	助手
1988. 8. 1～1993. 3.31	浦野 明央	海洋分子生物学部門	教授
1989. 2. 1～1994. 3.31	神田 穰太	海洋生化学部門	助手

在職期間	氏名	所属	職名
1989. 5.16～1997. 8.31	岸 道 郎	資源環境部門	助手
1989. 9.16～2003. 3.31	金 子 豊 二	海洋科学国際共同研究センター	助教授
1990. 4. 1～1996. 3.31	田 川 正 朋	海洋生物生理部門	助手
1990. 4. 1～2000. 3.31	竹 内 一 郎	大槌臨海研究センター	助手
1990. 8. 1～1997. 3.31	坪 木 和 久	海洋気象部門	助手
1990.12. 1～1994. 1.31	岸 野 洋 久	資源解析部門	助教授
1991. 5. 1～2002. 3.31	都 木 靖 彰	大槌臨海研究センター	助手
1991. 6.16～1997. 8.31	長 澤 寛 道	海洋分子生物学部門	教授
1991.10.16～2010. 3.31	窪 川 かおる	先端海洋システム研究センター海洋システム解析分野	教授
1992. 1.16～1994. 1.15	篠 原 雅 尚	海底堆積部門	助手
1992. 1.16～2001. 3.31	中 西 正 男	海洋底科学部門海洋底テクトニクス分野	助手
1993. 4. 1～2002. 3.31	天 川 裕 史	海洋化学部門海洋無機化学分野	講師
1993. 4. 1～2001. 9.30	仲 岡 雅 裕	海洋生態系動態部門底生生物分野	助手
1993. 4. 1～2010. 3.31	宮 崎 信 之	海洋科学国際共同研究センター企画情報分野	教授
1994. 1. 1～2000. 4. 6	松 宮 義 晴	海洋生物資源部門	教授
1994. 6. 1～2006. 3.31	天 野 雅 男	国際沿岸海洋研究センター沿岸生態分野	助手
1994. 7. 1～1995. 9.30	山 内 淳	資源解析部門	助手
1994.12. 1～2008. 6.30	渡 邊 俊 樹	海洋生命科学部門分子海洋科学分野	准教授
1995.10. 1～1998.10.31	日比谷 紀 之	海洋科学国際共同研究センター	助教授
1996.10.16～2003.11.30	松 田 裕 之	海洋生物資源部門資源解析分野	助教授
1997. 4. 1～2000.12.31	斎 藤 実 篤	海洋底科学部門	助手
1997. 4. 1～2001. 6.30	望 月 公 廣	海洋底科学部門海洋底地質分野	助手
1997. 6. 1～2008. 3.31	和 田 実	海洋生態系動態部門微生物分野	助教
1998. 2.16～2008. 6.30	勝 川 俊 雄	海洋生物資源部門資源解析分野	助教
1999. 1.16～1999. 3.31	巽 好 幸	海底物理部門	教授
2000. 7.16～2010. 3.10	新 井 崇 臣	国際沿岸海洋研究センター沿岸生態分野	准教授
2001.10. 1～2007.12.31	COFFIN, Millard Filmore	海洋底科学部門海洋底地球物理学分野	教授
2001.11. 1～2008. 8.31	青 山 潤	海洋生命科学部門行動生態計測分野	助教
2002. 4.16～2006. 3.31	嶋 永 元 裕	海洋生態系動態部門底生生物分野	助手
2002. 9. 1～2009. 3.31	白 井 正 明	海洋底科学部門海洋底地質学分野	助教
2003. 8. 1～2004. 4.15	MITCHELL, James Gordon	海洋生態系動態部門微生物分野	助教授
2004.11.16～2010. 3.31	天 川 裕 史	先端海洋システム研究センター海洋システム解析分野	准教授
2004.12.16～2010. 3.31	大 村 亜希子	先端海洋システム研究センター海洋システム解析分野	助教
2005. 4. 1～2008. 4.25	浦 川 秀 敏	先端海洋システム研究センター海洋システム解析分野	准教授

●気候システム研究センター

所属と職名は在職期間終了時のもの

在職期間	氏名	所属	職名
1991. 4.12～1994. 9.30	松 野 太 郎	気候モデリング分野	教授
1991. 7. 1～2006.10.31	住 明 正	大気システムモデリング分野	教授
1991. 7. 1～2000. 3.31	杉ノ原 伸 夫	海洋モデリング分野	教授
1991.10. 1～1998. 3.31	山 中 康 裕	海洋モデリング分野	助手
1992. 1. 1～1995. 6.16	中 島 健 介	海洋モデリング分野	助手
1992. 4. 1～1997.12. 8	新 田 勅	気候解析分野	教授
1995.10. 1～2004. 3.31	古 恵 亮	海洋モデリング分野	助手
1997. 4. 1～1999. 6. 1	沼 口 敦	気候モデリング分野	助教授
1999. 5. 1～2000. 6.30	沈 学 順	大気モデリング分野	助手

在職期間	氏名	所 属	職 名
2002. 7. 1～2008. 3.31	遠 藤 昌 宏	海洋システムモデリング分野	教授

●大気海洋研究所

所属と職名は在職期間終了時のもの

在職期間	氏名	所 属	職 名
1975.12. 1～2012. 3.31	徳 山 英 一	海洋底科学部門海洋底地質学分野	教授
1992.11.16～2010. 7.16	今 西 祐 一	海洋底科学部門海洋底地球物理学分野	助教
1999. 4. 1～2012. 3.31	西 田 睦	海洋生命科学部門分子海洋生物学分野	教授
2002. 1. 1～2010.10.20	中 村 恭 之	海洋底科学部門海洋底地質学分野	助教

資料1-5-6 旧職員（事務職員，技術職員，船舶職員）

●海洋研究所（事務職員）

所属と職名は在職期間終了時のもの

在職期間	氏名	所 属	職 名
1968.11. 1～1994. 3.31	織 田 熙 子	総務課図書掛	図書掛長
1973. 9. 1～1992. 3.31	高見澤 光子	総務課	主任
1976.10. 1～1995. 3.31	藤 井 繁 幸	大槌臨海研究センター	事務室主任
1977. 4. 1～1992. 3.31	常 磐 京 子	総務課	一般職員
1986. 4. 1～1997.10.31	岩 下 悟	総務課庶務掛	一般職員
1986. 4. 1～1996. 3.31	佐 藤 光 展	大槌臨海研究センター	一般職員
1987. 4. 1～1994. 3.31	鈴 木 由美子	総務課	一般職員
1987. 4. 1～1993. 3.31	高 橋 竹 之	経理課用度掛	一般職員
1987. 8. 1～1997. 3.31	犬 飼 恵美子	経理課海務掛	一般職員
1988. 4. 1～1994. 3.31	浮 田 秀 伯	総務課共同利用掛	一般職員
1989.11. 1～1992. 3.31	山 本 宏	経理課	会計主任, 経理掛長（併）
1990. 4. 1～1992. 3.31	武 井 和 夫	大槌臨海研究センター	事務主任
1990. 4. 1～1997. 3.31	徳 田 浩 滋	経理課司計掛	一般職員
1990. 4. 1～1992. 3.31	山 中 俊 雄	経理課用度掛	用度掛長
1991.10. 1～1996. 3.31	靱 島 弘	総務課共同利用掛	共同利用掛長
1991. 2. 1～1993.10. 1	根 岸 恒 夫	総務課庶務掛	一般職員
1991. 4. 1～1997. 3.31	木 船 聡	経理課	一般職員
1991. 4. 1～1993. 3.31	齊 藤 益 巳	経理課	経理課長
1991. 4. 1～1997. 3.31	鈴 木 智 明	経理課経理掛	一般職員
1991. 4. 1～1995. 3.31	山 田 喜 朗	総務課庶務掛	庶務掛長
1991. 4. 1～1992.12.31	横 山 康 治	総務課	一般職員
1991. 4. 1～1993. 9.30	陣内（山本）佐恵	経理課	一般職員
1992. 4. 1～1998. 3.31	大 西 由佳子	総務課図書掛	一般職員
1992. 4. 1～1995. 3.31	小 幡 隆 三	経理課経理掛	経理掛長
1992. 4. 1～1994. 8. 1	神 山 忍	総務課	専門職員（国際交流担当）
1992. 4. 1～1995. 3.31	小 池 利 廣	事務部	事務部長
1992. 4. 1～1995. 3.31	浜 野 智 行	経理課	会計主任, 用度掛長（併）
1993. 1. 1～1998. 3.31	奥 抜 佐 和	総務課人事掛	主任
1993.10. 1～1995. 3.31	石 橋 さつき	経理課司計掛	一般職員
1993.10. 1～2001. 3.31	関 口 健	総務課共同利用掛	一般職員（文部省大臣官房調査統計企画課 併任 1996.11.16～1997.3.31）
1993. 3. 1～1998. 3.31	関 口 文 雄	経理課用度掛	一般職員
1993. 4. 1～1996. 3.31	岡 部 健 一	総務課	総務課長
1993. 4. 1～1999. 3.31	高 野 哲 郎	経理課	海務掛長

在職期間	氏名	所 属	職 名
1993. 4. 1～1994. 4. 1	高 柳 安 雄	經理課海務掛	主任
1993. 4. 1～1996. 3.31	二 部 育 子	經理課經理掛	主任
1993. 4. 1～1997. 3.31	細 川 公 敏	經理課	經理課長
1994. 4. 1～1998. 3.31	石 田 結一郎	經理課用度掛	自動車運転手
1994. 4. 1～1997. 5.31	大 吉 正 人	經理課用度掛	一般職員
1994. 4. 1～1997. 3.31	小 出 正 男	総務課図書掛	図書掛長
1994. 4. 1～2002. 4. 1	田 村 史 美	総務課人事掛	一般職員
1994. 4. 1～1999. 3.31	寺 口 正 展	經理課船舶掛	一般職員
1994. 4. 1～1996. 3.31	中 原 一 夫	総務課人事掛	人事掛長
1994. 4. 1～1996. 3.31	渡 邊 将 敏	經理課海務掛	主任
1994. 9. 1～1999. 3.31	池 田 光 浩	総務課	専門職員 (国際交流担当)
1995. 1. 1～1997. 3.31	石 川 治 夫	經理課施設掛	施設掛長
1995. 4. 1～2004. 3.31	榎 場 浩 治	經理課船舶掛	一般職員
1995. 4. 1～1999. 3.31	佐 々 信 吉	大槌臨海研究センター	事務主任
1995. 4. 1～1996. 8.31	篠 原 健 一	經理課	会計主任
1995. 4. 1～1999. 3.31	鈴 木 和 美	総務課人事掛	人事掛長
1995. 4. 1～1999. 3.31	鈴 木 孝 典	事務部	事務部長
1995. 4. 1～1998. 3.31	守 屋 孝 子	經理課經理掛	經理掛長
1996. 4. 1～1999. 3.31	北 英 介	經理課用度掛	用度掛長, 船舶掛長 (併)
1996. 4. 1～1998. 6.30	小 林 彰	総務課	総務課長
1996. 4. 1～2000. 3.31	佐々木 弘 子	総務課共同利用掛	共同利用掛長
1996. 4. 1～1998. 3.31	新 海 美江子	総務課庶務掛	一般職員
1996. 4. 1～1999. 3.31	高 野 米 孝	經理課司計掛	司計掛長
1996. 4. 1～1997. 3.31	布 野 秀 雄	經理課船舶掛	主任
1996. 4. 1～2000. 3.31	濱 田 秀 樹	大槌臨海研究センター	一般職員
1996. 4. 1～1997. 3.31	東 野 史 郎	総務課	庶務主任, 庶務掛長 (併)
1996.10.16～1998. 3.31	櫛 引 伸 彦	經理課	会計主任
1997. 4. 1～2000. 3.31	井ノ口 秀 樹	総務課庶務掛, 人事掛	一般職員
1997. 4. 1～2000. 3.31	小 野 豊	經理課船舶掛	一般職員
1997. 4. 1～1999. 3.31	河 島 淑 美	經理課海務掛	一般職員
1997. 4. 1～1999. 3.31	高 橋 努	総務課図書掛	図書掛長
1997. 4. 1～2000. 3.31	中 村 透	經理課司計掛	主任
1997. 4. 1～2001. 3.31	中 村 浩 子	經理課經理掛	主任
1997. 4. 1～2003. 3.31	松 田 羌 俊	經理課施設掛	施設掛長
1997. 4. 1～2000. 3.31	渡 邊 正 昭	総務課	庶務主任, 庶務掛長 (併)
1997. 4. 1～2000. 3.31	土 川 孝 平	經理課	經理課長
1997.11. 1～2001. 3.31	小 村 昇	經理課用度掛	主任
1998. 4. 1～2001. 3.31	大 柳 一 夫	經理課經理掛	主任
1998. 4. 1～2002. 3.31	笹 尾 昭 信	經理課	専門員 (海務担当)
1998. 4. 1～2001. 3.31	松 野 崇	総務課図書掛	一般職員
1998. 4. 1～2001. 3.31	万 平 忠 志	經理課經理掛	經理掛長
1998. 7. 1～2000. 9.30	石 川 薫	総務課	総務課長
1998. 8.16～2001. 3.31	菅 哲 郎	総務課庶務掛	主任
1999. 4. 1～2001. 3.31	石 井 好 和	經理課司計掛	司計掛長
1999. 4. 1～2003. 3.31	大 塚 浩 一	総務課総務掛	総務掛長
1999. 4. 1～2004. 3.31	山 口 満智子	総務課総務掛	主任
1999. 4. 1～2002. 3.31	木 村 隆 行	大槌臨海研究センター	事務主任

在職期間	氏 名	所 属	職 名
1999. 4. 1～2002. 3.30	小 林 銀一郎	事務部	事務部長
1999. 4. 1～2001. 3.31	菅 哲 郎	総務課庶務掛	主任
1999. 4. 1～2003. 3.31	高 橋 弘 子	総務課図書掛	図書掛長
1999. 4. 1～2002. 4. 1	高 柳 安 雄	経理課海務掛	海務掛長
1999. 4. 1～2002. 3.31	松 下 冬 樹	総務課国際交流掛	国際交流掛長
1999. 4. 1～2001. 3.31	柳 下 聡 美	経理課船舶掛	一般職員
1999. 4. 1～2002. 3.31	吉 澤 亮	経理課用度掛	用度掛長, 船舶掛長 (併)
2000. 4. 1～2002. 3.31	大 井 哲	総務課	庶務主任, 庶務掛長 (併)
2000. 4. 1～2003. 3.31	大須賀 和 貴	大槌臨海研究センター	一般職員
2000. 4. 1～2001.12.31	小 澤 靖	経理課司計掛	主任
2000. 4. 1～2004. 3.31	金 谷 伸 一	総務課	研究協力主任, 海務・共同利用掛長 (併)
2000. 4. 1～2003. 3.31	菅 原 章	経理課船舶掛	主任
2000. 4. 1～2002. 8.31	田 中 義 國	経理課	経理課長
2000.10. 1～2003. 3.31	千 葉 正	総務課	総務課長
2001. 4. 1～2008. 6.30	市 川 由布子	総務課国際交流係	主任
2001. 4. 1～2006. 7.15	小 林 岳 明	経理課経理係	主任
2001. 4. 1～2005. 9.30	助 川 一 正	経理課	専門員
2001. 4. 1～2008. 6.30	平 松 学	総務課研究協力係	研究協力係長
2001. 4. 1～2006. 5. 8	盛 由 美	総務課総務係	一般職員
2001. 4. 1～2004. 3.31	小 松 陽 一	総務課図書掛	一般職員
2001. 4. 1～2002. 4. 1	松 下 繁 治	経理課船舶掛	一般職員
2001. 4. 1～2003. 3.31	村 上 淳 一	経理課経理掛	一般職員
2002. 4. 1～2006. 6.30	北 山 寛	経理課経理係	経理係長
2002. 4. 1～2006. 3.31	小 坂 規	国際沿岸海洋研究センター	事務室係長
2002. 4. 1～2004. 3.31	藤 本 修 一	国際沿岸海洋研究センター	事務主任
2002. 4. 1～2006. 3.31	巻 淵 千 恵	事務部	事務部長
2002. 4. 1～2003. 3.31	滝 田 統 一	総務課	専門員
2002. 7.19～2003. 5.31	篠 崎 久美子	総務課総務掛	一般職員 (臨時的任用)
2003. 4. 1～2006. 6.30	片 岡 一 夫	経理課用度掛	主任
2003. 4. 1～2005. 3.31	菊 池 三 義	総務課	総務課長
2003. 4. 1～2004. 3.31	久保田 朗	総務課総務掛	総務掛長
2003. 4. 1～2005. 3.31	高 尾 廣	経理課施設係	施設係長
2003. 4. 1～2006. 6.30	土 屋 ともよ	総務課図書係長	図書係長
2003. 4. 1～2008. 3.31	福 田 仁	国際沿岸海洋研究センター	事務室係長
2003. 4. 1～2007. 3.31	安 田 正 子	経理課経理係	主任
2003. 4. 1～2006. 6.30	原 島 二美雄	総務課	専門員 (企画調整担当)
2003. 8. 1～2004. 3.31	山 本 信 行	総務課総務係	一般職員 (臨時的任用)
2004. 4. 1～2004. 5.18	小 幡 直 子	総務課総務係	一般職員 (臨時的採用)
2004. 4. 1～2005. 3.31	嶋 村 政 義	経理課	経理課長
2004. 4. 1～2005. 3.31	下 村 英 登	経理課経理係	経理係長
2004. 4. 1～2008. 6.30	住 谷 啓 介	総務課総務係	総務係長
2004. 4. 1～2005. 3.31	永 田 順 子	総務課国際交流係	国際交流係長
2004. 4. 1～2005. 3.31	長谷川 恵 里	総務課, 総務課研究協力係長	主査 (研究協力担当), 研究協力係長
2004. 4. 1～2005. 3.31	早 川 敦 夫	経理課司計係	司計係長
2004. 4. 1～2005. 4.30	柳 澤 和 宏	総務課図書係	一般職員
2004. 4. 1～2007. 9.30	山 口 貴 弘	経理課司計係	主任
2004. 7. 1～2006. 3.31	光 永 幸 子	総務課総務係	一般職員 (臨時的採用)

在職期間	氏名	所属	職名
2004. 8. 5～2005. 4.19	岩瀬 代志恵	総務課研究協力係	一般職員（臨時的採用）
2005. 4. 1～2008. 3.31	相見 治 義	経理課司計係	司計係長
2005. 4. 1～2006. 9.30	梶 正 治	総務課	総務課長
2005. 4. 1～2009. 6.30	近 泰 子	総務課国際交流係	国際交流係長
2005. 4. 1～2006. 6.30	中山 進	経理課施設係	施設係長
2005. 4. 1～2008. 3.31	松 永 茂	経理課	経理課長
2005. 4. 1～2007. 6.30	吉 田 正	経理課	主査（用度担当）、用度係長
2006. 4. 1～2008. 3.31	高見澤 光 子	事務部	事務部長
2006. 4. 1～2010. 3.31	高 野 哲 郎	経理課	専門職員（安全衛生管理担当）
2006. 4. 1～2010. 3.31	柳 澤 茂 孝	国際沿岸海洋研究センター	主査
2006. 7. 1～2010. 3.31	小 淵 和 宏	経理課	主査（経理担当）
2006. 7. 1～2008. 3.31	片 桐 和 子	総務課	専門員（企画調整担当）
2006. 7. 1～2010. 3.31	小 城 哲 夫	経理課用度係	主任
2006. 7. 1～2010. 3.31	浅川（長島） 優子	総務課研究協力係	主任
2006. 7. 1～2010. 3.31	永 野 太	経理課施設係	施設係長
2006. 9.30～2009. 3.31	杉 村 聖 治	総務課	総務課長
2007. 7. 1～2010. 3.31	中 井 珠 美	総務課総務係	主任
2008. 7. 1～2008. 7.31	池 田 美智子	経理課経理係	一般職員（再雇用）

●海洋研究所（技術職員）

所属と職名は在職期間終了時のもの

在職期間	氏名	所属	職名
1963. 5. 1～2008. 3.31	盛 田 孝 一	国際沿岸海洋研究センター	技術専門員
1964. 7. 1～1995. 3.31	吉 田 幸 雄	電子計算機室	技術官
1965. 6.15～1999. 3.31	福 井 弘 子	プランクトン部門	技術専門官
1966. 5.16～2008. 3.31	石 丸 君 江	海洋生態系動態部門浮遊生物分野	技術専門員
1966. 7. 1～2005. 3.31	石 川 浩 治	海洋物理学部門大気力学分野	技術専門員
1967. 7. 1～1994. 3.31	小 口 節 子	海洋物理学部門	技術専門員
1967.12. 1～2005. 3.31	三 澤 信 彦	海洋物理学部門大気力学分野	技術専門員
1968. 5.10～1993.12.31	永 澤 祥 子	プランクトン部門	教務職員
1968. 7.15～2007. 3.31	五十嵐 千 秋	海図室	技術専門員
1968.10. 1～2004. 3.31	須 貝 健 治	ガラス工作室	技術専門官
1969. 2. 1～2010. 3.31	原 政 子	海洋生物資源部門資源生態分野	技術専門員
1972.11. 1～2004. 3.31	青 山 碩 子	海洋生命科学部門行動生態計測分野	技術専門官
1973. 8. 1～2007. 3.31	金 子 秋 男	金属工作室	技術専門員
1974. 4. 1～2010. 3.31	永 江 英 雄	海洋生物資源部門環境動態分野	技術専門員
1977.10.25～2000. 4.23	土 田 英 治	海洋生態系動態部門底生生物分野	技術専門職員
1977.10.25～2008. 3.31	渡 邊 正 晴	観測研究企画室	技術専門職員
1979. 9. 1～1992. 7.31	越 知 正 恵	海洋生化学部門	技術官
1987. 3.25～1993. 7.31	門 前 一 姫	海洋生化学部門	技術官
1988. 3. 1～1999.12.31	山 本 富士夫	海底堆積部門	技術官
1997. 4. 1～2005.12.14	三 浦 敏 昭	観測研究企画室	技術職員
2000. 4. 1～2003. 3.31	西 村 和 彦	海洋化学部門海洋無機化学分野	技術官
2006. 4. 1～2010. 3.31	今 井 圭 理	観測研究企画室	技術専門職員
2006.11. 1～2007. 4.24	野 上 矩 子	海洋底科学部門海洋底テクトニクス分野	技術職員（臨時的採用）
2007. 4. 1～2010. 3.31	五十嵐 千 秋	海図室	技術職員（再雇用）
2007. 4. 1～2010. 3.31	金 子 秋 男	金属工作室	技術職員（再雇用）

●海洋研究所（船舶職員）

所属と職名は在職期間終了時のもの

在職期間	氏名	所属	職名
1963. 4. 1～2004. 3.31	野澤 太一	研究船白鳳丸	司厨長
1963. 4. 1～1997. 3.31	神野 洋一	研究船淡青丸	一等航海士
1963. 5. 1～2004. 3.31	中澤 清	研究船白鳳丸	操機長
1963. 5. 1～2003. 3.31	神邊 堯則	研究船白鳳丸	操機長
1963. 5. 1～1998. 3.31	澤口 實	研究船白鳳丸	甲板長
1963. 5. 1～2004. 3.31	畠山 昇	研究船白鳳丸	甲板長
1965. 4. 1～2004. 3.31	野澤 孝幸	研究船淡青丸	司厨長
1965. 4. 1～2001. 3.31	田中 裕	研究船白鳳丸	一等航海士
1966. 4. 1～1997. 3.31	野村 裕	研究船淡青丸	一等航海士
1967. 3. 1～1996. 3.31	上之清 尚	研究船白鳳丸	一等航海士
1967. 4. 1～2004. 3.31	桐ヶ谷 信一	研究船白鳳丸	観測長
1967. 4. 1～2004. 3.31	萩田 幸男	研究船白鳳丸	操機次長
1967. 4. 1～2004. 3.31	今野 啓	研究船淡青丸	操機長
1967. 4. 1～2004. 3.31	西浦 力雄	研究船淡青丸	甲板長
1967. 4. 1～1998. 3.31	荒井 正明	研究船淡青丸	甲板長
1967. 4. 1～2001. 3.31	中山 留男	研究船淡青丸	操機長
1967. 4. 1～2003. 3.31	林川 節夫	研究船白鳳丸	船長
1967. 4. 1～1997. 3.31	水間 江二	研究船白鳳丸	司厨長
1967. 7. 1～2004. 3.31	佐藤 重明	研究船白鳳丸	甲板次長
1967. 8. 1～1999. 3.31	米田 久	研究船白鳳丸	通信長
1967.11.16～2002. 3.31	並波 清	研究船白鳳丸	船長
1969. 4. 1～2004. 3.31	藤田 潮	研究船淡青丸	船長
1969. 7. 1～2004. 3.31	西岡 光春	研究船白鳳丸	司厨次長
1970. 2. 1～2004. 3.31	川又 亘	研究船白鳳丸	機関長
1970. 5.27～2004. 3.31	佐久間 盛蔵	研究船淡青丸	司厨次長
1971. 4. 1～2004. 3.31	山本 敬三	研究船白鳳丸	一等機関士
1972. 4. 1～2004. 3.31	鈴木 全	研究船淡青丸	甲板次長
1972.10.16～2004. 3.31	池田(鈴木) 広榮	研究船白鳳丸	観測次長
1972.11. 1～2004. 3.31	稲葉 不二夫	研究船白鳳丸	船長
1973. 4. 1～2004. 3.31	海老原 薫	研究船淡青丸	二等機関士
1973. 4. 1～2004. 3.31	岡崎 博行	研究船淡青丸	操機次長
1973. 4. 1～2004. 3.31	服部 稔	研究船淡青丸	操舵手
1974. 4. 1～1993. 2.20	青木 利成	研究船淡青丸	通信長
1974. 4. 1～2004. 3.31	兼子 康雄	研究船白鳳丸	事務長
1975. 4. 1～2004. 3.31	岡本 保之	研究船白鳳丸	電気長
1975. 4. 1～2004. 3.31	佐藤 正義	研究船白鳳丸	次席操機次長
1975. 4. 1～2004. 3.31	菅原 眞一	研究船白鳳丸	操舵手
1975. 4. 1～2004. 3.31	鈴木 祥市	研究船白鳳丸	一等航海士
1975. 4. 1～2004. 3.31	廣澤 誓二	研究船淡青丸	機関長
1975. 4. 1～1996. 3. 4	辻野 豊光	研究船白鳳丸	操舵手
1975. 7. 1～2004. 3.31	長谷川 繁行	研究船白鳳丸	操舵手
1977.11.16～2004. 3.31	高橋 義光	研究船淡青丸	一等機関士
1979. 6.28～2004. 5.31	淡路 芳和	研究船白鳳丸	司厨手（技術職員 2004.4.1～ 2004.5.31）
1983. 2. 1～2004. 3.31	中尻 謙二	研究船白鳳丸	電気次長
1985. 8. 2～2004. 3.31	田中 隆	研究船白鳳丸	二等機関士

在職期間	氏名	所 属	職 名
1986. 4. 1～2004. 3.31	石井(山口) 佳彦	研究船白鳳丸	操機手
1987. 1. 1～2004. 3.31	山 下 哲	研究船淡青丸	通信長
1987. 4. 1～2004. 3.31	大久保 卓	研究船白鳳丸	二等航海士
1987. 4. 1～2004. 3.31	西 舘 慎太郎	研究船淡青丸	操舵手
1987. 6.10～2004. 3.31	清 野 能 稔	研究船白鳳丸	次席一等航海士
1988. 4. 1～1998. 3.31	吉 村 孝	研究船白鳳丸	機関長
1988. 4.14～2004. 3.31	山 田 康 貴	研究船淡青丸	司厨手
1988. 6. 1～2004. 3.31	浦 邊 剛	研究船淡青丸	操舵手
1990. 5. 1～2004. 3.31	川 名 幸 男	研究船白鳳丸	操舵手
1990. 9. 1～1994. 5.31	吉 良 有 二	研究船白鳳丸	船医
1990. 9.16～1991. 9.30	下 澤 達 雄	研究船白鳳丸	船医
1991. 4. 1～2004. 3.31	船 津 広 宣	研究船白鳳丸	次席二等機関士
1991. 4. 1～2004. 3.31	吉 田 稔	研究船淡青丸	操機手
1992. 4. 1～1997.10.23	平 塚 義 治	研究船白鳳丸	司厨員
1992. 8. 1～2004. 3.31	笹 井 雄 二	研究船白鳳丸	次席一等機関士
1993. 4. 1～2004. 3.31	林 巧	研究船白鳳丸	司厨手
1993. 4.16～2004. 3.31	山 中 貴 弘	研究船淡青丸	操機員
1993.10. 1～1996. 3.31	中 岡 隆 志	研究船白鳳丸	船医
1994. 4. 1～2004. 3.31	宗 村 隆 光	研究船白鳳丸	通信長
1994. 4. 1～2004. 3.31	吉 田 栄	研究船白鳳丸	操機手
1994. 7.16～2004. 3.31	佐久間 安 広	研究船白鳳丸	三等機関士
1995. 4. 1～2004. 3.31	板 橋 和 彦	研究船淡青丸	甲板員
1996. 4. 1～2004. 3.31	春 日 一 彦	研究船淡青丸	一等航海士
1996. 7.16～1999. 1.13	内 城 隆 昌	研究船白鳳丸	甲板員
1997. 4. 1～2004. 3.31	酒 井 直 人	研究船白鳳丸	次席二等航海士
1997. 4. 1～1999. 6.15	古 田 友紀子	研究船白鳳丸	司厨員
1997. 4. 1～1999. 3.31	下 澤 達 雄	研究船白鳳丸	船医
1998. 4. 1～2004. 3.31	前 田 和 広	研究船淡青丸	三等機関士
1998. 4. 1～2004. 3.31	小 川 宙 幸	研究船淡青丸	甲板員
1998. 4. 1～2002. 8.31	和 田 伸 也	研究船白鳳丸	司厨員
1998. 5.21～2004. 3.31	林 慎次郎	研究船淡青丸	二等航海士
1999. 4. 1～2004. 3.31	寺 坂 幸 宏	研究船白鳳丸	甲板員
1999. 4. 1～2004. 3.31	永 田 真喜子	研究船白鳳丸	三等航海士
1999. 6.16～2004. 3.31	阿 部 裕	研究船淡青丸	司厨員
1999. 9.16～2004. 3.31	中 山 耕之介	研究船白鳳丸	船医
2001. 4. 1～2004. 3.31	河 本 直 人	研究船白鳳丸	機関員
2002. 7. 1～2004. 3.31	清 宮 智 則	研究船淡青丸	三等航海士
2002. 9.25～2004. 3.31	千 束 雄 大	研究船白鳳丸	司厨員
2003. 4. 1～2004. 3.31	佐 藤 誠	研究船白鳳丸	三等航海士
2003.11. 1～2004. 3.31	牧 野 文 洋	研究船白鳳丸	次席三等航海士

●気候システム研究センター（事務職員）

所属と職名は在職期間終了時のもの

在職期間	氏名	所属	職名
1991. 4.12～1995. 3.31	渡 森 一	事務室	事務主任（総務掛長併任）
1991. 4.12～1993. 3.31	梶 正 治	事務室	研究協力掛長
1991. 4.12～1995. 9.30	村 岡 俊	事務室	研究協力掛員
1993. 4. 1～1995. 3.31	五十嵐 勉	事務室	研究協力掛長
1995.10. 1～1999. 3.31	三 田 智 子	事務室	研究協力掛員
1995. 4. 1～1998. 3.31	保戸塚 吉 明	事務室	事務主任（総務掛長併任）
1995. 9. 1～2001. 3.31	宮 城 百合子	事務室	総務掛員
1996. 4. 1～1999. 3.31	渡 部 邦 夫	事務室	研究協力掛長
1998. 4. 1～2000. 3.31	西 尾 勉	事務室	事務主任（総務掛長併任）
1999. 4. 1～2001. 3.31	若 林 則 子	事務室	研究協力掛長
1999. 4. 1～2002. 3.31	須 田 謙 司	事務室	研究協力掛員
2000. 4. 1～2003. 3.31	吉 田 農夫男	事務室	事務主任（総務掛長併任）
2000. 4. 1～2002. 6.30	配 島 弘	事務室	研究協力掛長
2001. 4. 1～2004. 3.31	森 口 広 美	事務室	研究協力掛長
2002. 4. 1～2004. 7. 1	海 津 聡	事務室	掛長
2002. 7. 1～2007. 3.31	三 浦 弘 三	センター支援室	総務係長
2003. 4. 1～2005. 3.31	吉 田 正	事務室	主査
2004. 4. 1～2005. 3.31	五十嵐 久 敬	事務室	研究協力係主任
2004. 7. 1～2007. 3.31	佐 藤 公一郎	センター支援室	総務主任
2005. 4. 1～2007. 6.30	渡 邊 保	センター支援室	副課長
2005. 4. 1～2006. 2. 1	清 水 雅 浩	センター支援室	主任
2005. 4. 1～2006. 2. 1	辻 角 隆 之	センター支援室	主任
2005. 4. 1～2011. 6.30	佐 藤 美 香	センター支援室	係長
2006. 4. 1～2008. 6.30	和 栗 正 幸	センター支援室	係長
2007. 4. 1～2008. 3.31	関 辰 男	センター支援室	主査
2007. 7. 1～2010. 3.31	中 田 幸 夫	センター支援室	副課長
2008. 7. 1～2011. 6.30	三 澤 純 子	センター支援室	専門職員

●大気海洋研究所（事務職員）

所属と職名は在職期間終了時のもの

在職期間	氏名	所属	職名
2006. 7. 1～2011. 3.31	濱 田 すみ子	総務課図書チーム	係長
2006. 7.16～2011. 3.31	麻 生 邦仁子	経理課経理・調達チーム	主任
2007.10. 1～2011. 6.30	清 田 盟	経理課財務チーム	主任
2007. 7. 1～2010. 6.30	酒 井 勝	経理課経理・調達チーム	係長
2008. 4. 1～2011. 3.31	池 田 貞 雄	事務部	事務部長
2008. 4. 1～2012. 6.30	大 浦 輝 一	財務チーム	係長
2008. 4. 1～2011. 3.31	大 森 弘 光	国際沿岸海洋研究センター	係長
2008. 4. 1～2011. 3.31	菊 池 みつ子	総務課	専門員
2008. 4. 1～2011. 3.31	山 岸 公 明	経理課	経理課長
2008. 7. 1～2011. 6.30	安 部 秀 明	国際・研究推進チーム	係長
2008. 7. 1～2011. 6.30	飯 塚 祐 二	国際・研究推進チーム	一般職員
2008.10.11～2010. 4.30	岡 本 麻 里	経理課経理・調達チーム	一般職員（臨時的採用）
2009. 4. 1～2012. 3.31	吉 田 雅 彦	事務部	事務長
2010. 4. 1～2011. 6.30	國 京 毅 明	経理課施設・安全管理チーム	係長

●大気海洋研究所（技術職員）

所属と職名は在職期間終了時のもの

在職期間	氏名	所属	職名
1984. 3.20～2011. 3.31	松本町子	共同利用共同研究推進センター 陸上研究推進室	技術専門員
2004. 4. 1～2012. 3.31	小熊健治	共同利用共同研究推進センター 観測研究推進室	技術職員
2008. 4. 1～2011. 3.31	盛田孝一	共同利用共同研究推進センター 沿岸研究推進室	技術職員(再雇用)
2008. 4. 1～2012. 3.31	石丸君江	共同利用共同研究推進センター 陸上研究推進室	技術職員(再雇用)
2010. 4. 1～2012. 3.31	原政子	共同利用共同研究推進センター 陸上研究推進室	技術職員(再雇用)

資料1-5-7 現職員 [2012.3現在]

系	部門等	分野等	職名	氏名
気候システム研究系	気候モデリング研究部門	気候システムモデリング研究分野	教授(兼)	中 島 映 至
			准教授	阿 部 彩 子
			特任助教	吉 森 正 和
			客員教授	井 上 元
			特任研究員	井 上 豊志郎
			特任研究員	鶴 田 治 雄
			特任研究員	打 田 純 也
			学術支援職員	荒 井 俊 昭
			事務補佐員	浅 田 智 世
			技術補佐員	及 川 栄 治
			教授	高 橋 正 明
			准教授	今 須 良 一
			技術補佐員	武 田 順 子
			技術補佐員	永 岡 明 子
			技術補佐員	小 島 すなみ
	特任研究員	新 井 豊		
	特任研究員	林 洋 司		
	特任研究員	原 口 悟		
	気候モデリング研究部門	海洋システムモデリング研究分野	准教授	羽 角 博 康
			講師	岡 顕
			客員教授	村 上 正 隆
			特任研究員	草 原 和 弥
			特任研究員	川 崎 高 雄
	気候変動現象研究部門	気候変動研究分野	教授	木 本 昌 秀
			兼務教授	住 明 正
			特任助教	三 浦 裕 亮
			客員准教授	江 守 正 多
			特任研究員	野 中 美 紀
			特任研究員	久保川 陽呂鎮
			特任研究員	端 野 典 平
			特任研究員	近 本 喜 光
			技術補佐員	大 槻 千 里
			技術補佐員	中 野 明 美
技術補佐員			ROH, Woosub	
技術補佐員			荒 金 匠	
技術補佐員			大 野 知 紀	
技術補佐員			前 田 崇 文	
技術補佐員			高 橋 良 彰	
気候データ総合解析研究分野		教授	高 薮 縁	
		准教授	渡 部 雅 浩	
		特任助教	横 井 覚	
		特任研究員	宮 川 知 己	
		技術補佐員	釜 江 陽 一	
		特任研究員	濱 田 篤	
気候水循環研究分野	特任研究員	廣 田 渚 郎		
	准教授	芳 村 圭		
		特任研究員	戴 鉄	
		特任研究員	CHAN, Wing Le	

系	部門等	分野等	職名	氏名
気候システム研究系			学術支援専門職員	清水直樹
			事務補佐員	富田直子
			事務補佐員	茂谷恵子
			事務補佐員	北嶋裕子
			事務補佐員	石黒有
			事務補佐員	宅野恵子
			技術補佐員	松崎恵
			技術補佐員	新倉英子
			技術補佐員	松本佳月
			技術補佐員	島田幸子
			技術補佐員	近藤晴奈
			技術補佐員	柏崎美樹
			臨時用務員	石田かつ子
			海洋地球システム研究系	海洋物理学部門
助教	柳本大吾			
事務補佐員	福村衣里子			
海洋大気力学分野	教授	新野宏		
	准教授	伊賀啓太		
	助教	柳瀬亘		
	特任研究員	伊藤純至		
	事務補佐員	日比野英美		
海洋変動力学分野	准教授	藤尾伸三		
	事務補佐員	櫻井美香		
海洋化学部門	海洋無機化学分野	教授		蒲生俊敬
		准教授		小畑元
		助教		中山典子
		特任研究員		茂手木千晶
		事務補佐員		小池早苗
		技術補佐員		山西霜野子
	生元素動態分野	教授		永田俊
		准教授		小川浩史
		助教		宮島利宏
		特任研究員		楊燕輝
		特任研究員		森本直子
		特任研究員		碓井敏宏
		事務補佐員		清水安里佐
	技術補佐員	藤本洋子		
	技術補佐員	関根典子		
大気海洋分析化学分野	教授	佐野有司		
	助教	高畑直人		
海洋底科学部門	海洋底地質学分野	教授	徳山英一	
		兼務准教授	芦寿一郎	
		事務補佐員	中川幸子	
		技術補佐員	多良賢二	
	海洋底地球物理学分野	准教授	沖野郷子	
		准教授	朴進午	
		特任研究員	吉河秀郎	
		特任研究員	内藤和也	
		特任研究員	本荘千枝	
		特任研究員		

系	部門等	分野等	職 名	氏 名
海洋地球システム研究系	海洋底科学部門	海洋底地球物理学分野	学術支援専門職員	蔵 原 大
			事務補佐員	小 松 智恵子
			技術補佐員	西 本 路 子
		海洋底テクトニクス分野	教授	川 幡 穂 高
			准教授	横 山 祐 典
			特任准教授	MATSUMOTO, Katsumi
			助教	井 上 麻夕里
			特任研究員	宮 入 陽 介
			特任研究員	OBROCHTA, Stephen Phillip
			特任研究員	黒 柳 あずみ
			事務補佐員	池 田 恵
			事務補佐員	古 賀 真由美
			技術補佐員	池 内 美奈子
		海洋生態系動態部門	浮遊生物分野	教授
	助教			西 川 淳
	事務補佐員			鈴 木 友 美
	微生物分野		教授(兼)	木 暮 一 啓
			准教授	濱 崎 恒 二
			助教	西 村 昌 彦
			特任研究員	金 子 亮
			特任研究員	都 丸 亜希子
			特任研究員	高 橋 唯
	底生生物分野		特任研究員	野 村 英 明
			学術支援職員	池 本 栄 子
			兼務教授	小 島 茂 明
			准教授	狩 野 泰 則
	海洋生命科学部門	生理学分野	事務補佐員	小 関 玲 子
教授			竹 井 祥 郎	
准教授			兵 藤 晋	
助教			日下部 誠	
特任研究員			安 藤 正 昭	
分子海洋生物学分野		特任研究員	黄 國 成	
		教授	西 田 睦	
		准教授	井 上 広 滋	
		助教	馬 淵 浩 司	
		兼務特任助教	武 島 弘 彦	
		特任研究員	日下部 郁 美	
行動生態計測分野		特任研究員	遠 藤 未来美	
		事務補佐員	清 宮 実佐子	
		教授	塚 本 勝 巳	
		准教授	小 松 輝 久	
		助教	稻 垣 正	
		助教	石 田 健 一	
		特任研究員	渡 邊 俊	
		特任研究員	MILLER, Michael James	
特任研究員	須 藤 竜 介			
特任研究員	阪 本 真 吾			
特任研究員	畑 瀬 英 男			
特任研究員	井 上 潤			
技術補佐員	川 上 達 也			

系	部門等	分野等	職名	氏名	
海洋生命システム研究系	海洋生物資源部門	環境動態分野	教授	安田 一郎	
			兼務准教授	小松 幸生	
			特任研究員	長船 哲史	
			特任研究員	池谷 透	
			特任研究員	田中 祐希	
			技術補佐員	鍋島 圭美	
		資源解析分野	兼務教授	白木原 國雄	
			准教授	平松 一彦	
		資源生態分野	教授	渡邊 良朗	
			准教授	河村 知彦	
			助教	猿渡 敏郎	
			特任研究員	勝川 木綿	
			技術補佐員	織田 愛	
		国際沿岸海洋研究センター	沿岸生態分野	教授(兼)	道田 豊
				准教授	田中 潔
助教	白井 厚太郎				
沿岸保全分野	センター長(兼)・教授		大竹 二雄		
	准教授		佐藤 克文		
	助教		福田 秀樹		
	特任研究員		青木 かがり		
	特任研究員		檜崎 友子		
	特任研究員		野畑 重教		
事務室	地域連携分野		客員准教授	依田 憲	
	専門職員		川辺 幸一		
	室長補佐(兼)・技術専門職員		黒沢 正隆		
	技術職員		平野 昌明		
	特任専門職員		矢口 明夫		
	臨時用務員		岩間 みな子		
	臨時用務員		東谷 幸枝		
	事務補佐員		伊藤 弘恵		
	事務補佐員		大槻 眞理子		
	事務補佐員		坂田 智佐子		
	技術補佐員		片山 僚介		
国際連携研究センター	国際企画分野		教授	道田 豊	
			技術補佐員	小林 奈緒美	
	国際学術分野		センター長(兼)・教授	植松 光夫	
			特任研究員	古谷 浩志	
			特任研究員	近藤 文義	
			技術補佐員	成田 祥	
	国際協力分野		教授	西田 周平	
			特任研究員	宮本 洋臣	
			技術補佐員	小林 真純	
			准教授(兼)	井上 広滋	
		准教授(兼)	今須 良一		
		准教授(兼)	朴 進午		
客員教授		池田 元美			

系	部門等	分野等	職名	氏名
	地球表層圏変動研究センター	古環境変動分野	准教授(兼)	横山 祐典
			准教授(兼)	羽角 博康
		海洋生態系変動分野	准教授	伊藤 幸彦
			特任研究員	山崎 友梨
		生物遺伝子変動分野	教授	木暮 一啓
			講師	岩崎 渉
			特任研究員	吉澤 晋
			事務補佐員	稲川 浩美
			事務補佐員	小泉 眞紅
		大気海洋系変動分野	センター長(兼)・教授	中島 映至
			教授	佐藤 正樹
			事務補佐員	丸山 佳織
			事務補佐員	廣瀬 真理
			技術補佐員	山田 裕子
				技術補佐員
兼務教授	木村 伸吾			
兼務助教	北川 貴士			
特任研究員	銭本 慧			
兼務教授(兼)	木村 伸吾			
海洋アライアンス連携分野		特任准教授	青山 潤	
		兼務特任准教授	下出 信次	
		兼務特任講師	高橋 鉄哉	
		特任研究員(兼)	野村 英明	
		室長(兼)・准教授	兵藤 晋	
陸上研究推進室		室長補佐(兼)・技術専門員	塚本 久美子	
		技術専門員	小笠原 早苗	
		技術専門職員	森山 彰久	
		技術専門職員	早乙女 伸枝	
		技術職員	石丸 君江	
		技術職員	大矢 眞知子	
		技術職員	棚橋 由紀	
		技術職員	原 政子	
		技術職員	渡邊 太朗	
		技術補佐員	松本 町子	
共同利用共同研究推進センター	研究航海企画センター	センター長(兼)・教授	小島 茂明	
		センター長補佐(兼)・助教	稲垣 正	
		技術補佐員(研究支援推進員)	稲葉 不二夫	
		技術補佐員(研究支援推進員)	兼子 康雄	
観測研究推進室		室長(兼)・教授	津田 敦	
		室長補佐(兼)・技術専門員	北川 庄司	
		技術専門職員	田村 千織	
		技術専門職員	石垣 秀雄	
		技術専門職員	李 雅利	
		技術職員	小熊 健治	
		技術職員	亀尾 桂	
		技術職員	長澤 眞樹	
技術職員	竹内 誠			

系	部門等	分野等	職名	氏名		
	共同利用共同研究推進センター	観測研究推進室	技術補佐員(研究支援推進員)	桐ヶ谷 信一		
			技術補佐員(研究支援推進員)	西浦 力雄		
			技術補佐員(研究支援推進員)	今野 啓		
	事務部			事務長	吉田 雅彦	
				副事務長(総務担当)	平澤 敏之	
				副事務長(会計担当)	塩田 俊仁	
				主査(経理担当)	桶谷 文紀	
				専門職員(環境安全管理担当)	関 豊	
				総務チーム	係長	宮城 明治
					専門職員	岡部 友紀
		一般職員	荒井 泰之			
		事務補佐員	原 典子			
		事務補佐員	大久保 幸江			
		国際・研究推進チーム	事務補佐員	根目沢 純子		
			係長	福田 祐子		
			係長	水津 知成		
			主任	篠崎 勲		
			一般職員	原 尚子		
	図書チーム	事務補佐員	関根 里沙			
		事務補佐員	長島 麻子			
		係長	武笠 まゆみ			
財務チーム	事務補佐員	金井 尚子				
	事務補佐員	古舘 さつき				
	係長	大浦 輝一				
経理・調達チーム	主任	黒須 玲子				
	事務補佐員	日暮 仁美				
	係長	荻野 久憲				
	主任	古屋 慎一郎				
	主任	浦田 雅子				
	主任	西井 佐和子				
	主任	前田 美貴子				
	事務補佐員	稲葉 和美				
施設・安全管理チーム	事務補佐員	依田 春子				
	事務補佐員	永井 恵				
電子計算機室		技術職員(兼)	西野 真理			
		特任専門職員	高橋 悦美			
広報室		技術職員(兼)	棚橋 由紀			
		特任専門職員	石川 浩治			
		室長(兼)・教授	西田 睦			
		技術専門職員(兼)	佐伯 かおる			
		事務補佐員	森山 彰久			
事務補佐員	渡辺 由紀子					
事務補佐員	渡部 寿賀子					

資料1-6 客員教員

資料1-6-1 客員教員 (国内)

●海洋研究所

任 期	氏 名	本 務	所 属	職 名
1996. 4. 1～1996.10.31	内 藤 靖 彦	国立極地研究所・教授	海洋科学国際共同研究センター	客員教授
1996.11. 1～1997. 3.31	力 石 國 男	弘前大学理学部・教授	海洋科学国際共同研究センター	客員教授
1997. 4. 1～1998. 3.31	小 泉 格	北海道大学大学院理学系研究科・教授	海洋科学国際共同研究センター	客員教授
1998. 7.16～1999. 3.31	南 川 雅 男	北海道大学大学院地球環境科学研究科・教授	海洋科学国際共同研究センター	客員教授
1999. 4. 1～2001. 3.31	力 石 國 男	弘前大学理学部・教授	海洋科学国際共同研究センター	客員教授
2001. 4. 1～2003. 3.31	田 邊 信 介	愛媛大学沿岸環境科学開発センター・教授	海洋科学国際共同研究センター	客員教授
2003. 4. 1～2004. 3.31	松 山 優 治	東京水産大学水産学部・教授	海洋科学国際共同研究センター	客員教授
2004. 4. 1～2007. 3.31	佐 藤 矩 行	京都大学大学院理学研究科・教授	国際沿岸海洋研究センター	客員教授
2004. 4. 1～2005. 3.31	斎 藤 実 篤	海洋科学技術センター・研究副主幹	海洋科学国際共同研究センター	客員助教授
2005. 6. 1～2006. 3.31	阿波根 直 一	北海道大学大学院理学研究科・助教授	海洋科学国際共同研究センター	客員助教授
2006. 4. 1～2007. 3.31	虎 谷 充 浩	東海大学開発工学部・助教授	海洋科学国際共同研究センター	客員助教授
2007. 4. 1～2008. 3.31	齊 藤 宏 明	水産総合研究センター東北水産研究所・室長	海洋科学国際共同研究センター	客員准教授
2007. 4. 1～2008. 3.31	平 田 岳 史	東京工業大学大学院理工学研究科・助教授	国際沿岸海洋研究センター	客員准教授
2008. 4. 1～2009. 3.31	河 宮 未知生	海洋研究開発機構地球フロンティア研究センター・グループリーダー	海洋科学国際共同研究センター	客員准教授
2008. 5. 1～2009. 3.31	綿 貴 豊	北海道大学大学院水産科学研究院・准教授	国際沿岸海洋研究センター	客員准教授
2009. 4. 1～2010. 3.31	川 口 創	オーストラリア政府南極局・上席研究員	海洋科学国際共同研究センター	客員准教授
2009. 4. 1～2010. 3.31	岸 道 郎	北海道大学大学院水産科学研究院・教授	国際沿岸海洋研究センター	客員教授

●気候システム研究センター

任 期	氏 名	本 務	所 属	職 名
2006. 4. 1～2010. 3.31	江 守 正 多	(独) 国立環境研究所・研究室長	気候システム研究センター	客員助教授・客員准教授
2007. 4. 1～2010. 3.31	村 上 正 隆	気象庁気象研究所・研究室長	気候システム研究センター	客員教授

●大気海洋研究所

任 期	氏 名	本 務	所 属	職 名
2010. 4. 1～2013. 3.31	村 上 正 隆	気象庁気象研究所・研究室長	気候システム研究系	客員教授
2010. 4. 1～2012. 3.31	江 守 正 多	国立環境研究所・研究室長	気候システム研究系	客員准教授
2010. 4. 1～2011. 3.31	轡 田 邦 夫	東海大学海洋学部・教授	海洋地球システム研究系	客員教授
2010. 4. 1～2011. 3.31	井 口 恵一朗	水産総合研究センター中央水産研究所・研究室長	国際沿岸海洋研究センター	客員教授
2011. 4. 1～2013. 3.31	井 上 元	総合地球環境学研究所・教授	気候システム研究系	客員教授
2011. 4. 1～2012. 3.31	池 田 元 美	北海道大学・名誉教授	国際連携研究センター	客員教授
2011. 4. 1～2012. 3.31	依 田 憲	名古屋大学大学院環境学研究科・准教授	国際沿岸海洋研究センター	客員准教授

資料 1-6-2 客員教員 (国外)

—印: データなし

受入期間	氏名	国籍	所属	職名	研究テーマ	受入先
1991. 8. 9~1992. 2. 8	ケラー, ブルーノ	フランス	—	—	ウナギ生殖腺刺激ホルモンの分泌生物学的研究	—
1991.11. 1~1992. 4.31	HUANG, R. (黄 荣輝)	中国	中国科学院大気物理研究所	教授	熱帯西部太平洋域の日周期変動と対流活動及び東西循環との関係についての研究	比較気候モデル分野
1992. 8. 1~1993. 1.31	SUI, C.-H. (随 中興)	アメリカ	ゴッダード宇宙飛行センター	研究員	メソモデルを用いた雲の気候へ及ぼす影響の評価の研究	比較気候モデル分野
1993. 7. 1~1994. 1. 2	DING, Yihui (丁 一匯)	中国	中国国家気象局科学研究所	副院長	熱帯域境界層の構造変化、及び東アジアモンスーンと熱帯域の対流活動の変動との関連についての研究	比較気候モデル分野
1993.11. 8~1994. 5. 7	SHI, Guang-Yu (石 廣玉)	中国	中国科学院大気物理研究所	地球環境システム研究室長	温室ガスに関わる分光パラメータの計算の研究	比較気候モデル分野
1994. 1.20~1994. 7.18	SHERIDAN, Mark Alexander	アメリカ	ノースダコタ州大学動物学科	助教	対流雲のパラメタリゼーションが気候シミュレーションにおよぼす影響	海洋生物生理部門
1994. 1.20~1995. 1.19	BAIK, Jong-Jin	韓国	延世大学	助教授	GCMにおける積雲対流プロセスの研究	比較気候モデル分野
1994. 6.17~1994.11.10	IVANYI, Zsuzsanna	ハンガリー	エトボスローランド大学	助教授	地球温暖化問題、東ヨーロッパ地域の気候変動の特色の研究	比較気候モデル分野
1994.10. 1~1995. 1.31	SULLIVAN, James Joseph	アメリカ	カリフォルニア大学サンディエゴ校	海洋資源開発部部長	海洋生態系に及ぼす海洋環境変動の影響の研究	海洋生物生理部門
1995. 1. 3~1995. 4. 7	LE PICHON, Xavier	フランス	エコールノルマルスペリオール	主任教授	新生代日本周辺のテクトニクスの研究	海底物理部門
1995. 5. 1~1995.10.31	SHEN, Samuel-Shanpu	カナダ	アルバータ州立大学数学科	助教授	気候変動シグナルに関する sampling error の研究及び地球温暖化シグナルの検出の研究	比較気候モデル分野
1995. 7. 1~1996. 6.30	HU, Zeng-zhen (胡 增臻)	中国	中国科学院大気物理研究所	助教授	データ解析及び数値モデルによる気候変動の研究	比較気候モデル分野
1995.11. 1~1996. 4.30	HOLLAND, William Robert	アメリカ	大気科学研究所	主任研究員	海面高度計データの海洋モデルへの同化	比較気候モデル分野
1996. 5.11~1996.11.10	KONDRATYEV, Kirill Yakovlevich	ロシア	ロシア科学アカデミー環境防災研究センター	顧問	大気放射に関わる気候変動要因の研究	比較気候モデル分野
1996. 6.24~1996. 9.25	PAXTON, John Richard	オーストラリア	オーストラリア国立博物館標本管理	一等調査研究官	中・深層性魚類の統計分析及び生態学	プランクトン部門
1996. 8. 2~1997. 7.31	RIVIN, Ilya	ロシア	ロシア科学アカデミー P.Pシルショフ海洋学研究所	主任研究員	気候変動におけるモデリングの研究	比較気候モデル分野
1997. 1. 1~1999.12.31	OH, Sung Nam	韓国	システム工学研究所地球環境情報研究部	主任研究員	衛星リモートセンシング及び画像解析、大気放射モデルソフトウェアの開発	比較気候モデル分野
1997. 4. 1~1998. 3.31	YOU, Yuzhu (尤 鈺柱)	中国	キール大学海洋研究所	客員研究員	Dianeutral mixing transformation and transport, large-scale water mass mixing	比較気候モデル分野
1997. 8. 1~1998. 2.28	SEUNG, Young Ho (承 永鎬)	韓国	仁荷大学海洋学部	教授	オホーツク海モデリング	比較気候モデル分野
1997. 9. 1~1997.11.30	FLIK, Gert	オランダ	ナイメヘン大学理学部	助教授	魚類の高浸透圧環境への適応における鰓の役割	海洋生物生理部門
1998. 3. 1~1998. 5.31	BARANOV, Boris Victorovich	ロシア	ロシア科学アカデミー海洋研究所パレジオダイナミクス研究室	室長	日本海、オホーツク海、ベーリング海の形成テクトニクスに関する共同研究	大洋底構造地質部門
1998. 3. 1~1999. 2.28	GENG, Quan-zhen (耿 全震)	中国	中国国家気象局国家気候中心気候研究室	助教授	大気大循環、短期気候予測の研究	比較気候モデル分野
1998. 4. 1~1998. 6.30	LARSON, Roger Lee	アメリカ	ロードアイランド大学海洋学大学院	教授	太平洋の形成史	大洋底構造地質部門
1998. 4. 1~1999. 8.31	MELNIKOVA, Irina	ロシア	ロシア科学アカデミー環境防災研究センター	上級研究員	雲システムの気候影響に関する研究	比較気候モデル分野
1998. 7. 1~1999. 3.31	BALABOV, Andrey Anatoljevich	ロシア	国立海洋生物学研究所	研究員	中・深層性魚類に関する生態学的研究	プランクトン部門
1999. 4. 1~2000. 3.31	YOU, Yuzhu (尤 鈺柱)	中国	キール大学海洋研究所	客員研究員	Dianeutral mixing transformation and transport, large-scale water mass mixing	比較気候モデル分野

受入期間	氏名	国籍	所属	職名	研究テーマ	受入先
1999. 6. 1～1999. 8.31	NAIR, Vijayalakshmi Raja	インド	国立海洋研究所ボンベイ支所	副所長	動物プランクトンの生態学的研究	海洋科学国際共同研究センター
1999. 8. 5～1999.11.30	HAZON, Neil	イギリス	セントアンドリュース大学生物医科学部	教授	魚類における血圧及び体液量の内分泌調整機構	海洋生物生理部門
1999. 9. 1～2000. 2.29	LAL, Murari	インド	インド科学技術研究所	主席研究官	Climate Modeling, Climate Variability, Regional Climate Change	比較気候モデル分野
2000. 1. 1～2000. 3.31	JONES, Ian Stanley Ferguson	オーストラリア	シドニー大学工学部	助教授	スーロー海の地域海洋学と温室効果気体の海洋における収支	資源環境部門
2000. 3. 1～2000. 8.31	JIN, Fei-Fei (金 飛飛)	中国	ハワイ大学気象学科	助教授	Coupled atmosphere ocean dynamics, ENSO theory, dynamics of interannual-interdecadal climate variability	比較気候モデル分野
2000. 8. 1～2001. 3.31	FOMIN, Boris Alexeevitch	ロシア	クルチャトフ研究所	—	大気放射、リモートセンシング、安定同位体	比較気候モデル分野
2000.11.21～2001. 3.31	ZAKHAROV, Vyacheslav Iosiphovich	ロシア	ウラル州立大学	—	人工衛星データを用いた大気中HDO及び13CO ₂ 濃度分布の解析	比較気候モデル分野
2001. 1.12～2001. 5.11	MOORE, Gregory Frank	アメリカ	ハワイ大学海洋理工学部	教授	南海トラフ付加体の地質構造の研究	海洋科学国際共同研究センター
2001. 5. 1～2001. 8.31	WANG, Bin	アメリカ	ハワイ大学気象学部	専任教授	気候システムの季節内振動の研究	比較気候モデル分野
2001. 5. 1～2002. 3.31	WENG, Hengyi	中国	中国気象科学研究院	上級研究員	Multi-scale climate variability, solar impacts on climate change	比較気候モデル分野
2001. 9. 1～2002. 2.28	VARLAMOV, Sergey Mikhailovitch	ロシア	立正大学環境科学研究所	研究員	海流による物質および稚仔魚の輸送過程の研究	海洋科学国際共同研究センター
2001.12. 1～2002.11.30	KUMAR, Dhaka Surendra	インド	デリー大学ラジャニ校物理学部	専任講師	対流生成による波動の気候学	比較気候モデル分野
2002. 4. 1～2002. 9.30	CHEN, Wen	中国	中国科学院大気物理研究所	—	成層圏の年々変動	比較気候モデル分野
2002.10. 1～2003. 3.31	RASCHKE, Ehrhard	ドイツ	ハンブルグ大学	名誉局員研究者	気候と放射の研究	比較気候モデル分野
2002.12. 1～2003.11.30	ZHAO, Zong-ci (趙 宋慈)	中国	中国気象局・中国気象センター	教授	気候力学	比較気候モデル分野
2003. 1. 9～2003. 4.30	CHASHECHKIN, Yuli D.	ロシア	ロシア科学アカデミー力学研究所液体力学実験室	主任	内部重力波と二重拡散対流の研究	海洋物理学部門
2003. 4. 1～2004. 2.29	ZHAO, Nan (趙 南)	中国	中国気象科学研究院	上級研究員	GCMと観測データによる年々変動の解析	比較気候モデル分野
2003. 5. 1～2004. 2.29	DOU, Shouzeng (竇 碩增)	中国	中国科学院海洋研究所	教授	ウナギの産卵生態に関する行動学的解析	海洋科学国際共同研究センター
2003. 7. 1～2004. 3.31	YANG, Jian (楊 健)	中国	中国水産科学研究院淡水漁業研究センター漁業生態環境モデリングと保護部門	教授	海洋生物に蓄積する重金属類に関する研究	国際沿岸海洋研究センター
2004. 3. 1～2004. 6.30	LABIB, Wagdy	エジプト	国立海洋漁業研究所	教授	沿岸域における植物プランクトンの生態学的研究	国際沿岸海洋研究センター
2004. 4.20～2005. 3.31	LIMBONG, Daniel	インドネシア	サムラトランギ大学水産資源管理研究室	研究員	汚染地域周辺の有用漁種に係る有機水銀の生物濃縮に関する研究	国際沿岸海洋研究センター
2004. 5.20～2004. 8.19	SUN, Wen-Yih	アメリカ	パデュー大学	教授	アジアモンスーンに関する研究	比較気候モデル分野
2004.10. 1～2005. 9.30	RAHMAN, Mohammad Syedur	バングラデシュ	ラジャヒ大学	教授	水資源開発やマネジメントなど	比較気候モデル分野
2005. 8. 1～2005.10.31	ESWARD, J.K. Patterson	インド	スガンスウィアウェイダソン海洋研究所	所長	津波が沿岸生態系に及ぼす影響について	国際沿岸海洋研究センター
2005.10. 1～2006. 3.31	ZHAO, Chunsheng (趙 春生)	中国	北京大学	—	大気大循環モデルと非静力雲モデルを利用した雲システムの研究	比較気候モデル分野
2006. 2.19～2006. 5.18	FERNANDES, Jorge M.O.	ポルトガル	セントアンドリュース大学	研究員	フグゲノムから新規海水適応遺伝子探索に関する研究	海洋生命科学部門
2006. 5. 1～2006. 7.31	TRIPATHI, Sachchida Nand	インド	インド工科大学	—	人工衛星とモデルを使ったエアロゾルと気候相互作用の研究	比較気候モデル分野
2006. 6. 1～2006. 9.30	MILLER, Patrick J.O.	アメリカ	セントアンドリュース大学海洋哺乳類生物研究班機器工学	グループ長	バイオリギング手法による海洋高次捕食動物の行動生態学研究	国際沿岸海洋研究センター

受入期間	氏名	国籍	所属	職名	研究テーマ	受入先
2006. 6.15～2006. 9.15	ZHANG, Yaocun (張耀存)	中国	南京大学	—	CCSR気候モデルを用いた東アジア亜熱帯ジェットの季節変動	比較気候モデル分野
2006. 8.22～2007. 2. 9	HAN, Myung-Soo (韓明洙)	韓国	韓陽大学	教授	海産渦鞭毛藻類の生態学的・生理学的研究	海洋生態系動態部門
2006.10. 1～2007. 4.30	ZHANG, Hua (張華)	中国	国立気候センター	—	気候モデリングにおける放射-雲-気候相互作用の研究	比較気候モデル分野
2007. 4. 2～2007. 7.13	FU, Qiang (傅強)	アメリカ	ワシントン大学	教授	全球気候モデリング、人工衛星リモートセンシング及び気候変動に関する研究	比較気候モデル分野
2007. 5.10～2007. 8.17	KUG, Jong-Seong	韓国	ソウル国立大学	准教授	季節予報と予測可能性に関する研究	比較気候モデル分野
2007. 7. 1～2007. 9.30	LIU, Shiu-Mei (劉秀美)	中国・台湾	台湾海洋大学海洋生物学研究所	教授	海洋微生物生態学に関するアジア地域国際ネットワーク構築	海洋生態系動態部門
2007. 8.28～2007.12.25	CHAN, Johnny Chung Leung	イギリス	香港城市大学	教授	気候変化に伴う台風及び降雨特性の変化に関する研究	比較気候モデル分野
2007. 9. 1～2007.11.30	RUMENGAN, Inneke FM	インドネシア	サムラトランギ大学水産海洋学部共同研究・企画・評価担当	副学部長	有機スズ化合物が海洋生物に及ぼす影響	国際沿岸海洋研究センター
2007. 9. 1～2007.12.28	DAVIS, Randall W	アメリカ	テキサスA&M大学海洋生物学部	教授	海洋動物の潜水行動	国際沿岸海洋研究センター
2008. 1.25～2008. 2.29	ARIMOTO, Richard	アメリカ	ニューメキシコ州立大学カルスバッド環境監視研究センター	環境研究員	アジアから西部北太平洋へ輸送される大気物質の起源、輸送、沈着過程と海洋環境への潜在的影響の評価	海洋科学国際共同研究センター
2008. 2.14～2008. 3.13	BALMENT, Richard John	イギリス	マンチェスター大学	教授	脊椎動物の水生から陸生へ移行のともなう体液調節機構の進化	海洋生命科学部門
2008. 4. 1～2008. 9.30	Shi, Guang-Yu (石廣玉)	中国	中国科学院大気物理研究所	教授	人間起源の気候影響にかかわる研究	気候モデリング研究部門
2008. 4. 1～2008. 9.30	DHAKA, Surendra Kumar	インド	デリー大学	准教授	GCMと観測データを用いた重力波に関する研究	気候モデリング研究部門
2008. 6.16～2008. 7.18	RUBER, Lukas	スイス	ロンドン自然史博物館	研究員	ハゼ亜目魚類の分子系統学的研究	海洋生命科学部門
2008. 7. 1～2008. 8.31	DO Hyung-Ki (都亨基)	韓国	韓東大学校生命食品科学部	教授	大館湾における海洋微生物と放線菌の分離に関する研究	国際沿岸海洋研究センター
2008. 7.16～2008. 8.16	MC CARTHY, Thomas Kieran	アイルランド	アイルランド国立大学	講師	魚類の生活史と回遊に関する研究	国際沿岸海洋研究センター
2008. 8. 1～2008.10.31	LIMBONG, Daniel	インドネシア	サムラトランギ大学	准教授	有害化学物質による沿岸環境汚染に関する研究	国際沿岸海洋研究センター
2008. 9.16～2009. 1.15	Li, Zhanqing (李占清)	アメリカ	メリーランド大学	教授	エアロゾルの影響に関する研究	気候モデリング研究部門
2008.10. 1～2008.12.26	SARIN, Manmohan	インド	物理学研究所 天文・地球化学部門	正教授	海洋大気中での大気酸性物質と鉱物エアロゾルを含む不均一化学反応と気候変動への影響	海洋科学国際共同研究センター
2009. 1. 4～2009. 3.31	BHATTACHARYA, Sourendra Kumar	インド	物理学研究所	シニア研究員	大気および海洋における軽元素の安定同位体地球化学に関する研究	海洋化学部門
2009. 3. 1～2010. 2.28	SOHN, Byung-Ju (孫炳柱)	韓国	ソウル国立大学	教授	水蒸気の衛星遠隔探査と気候シミュレーションへの応用	気候モデリング研究部門
2009. 4. 1～2009. 6.30	JHUN, Jong-Ghap (金鍾甲)	韓国	ソウル国立大学	教授	地球温暖化による東アジアモンスーンの変化	気候変動現象研究部門
2009. 4.15～2009. 6.20 2010. 1.22～2010. 2. 6	DONALD, John Alexander	オーストラリア	ディーキン大学生命環境科学部	准教授	海洋生物における循環調節および体液調節	海洋生命科学部門
2009. 6. 1～2009. 8.31	PINTI, Daniele L.	イタリア	ケベックモントリオール大学地球大気学部	准教授	深海サンゴを用いた完新世および歴史時代の環境変動の復元	海洋化学部門
2009. 7. 1～2009. 8.31	DOU Shuozeng (竇碩增)	中国	中国科学院海洋研究所	教授	タチウオおよびエツの耳石の微細構造と微量元素組成による初期生活史の解明	国際沿岸海洋研究センター
2009. 7.27～2009. 8.26	BOST, Charles- André	フランス	国立科学研究所生物学研究センター	上席研究員	餌利用可能性に応じた海洋水捕食動物の採餌戦略	国際沿岸海洋研究センター
2009. 8. 1～2009. 9. 4	MARSHALL, Christopher D.	アメリカ	テキサスA&M大学	准教授	アカウミガメの噛み合わせ力測定：生息域が外洋型と沿岸型に分かれるグループ間で餌生物の違いに起因する違いが見られるか？	国際沿岸海洋研究センター
2009. 8. 1～2010. 1.31	ZAKHAROV, Vyacheslav Iosiphovich	ロシア	ウラル州立大学	教授	GOSAT衛星搭載TANSO-FTSセンサーを用いた大気中メタンガスの解析	気候モデリング研究部門

受入期間	氏名	国籍	所属	職名	研究テーマ	受入先
2010. 1. 1～2010. 3.31	RAMAIAH, Nagappa	インド	国立海洋資源研究所	科学者G	沿岸域の細菌群集構造および生産速度の研究合の日印比較	海洋生態系動態部門
2010. 2.20～2011. 2. 7	RUTZ, Christian	ドイツ	オックスフォード大学動物学部	研究員	動物搭載型ビデオカメラを用いたオオミズナギドリ of 行動生態学研究	国際沿岸海洋研究センター
2010. 4. 1～2010. 6.30	WANG, Yuqing (王玉清)	オーストラリア	ハワイ大学	教授	NICAMの改良及びNIACAMを用いてシミュレートした熱帯低気圧の解析	気候変動現象研究部門
2010. 5.20～2010. 8.19	LORETZ, Christopher Alan	アメリカ	ニューヨーク州立大学生物科学	准教授	水生脊椎動物のカルシウムセンシングに注目した細胞外カルシウム受容体の分子生理学的・進化発生的研究	海洋生命科学部門
2010. 6.11～2010. 7.10 2011. 2.01～2011. 3.31	ROBINET, Tony	フランス	フランス自然史博物館	准教授	インド洋における中深層性仔稚魚相に関する分類学的研究	海洋生命科学部門
2010. 6.21～2010. 8.17 2011. 3. 1～2011. 3.24	KIM, Sang-Jin	韓国	国立水産振興院	主任研究員	・外洋および深海におけるナノサイズ有機態粒子の化学組成とエネルギー代謝 ・未培養海洋微生物の分離およびその特性解明 ・自由遊泳性の微小細菌群集の構造解析	海洋生態系動態部門
2010. 6.21～2010. 9.19	WANG, Yuan	中国	大連水産学院	准教授	中国沿岸海域の重金属汚染に関する研究	国際連携研究センター
2010. 7. 1～2010. 9.30	KANDALAM, Badarinath Venkata Sninivasa	インド	国立リモートセンシングセンター大学科学セクション	部門長	複数の人工衛星と地上観測を利用した大気エアゾルの研究	気候モアリング研究部門
2010.10. 1～2010.11.30	BHUSHAN, Ravi	インド	国立物理学研究所	研究員	海水中の微量元素・天然放射性核種を用いた海洋の物質循環の研究	海洋化学部門
2010.11. 1～2011. 1.31	YIOU, Pascal	フランス	国立科学研究センター気候環境科学研究所	研究員	大気循環の統計的特長と最高最低気温との関連性についての研究	気候モアリング研究部門
2010.11. 1～2011. 1.31	KAGEYAMA, Masa	フランス	国立科学研究センター気候環境科学研究所	研究員	氷期気候；氷床と温室効果ガス濃度、大西洋における子午面循環に対する感度について	気候モアリング研究部門
2010.11. 6～2010.11.18 2011. 3.14～2011. 3.31	FEUNTEUN, Eric	フランス	フランス自然史博物館・沿岸生態系センター	所長・教授	ウナギ属魚類の回遊特性とその生物学的意義	国際沿岸海洋研究センター
2010.11.15～2011.12.18 2011. 3.09～2011. 3.17	MILLER, JR., William L.	アメリカ	ジョージア大学海洋研究所	教授・所長	海洋光化学・海洋光学・海洋における金属と炭酸ガスサイクル、反応微量元素大気海洋交換	国際連携研究センター
2011. 7. 1～2011. 8.31	MOULIN, Frederic Yann	フランス	ポールサバティエ工科大学附属ツールーズ流体力学研究所	准教授	地球流体中の渦の力学に関する理論的・実験的研究	海洋物理学部門
2011. 8. 1～2012. 3.31	MATSUMOTO, Katsumi (松本 克美)	アメリカ	ミネソタ大学地質学/地球物理学科	准教授	更新世の全球気候変動と炭素循環の関係に関する研究	海洋底科学部門
2011. 9. 1～2012. 2.28	YOON, Soon-Chang	韓国	ソウル国立大学地球・環境科学専攻	教授	エアロゾルによる雲への影響および土壌エアロゾルの発生量と光学特性のモデル化	気候モアリング研究部門
2011. 9.11～2011.10.14	MILLER, Patrick	アメリカ	セントアンドリュース大学スコットランド海洋研究所	講師	バイオロギングによる海洋哺乳動物の採餌行動	国際沿岸海洋研究センター
2011.10.16～2012. 3.15	DONG, Xiquan	アメリカ	ノースダコタ大学大気科学部	准教授	エアロゾル・雲・放射・降雨間の相互作用に関する研究	気候モアリング研究部門
2011.11. 1～2011.11.30	YANG, Jian (楊 健)	中国	中国水産科学研究院淡水漁業研究センター	教授	耳石の微量元素を用いた通し回遊魚の生活史や回遊履歴の解明ー資源管理を目的としてー	国際沿岸海洋研究センター
2011.11. 5～2011.12.10	SCHNEIDER, Niklas	ドイツ	ハワイ大学 国際太平洋研究センター (海洋学科)	准教授	黒潮・親潮統流域の力学過程および太平洋西部の大気海洋相互作用	海洋物理学部門

資料 1-7 協議会、運営委員会委員

資料 1-7-1 協議会等委員

●海洋研究所 [1994.4～2010.3]

任 期	氏 名	所 属	職 名	
1994. 4. 1～1996. 3.31	松 本 英 二	名古屋大学大気水圏科学研究所	教授	
	今 脇 資 郎	九州大学応用力学研究所	教授	
	斎 藤 常 正	東北大学理学部	教授	
	関 文 威	筑波大学生物科学系	教授	
	平 澤 威 男	国立極地研究所	企画調整官・教授	
	竹 内 謙 介	北海道大学低温科学研究所	教授	
	石 渡 良 志	東京都立大学理学部	教授	
	有 賀 祐 勝	東京水産大学水産学部	教授	
	中 尾 征 三	工業技術院地質調査所海洋地質部	部長	
	平 啓 介	東京大学海洋研究所	教授	
	瀬 川 爾 朗	東京大学海洋研究所	教授	
	沖 山 宗 雄	東京大学海洋研究所	教授	
	山 形 俊 男	東京大学理学部	助教授	
	二 村 義八朗	東京大学農学部	教授	
吉 田 宏一郎	東京大学工学部	教授		
1994. 4. 1～1995. 3.31	小 林 俊 一	東京大学理学部	学部長	
1994. 4. 1～1994. 9.30	鈴 木 昭 憲	東京大学農学部	学部長	
1994.10. 1～1996. 3.31	佐々木 恵 彦	東京大学農学部	学部長	
1994. 4. 1～1996. 3.31	深 尾 良 夫	東京大学地震研究所	所長	
	佐 藤 國 雄	東京大学事務局	局長	
	雨 宮 忠	東京大学事務局	局長	
1995. 4. 1～1996. 3.31	益 田 隆 司	東京大学理学部	学部長	
1996. 4. 1～1998. 3.31	学 外	竹 内 謙 介	北海道大学低温科学研究所	教授
		松 本 英 二	名古屋大学大気水圏科学研究所	教授
		谷 口 旭	東北大学農学部	教授
		伊勢崎 修 弘	千葉大学理学部	教授
		有 賀 祐 勝	東京水産大学水産学部	教授
		尹 宗 煥	九州大学応用力学研究所	教授
		石 渡 良 志	東京都立大学理学部	教授
		平 澤 威 男	国立極地研究所	所長
	中 尾 征 三	工業技術院地質調査所海洋地質部	部長	
	学 内	小 池 勲 夫	東京大学海洋研究所	教授
		川 口 弘 一	東京大学海洋研究所	教授
		大和田 紘 一	東京大学海洋研究所	教授
		山 形 俊 男	東京大学大学院理学系研究科	教授
		伏 谷 伸 宏	東京大学大学院農学生命科学研究科	教授
藤 野 正 隆		東京大学大学院工学系研究科	教授	
壽榮松 宏 仁		東京大学大学院理学系研究科	学部長	
小 林 正 彦		東京大学大学院農学生命科学研究科	学部長	
藤 井 敏 嗣	東京大学地震研究所	所長		
中 西 釦 治	東京大学事務局	局長		

任 期	氏 名	所 属	職 名	
1998. 4. 1～2000. 3.31	学 外	河 村 公 隆	北海道大学低温科学研究所	教授
		谷 口 旭	東北大学農学部	教授
		関 文 威	筑波大学生物科学系	教授
		伊勢崎 修 弘	千葉大学理学部	教授
		松 本 英 二	名古屋大学大気水圏科学研究所	教授
		淡 路 敏 之	京都大学大学院理学系研究科	教授
		尹 宗 煥	九州大学応用力学研究所	教授
		内 藤 靖 彦	国立極地研究所	教授
		奥 田 義 久	工業技術院地質調査所	部長
	学 内	壽榮松 宏 仁	東京大学大学院理学系研究科	学部長
		小 林 正 彦	東京大学大学院農学生命科学研究科	学部長
		藤 井 敏 嗣	東京大学地震研究所	所長
		中 西 釦 治	東京大学事務局	局長
		藤 野 正 隆	東京大学大学院工学系研究科	教授
		山 岬 正 紀	東京大学大学院理学系研究科	教授
		谷 内 透	東京大学大学院農学生命科学研究科	教授
		小 池 勲 夫	東京大学海洋研究所	教授
川 口 弘 一		東京大学海洋研究所	教授	
大和田 紘 一		東京大学海洋研究所	教授	
平 啓 介	東京大学海洋研究所	所長		
2000. 4. 1～2002. 3.31	学 外	河 村 公 隆	北海道大学低温科学研究所	教授
		関 文 威	筑波大学生物科学系	教授
		田 上 英一郎	名古屋大学大気水圏科学研究所	教授
		淡 路 敏 之	京都大学大学院理学系研究科	教授
		上 真 一	広島大学生物生産学部	教授
		高 橋 孝 三	九州大学大学院理学研究科	教授
		市 川 洋	鹿児島大学水産学部	教授
		内 藤 靖 彦	国立極地研究所	教授
		奥 田 義 久	工業技術院地質調査所	部長
	学 内	小 間 篤	東京大学大学院理学系研究科 [2000.4.1～2001.3.31]	研究科長
		佐 藤 勝 彦	東京大学大学院理学系研究科 [2001.4.1～2002.3.31]	研究科長
		林 良 博	東京大学大学院農学生命科学研究科	研究科長
		藤 井 敏 嗣	東京大学地震研究所	所長
		山 下 輝 夫	東京大学地震研究所	所長
		板 橋 一 太	東京大学事務局	局長
		坂 本 幸一	東京大学事務局	局長
		東 畑 郁 生	東京大学大学院工学系研究科	教授
山 形 俊 男		東京大学大学院理学系研究科	教授	
渡 部 終 五		東京大学大学院農学生命科学研究科	教授	
野 崎 義 行	東京大学海洋研究所	教授		
塚 本 勝 巳	東京大学海洋研究所	教授		
杉 本 隆 成	東京大学海洋研究所	教授		
平 啓 介	東京大学海洋研究所 [2000.4.1～2001.3.31]	所長		
小 池 勲 夫	東京大学海洋研究所 [2001.4.1～2002.3.31]	所長		
2002. 4. 1～2004. 3.31	学 外	乗 木 新一郎	北海道大学大学院地球環境科学研究科	教授
		松 山 優 治	東京水産大学水産学部海洋環境学科	教授
		田 上 英一郎	名古屋大学大学院環境学研究科	教授

任 期		氏 名	所 属	職 名	
2004. 4. 1～2006. 3.31	学 外	井 内 美 郎	愛媛大学沿岸環境科学研究センター	教授	
		上 真 一	広島大学生物生産学部	教授	
		高 橋 孝 三	九州大学大学院理学研究科	教授	
		市 川 洋	鹿児島大学水産学部	教授	
		福 地 光 男	国立極地研究所南極圏環境モニタリングセンター	教授	
		井 関 和 夫	水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所	部長	
	学 内	佐 藤 勝 彦	東京大学大学院理学系研究科	研究科長	
		林 良 博	東京大学大学院農学生命科学研究科	研究科長	
		山 下 輝 夫	東京大学地震研究所	所長	
		梶 野 慎 一	東京大学事務局	局長	
		東 畑 郁 生	東京大学大学院工学系研究科	教授	
		山 形 俊 男	東京大学大学院理学系研究科	教授	
		古 谷 研	東京大学大学院農学生命科学研究科	教授	
		野 崎 義 行	東京大学海洋研究所	教授	
		塚 本 勝 巳	東京大学海洋研究所	教授	
		杉 本 隆 成	東京大学海洋研究所	教授	
		小 池 勲 夫	東京大学海洋研究所	所長	
		学 外	乗 木 新一郎	北海道大学大学院地球環境科学研究科	教授
			池 田 勉	北海道大学大学院水産科学研究科	教授
松 山 優 治	東京海洋大学海洋科学部		教授		
才 野 敏 郎	名古屋大学地球水循環研究センター		教授		
井 内 美 郎	愛媛大学沿岸環境科学研究センター		教授		
井 関 和 夫	広島大学大学院生物圏科学研究科		教授		
福 地 光 男	国立極地研究所南極圏環境モニタリングセンター		センター長・教授		
久保田 雅 久	東海大学海洋学部		教授		
北 里 洋	海洋研究開発機構システム変動研究領域		領域長		
学 内	山 口 一		東京大学大学院工学系研究科	教授	
	山 形 俊 男		東京大学大学院理学系研究科	教授	
	青 木 一 郎		東京大学大学院農学生命科学研究科	教授	
	河 野 道 方		東京大学大学院新領域創成科学研究科	研究科長	
	磯 部 雅 彦	東京大学大学院新領域創成科学研究科	研究科長		
	岡 村 定 矩	東京大学大学院理学系研究科	研究科長		
	岩 澤 康 裕	東京大学大学院理学系研究科	研究科長		
	會 田 勝 美	東京大学大学院農学生命科学研究科	研究科長		
	山 下 輝 夫	東京大学地震研究所	所長		
	大久保 修 平	東京大学地震研究所	所長		
	渡 邊 良 朗	東京大学海洋研究所	教授		
	西 田 睦	東京大学海洋研究所	教授		
	小 池 勲 夫	東京大学海洋研究所 [2004.4.1～2005.3.31]	所長		
寺 崎 誠	東京大学海洋研究所 [2005.4.1～2006.3.31]	所長			
2006. 4. 1～2008. 3.31	学 外	乗 木 新一郎	北海道大学大学院地球環境科学研究院	教授	
		池 田 勉	北海道大学大学院水産科学研究院	教授	
		松 山 優 治	東京海洋大学海洋科学部	教授	
		才 野 敏 郎	名古屋大学地球水循環研究センター	教授	
		井 内 美 郎	愛媛大学沿岸環境科学研究センター	教授	
		井 関 和 夫	広島大学大学院生物圏科学研究科	教授	
		福 地 光 男	国立極地研究所研究教育系	教授	

任 期		氏 名	所 属	職 名
	学 外	久保田 雅 久	東海大学海洋学部	教授
		北 里 洋	海洋研究開発機構地球内部変動研究センター	プログラムディレクター
	学 内	山 口 一	東京大学大学院工学系研究科	教授
		山 形 俊 男	東京大学大学院理学系研究科	教授
		青 木 一 郎	東京大学大学院農学生命科学研究科	教授
		磯 部 雅 彦	東京大学大学院新領域創成科学研究科[2006.4.1~2007.3.31]	研究科長
		雨 宮 慶 幸	東京大学大学院新領域創成科学研究科[2007.4.1~2008.3.31]	研究科長
		岩 澤 康 裕	東京大学大学院理学系研究科 [2006.4.1 ~ 2007.3.31]	研究科長
		山 本 正 幸	東京大学大学院理学系研究科 [2007.4.1 ~ 2008.3.31]	研究科長
		會 田 勝 美	東京大学大学院農学生命科学研究科[2006.4.1 ~ 2007.3.31]	研究科長
		生源寺 眞 一	東京大学大学院農学生命科学研究科[2007.4.1 ~ 2008.3.31]	研究科長
		大久保 修 平	東京大学地震研究所	所長
		渡 邊 良 朗	東京大学海洋研究所	教授
		塚 本 勝 巳	東京大学海洋研究所	教授
西 田 睦	東京大学海洋研究所	教授/所長		
寺 崎 誠	東京大学海洋研究所 [2006.4.1 ~ 2007.3.31]	所長		
2008. 4. 1 ~ 2010. 3.31	学 外	乗 木 新一郎	北海道大学大学院地球環境科学研究院	教授
		桜 井 泰 憲	北海道大学大学院水産科学研究院	教授
		花 輪 公 雄	東北大学大学院理学研究科	教授
		才 野 敏 郎	海洋研究開発機構地球環境観測研究センター	プログラムディレクター
		井 内 美 郎	早稲田大学人間科学学術院	教授
		井 関 和 夫	広島大学大学院生物圏科学研究科	教授
		福 地 光 男	国立極地研究所研究教育系	教授
		久保田 雅 久	東海大学海洋学部	教授
	北 里 洋	海洋研究開発機構地球内部変動研究センター	プログラムディレクター	
	学 内	平 尾 公 彦	東京大学大学院工学系研究科	副学長
		松 本 洋一郎	東京大学大学院工学系研究科	副学長
		山 口 一	東京大学大学院新領域創成科学研究科	教授
		山 形 俊 男	東京大学大学院理学系研究科	教授
		日比谷 紀 之	東京大学大学院理学系研究科	教授
小 川 和 夫		東京大学大学院農学生命科学研究科	教授	
雨 宮 慶 幸		東京大学大学院新領域創成科学研究科[2008.4.1~2009.3.31]	研究科長	
大 和 裕 幸		東京大学大学院新領域創成科学研究科[2009.4.1~2010.3.31]	研究科長	
山 本 正 幸		東京大学大学院理学系研究科 [2008.4.1 ~ 2009.3.31]	研究科長	
山 形 俊 男		東京大学大学院理学系研究科 [2009.4.1 ~ 2010.3.31]	研究科長	
生源寺 眞 一		東京大学大学院農学生命科学研究科	研究科長	
大久保 修 平		東京大学地震研究所	所長	
平 田 直	東京大学地震研究所	所長		
西 田 睦	東京大学海洋研究所	所長		
木 暮 一 啓	東京大学海洋研究所	教授		
新 野 宏	東京大学海洋研究所	教授		

●気候システム研究センター（協議会）

任 期	氏 名	所 属	職 名
1991. 4.12～1995. 3.31	松 野 太 郎	東京大学気候システム研究センター	教授
1991. 4.12～1993. 3.31	平 井 宜 雄	東京大学法学部	教授
1991. 4.12～1993. 3.31	茅 陽 一	東京大学工学部	教授
1991. 4.12～1994. 3.31	永 田 豊	東京大学理学部	教授
1991. 4.12～1993. 3.31	国 分 征	東京大学理学部	教授
1991. 4.12～1995. 3.31	兼 岡 一 郎	東京大学地震研究所	教授
1991. 4.12～1993. 3.31	浅 井 富 雄	東京大学海洋研究所	教授
1991. 4.12～1993. 3.31	大須賀 節 雄	東京大学先端科学技術研究センター	教授
1991. 7. 1～2001. 3.31	杉ノ原 伸 夫	東京大学気候システム研究センター	教授
1991. 7. 1～1995. 3.31	住 明 正	東京大学気候システム研究センター	教授
1995. 4. 1～2005. 3.31	住 明 正	東京大学気候システム研究センター	教授
1992. 4. 1～1997.12. 8	新 田 勅	東京大学気候システム研究センター	教授
1993. 4. 1～1995. 3.31	青 山 善 光	東京大学法学部	教授
1993. 4. 1～1997. 3.31	石 谷 久	東京大学工学部	教授
1993. 4. 1～1999. 3.31	小 川 利 紘	東京大学理学部	教授
1993. 4. 1～2001. 3.31	平 啓 介	東京大学海洋研究所	教授
1993. 4. 1～1995. 3.31	村 上 陽一郎	東京大学先端科学技術研究センター	教授
1994. 4. 1～1995. 3.31	河 野 長	東京大学理学部	教授
1994. 4. 1～1995. 3.31	大和田 紘 一	東京大学海洋研究所	教授
1995. 4. 1～2005. 3.31	中 島 映 至	東京大学気候システム研究センター	教授
1995. 4. 1～1997. 3.31	佐々木 毅	東京大学大学院法学政治学研究科	教授
1995. 4. 1～1997. 3.31	山 岬 正 紀	東京大学大学院理学系研究科	教授
1995. 4. 1～1997. 3.31	島 崎 邦 彦	東京大学地震研究所	教授
1995. 4. 1～1997. 3.31	岸 輝 雄	東京大学先端科学技術研究センター	教授
1996. 4. 1～1997. 3.31	岩 田 一 政	東京大学教養学部	教授
1997. 4. 1～1999. 3.31	伊 藤 眞	東京大学大学院法学政治学研究科	教授
1997. 4. 1～1999. 3.31	玉 井 信 行	東京大学大学院工学系研究科	教授
1997. 4. 1～2005. 3.31	山 形 俊 男	東京大学大学院理学系研究科	教授
1997. 4. 1～1999. 3.31	金 沢 敏 彦	東京大学地震研究所	教授
1997. 4. 1～1999. 3.31	二 木 鋭 雄	東京大学先端科学技術研究センター	教授
1997. 4. 1～1999. 3.31	伊 藤 元 重	東京大学経済学部	教授・総長補佐
1998. 4. 1～1999. 3.31	河 野 俊 丈	東京大学数理科学研究科	教授・総長補佐
1998. 5. 1～2001. 3.31	山 岬 正 紀	東京大学大学院理学系研究科	教授
1998.12. 1～2005. 3.31	高 橋 正 明	東京大学気候システム研究センター	教授
1999. 4. 1～2001. 3.31	高 橋 和 之	東京大学大学院法学政治学研究科	教授
1999. 4. 1～2001. 3.31	定 方 正 毅	東京大学大学院工学系研究科	教授
1999. 4. 1～2001. 3.31	藤 井 敏 嗣	東京大学地震研究所	教授
1999. 4. 1～2001. 3.31	岡 部 洋 一	東京大学先端科学技術研究センター	教授
1999. 4. 1～2001. 3.31	黒 田 和 明	東京大学宇宙線研究所	教授・総長補佐
2000. 9. 6～2001. 3.31	木 本 昌 秀	東京大学気候システム研究センター	助教授
2001. 4. 1～2005. 3.31	木 本 昌 秀	東京大学気候システム研究センター	教授
2000. 9. 6～2005. 3.31	今 須 良 一	東京大学気候システム研究センター	助教授
2000. 9. 6～2005. 3.31	高 藪 縁	東京大学気候システム研究センター	助教授
2000. 4. 1～2001. 3.31	日比谷 紀 之	東京大学大学院理学系研究科	助教授
1999. 4. 1～2001. 3.31	石 田 英 敬	東京大学大学院情報学環・学際情報学府	教授・総長補佐
2002. 7. 1～2005. 3.31	遠 藤 昌 宏	東京大学気候システム研究センター	教授

任 期	氏 名	所 属	職 名
2001. 4. 1～2003. 3.31	南 谷 崇	東京大学先端科学技術研究センター	教授
2001. 4. 1～2005. 3.31	井 上 達 夫	東京大学大学院法学政治学研究科	教授
2001. 4. 1～2005. 3.31	小 池 俊 雄	東京大学大学院工学系研究科	教授
2001. 4. 1～2005. 3.31	大 政 謙 次	東京大学大学院農学生命科学研究科	教授
2001. 4. 1～2005. 3.31	大 森 博 雄	東京大学大学院新領域創成科学研究科	教授
2001. 4. 1～2003. 3.31	山 下 輝 夫	東京大学地震研究所	教授
2001. 4. 1～2005. 3.31	小 池 勲 夫	東京大学海洋研究所	教授
2001. 4. 1～2005. 3.31	安 岡 善 文	東京大学生産技術研究所	教授
2002.10. 1～2003. 3.31	前 田 正 史	東京大学生産技術研究所	教授・総長補佐
2003. 4. 1～2005. 3.31	柴 崎 亮 介	東京大学空間情報科学研究センター	教授
2003. 4. 1～2005. 3.31	藤 田 典 久	東京大学人工物工学研究センター	教授
2003.10. 1～2005. 3.31	齋 藤 春 雄	東京大学医科学研究所	教授

●気候システム研究センター／大気海洋研究所気候システム研究系（研究協議会）

任 期	氏 名	所 属	職 名
2003. 4. 1～2009. 3.31	中 島 映 至	東京大学気候システム研究センター	教授
2003. 4. 1～2008. 3.31	住 明 正	東京大学気候システム研究センター	教授
2003. 4. 1～2011. 3.31	高 橋 正 明	東京大学気候システム研究センター	教授
2003. 4. 1～2008. 3.31	遠 藤 昌 宏	東京大学気候システム研究センター	教授
2003. 4. 1～2011. 3.31	木 本 昌 秀	東京大学気候システム研究センター	教授
2003. 4. 1～2011. 3.31	今 須 良 一	東京大学気候システム研究センター	助教授
2003. 4. 1～2008. 3.31	高 薮 縁	東京大学気候システム研究センター	助教授
2008. 4. 1～2011. 3.31	高 薮 縁	東京大学気候システム研究センター	教授
2003. 4. 1～2011. 3.31	羽 角 博 康	東京大学気候システム研究センター	助教授
2003. 4. 1～2011. 3.31	阿 部 彩 子	東京大学気候システム研究センター	助教授
2003. 4. 1～2011. 3.31	山 形 俊 男	東京大学大学院理学系研究科	教授
2003. 4. 1～2011. 3.31	川 辺 正 樹	東京大学海洋研究所	教授
2003. 4. 1～2011. 3.31	近 藤 豊	東京大学先端科学技術研究センター	教授
2003. 4. 1～2011. 3.31	金 田 康 正	東京大学情報基盤センター	教授
2003. 4. 1～2011. 3.31	花 輪 公 雄	東北大学大学院理学研究科	教授
2003. 4. 1～2005. 3.31	木 田 秀 次	京都大大学院理学研究科	教授
2003. 4. 1～2011. 3.31	淡 路 敏 之	京都大大学院理学研究科	教授
2003. 4. 1～2011. 3.31	山 崎 孝 治	北海道大学大学院地球環境科学	教授
2003. 4. 1～2005. 3.31	安 成 哲 三	名古屋大学地球水循環研究センター	教授
2003. 4. 1～2005. 3.31	高 村 民 雄	千葉大学大学院理学研究科	教授
2005. 4. 1～2011. 3.31	高 村 民 雄	千葉大学環境リモートセンシング研究センター	教授
2003. 4. 1～2008. 3.31	露 木 義	気象庁予報部	課長
2003. 4. 1～2011. 3.31	石 崎 廣	気象庁気象研究所海洋研究部	室長
2003. 4. 1～2011. 3.31	中 根 英 昭	国立環境研究所大気圏環境研究領域	上席研究官
2003. 4. 1～2005. 3.31	竹 内 謙 介	海洋研究開発機構地球観測フロンティア研究システム	領域長
2003. 4. 1～2005. 3.31	小 川 利 雄	宇宙航空研究開発機構地球観測利用推進センター	技術参与
*	沖 大 幹	東京大学生産技術研究所	助教授
*	藤 吉 康 志	北海道大学低温科学研究所	教授
*	岩 崎 俊 樹	東北大学大学院理学研究科	教授
*	中 澤 高 清	東北大大学院理学研究科	教授
*	鬼 頭 昭 雄	気象庁気象研究所気候研究部	室長

任 期	氏 名	所 属	職 名
*	中 村 健 治	名古屋大学地球水循環研究センター	教授
*	余 田 成 男	京都大学大学院理学研究科	教授
*	宮 原 三 郎	九州大学大学院理学研究院	教授
*	松 野 太 郎	海洋研究開発機構地球観測フロンティア研究システム	システム長
*	時 岡 達 志	海洋研究開発機構地球観測フロンティア研究システム	領域長
*	早 坂 忠 裕	人間文化研究機構国立総合地球環境学研究所	プロジェクト主幹
*	神 沢 博	名古屋大学大学院環境学研究科	教授
*	野 田 彰	気象庁気象研究所・気候研究部	部長
*	秋 元 肇	海洋研究開発機構地球観測フロンティア研究システム	領域長
*2003. 4. 1~2005. 3.31	山 内 泰	国立極地研究所・気水圏研究グループ	教授
2005. 4. 1~2011. 3.31	余 田 成 男	京都大学大学院理学研究科	教授
2005. 4. 1~2011. 3.31	時 岡 達 志	海洋研究開発機構地球観測フロンティア研究システム	領域長
2005. 4. 1~2011. 3.31	神 沢 博	名古屋大学大学院環境学研究科	教授
2005. 4. 1~2011. 3.31	佐 藤 正 樹	東京大学気候システム研究センター	助教授
2008. 4. 1~2011. 3.31	渡 部 雅 浩	東京大学気候システム研究センター	助教授
2008. 4.14~2011. 3.31	永 田 雅	気象庁予報部	課長

*2004.6.16 拡大研究協議会出席

●大気海洋研究所（協議会）[2010.4~]

任 期	氏 名	所 属	職 名	
2010. 4. 1~2012. 3.31	学 外	桜 井 泰 憲	北海道大学大学院水産科学研究科	教授
		花 輪 公 雄	東北大学大学院理学研究科	教授
		井 内 美 郎	早稲田大学人間科学学術院	教授
		田 上 英一郎	名古屋大学大学院環境学研究科	教授
		余 田 成 男	京都大学大学院理学研究科	教授
		井 関 和 夫	広島大学大学院生物圏科学研究科	教授
		中 田 英 昭	長崎大学大学院生産科学研究科	教授
		福 地 光 男	国立極地研究所研究教育系	教授
		今 脇 資 郎	海洋研究開発機構地球情報研究センター	センター長
	学 内	松 本 洋一郎	東京大学大学院工学系研究科	理事・副学長
		日比谷 紀之	東京大学大学院理学系研究科	教授
		松 永 茂 樹	東京大学大学院農学生命科学研究科	教授
		浅 川 修 一	東京大学大学院農学生命科学研究科	教授
		大 和 裕 幸	東京大学大学院新領域創成科学研究科[2010.4.1~2011.3.31]	研究科長
		上 田 卓 也	東京大学大学院新領域創成科学研究科[2011.4.1~2012.3.31]	研究科長
		平 田 直	東京大学地震研究所 [2010.4.1~2011.3.31]	所長
		小屋口 剛 博	東京大学地震研究所 [2011.4.1~2012.3.31]	所長
		新 野 宏	東京大学大気海洋研究所 [2010.4.1~2011.3.31]	教授
		西 田 睦	東京大学大気海洋研究所 [2010.4.1~2011.3.31]	所長
新 野 宏	東京大学大気海洋研究所 [2011.4.1~2012.3.31]	所長		
	木 暮 一 啓	東京大学大気海洋研究所	教授	
	木 本 昌 秀	東京大学大気海洋研究所	教授	

資料1-7-2 共同利用に関する委員会

●海洋研究所（共同利用施設運営委員会）[1993.4～2005.3]

任 期	氏 名	所 属	職 名
1993. 4. 1～1995. 3.31	大 谷 清 隆	北海道大学水産学部	教授
	石 渡 良 志	東京都立大学理学部	教授
	深 澤 理 郎	東海大学海洋学部	教授
	松 田 治	広島大学生物生産学部	教授
	岡 村 真	高知大学理学部	教授
	平 啓 介	東京大学海洋研究所	教授
	瀬 川 爾 朗	東京大学海洋研究所	教授
	川 口 弘 一	東京大学海洋研究所	教授
	大和田 紘 一	東京大学海洋研究所	教授
	沖 山 宗 雄	東京大学海洋研究所	教授
1995. 4. 1～1997. 3.31	大 谷 清 隆	北海道大学水産学部	教授
	石 渡 良 志	東京都立大学理学部	教授
	深 澤 理 郎	東海大学海洋学部	教授
	松 田 治	広島大学生物生産学部	教授
	岡 村 真	高知大学理学部	教授
	瀬 川 爾 朗	東京大学海洋研究所	教授
	小 池 勲 夫	東京大学海洋研究所	教授
	川 口 弘 一	東京大学海洋研究所	教授
	沖 山 宗 雄	東京大学海洋研究所	教授
	平 朝 彦	東京大学海洋研究所	教授
1997. 4. 1～1999. 3.31	坂 本 巨	京都大学農学部	教授
	乗 木 新一郎	北海道大学大学院地球環境科学研究科	教授
	花 輪 公 雄	東北大学理学部	教授
	新 妻 信 明	静岡大学理学部	教授
	上 真 一	広島大学生物生産学部	教授
	木 村 龍 治	東京大学海洋研究所	教授
	野 崎 義 行	東京大学海洋研究所	教授
	小 池 勲 夫	東京大学海洋研究所	教授
	大和田 紘 一	東京大学海洋研究所	教授
	平 朝 彦	東京大学海洋研究所	教授
1999. 4. 1～2001. 3.31	坂 本 巨	京都大学大学院農学研究科	教授
	乗 木 新一郎	北海道大学大学院地球環境科学研究科	教授
	花 輪 公 雄	東北大学大学院理学研究科	教授
	新 妻 信 明	静岡大学理学部	教授
	上 真 一	広島大学生物生産学部	教授
	木 村 龍 治	東京大学海洋研究所	教授
	野 崎 義 行	東京大学海洋研究所	教授
	玉 木 賢 策	東京大学海洋研究所	教授
	大和田 紘 一	東京大学海洋研究所	教授
	杉 本 隆 成	東京大学海洋研究所	教授
2001. 4. 1～2003. 3.31	岡 田 尚 武	北海道大学大学院理学研究科	教授
	田 上 英一郎	名古屋大学大学院環境学研究科	教授
	古 谷 研	東京大学大学院農学生命科学研究科	教授
	松 野 健	九州大学応用力学研究所	教授

任 期	氏 名	所 属	職 名
	山 口 征 矢	東京水産大学水産学部	教授
	玉 木 賢 策	東京大学海洋研究所	教授
	西 田 睦	東京大学海洋研究所	教授
	塚 本 勝 巳	東京大学海洋研究所	教授
	杉 本 隆 成	東京大学海洋研究所	教授
	寺 崎 誠	東京大学海洋研究所	教授
2003. 4. 1～2005. 3.31	岡 田 尚 武	北海道大学大学院理学研究科	教授
	田 上 英一郎	名古屋大学大学院環境学研究科	教授
	古 谷 研	東京大学大学院農学生命科学研究科	教授
	松 野 健	九州大学応用力学研究所	教授
	山 口 征 矢	東京水産大学水産学部	教授
	徳 山 英 一	東京大学海洋研究所	教授
	木 暮 一 啓	東京大学海洋研究所	教授
	西 田 睦	東京大学海洋研究所	教授
	塚 本 勝 巳	東京大学海洋研究所	教授
	寺 崎 誠	東京大学海洋研究所	教授

●海洋研究所（研究船共同利用運営委員会）[2004.4～2010.3]

任 期	氏 名	所 属	職 名
2004. 4. 1～2007. 3.31	歌 田 久 司	東京大学地震研究所	教授
	小 川 勇二郎	筑波大学地球科学系	教授
	宗 林 由 樹	京都大学化学研究所	教授
	松 野 健	九州大学応用力学研究所	教授
	谷 津 明 彦	水産総合研究センター中央水産研究所/北海道区水産研究所	室長/部長
	山 口 征 矢	東京海洋大学海洋科学部	教授
	徐 垣	海洋研究開発機構深海研究部/高知コア研究所	部長/所長
	瀧 澤 隆 俊	海洋研究開発機構海洋観測研究部/横浜研究所海洋地球情報部	部長
	徳 山 英 一	東京大学海洋研究所	教授
	木 暮 一 啓	東京大学海洋研究所	教授
	塚 本 勝 巳	東京大学海洋研究所	教授
	寺 崎 誠	東京大学海洋研究所	所長
	蒲 生 俊 敬	東京大学海洋研究所	教授
	2007. 4. 1～2010. 3.31	歌 田 久 司	東京大学地震研究所
吉 田 次 郎		東京海洋大学海洋科学部	教授
宗 林 由 樹		京都大学化学研究所	教授
石 坂 丞 二		長崎大学水産学部/名古屋大学地球水循環研究センター	教授
谷 津 明 彦		水産総合研究センター北海道区水産研究所/西海区水産研究所	部長
北 村 佳 照		気象庁地球環境・海洋部	課長
徐 垣		海洋研究開発機構高知コア研究所	所長
瀧 澤 隆 俊		海洋研究開発機構横浜研究所海洋地球情報部/海洋研究開発機構	部長/監事
西 田 睦		東京大学海洋研究所	所長
徳 山 英 一		東京大学海洋研究所	教授
木 暮 一 啓		東京大学海洋研究所	教授
蒲 生 俊 敬		東京大学海洋研究所	教授
西 田 周 平		東京大学海洋研究所	教授

●気候システム研究センター（運営委員会）

任 期	氏 名	所 属	職 名
1991. 4. 1～1993.11.30	松 野 太 郎	東京大学気候システム研究センター	教授
1991. 4. 1～1993. 3.31	永 田 豊	東京大学理学部	教授
1991. 4. 1～1993. 3.31	小 川 利 紘	東京大学理学部	教授
1991. 4. 1～1997. 3.31	平 啓 介	東京大学海洋研究所	教授
1991. 4. 1～1997. 3.31	金 田 康 正	東京大学大型計算機センター	助教授
1991. 4. 1～1997. 3.31	田 中 正 之	東北大学理学部	教授
1991. 4. 1～1993. 3.31	鳥 羽 良 明	東北大学理学部	教授
1991. 4. 1～1995. 3.31	廣 田 勇	京都大学大学院理学系研究科	教授
1992. 4. 1～2001. 3.31	杉ノ原 伸 夫	東京大学気候システム研究センター	教授
1992. 4. 1～1993. 3.31	住 明 正	東京大学気候システム研究センター	教授
1992. 4. 1～1999. 3.31	新 田 勅	東京大学気候システム研究センター	教授
1992. 4. 1～1997. 3.31	中 島 映 至	東京大学気候システム研究センター	助教授
1992. 4. 1～1994. 3.31	時 岡 達 志	気象庁気象研究所	室長
1992. 4. 1～1993. 3.31	秋 元 肇	環境庁環境研究所	統括研究官
1993. 4. 1～1999. 3.31	秋 元 肇	東京大学先端科学技術研究センター	教授
1993. 4. 1～1995. 3.31	高 橋 正 明	東京大学気候システム研究センター	助教授
1993. 4. 1～1999. 3.31	山 岬 正 紀	東京大学理学部	教授
1993. 4. 1～1997. 3.31	山 形 俊 男	東京大学理学部	助教授
1993. 4. 1～1995. 3.31	竹 内 謙 介	北海道大学低温科学研究所	教授
1993. 4. 1～2003. 3.31	安 成 哲 三	筑波大学地球科学系	教授
1993. 4. 1～1999. 3.31	佐 藤 信 夫	気象庁観測部監理課	予報官
1993. 4. 1～1999. 3.31	鷺 田 伸 明	環境庁環境研究所	部長
1993.12. 1～2001. 3.31	住 明 正	東京大学気候システム研究センター	教授
1994. 4. 1～2003. 3.31	中 島 映 至	東京大学気候システム研究センター	教授
1994. 4. 1～1995. 3.31	時 岡 達 志	気象庁総務部企画課	室長
1995. 4. 1～1997. 3.31	松 野 太 郎	北海道大学大学院地球環境科学研究所	教授
1995. 4. 1～1997. 3.31	時 岡 達 志	気象庁長期予報課	課長
1995. 4. 1～2003. 3.31	高 橋 正 明	東京大学気候システム研究センター	助教授
1995. 4. 1～2001. 3.31	木 本 昌 秀	東京大学気候システム研究センター	助教授
1995. 4. 1～2005. 3.31	木 田 秀 次	京都大学大学院理学系研究科	教授
1995. 4. 1～1999. 3.31	遠 藤 昌 宏	気象庁気象研究所海洋研究部第一研究室	室長
1997. 4. 1～1999. 3.31	金 田 康 正	東京大学大型計算機センター	教授
1997. 4. 1～1999. 3.31	時 岡 達 志	気象庁気候・海洋気象部	課長
1997. 4. 1～2005. 3.31	山 形 俊 男	東京大学理学部	教授
1997. 4. 1～2001. 3.31	川 辺 正 樹	東京大学海洋研究所	助教授
1997. 4. 1～2005. 3.31	花 輪 公 雄	東北大学大学院理学研究科	教授
1997. 4. 1～2005. 3.31	山 崎 孝 治	北海道大学大学院地球環境科学研究所	教授
1999. 4. 1～2001. 3.31	金 田 康 正	東京大学情報基盤センター	教授
1999. 4. 1～2001. 3.31	佐 藤 信 夫	気象庁数値予報課	課長
1999. 4. 1～2005. 3.31	淡 路 敏 之	京都大学大学院理学系研究科	教授
1999. 4. 1～2003. 3.31	高 村 民 雄	千葉大学環境リモートセンシング研究センター	教授
1999. 4. 1～2003. 3.31	北 村 佳 照	気象庁気象研究所海洋研究部第一研究室	室長
1999. 4. 1～2003. 3.31	神 沢 博	国立環境研究所大気圏環境研究領域	室長
1999. 4. 1～2001. 3.31	近 藤 豊	東京大学先端科学技術研究センター	教授
2001. 4. 1～2003. 3.31	小 川 利 紘	宇宙開発事業団衛星システム本部	研究ディレクター
2001. 4. 1～2003. 3.31	平 啓 介	東京大学海洋研究所	教授

任 期	氏 名	所 属	職 名
2001. 4. 1～2003. 3.31	金 田 康 正	東京大学情報基盤センター	教授
2001. 4. 1～2005. 3.31	住 明 正	東京大学気候システム研究センター	教授
2001. 4. 1～2003. 3.31	竹 内 謙 介	海洋科学技術センター	領域長
2001. 4. 1～2003. 3.31	佐 藤 信 夫	気象庁予報部数値予報課	課長
2001. 4. 1～2010. 3.31	木 本 昌 秀	東京大学気候システム研究センター	教授
2001. 4. 1～2003. 3.31	近 藤 豊	東京大学先端科学技術研究センター	教授
2001. 4. 1～2007. 3.31	今 須 良 一	東京大学気候システム研究センター	助教
2001. 4. 1～2007. 3.31	高 薮 縁	東京大学気候システム研究センター	助教
2003. 4. 1～2005. 3.31	小 川 利 紘	宇宙開発事業団衛星システム本部	研究ディレクター
2003. 4. 1～2005. 3.31	金 田 康 正	東京大学情報基盤センター	教授
2003. 4. 1～2005. 3.31	中 島 映 至	東京大学気候システム研究センター	教授
2003. 4. 1～2010. 3.31	高 橋 正 明	東京大学気候システム研究センター	教授
2003. 4. 1～2005. 3.31	竹 内 謙 介	海洋科学技術センター	領域長
2003. 4. 1～2005. 3.31	安 成 哲 三	名古屋大学大学院地球水循環研究センター	教授
2003. 4. 1～2008. 3.31	遠 藤 昌 宏	東京大学気候システム研究センター	教授
2003. 4. 1～2005. 3.31	川 辺 正 樹	東京大学海洋研究所	助教
2003. 4. 1～2005. 3.31	高 村 民 雄	千葉大学大学院環境リモートセンシング研究センター	教授
2003. 4. 1～2005. 3.31	近 藤 豊	東京大学先端科学技術研究センター	教授
2003. 4. 1～2005. 3.31	中 村 一	気象庁予報部数値予報課	課長
2003. 4. 1～2005. 3.31	石 崎 廣	気象庁気象研究所海洋研究部第一研究室	室長
2003. 4. 1～2005. 3.31	中 根 英 昭	環境研大気圏環境研究領域	上席研究官
2005. 4. 1～2006.10.31	住 明 正	東京大学気候システム研究センター	教授
2005. 4. 1～2009. 3.31	中 島 映 至	東京大学気候システム研究センター	教授
2005. 4. 1～2009. 3.31	山 形 俊 男	東京大学大学院理学系研究科	教授
2005. 4. 1～2010. 3.31	羽 角 博 康	東京大学気候システム研究センター	助教
2005. 4. 1～2010. 3.31	阿 部 彩 子	東京大学気候システム研究センター	助教
2005. 4. 1～2010. 3.31	佐 藤 正 樹	東京大学気候システム研究センター	助教
2005. 4. 1～2009. 3.31	上 田 完 次	東京大学人工物工学研究センター	教授
2005. 4. 1～2010. 3.31	柴 崎 亮 介	東京大学空間情報科学研究センター	教授
2005. 4. 1～2007. 3.31	井 上 達 夫	東京大学大学院法学政治研究科	教授
2005. 4. 1～2010. 3.31	小 池 俊 雄	東京大学大学院工学系研究科	教授
2005. 4. 1～2010. 3.31	大 政 謙 次	東京大学大学院農学生命科学研究科	教授
2005. 4. 1～2007. 3.31	大 森 博 雄	東京大学大学院新領域創成科学研究科	教授
2005. 4. 1～2007. 3.31	寺 崎 誠	東京大学海洋研究所	教授
2005. 4. 1～2007. 3.31	安 岡 善 文	東京大学生産技術研究所	教授
2005. 4. 1～2006. 3.31	伊 藤 耕 三	東京大学大学院新領域創成科学研究科	教授
2006.10. 1～2007. 9.30	川 崎 雅 裕	東京大学宇宙線研究所	教授・総長補佐
2006.11. 1～2007. 3.31	住 明 正	東京大学サステイナビリティ学連携研究機構	教授
2007. 4. 1～2010. 3.31	今 須 良 一	東京大学気候システム研究センター	准教授
2007. 4. 1～2010. 3.31	高 薮 縁	東京大学気候システム研究センター	教授
2007. 4. 1～2010. 3.31	高 田 裕 成	東京大学大学院法学政治研究科	教授
2007. 4. 1～2010. 3.31	須 貝 俊 彦	東京大学大学院新領域創成科学研究科	教授
2007. 4. 1～2010. 3.31	沖 大 幹	東京大学生産技術研究所	教授
2007. 4. 1～2010. 3.31	西 田 睦	東京大学海洋研究所	教授
2007.10. 1～2008. 3.31	山 本 博 資	東京大学大学院新領域創成科学研究科	教授・総長補佐
2007.12. 1～2010. 3.31	渡 部 雅 浩	東京大学気候システム研究センター	准教授
2008. 4. 1～2009. 3.31	三 谷 啓 志	東京大学大学院新領域創成科学研究科	教授・総長補佐

任 期	氏 名	所 属	職 名
2009. 4. 1～2010. 3.31	奥 田 洋 司	東京大学人工物工学研究センター	教授
2009. 4. 1～2010. 3.31	日比谷 紀 之	東京大学大学院理学系研究科	教授

●大気海洋研究所（研究船共同利用運営委員会）

任 期	氏 名	所 属	職 名
2010. 4. 1～2013. 3.31	藤 本 博 己	東北大学大学院理学研究科	教授
	吉 田 次 郎	東京海洋大学海洋科学部	教授
	石 坂 丞 二	名古屋大学地球水循環研究センター	教授
	張 勁	富山大学大学院理工学研究部	教授
	中 田 薫	水産総合研究センター中央水産研究所	部長
	安 藤 正	気象庁地球環境・海洋部	課長
	深 澤 理 郎	海洋研究開発機構地球環境変動領域	領域長
	北 里 洋	海洋研究開発機構海洋・極限環境生物圏領域	領域長
	西 田 睦	東京大学大気海洋研究所 [2010.4.1～2011.3.31]	所長
	新 野 宏	東京大学大気海洋研究所 [2011.4.1～]	所長
	大 竹 二 雄	東京大学大気海洋研究所	教授
	木 暮 一 啓	東京大学大気海洋研究所	教授
	西 田 周 平	東京大学大気海洋研究所	教授
	小 島 茂 明	東京大学大気海洋研究所	教授
	津 田 敦	東京大学大気海洋研究所	教授
蒲 生 俊 敬	東京大学大気海洋研究所	教授	

●大気海洋研究所（共同研究運営委員会）

任 期	氏 名	所 属	職 名
2010. 4. 1～2013. 3.31	仲 岡 雅 裕	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	教授
	久保田 雅 久	東海大学海洋学部	教授
	宗 林 由 樹	京都大学化学研究所	教授
	大河内 直 彦	海洋研究開発機構海洋・極限環境生物圏領域	プログラムディレクター
	新 野 宏	東京大学大気海洋研究所	所長
	木 本 昌 秀	東京大学大気海洋研究所	教授
	佐 野 有 司	東京大学大気海洋研究所	教授
	永 田 俊	東京大学大気海洋研究所	教授

資料 1-8 関連規則

資料 1-8-1 学校教育法

学校教育法（昭和二十二年三月三十一日法律第二十六号）（抜粋）
第九十六条 大学には、研究所その他の研究施設を附置することができる。

資料 1-8-2 学校教育法施行規則

学校教育法施行規則（昭和二十二年五月二十三日文部省令第十一号）（抜粋）

第百四十三条の三 大学には、学校教育法第九十六条の規定により大学に附置される研究施設として、大学の教員その他の者で当該研究施設の目的たる研究と同一の分野の研究に従事する者に利用させるものを置くことができる。

2 前項の研究施設のうち学術研究の発展に特に資するものは、共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けることができる。

資料 1-8-3 共同利用・共同研究拠点の認定等に関する規程

共同利用・共同研究拠点の認定等に関する規程（文部科学省告示第百三十三号）（抜粋）

学校教育法施行規則（昭和二十二年文部省令第十一号）第百四十三条の二第二項の規定に基づき、共同利用・共同研究拠点の認定等に関する規程を次のように定める。

平成二十年七月三十一日

文部科学大臣 渡海 紀三朗

（趣 旨）

第一条

学校教育法施行規則（以下「規則」という。）第百四十三条の二第二項の規定に基づく共同利用・共同研究拠点の認定その他の共同利用・共同研究拠点に関する事項については、この規程の定めるところによる。

（定 義）

第二条

この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- 一 申請施設 共同利用・共同研究拠点の認定を受けようとする研究施設をいう。
- 二 関連研究者 研究施設を置く大学の職員以外の者で、当該研究施設の目的たる研究と同一の分野の研究に従事する者をいう。
- 三 共同利用・共同研究 大学に置かれた研究施設を利用して行われる研究であって、募集により関連研究者が参加して行われるものをいう。

（認定の基準）

第三条

規則第百四十三条の二第二項に規定する共同利用・共同研究拠点（以下「拠点」という。）の認定の基準は次のとおりとする。

- 一 申請施設が、大学の学則その他これに準ずるものに記載されていること。

- 二 申請施設が、研究実績、研究水準、研究環境等に照らし、当該申請施設の目的たる研究の分野における中核的な研究施設であると認められること。

- 三 共同利用・共同研究に必要な施設、設備及び資料等を備えていること。

- 四 共同利用・共同研究の実施に関する重要事項であって、申請施設の長が必要と認めるものについて、当該申請施設の長の諮問に応じる機関として、次に掲げる委員で組織する運営委員会等を置き、イの委員の数が運営委員会等の委員の総数の二分の一以下であること。

イ 当該申請施設の職員

ロ 関連研究者

ハ その他当該申請施設の長が必要と認める者

- 五 共同利用・共同研究の課題等を広く全国の関連研究者から募集し、関連研究者その他の申請施設の職員以外の者の委員の数が委員の総数の二分の一以上である組織の議を経て採択を行っていること。

- 六 共同利用・共同研究に参加する関連研究者に対し、申請施設の利用に関する技術的支援、必要な情報の提供その他の支援を行うために必要な体制を整備していること。

- 七 全国の関連研究者に対し、共同利用・共同研究への参加の方法、利用可能な施設、設備及び資料等の状況、申請施設における研究の成果その他の共同利用・共同研究への参加に関する情報の提供を広く行っていること。

- 八 共同利用・共同研究に多数の関連研究者が参加することが見込まれること。

- 九 多数の関連研究者から申請施設を拠点として認定するよう要請があること。

資料 1-8-4 平成 21 年度認定拠点一覧

平成 21 年度認定拠点一覧（抜粋）

大学・研究施設名：東京大学 海洋研究所 気候システム研究センター

共同利用・共同研究拠点名：大気海洋研究拠点

代表者：西田 睦 中島 映至

研究分野：大気海洋科学

有効期限：H22.4.1～H28.3.31

共同利用・共同研究拠点の概要：

○海洋科学および気候システム科学に関する中核的な全国共同利用研究機関としての実績と研究資産を活かして、海洋と大気に関する基礎的研究を推進すると共に、これらを統合した新たな地球表層圏システム研究を推進する。

○陸上研究施設、学術研究船、気候モデルを用いた公募型共同研究制度により国内外の研究者を受け入れ、海洋科学・気候システム科学に関わる先端的共同研究を推進する。

○多様な研究分野が関わる地球表層圏システム研究における学内外の研究者間の知識連携プラットフォームとしての機能を果たし、次世代に通ずる観測手法や数値モデルの開発を行い、これらの研究を通じて将来の地球表層圏システム研究を担う若手研究者を育成する。

資料1-8-5 国立大学法人法

国立大学法人法（平成十五年七月十六日法律第百十二号）（抜粋）

（目的）

第一条 この法律は、大学の教育研究に対する国民の要請にこたえとともに、我が国の高等教育及び学術研究の水準の向上と均衡ある発展を図るため、国立大学を設置して教育研究を行う国立大学法人の組織及び運営並びに大学共同利用機関を設置して大学の共同利用に供する大学共同利用機関法人の組織及び運営について定めることを目的とする。

（役員（の職務及び権限））

- 第十一条 学長は、学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）第九十二条第三項に規定する職務を行うとともに、国立大学法人を代表し、その業務を総理する。
- 2 学長は、次の事項について決定をしようとするときは、学長及び理事で構成する会議（第五号において「役員会」という。）の議を経なければならない。
- 四 当該国立大学、学部、学科その他の重要な組織の設置又は廃止に関する事項

資料1-8-6 東京大学基本組織規則

東京大学基本組織規則（抜粋）

平成16年4月1日

役員会議決

東大規則第1号

第1章 総則

（この規則の趣旨）

第1条 この規則は、国立大学法人法（平成15年法律第112号、以下「法人法」という。）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、国立大学法人東京大学（以下「大学法人」という。）並びにその設置する東京大学並びに附属学校及び附属病院の組織に関し、基本となる事項を定める。

（組織の原則）

第2条 大学法人及びその設置する東京大学（附属学校及び附属病院を含む。本条において以下同じ。）の組織は、東京大学が、東京大学憲章に則り、国民から付託された大学の自治に基づいて、総長の統括と責任の下に、国民の付託に伴う責務を自律的に果たし自らの使命と課題を達成することができるように、構成され、運用されなければならない。

- 2 大学法人及びその設置する東京大学の組織は、この規則に定める全学組織と教育研究部局とで構成される。教育研究部局は、その長の統括の下に、東京大学憲章に則り、教育研究の活動を自らの発意と責任において実施し、総合大学としての東京大学の教育研究の発展に寄与する。
- 3 東京大学の教職員は、東京大学憲章に則り、その役割と活動領域に応じて、東京大学の運営への参画の機会を有する。
- 4 大学法人及びその設置する東京大学の組織の構成並びにその機関の権限の行使は、大学教員の学問の自由を侵すものであってはならない。

（設置）

第34条 学校教育法第100条ただし書に規定する研究科以外の教育研究上の基本となる大学院組織として東京大学に置かれるものは、大学院研究部及び大学院教育部（以下それぞれ「研究

部」、「教育部」という。）とする。

- 2 前項の研究部として、情報学環及び公共政策学連携研究部を置く。
- 3 第1項の教育部として、学際情報学府及び公共政策学教育部を置く。

第3節 附置研究所

（設置）

第40条 東京大学に、次の附置研究所（以下「研究所」という。）を置く。

医科学研究所 地震研究所 東洋文化研究所 社会科学研究所 生産技術研究所 史料編纂所 分子細胞生物学研究所 宇宙線研究所 物性研究所 大気海洋研究所 先端科学技術研究センター

2 前項の研究所には、それぞれ別に規則で定めるところにより、研究部門又はそれに代わる組織を置く。

3 研究所は、それぞれ別に規則で定めるところにより、他大学の教員その他の者に研究のため利用させるものとする事ができる。

（教授会）

第41条 研究所に、教授会を置く。

2 研究所の教授会は、研究所の研究に関する重要事項について審議し、及びこの規則又はその他の規則によりその権限に属する事項を行う。

3 この規則に定めるもののほか、研究所の教授会に関し必要な事項は、当該教授会において定める。

（所長及び副所長）

第42条 研究所に、所長を置く。所長は、研究所に関する校務をつかさどり、研究所の教授会を主宰し、所属教職員を統督する。

- 2 所長は、当該研究所の教授をもって充てる。
- 3 所長は、当該研究所の教授会の議に基づき、総長が任命する。
- 4 所長の任期については、それぞれ別に規則で定めるところによる。
- 5 所長は、役員会の議に基づくのでなければ、その意に反して解任されることはない。

6 研究所には、副所長若干名を置くことができる。

7 副所長は、所長の職務を助ける。

8 副所長の選任に関し必要な事項は、研究所において定める。

（研究所の組織に関するその他の定め）

第43条 各研究所の組織に関しては、この規則に定めるもののほか、それぞれ別に規則で定めるところによる。

第4節 教育研究部局附属の教育研究施設

（教育研究部局附属の教育研究施設）

第44条 各教育研究部局には、別に規則で定めるところにより、教育又は研究のための附属施設を置くことができる。

第5章 教育研究部局等の事務組織

（事務組織）

第45条 各教育研究部局及び附属図書館に、その事務を行わせるため、別に定めるところにより事務組織を置く。

2 全学センター、国際高等研究所、附属学校及び附属病院には、その事務を行わせるため、別に定めるところにより事務組織を置くことができる。

3 前2項の規定にかかわらず、必要と認められる場合には、別に定めるところにより、教育研究部局、附属図書館、全学センター、国際高等研究所、附属学校及び附属病院のうち数個のもの

の事務を、一の事務組織によって行うものとする。ことができる。

資料 1-8-7 東京大学大気海洋研究所規則

東京大学大気海洋研究所規則

平成22年3月25日

東大規則第90号

(趣旨)

第1条 この規則は、東京大学基本組織規則（以下「基本組織規則」という。）に定めるもののほか、東京大学に附置する大気海洋研究所の組織に関し必要な事項について定める。

(目的)

第2条 東京大学大気海洋研究所（以下「研究所」という。）は、海洋と大気に関する基礎的研究及び地球表層圏に関する統合的研究を行い、その科学的理解を深化させるとともに、将来の研究を担う人材を育成し、もって社会に貢献することを目的とする。

(教授会)

第3条 研究所に教授会を置く。

2 教授会は、研究所の研究・教育に関する重要事項について審議し、及び基本組織規則又はその他の規則によりその権限に属する事項を行う。

3 前2項のほか、教授会の組織その他必要な事項については、別に定める。

(所長)

第4条 研究所に、所長を置く。所長は、研究所の校務をつかさどり、その他基本組織規則の定める職務を行う。

2 所長の任期は、2年とする。

3 前2項のほか、所長に関し必要な事項については、別に定める。

(副所長)

第5条 研究所に、副所長若干名を置く。副所長は所長の職務を助ける。

2 前項のほか、副所長に関し必要な事項については、別に定める。

(研究系及び研究部門)

第6条 研究所に、次に掲げる研究系及び研究部門を置く。

気候システム研究系

気候モデリング研究部門

気候変動現象研究部門

海洋地球システム研究系

海洋物理学部門

海洋化学部門

海洋底科学部門

海洋生命システム研究系

海洋生態系動態部門

海洋生命科学部門

海洋生物資源部門

(附属研究施設)

第7条 研究所に、次に掲げる附属研究施設を置く。

国際沿岸海洋研究センター

国際連携研究センター

地球表層圏変動研究センター

2 前項の附属研究施設の組織その他必要な事項については、別に定める。

(共同利用共同研究推進センター)

第8条 研究所の共同利用・共同研究を支援するため、共同利用共同研究推進センター（以下「推進センター」という。）を置く。

2 推進センターに関する事項は、別に定める。

(事務部)

第9条 研究所の事務を処理するため、事務部を置く。

2 事務部に関する事項は、別に定める。

(共同利用・共同研究拠点)

第10条 研究所は、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）に定める共同利用・共同研究拠点である大気海洋研究拠点（以下「拠点」という。）として、他大学の教員その他の者で拠点の目的たる研究と同一の分野の研究に従事する者に、その施設を利用させることができる。

(協議会)

第11条 研究所に、東京大学大気海洋研究所協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会の組織及び運営に関する事項は、別に定める。

(細則への委任)

第12条 この規則に定めるもののほか、この規則の実施について必要な事項は、別に定める。

附則

(施行期日)

1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 第4条第2項の規定にかかわらず、平成22年4月1日を始期とする所長の任期は、平成23年3月31日までとする。

制定理由

大気海洋研究所を設置することに伴い、その組織に関し必要な事項を定めるために、本規則を制定するものである。

資料 1-8-8 東京大学大気海洋研究所協議会規則

東京大学大気海洋研究所協議会規則

平成22年3月25日

東大規則第91号

(目的)

第1条 この規則は、東京大学大気海洋研究所規則第11条第2項の規定に基づき、東京大学大気海洋研究所協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項について定める。

(任務)

第2条 協議会は、東京大学大気海洋研究所（以下「研究所」という。）の共同利用・共同研究に関する運営の大綱について、東京大学大気海洋研究所長（以下「所長」という。）の諮問に応じ意見を述べるとともに、共同利用・共同研究の課題等を審議するものとする。

(組織)

第3条 協議会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 所長

(2) 研究所の教授又は准教授のうちから所長が指名した者

(3) 東京大学の理学系研究科、農学生命科学研究科、新領域創成科学研究科及び地震研究所の教授 各1名

- (4) 東京大学の研究担当の理事又は副学長
 (5) 前4号のほか、学内外の学識経験者のうちから所長が委嘱した者
 2 前項の委員の総数は、21名を超えないものとし、かつ、その半数以上は、学外者とする。

(任期)

第4条 前条第1項第2号、第3号及び第5号の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第5条 協議会に議長を置き、委員の互選によりこれを定める。
 (会議)

第6条 協議会は、議長と協議のうえ、所長がこれを招集する。
 2 議長に事故があるときは、あらかじめ議長の指名した委員がその職務を代行する。

(運営委員会)

第7条 協議会に、運営の具体的事項を審議するため、共同研究運営委員会及び研究船共同利用運営委員会を置く。
 2 各運営委員会の組織及び運営については、別に定める。

附則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

制定理由

大気海洋研究所を設置することに伴い、協議会の組織及び運営に関し必要な事項について定めるため、本規則を制定するものである。

資料1-8-9 東京大学大気海洋研究所共同研究運営委員会規則

東京大学大気海洋研究所共同研究運営委員会規則

制定 平成22年4月1日

改正 平成23年4月1日

(目的)

第1条 この規則は、東京大学大気海洋研究所協議会規則第7条第2項に基づき、共同研究運営委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項について定める。

(任務)

第2条 委員会は、東京大学大気海洋研究所(以下「研究所」という。)柏地区及び大槌地区で行う共同利用・共同研究等に関する事項を審議する。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 東京大学大気海洋研究所長(以下「所長」という。)
 - (2) 学外の学識経験者若干名
 - (3) 研究所教授または准教授のうちから若干名
 - (4) その他所長が必要と認めた者
- 2 委員総数の半数以上は、学外者とする。

(委員長)

第4条 委員長は、委員の互選による。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員が、その職務を代行する。

(任期)

第5条 委員の任期は3年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(部会)

第6条 委員会のもとに、陸上共同研究部会、気候モデリング研究部会及び学際連携研究部会を置く。

- 2 部会は、定められた任務を遂行し、委員会に提案を行う。
- 3 部会の任務及び部会委員の選出等については、別に定める。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、事務部で処理する。

附則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

資料1-8-10 東京大学大気海洋研究所研究船共同利用運営委員会規則

東京大学大気海洋研究所研究船共同利用運営委員会規則

制定 平成22年4月1日

改正 平成23年4月1日

(目的)

第1条 この規則は、東京大学大気海洋研究所協議会規則第7条第2項に基づき、研究船共同利用運営委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項について定める。

(任務)

第2条 委員会は、研究船淡青丸及び研究船白鳳丸(以下「研究船」という。)の共同利用に関する事項を審議する。

- 2 研究船に関する重要事項について検討し、大気海洋研究所協議会に意見及び要望等の提案を行う。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 東京大学大気海洋研究所長(以下「所長」という。)
 - (2) 日本学術会議地球惑星科学委員会SCOR分科会の推薦による東京大学大気海洋研究所(以下「研究所」という。)外の者6名
 - (3) 研究所の教授又は准教授のうちから3名
 - (4) 独立行政法人海洋研究開発機構の職員2名(第2号により推薦された者を除く。)
 - (5) その他所長が必要と認めた者
- 2 委員総数の半数以上は、学外者とする。

(委員長)

第4条 委員長は、委員の互選による。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員が、その職務を代行する。

(任期)

第5条 委員の任期は3年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(部会)

第6条 委員会のもとに、研究船運航部会、研究船舶部会及び研究船観測部会を置く。

- 2 部会は、定められた任務を遂行し、委員会に提案を行う。
- 3 部会の任務及び部会委員の選出等については、別に定める。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、事務部で処理する。

附則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

資料2 研究・教育活動

資料2-1 国際学術交流協定

●海洋研究所

機関名	協定種別	所在地	締結～終了年月日
シスタンパルチェスタン大学	全学（関連部局）	イラン	1997. 7.29 ～ 2007.12.20
サウザンプトン大学サウザンプトン海洋研究センター	部局	イギリス	1998. 1.23 ～ 2003.1.22
国際連合大学, 岩手県	部局	日本	1999. 8.20 ～ 2003.3.31
サウザンプトン大学	全学（関連部局）	イギリス	2001. 5.22 ～ 2011.6.4
国立中央大学地球科学学院	部局	中国・台湾	2007. 4. 6 ～ 2010.4.5

●気候システム研究センター

機関名	協定種別	所在地	締結～終了年月日
チュラロンコン大学地質学科	部局	タイ	2000. 6 ～ 2008.5
ソウル大学気候環境システム研究センター	部局	韓国	2002. 6 ～ 2009.3

●大気海洋研究所

機関名	協定種別	所在地	締結～終了年月日
カリフォルニア大学サンディエゴ校*	全学（担当部局）	アメリカ	1988. 5.13 ～継続中
ウッズホール海洋研究所*	部局	アメリカ	1989. 1. 5 ～継続中
メリーランド大学システム*	全学（担当部局）	アメリカ	1990. 3.26 ～継続中
釜慶大学校海洋科学共同研究所*	部局	韓国	2000. 8.23 ～継続中
国立台湾海洋大学*	部局	中国・台湾	2006. 4.27 ～継続中
オーストラリア国立大学*	全学（担当部局）	オーストラリア	2009. 3.27 ～継続中
コロンビア大学地球研究所ラモントドーティ地球観測所*	部局	アメリカ	2009. 5. 6 ～継続中
フランス国立自然史博物館*	部局	フランス	2009. 5.16 ～継続中
プトラマレーシア大学*	部局	マレーシア	2009. 5.25 ～継続中
サウザンプトン国立海洋研究所*	部局	イギリス	2009. 8.11 ～継続中
ハワイ大学マノア校	全学（担当部局）	アメリカ	2011. 2.15 ～継続中
ハワイ大学マノア校地球科学技術学部	部局	アメリカ	2011. 2.21 ～継続中
ピエールエマリーキュリー大学	全学（関連部局）	フランス	2011. 8.29 ～継続中
インド国立海洋研究所	部局	インド	2006.10. 5 ～継続中
セントアンドリュース大学生物学部	部局	イギリス	2007. 3.12 ～継続中

*海洋研究所時代に締結

資料2-2 共同利用研究

資料2-2-1 研究船関連

資料2-2-1-1 淡青丸航海

航海番号	航海日程 (出港～入港 [寄港])	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属(主席代理者)	研究主題	研究者数
● 1992年度						
KT-92-5	1992.4.14(東京)～4.22(東京)	9	鹿島沖・小笠原沖	平啓介 東京大学海洋研究所	黒潮統流と亜熱帯モード水の研究	11
KT-92-6	4.30(東京)～5.18(東京) (5.4横須賀)	19	東京湾・相模湾・常磐・ 鹿島灘・三陸沖	杉本隆成 東京大学海洋研究所 (代理 川口弘一・青木一郎)	相模湾から三陸沖に至る海域の生物生産機構 に関する研究	24
KT-92-7	5.26(東京)～6.4(東京)	10	伊豆・小笠原弧北部海 域	平朝彦 東京大学海洋研究所	伊豆・小笠原弧海溝系の地震学的構造に関する 研究	9
KT-92-8	6.12(東京)～6.19(横須賀)	8	伊豆・小笠原弧北部海 域	山野誠 東京大学地震研究所	伊豆・小笠原弧海溝系の地球物理学的研究	10
KT-92-9	6.22(横須賀)～6.30(東京) (6.24伊東港外)	9	相模湾・伊豆八丈海域・ 南海トラフ	瀬川爾朗 東京大学海洋研究所	相模湾・伊豆八丈・南海トラフ海域における海 底物理・地質学的研究	15
KT-92-10	7.8(東京)～7.16(東京) (7.11松坂)	9	東京湾・相模湾・駿河湾・ 遠州灘及びその沖合海 域	大和田紘一 東京大学海洋研究所	相模湾・駿河湾及び周辺海域における海水・堆 積物中の微生物に関する研究	14
KT-92-11	7.28(東京)～8.5(東京) (7.31横須賀)	9	東京湾・相模湾・伊豆 諸島海域	川口弘一 東京大学海洋研究所	相模湾及びその周辺海域におけるプランクト ン・マイクロネクトン・ベントスの群集構造と 機能	17
KT-92-12	8.26(東京)～9.4(秋田) (9.1秋田)	10	相模湾・三陸沖・北海 道西方・秋田沖	太田秀 東京大学海洋研究所 (代理 白山義久)	日本海北部海域の底生生物に関する生態・分 類・古生物学的研究	13
KT-92-13	9.7(秋田)～9.18(境) (9.13新潟)	12	日本海中北部	玉木賢策 東京大学海洋研究所	日本海の海底構造と堆積作用	19
KT-92-14	9.21(境)～9.29(下関)	9	九州北西部海域 (主と して五島列島周辺海域)	河野芳輝 金沢大学理学部	日本列島漂移の境界域にあたる九州北西部海 域の地球物理学的研究	10
KT-92-15	11.5(東京)～11.13(宮古) (11.8大槌)	9	金華山沖, 三陸沖	浦野明央 東京大学海洋研究所	サケ科魚類の回遊に関する研究 (WESTPAC)	16
KT-92-16	11.16(宮古)～11.24(東京)	9	三陸・道東沖海域	遠藤直成 東北大学農学部	三陸・道東沖海域における魚類学的・浮遊生物 学的研究	10
KT-92-17	12.1(東京)～12.9(鹿児島)	9	遠州灘南方海域及び第 2駒橋海山周辺海域	大場忠道 金沢大学教養部	黒潮域の古環境及び現生生物の海洋学的研究	11
KT-92-18	12.12(鹿児島)～12.21(東京) (12.16～12.18西之表)	10	種子島から奄美大島に いたる海域及び相模湾	塚本勝巳 東京大学海洋研究所	ウナギ仔稚魚と動物プランクトンの分布・生態 及び黒潮の変動に関する研究	13
KT-93-1	1993.1.20(東京)～1.29(東京) (1.23神戸)	10	大阪湾・紀伊水道・東 京湾口	中田英昭 東京大学大気海洋研究 所	内湾からの物質の流出過程に関する研究	11
KT-93-2	2.19(東京)～3.2(東京) (2.24高知)	12	本州南方海域	青木一郎 東京大学海洋研究所	黒潮海域におけるマイワシ産卵群の行動生態 (WESTPAC)	6
KT-93-3	航海中止					
● 1993年度						
KT-93-4	1993.4.9(東京)～4.16(東京) (4.12清水)	8	相模湾・駿河湾及び隣 接海域	太田秀 東京大学海洋研究所	駿河湾及び隣接海域の底生生物群集の生態学 的研究	12
KT-93-5	4.23(東京)～4.30(東京)	8	四国海盆北部	玉木賢策 東京大学海洋研究所	四国海盆北部の地質学的・地球物理学的研究	11
KT-93-6	5.7(東京)～5.20(東京) (5.11釧路)	14	相模湾・常磐・三陸沖・ 釧路沖	杉本隆成 東京大学海洋研究所	黒潮・親潮前縁域の暖水ストリーマの構造とそ の生態学機能	16
KT-93-7	5.28(東京)～6.4(鹿児島)	8	遠州灘沖, 伊豆・小笠 原, 紀伊半島沖, 四国・ 九州南方	大場忠道 北海道大学大学院地球 環境科学研究科	黒潮海域における古海洋学的研究 (IGBP)	11
KT-93-8	6.7(鹿児島)～6.14(鹿児島)	8	東シナ海大陸棚外縁部・ 琉球弧海溝測斜面	氏家宏 琉球大学理学部	琉球弧・東シナ海大陸棚外縁部における音波探 査及び堆積学的研究 (ODP)	11
KT-93-9	6.17(鹿児島)～6.28(東京) (6.22名瀬)	12	薩南諸島・奄美諸島周 辺海域, 豊後水道・南 方海域	太田秀 東京大学海洋研究所	薩南・奄美諸島周辺海域の底生生物学・地球化 学的研究	17
KT-93-10	7.6(東京)～7.15(横浜) (7.10横須賀)	10	相模湾及び房総・常磐 沖黒潮海域	川口弘一 東京大学海洋研究所 (代理 西田周平)	相模湾及び黒潮海域における浮遊生物群集の 動態と食物網に関する研究	13
KT-93-11	7.18(横浜)～7.27(東京)	10	三陸沖・宮城, 江の島 沖及び隣接海域	瀬川爾朗 東京大学海洋研究所	三陸沖及び隣接海域の地球物理学的及び分光 学的研究	11
KT-93-12	8.20(東京)～8.27(横浜) (8.23横浜)	8	東京湾, 東京湾湾口部	才野敏郎 東京大学海洋研究所	東京湾から外洋への物質輸送過程	15
KT-93-13	8.30(横浜)～9.7(横須賀) (9.2清水)	9	東京湾, 相模湾, 駿河 湾及びその周辺海域	大和田紘一 東京大学海洋研究所	相模湾, 駿河湾及び周辺海域における微生物に 関する研究	15
KT-93-14	9.10(横須賀)～9.20(東京)	11	伊豆小笠原海域, 相模 湾	野崎義行 東京大学海洋研究所 (代理 津田敦)	海溝域における物質循環の研究	15
KT-93-15	11.5(東京)～11.19(宮古) (11.11宮古・11.15釧路)	15	三陸沖・北海道道東 (厚 岸・十勝川) 沖	浦野明央 北海道大学理学部 (代理 仲岡雅裕)	サケ科魚類の回遊及び三陸沖・道東沖の海洋生 物の生態・分類に関する研究	26
KT-93-16	11.22(宮古)～12.1(東京) (11.27横須賀)	10	三陸沖及び相模湾	瀬川爾朗 東京大学海洋研究所	三陸沖及び相模湾における地球物理学的研究	15
KT-93-17	12.8(東京)～12.17(東京) (12.12横須賀)	10	相模湾・伊豆海	平啓介 東京大学海洋研究所 (代理 石井輝秋)	相模湾・伊豆海の黒潮流量, ハダカイワシ類の 食性, 海底地質に関する研究	17

航海番号	航海日程 (出港~入港 [寄港])	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属(住席代理者)	研究主題	研究者数
KT-94-1	1994.1.25(東京)~2.2(鹿児島)	9	四国海盆	今脇資郎 九州大学応用力学研究所	四国沖の深層循環と黒潮の流量・熱輸送の研究	11
KT-94-2	2.5(鹿児島)~2.14(東京)	10	薩南~房総沖の黒潮海域	青木一郎 東京大学海洋研究所	黒潮海域における浮魚類の産卵生態と仔稚魚分布生態	7
KT-94-3	3.10(東京)~3.18(東京) (3.13横須賀)	9	房総東方及び相模湾	野崎義行 東京大学海洋研究所	房総東方海溝域の物質循環に関する研究	13
● 1994年度						
KT-94-4	1994.4.11(東京)~4.19(小名浜)	9	伊豆海嶺, 房総沖, 三陸沖	中田英昭 東京大学海洋研究所	黒潮及び黒潮系暖水域におけるプランクトン, 卵・仔稚魚の輸送と分布に関する研究	13
KT-94-5	4.22(小名浜)~4.28(東京)	7	伊豆諸島海域, 房総沖, 相模湾	青木一郎 東京大学海洋研究所	浮魚類の再生産機構に関する研究	10
KT-94-6	5.10(東京)~5.17(横須賀) (5.12横須賀)	8	東京湾・相模湾・伊豆近海	川口弘一 東京大学海洋研究所 (代理 寺崎誠)	黒潮域におけるプランクトン・マイクロネクトンの生態学的研究 (WESTPAC)	18
KT-94-7	5.20(横須賀)~5.27(東京) (5.23清水)	8	東京湾・相模湾・駿河湾・遠州灘・熊野灘	太田秀 東京大学海洋研究所	本州中部太平洋岸の深海底生生物の生態学的・分類学的・古生物学的・地球化学的研究	16
KT-94-8	6.3(東京)~6.21(那覇) (6.8~6.10那覇・6.16~6.18那覇)	19	東シナ海, 沖縄トラフ	角皆静男 北海道大学大学院地球環境科学研究科(代理 南川森保)	東シナ海における物質循環機構の解明に関する研究	16
KT-94-9	6.24(那覇)~7.2(鹿児島)	9	琉球海溝・沖縄トラフ	氏家宏 琉球大学理学部	琉球島弧・海溝系の地質学・地球物理学的研究	11
KT-94-10	7.5(鹿児島)~7.12(東京)	8	四国海盆 (九州~パラオ海嶺域), 相模湾	石井輝秋 東京大学海洋研究所	九州~パラオ海嶺の地質学的・地球物理学的研究 (ODP)	11
KT-94-11	7.20(東京)~7.25(清水)	6	相模湾, 駿河湾, 伊豆海嶺	瀬川爾朗 東京大学海洋研究所	相模湾, 駿河湾における精密測位にもとづく海中データ伝送, 海底地震活動の研究	11
KT-94-12	7.27(清水)~8.2(横須賀) (7.29~7.31横須賀)	7	東京湾, 相模湾, 駿河湾及びその周辺海域	大和田紘一 東京大学海洋研究所	相模湾, 駿河湾及びその周辺海域における微生物に関する研究	15
KT-94-13	8.5(横須賀)~8.10(東京)	6	東京湾, 相模湾, 房総半島沖	藤原禎多夫 広島大学総合科学部	太陽光に誘起される海洋表層の科学過程の解明	11
KT-94-14	8.31(東京)~9.8(函館)	9	相模湾, 福島沖, 宮城沖, 三陸沖	的場保望 秋田大学鉱山学部	深海性底生有孔虫の生態及びプレート境界のサイズモテクトニクス	11
KT-94-15	9.11(函館)~9.19(酒田)	9	日本海東部及び中央部	大場忠道 北海道大学大学院地球環境科学研究科	日本海東部及び中央部における古環境並びに海底地下構造の研究	11
KT-94-16	9.22(酒田)~9.30(下関) (9.26境)	9	日本海中・西部海域	沖山宗雄 東京大学海洋研究所	日本海における動物群集の分類学及び分布特性に関する研究	11
KT-94-17	11.10(東京)~11.19(大分) (11.13長崎)	10	五島列島周辺, 瀬戸内海西部, 相模湾	藤本博己 東京大学海洋研究所	五島列島周辺及び瀬戸内海の重力・地磁気異常の研究	11
KT-94-18	11.22(大分)~12.1(東京) (11.26~11.28清水)	10	南海トラフ海域, 駿河湾, 相模湾	藤本博己 東京大学海洋研究所 (代理 藤浩明)	南海トラフ海域における地学的・水産学的研究及び駿河湾・相模湾における物質輸送の研究	17
KT-95-1	1995.1.18(東京)~1.30(東京) (1.22新宮)	13	四国沖, 伊豆海嶺域	今脇資郎 九州大学応用力学研究所	黒潮・黒潮逆流の流量及び海洋古環境の研究 (WESTPAC)	11
KT-95-2	2.7(東京)~2.21(東京) (2.9~2.11名古屋・2.14~2.16新宮)	15	伊勢湾及び湾口域, 淡路島周辺海域	才野敏郎 名古屋大学大気水圏科学研究所 (代理 末広潔)	伊勢湾から外洋への物質輸送, 明石海峡周辺活断層の調査	27
KT-95-3	3.9(東京)~3.13(東京)	5	駿河湾・相模湾・東京湾, 野島崎沖	蒲生俊敏 東京大学海洋研究所	海洋-海底間の物質フラックスに関する地球化学的研究	11
● 1995年度						
KT-95-4	1995.4.11(東京)~4.18(横須賀)	8	相模湾, 伊豆諸島海域, 房総沖, 鹿島灘	青木一郎 東京大学海洋研究所	浮魚類の再生産機構に関する研究	10
KT-95-5	4.21(横須賀)~4.27(東京)	7	房総沖	太田秀 東京大学海洋研究所	房総半島沖合の深海生物の生態学的・分類学的研究	11
KT-95-6	5.12(東京)~5.19(清水)	8	遠州灘・熊野灘・駿河湾	中田英昭 東京大学海洋研究所	黒潮前線域の微細海洋構造と生物分布に関する研究	11
KT-95-7	5.22(清水)~5.28(横須賀)	7	相模湾・黒潮海域	川口弘一 東京大学海洋研究所	相模湾及び黒潮域における動物プランクトンの生態学的研究	10
KT-95-8	5.22(横須賀)~5.28(東京)	7	東京湾, 相模湾, 房総沖	半田暢彦 名古屋大学大気水圏科学研究所	沿岸域における物質循環	13
KT-95-9	6.15(東京)~7.10(東京) (6.17二見・6.25アブラ・7.6二見)	26	小笠原・マリアナ海域	平朝彦 東京大学海洋研究所 (代理 石井輝秋)	マリアナ海域における島弧-海溝-縁海系の地質学的・地球物理学的研究 (ODP)	21
KT-95-10	7.17(東京)~7.28(東京) (7.24~7.26大槌)	12	三陸沖・常磐沖	宮崎信之 東京大学海洋研究所 (代理 佐藤時幸)	三陸・常磐沖の生物学的・地質学的研究	17
KT-95-11	中止					
KT-95-12	8.30(東京)~9.5(横須賀)	7	遠州灘, 熊野灘	木村龍治 東京大学海洋研究所	大気海洋混合層の観測及び海洋からの生物起源気体の発散に関する研究	11
KT-95-13	9.8(横須賀)~9.18(函館) (9.13釧路)	11	三陸沖, 道東沿岸, 道東沖合	向井宏 北海道大学理学部 (代理 志賀直信)	三陸沖, 道東海域におけるプランクトン及びベントスの生態学的研究	19
KT-95-14	9.21(函館)~10.2(下関) (9.25函館)	12	日本海, 津軽海峡	石渡良志 東京都立大学理学部	日本海の海洋物理学的, 化学的及び古環境学的研究	22
KT-95-15	11.13(東京)~11.25(横須賀) (11.18~11.20新宮)	13	南海トラフ, 銭州海嶺, 紀伊半島南方海域	瀬川爾朗 東京大学海洋研究所 (代理 藤本博己)	南海トラフ東部の地球物理学的研究 (WESTPAC)	18
KT-95-16	11.28(横須賀)~12.6(清水)	9	伊豆海, 東京湾口	平啓介 東京大学海洋研究所	伊豆海嶺を越える黒潮の流量と熱輸送の研究	10
KT-95-17	12.9(清水)~12.15(東京)	7	相模湾・伊豆海嶺・駿河湾・遠州灘・熊野灘	太田秀 東京大学海洋研究所	相模湾~熊野灘海域のベントス群集の生態学的・古生物学的研究	11

航海番号	航海日程 (出港～入港 [寄港])	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属(主席代理者)	研究主題	研究者数
KT-96-1	1996.1.19(東京)～1.27(新宮)	9	男女群島及び九州南西海域、日向灘沖、潮岬沖	塚本勝巳 東京大学海洋研究所	魚類の分布と回遊生態に関する研究	10
KT-96-2	1.30(新宮)～2.5(東京)	7	熊野灘、駿河湾、相模湾、東京湾、南海トラフ	大和田紘一 東京大学海洋研究所	海洋微生物の生理・生体に関する研究 (WESTPAC)	10
KT-96-3	3.7(東京)～3.15(東京)	9	房総東方、相模湾、東京湾	野崎義行 東京大学海洋研究所	海溝域における物質循環の研究	10
● 1996年度						
KT-96-4	1996.4.11(東京)～4.17(横須賀)	7	相模湾、伊豆諸島海域	青木一郎 東京大学海洋研究所	浮魚類の再生産と環境に関する研究	9
KT-96-5	4.20(横須賀)～4.26(東京)	7	伊豆海、相模湾	平啓介 東京大学海洋研究所	伊豆海嶺上の黒潮の流量観測	11
KT-96-6	5.8(東京)～5.15(衣浦) (5.10清水)	8	相模湾、駿河湾、熊野灘、紀伊水道	白山義久 東京大学海洋研究所	相模湾～紀伊水道海域のベントス群集の生態学的・古生物学的研究	17
KT-96-7	5.18(衣浦)～5.22(清水) (5.20鳥羽)	5	伊勢・三河湾口及び遠州灘	窪川かおる 東京大学海洋研究所	原索類・ナメクジウオの分子生物学・発生学・行動生態学に関する研究	13
KT-96-8	5.25(清水)～5.31(横須賀)	7	相模湾、駿河湾、南海トラフ、伊豆諸島近海	溝生俊敏 東京大学海洋研究所	本州南方海域における海底湧水の地球化学的研究	11
KT-96-9	6.3(横須賀)～6.8(横須賀)	6	房総沖、伊豆近海	小池勲夫 東京大学海洋研究所	黒潮周辺における生物活動と有機炭素の動態に関する研究	11
KT-96-10	6.11(横須賀)～6.19(東京)	9	東京湾口、相模湾及び黒潮域	川口弘一 東京大学海洋研究所 (代理 才野敏郎)	相模湾及び黒潮域におけるプランクトンの生態と食物網に関する研究 (WESTPAC)	22
KT-96-11	7.3(東京)～7.9(名古屋)	7	相模湾、南海トラフ海域	藤本博己 東京大学海洋研究所	南海トラフ海域の地磁気精密観測と海底測地観測	10
KT-96-12	7.12(名古屋)～7.18(清水) (7.14名古屋)	7	伊勢湾、三河湾	中田英昭 東京大学海洋研究所	伊勢湾・三河湾から外洋への物質輸送過程	15
KT-96-13	7.21(清水)～7.27(清水)	7	東海・熊野沖	平朝彦 東京大学海洋研究所	東部南海トラフにおける海底活構造の研究 (ODP, KAIKOU-TOKAI計画)	11
KT-96-14	7.30(清水)～8.5(東京)	7	南海トラフ、駿河湾、相模湾、東京湾	大和田紘一 東京大学海洋研究所	海洋微生物、ベントスの生態に関する研究	11
KT-96-15	7.23(東京)～8.30(大槌)	8	相模湾、常磐沖、三陸沖	谷口旭 東北大学農学部	相模湾、常磐・三陸沖の生物学的研究	11
KT-96-16	9.2(大槌)～9.11(函館) (9.6八戸)	10	北海道太平洋岸沖、三陸沖	太田秀 東京大学海洋研究所 (代理 南川雅男)	北海道・三陸沖の深海底生生物の生態学的研究・地球化学的研究	18
KT-96-17	9.14(函館)～9.24(下関) (9.18新潟)	11	日本海	沖山宗雄 東京大学海洋研究所 (代理 小島茂明)	日本海の水循環、生物群集及び古環境に関する研究	20
KT-96-18	11.8(東京)～11.17(那覇)	10	九州～パラオ海嶺、伊豆近海、西南日本近海	末広潔 東京大学海洋研究所	フィリピン海地殻構造の地球物理学的研究 (WESTPAC)	11
KT-96-19	11.20(那覇)～11.28(那覇)	9	台湾東方海域	塚本勝巳 東京大学海洋研究所	ウナギの初期生態に関する研究	11
KT-96-20	12.1(那覇)～12.12(東京) (12.8清水)	12	九州～パラオ海嶺、駿河湾、相模湾、東京湾	石井輝秋 東京大学海洋研究所 (代理 白山義久)	九州～パラオ海嶺・伊豆近海における地質・化学及び生物学的研究 (ODP)	22
KT-97-1	1997.2.24(東京)～2.28(東京)	5	相模湾、伊豆海	白山義久 東京大学海洋研究所	相模湾及び伊豆海におけるベントス・プランクトンの生物学的研究	10
KT-97-2	3.11(東京)～3.17(東京)	7	房総東方海域、相模湾、東京湾	野崎義行 東京大学海洋研究所	海溝域における物質循環の研究	10
● 1997年度						
KT-97-3	1997.4.10(東京)～4.16(横須賀)	7	伊豆海、相模湾、相模トラフ	川辺正樹 東京大学海洋研究所	伊豆海嶺上の黒潮の流量観測と海洋測器の開発試験	11
KT-97-4	4.19(横須賀)～4.25(東京) (4.22尾鷲港外)	7	相模湾、南海トラフ海域	藤本博己 東京大学海洋研究所	相模湾、南海トラフ海域における測地地球物理観測	12
KT-97-5	5.7(東京)～5.14(横浜)	8	三陸沖	才野敏郎 名古屋大学大気水圏科学研究所	人工衛星を利用した海洋の生態系と物質循環に関する研究：ADEOS三陸沖フィールドキャンペーン	11
KT-97-6	5.17(横浜)～5.23(東京)	7	東京湾、相模湾、房総沖、伊豆近海	小池勲夫 東京大学海洋研究所	黒潮周辺域における生物活動と有機物の動態に関する研究	11
KT-97-7	6.4(東京)～6.10(二見)	7	相模湾・房総と伊豆海嶺・小笠原海域	太田秀 東京大学海洋研究所	本州中部・伊豆・小笠原海嶺系のベントスの生態学的研究	11
KT-97-8	6.13(二見)～6.19(横須賀)	7	伊豆～小笠原海嶺域	石井輝秋 東京大学海洋研究所	伊豆・小笠原海嶺の地質学的・岩石学的研究 (ODP)	11
KT-97-9	6.22(横須賀)～6.26(東京)	5	東京湾、相模湾	白山義久 東京大学海洋研究所	東京湾、相模湾における沈降粒子・海底堆積物の生物学・化学的研究	11
KT-97-10	7.8(東京)～7.15(清水)	8	伊豆沖・遠州灘・紀伊沖・土佐沖・日向灘・薩南海域	塚本勝巳 東京大学海洋研究所	黒潮内側域における仔稚魚の分布・生態・進化に関する研究	11
KT-97-11	7.18(清水)～7.24(清水)	7	房総半島南方及び東方海上	徳山英一 東京大学海洋研究所	島弧～島弧衝突域における活構造及び堆積構造の研究	11
KT-97-12	7.27(清水)～7.31(東京)	5	伊勢・三河湾口及び遠州灘	窪川かおる 東京大学海洋研究所	原索動物ナメクジウオ類の分子生物学・発生学・行動生態学に関する研究	11
KT-97-13	8.20(東京)～8.29(大槌) (8.24大槌)	10	三陸沖・道南海域	杉本隆成 東京大学海洋研究所 (代理 池田勉)	三陸沖・道南海域における生物学・古生物学的研究	21
KT-97-14	9.1(大槌)～9.7(八戸)	7	三陸沖の沿岸及び日本海溝域	藤尾伸三 東京大学海洋研究所	三陸沖水域における海洋物理学及び微生物に関する研究	11
KT-97-15	9.10(八戸)～9.16(新潟)	7	三陸沖・日本海	小島茂明 東京大学海洋研究所	三陸沖・日本海の底生生物及び海底堆積物に関する海洋学的研究	11

航海番号	航海日程 (出港～入港 [寄港])	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属(席代理者)	研究主題	研究者数
KT-97-16	9.19(新潟)～10.2(下関) (9.24～9.27小樽)	14	日本海東北部	伊勢崎修弘 千葉大学理学部	日本海盆北部の地磁気異常と大和堆の地震学的構造の研究	11
KT-97-17	11.17(東京)～11.26(東京)	10	三陸沖	末広潔 東京大学海洋研究所	三陸沖プレート境界の個体地球物理観測研究	10
KT-97-18	12.2(東京)～12.8(横須賀)	7	伊豆海嶺・東京湾・相模湾	川辺正樹 東京大学海洋研究所	伊豆海嶺上の黒潮の流量観測と東京湾、相模湾における物質循環	11
KT-97-19	12.11(横須賀)～12.19(東京) (12.15横須賀)	9	相模湾・相模灘	仲岡雅裕 東京大学海洋研究所	相模湾・相模灘におけるプランクトン、流れ藻、沈降粒子、海底堆積の生物学・化学的研究	21
KT-98-1	1998.1.13(東京)～1.19(東京)	7	伊勢湾・遠州灘西部	中田英昭 東京大学海洋研究所	熱塩フロント近傍の海洋構造と生物分布	11
KT-98-2	2.20(東京)～2.26(東京)	7	三陸沖合域	川口弘一 東京大学海洋研究所	動物プランクトン・マイクロネクトンの生態学的研究	7
KT-98-3	3.11(東京)～3.17(東京)	7	相模湾・東京湾・房総沖	植松光夫 東京大学海洋研究所	相模湾近海における物質循環の研究	11
● 1998年度						
KT-98-4	1998.4.7(東京)～4.17(塩釜) (4.13大槌)	11	三陸沖	川口弘一 東京大学海洋研究所 (代理 池田勉)	親潮域・移行域の動物プランクトン及びマイクロネクトンの生態学的研究	20
KT-98-5	4.20(塩釜)～4.28(東京)	9	三陸沖日本海溝	徳山英一 東京大学海洋研究所	三陸沖日本海溝の地質・地球物理学的研究	10
KT-98-6	5.8(東京)～5.15(清水)	8	遠州灘・駿河湾	中田英昭 東京大学海洋研究所	黒潮前線渦の生物生産機能に関する研究	11
KT-98-7	5.18(清水)～5.24(横須賀)	7	相模湾・相模灘・伊豆諸島近海	仲岡雅裕 東京大学海洋研究所	相模湾から黒潮流域におけるプランクトン、流れ藻、沈降粒子、海底堆積物の生物学的研究	11
KT-98-8	5.27(横須賀)～6.4(東京) (6.1横須賀)	9	東京湾・相模湾・黒潮域・黒潮統流域	古谷研 東京大学農学生命科学研究科	生物光学的手法による海洋基礎生産推定とその検証法に関する研究	15
KT-98-9	6.15(東京)～6.24(高知)	10	南海トラフ・相模湾	藤本博己 東京大学海洋研究所	南海トラフ・相模湾における測地地球物理学的研究	10
KT-98-10	6.27(高知)～7.6(東京)	10	九州西方海上	木村龍治 東京大学海洋研究所	梅雨期の対流性擾乱とこれに伴う海面フラックス	10
KT-98-11	7.13(東京)～7.19(清水)	7	相模湾・駿河湾及びその沖合域	小松輝久 東京大学海洋研究所	相模湾、駿河湾、及びその沖合域におけるマイワシ親魚分布と環境の計測	9
KT-98-12	7.22(清水)～7.28(焼津)	7	駿河湾	杉本隆成 東京大学海洋研究所	駿河湾における稚仔魚の輸送環境	11
KT-98-13	7.31(焼津)～8.5(東京)	6	伊勢・三河湾口及び遠州灘	窪川かおる 東京大学海洋研究所	原索動物ナメジウオ類の生息環境・発生生理学・行動生態学に関する研究	11
KT-98-14	8.26(東京)～9.3(横浜) (8.28横須賀)	9	相模湾・房総沖	太田秀 東京大学海洋研究所 (代理 北里洋)	相模湾・房総沖の深海底生生物の生態学的研究	19
KT-98-15	9.6(横浜)～9.12(横須賀)	7	東京湾・相模湾・伊豆近海	小池勲夫 東京大学海洋研究所	黒潮周辺域における各態有機物の動態と生物活動に関する研究	11
KT-98-16	9.15(横須賀)～9.22(新宮)	8	東京湾・相模湾・駿河湾及びその周辺海域	大和田紘一 東京大学海洋研究所	相模湾、駿河湾及びその周辺海域における微生物に関する研究	9
KT-98-17	9.25(新宮)～10.2(下関)	8	紀伊半島沖・豊後水道・日本海西部	小島茂明 東京大学海洋研究所	日本海西部、対馬海峡の底生生物及び海底堆積に関する海洋学的研究	11
KT-98-18	11.19(東京)～11.28(高知) (11.22御前崎港外)	10	南海トラフ・北部四国海盆	玉木賢策 東京大学海洋研究所 (代理 中西正男)	南海トラフ及び北部四国海盆の地質・地球物理学調査	12
KT-98-19	12.1(高知)～12.11(東京)	11	大東海嶺・九州・パラオ海嶺を含むフィリピン海	石井輝秋 東京大学海洋研究所	フィリピン海北部海域基盤岩類の地質学的・岩石学的研究 (ODP)	10
KT-99-1	1999.1.12(東京)～1.18(東京) (1.16横須賀港外)	7	東京湾・三陸沖	川口弘一 東京大学海洋研究所 (代理 才野敏郎)	冬期の動物プランクトン・マイクロネクトンの生態及び物質循環の研究	9
KT-99-2	3.16(東京)～3.23(東京)	8	伊豆海	竹内俱佳 電気通信大学電気通信学部	伊豆海嶺上の黒潮の流量観測	9
● 1999年度						
KT-99-3	1999.4.7(東京)～4.13(勝浦)	7	相模湾・南海トラフ	藤本博己 東京大学海洋研究所	相模湾及び南海トラフ海域における海洋測地・地球物理学的研究	10
KT-99-4	4.16(勝浦)～4.23(東京)	8	伊豆・小笠原海嶺、四国海盆を含む	石井輝秋 東京大学海洋研究所	フィリピン海北部海域海底岩石の地質学的・岩石学的研究 (ODP)	11
KT-99-5	5.7(東京)～5.14(横浜)	8	黒潮統流域、鹿島灘	中田英昭 東京大学海洋研究所	黒潮統流域フロント域における卵・仔魚の輸送及び生残過程に関する研究	10
KT-99-6	5.17(横浜)～5.27(東京)	11	相模湾・房総周辺海域・駿河湾	太田秀 東京大学海洋研究所	相模湾・房総周辺・駿河湾の深海性ベントス・ネクトンの生態学的研究	11
KT-99-7	6.4(東京)～6.9(東京)	6	東京湾・相模湾	才野敏郎 名古屋大学大気水圏科学研究所	沿岸海域の物質循環における海底の役割	7
KT-99-8	6.17(東京)～6.22(横須賀)	6	伊勢・三河湾口及び遠州灘	窪川かおる 東京大学海洋研究所	原索動物頭索類の産卵海域の調査研究	11
KT-99-9	6.25(横須賀)～7.2(焼津)	8	相模湾・東京湾・駿河湾・南海トラフ・遠州灘	大和田紘一 東京大学海洋研究所	相模湾、駿河湾及びその周辺海域における微生物に関する研究	10
KT-99-10	7.5(焼津)～7.13(東京)	9	相模湾・駿河湾及びその沖合海域	小松輝久 東京大学海洋研究所	相模湾、駿河湾およびその沖合海域における海洋生物分布量の音響計測	11
KT-99-11	7.21(東京)～7.27(塩釜)	7	常磐・三陸沖合	川口弘一 東京大学海洋研究所	親潮域・移行域における動物プランクトン・マイクロネクトンの生態学的研究(夏季)	9
KT-99-12	7.30(塩釜)～8.6(東京) (8.2～8.3小名浜)	8	本州東方海域	植松光夫 東京大学海洋研究所	本州東方海域における大気、海洋間の物質循環の研究	13
KT-99-13	8.30(東京)～9.10(函館) (9.5～9.6戸)	12	三陸沖・襟裳沖	玉木賢策 東京大学海洋研究所	日本海溝軸部活構造及び親潮域における動物プランクトンに関する研究	12
KT-99-14	9.13(函館)～9.21(新潟)	9	津軽海峡・秋田・新潟沖	斎藤実篤 東京大学海洋研究所	日本海における堆積学的・古海洋学的研究ならびに津軽海峡における海洋物理学的研究	11

航海番号	航海日程 (出港～入港 [寄港])	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属(主席代理者)	研究主題	研究者数
KT-99-15	9.24(新潟)～10.2(下関)	9	九州西方海域	藤本博己 東京大学海洋研究所	九州西方海域における地殻・マントル構造の地球物理学的研究	11
KT-99-16	11.17(東京)～11.25(松坂) (11.20～11.21横須賀)	9	東京湾・相模湾および黒潮海域	木暮一啓 東京大学海洋研究所	黒潮海域における海洋構造及び有機物-微生物相互作用系の解析	13
KT-99-17	11.28(松坂)～12.12(高知) (12.4～12.5新宮)	15	土佐湾・紀伊半島周辺海域及びその沖合域	杉本隆成 東京大学海洋研究所 (代理 白山義久・増澤敏行)	黒潮周辺海域における生物の分布と輸送環境に関する研究	22
KT-99-18	12.15(高知)～12.22(東京)	8	高知沖・日向灘・熊野灘	窪寺恒巳 国立科学博物館	高知沖の底生動物の分類及び生態学的研究	10
KT-00-1	2000.2.2(東京)～2.7(東京)	6	東京湾湾口・相模湾	垂木新一郎 北海道大学地球環境科学研究所	東京湾から太平洋への物質輸送の季節変化に関する研究	7
KT-00-2	3.7(東京)～3.14(東京)	8	房総半島沖	斎藤実篤 東京大学海洋研究所	房総半島沖の堆積学的研究と黒潮の変遷史の研究	8
●2000年度						
KT-00-3	2000.4.6(東京)～4.18(宮古) (4.14～4.15/戸)	13	本州東方沖合域	杉本隆成 東京大学海洋研究所	黒潮・親潮および移行域暖水塊の流動と低次生産	16
KT-00-4	4.21(宮古)～4.28(東京)	8	三陸沖	藤本博己 東北大学大学院理学研究科	三陸沖日本海溝陸側斜面における地球物理学的研究	9
KT-00-5	5.9(東京)～5.22(横須賀) (5.14～5.15横須賀)	14	相模湾・房州沖・伊豆海嶺	太田秀 東京大学海洋研究所 (代理 西田周平)	相模湾・外房沖のベントス・プランクトンの生態学・分類系統学的研究および伊豆海嶺上の黒潮の流量観測	22
KT-00-6	5.25(横須賀)～6.2(東京)	9	東部南海トラフ	望月公廣 東京大学海洋研究所	東部南海トラフにおける地殻構造及び熱構造の研究 (日仏KAIKO計画)	10
KT-00-7	6.15(東京)～6.22(高知)	8	四国沖南海トラフ・熊野灘・土佐湾	蒲生俊敬 北海道大学理学研究科	本州南方海域における海底からの熱・物質フラックスと地殻変動に関する研究	11
KT-00-8	6.25(高知)～7.3(東京) (6.28～6.29油津)	9	土佐湾・黒潮流域・遠州灘	窪川かおる 東京大学海洋研究所 (代理 嶋永元裕)	土佐湾及び黒潮流域とその日本沿岸におけるナメクジウオと底生及び表層生物に関する研究	18
KT-00-9	7.13(東京)～7.19(横須賀)	7	東京湾・相模湾・房総沖	大和田紘一 東京大学海洋研究所	東京湾・相模湾・房総沖における海水および堆積物中の微生物に関する研究	8
KT-00-10	7.22(横須賀)～7.28(清水)	7	相模湾・駿河湾及び周辺域	小松輝久 東京大学海洋研究所	相模湾・駿河湾における計量魚群探知機を用いた生物分布量の計測	10
KT-00-11	7.31(東京)～8.8(東京) (8.3～8.4新宮)	9	本州南方の黒潮前線と沿岸境界域	杉本隆成 東京大学海洋研究所	黒潮前線・沿岸境界域における生物生産と輸送環境に関する研究	12
KT-00-12	9.6(東京)～9.12(清水) (9.8～9.9横須賀)	7	東京湾・相模湾および黒潮海域	小池勲夫 東京大学海洋研究所	東京湾から黒潮沖にかけての生物代謝と有機物の動態に関する研究	14
KT-00-13	9.15(清水)～9.22(博多)	8	四国海盆紀伊半島沖及び中央部	増澤敏行 名古屋大学大気水圏科学研究所	四国海盆における大気海洋物質循環に関する研究	10
KT-00-14	9.25(博多)～10.2(下関)	8	山陰沖・北九州沖	小島茂明 東京大学海洋研究所	山陰沖・北九州沖における生態学、堆積学、地震学的研究	11
KT-00-15	11.16(東京)～11.24(那覇) (11.20名瀬)	9	四国海盆北部・南西諸島海域	石井輝秋 東京大学海洋研究所	フィリピン海北部海域の海洋地質学的・物質科学的研究 (ODP)	14
KT-00-16	11.27(那覇)～12.8(長崎)	12	東シナ海・沖縄周辺海域・台湾東方海域	塚本勝巳 東京大学海洋研究所	アナゴの産卵生態とウナギレプトケファルスの輸送・変態に関する研究	11
KT-00-17	12.11(長崎)～12.21(東京) (12.17～12.18横須賀)	11	九州西岸(東シナ海)・九州南西岸・本州南西岸・相模湾	太田秀 東京大学海洋研究所 (代理 窪川かおる)	九州西岸, 本州南西岸, 相模湾の底生生物とプランクトンの生態学的研究および堆積学, 古生物学的研究	17
KT-01-1	2001.3.1(東京)～3.7(横須賀)	7	本州東方黒潮流域・相模湾	植松光夫 東京大学海洋研究所	本州東方海域における動植物プランクトンの生態と物質循環に関する研究	11
KT-01-2	3.10(横須賀)～3.16(東京)	7	相模湾・東京湾・房総沖	天川裕史 東京大学海洋研究所	日本近海での春季海洋表層の化学的研究	8
●2001年度						
KT-01-3	2001.4.9(東京)～4.17(塩釜)	9	三陸沖暖水塊及び親潮混合域	木村伸吾 東京大学海洋研究所	三陸沖暖水塊及び親潮混合域における流動と生物生産に関する研究	8
KT-01-4	4.20(塩釜)～4.25(東京)	6	黒潮・親潮移行域	青木一郎 東京大学大学院農学生命科学研究科	本州東方海域におけるイワシ類の生態学的研究	10
KT-01-5	5.7(東京)～5.12(清水)	6	相模湾・駿河湾及び隣接沖合海域	西田周平 東京大学海洋研究所	バクテリア, プランクトン, ベントスの相互作用に関する研究 (新プロDOBIS航海)	11
KT-01-6	5.15(清水)～5.26(鹿児島) (5.17鳥羽)	12	三河湾口, 串本周辺, 土佐湾, 薩南・	渡邊良明 東京大学海洋研究所 (代理 窪川かおる)	黒潮周辺におけるナメクジウオ・イワシ類・中深層性魚類の繁殖生態 (新プロDOBIS航海)	15
KT-01-7	5.29(鹿児島)～6.8(東京) (5.31～6.1那覇)	11	東シナ海, 熊野灘	杉本隆成 東京大学海洋研究所 (代理 木村伸吾)	黒潮流域における物質輸送と生物生産の分布に関する研究	10
KT-01-8	6.18(東京)～6.24(横浜) (6.20～6.21横浜)	7	相模湾・房総沖	太田秀 東京大学海洋研究所	相模湾・房総沖の底生生物とプランクトンの生態学的・古生物学的研究	22
KT-01-9	6.27(横浜)～7.3(横浜) (6.29横須賀)	7	相模湾及び伊豆諸島海域	小松輝久 東京大学海洋研究所 (代理 石田健一)	相模湾・伊豆諸島海域における魚類の分布量と生息環境の計測	15
KT-01-10	7.6(横浜)～7.13(東京)	8	相模湾及び黒潮海域	小池勲夫 東京大学海洋研究所 (代理 木暮一啓)	黒潮周辺海域における海洋微細構造及び生物代謝と有機物動態に関する研究	17
KT-01-11	7.23(東京)～7.31(塩釜)	9	日本海溝周辺域	藤本博己 東北大学理学研究科	三陸沖・日本海溝周辺の測地・地球物理的研究	11
KT-01-12	8.3(塩釜)～8.9(東京)	7	三陸沖・伊豆近海・相模湾・東京湾	佐野有司 東京大学海洋研究所	沿岸域から外洋域にかけての物質輸送と循環に関する研究	11

航海番号	航海日程 (出港～入港 [寄港])	日数	研究海域	首席研究員の氏名と所属(住席代理者)	研究主題	研究者数
KT-01-13	8.31(東京)～9.9(横須賀) (9.3鳥羽9.4～9.5名古屋)	10	遠州灘・伊勢湾・三河湾・相模湾	塚本勝巳 東京大学海洋研究所 (代理 稲垣正・古谷研)	三河湾周辺域におけるハモの産卵生態に関する研究及び光生物学的手法を用いた相模湾中央部の基礎生産力の推定 (新プロDOBIS航海)	21
KT-01-14	9.12(横須賀)～9.24(小樽) (9.17～9.18八戸)	13	三陸沖・オホーツク海・北海道沖日本海	小島茂明 東京大学海洋研究所 (代理 遠藤宣成)	三陸沖, オホーツク海, 北海道沖日本海における海洋生態学, 分子系統学, 海洋地質学的研究 (新プロDOBIS航海)	16
KT-01-15	9.27(小樽)～10.8(下関) (10.3～10.4富山)	12	日本海	北里洋 静岡大学理学部	日本海及び富山湾における地球物理学的, 生物地球化学的及び地球微生物学的研究	19
KT-01-16	11.22(東京)～12.1(横須賀)	10	伊豆小笠原周辺海域	藤尾伸三 東京大学海洋研究所	日本海及び富山湾における地球物理学的, 生物地球化学的及び地球微生物学的研究	11
KT-01-17	12.4(横須賀)～12.12(清水)	9	四国海盆, 遠州灘, 紀伊半島沖及び中央部	増澤敏行 名古屋大学大学院環境学研究所	四国海盆における大気海洋物質循環に関する研究	9
KT-01-18	12.15(清水)～12.21(東京)	7	駿河湾・相模湾および周辺黒潮域	塚本勝巳 東京大学海洋研究所	駿河湾, 相模湾及び周辺域におけるアナゴの産卵生態とハダカイワシ科魚類の生活史に関する研究	11

● 2002年度

KT-02-2	2002.4.4(東京)～4.9(清水)	6	相模湾及び伊豆諸島海域・駿河湾	小松輝久 東京大学海洋研究所	伊豆諸島海域の山周りに分布する底生魚類の音響計測	8
KT-02-3	4.12(清水)～5.2(東京) (4.20～4.23那覇)	21	トカラ列島周辺海域・奄美舟状海盆周辺海域及び沖縄舟状海盆周辺海域	西田睦 東京大学海洋研究所 (代理 窪川かおる)	海洋動物の分子系統学的・分類学的研究及び南西諸島における深海性動物相の解明 (新プロDOBIS航海)	20
KT-02-4	5.10(東京)～5.16(清水)	7	東京湾, 相模湾, 駿河湾	西田周平 東京大学海洋研究所	バクテリア, プランクトン, ベントスの相互作用及びクラゲ類の生態に関する研究 (新プロDOBIS)	16
KT-02-5	5.19(清水)～5.30(横須賀) (5.24～5.25清水)	12	相模湾, 駿河湾, 伊豆諸島, 遠州灘, 熊野灘	北里洋 海洋科学技術センター (代理 大路樹生)	相模湾における海洋物質循環及び伊豆大島～熊野灘海域の底生生物群集に関する研究	20
KT-02-6	6.2(横須賀)～6.7(東京)	6	相模湾	才野敏郎 名古屋大学地球水循環研究センター	生物光学的手法を用いた相模湾中央部の基礎生産力の推定とその検証	11
KT-02-7	6.15(東京)～6.22(大槌)	8	伊豆七島周辺域から三陸沖海域	植松光夫 東京大学海洋研究所	大気海洋間の生物地球化学的循環過程に関する研究	10
KT-02-8	6.25(大槌)～7.2(塩釜)	8	三陸沖及び宮古湾	木村伸吾 東京大学海洋研究所	マアナゴ・ニシンの接岸回遊及び魚類の音響推定に関する研究	8
KT-02-9	7.5(塩釜)～7.13(横須賀)	9	三陸沖日本海溝周辺	藤本博己 東北大学大学院理学研究科	三陸沖日本海溝周辺における測地・地球物理学的研究	10
KT-02-10	7.16(横須賀)～7.26(東京) (7.20～7.21横須賀)	11	相模湾及び伊豆近海	木暮一啓 東京大学海洋研究所 (代理 小池勲夫)	相模湾及び伊豆近海における生物代謝と有機物動態に関する研究 (DOBIS)	16
KT-02-11	8.22(東京)～8.27(清水)	6	本州南方海域 (主として駿河湾・相模湾)	蒲生俊敬 北海道大学理学研究科	駿河湾及びその近海における海底下湧出調査	10
KT-02-12	8.30(清水)～9.4(東京)	6	相模湾	才野敏郎 名古屋大学地球水循環研究センター	生物光学的手法を用いた相模湾中央部の基礎生産力の推定とその検証	11
KT-02-13	9.12(東京)～9.28(鹿児島) (9.19～9.21鹿児島)	17	相模湾・南海トラフ・東シナ海	杉本隆成 東京大学海洋研究所 (代理 北里洋, 山野誠)	相模湾・南海トラフ・東シナ海における物質, 地熱及び生物輸送に関する研究	20
KT-02-14	10.1(鹿児島)～10.8(石垣)	8	沖縄トラフ・東シナ海	野崎義行 東京大学海洋研究所	沖縄トラフ及び黒潮域にかけての物質循環	9
KT-02-15	10.11(石垣)～10.21(東京)	11	東シナ海から太平洋側を含む沖縄周辺海域(与那国島周辺と沖縄本島周辺)	岡田誠 茨城大学理学部	黒潮源流域における現世浮遊性有孔虫の生態解明と堆積物に適用した古海洋環境に関する総合研究	8
KT-02-16	10.29(東京)～11.6(下関) (11.3焼津)	9	駿河湾	青山潤 東京大学海洋研究所	マアナゴの産卵生態と生物多様性に関する研究	10
KT-02-17	11.9(下関)～11.20(下関)	12	日本海大和堆, 大和海域及び対馬海盆	伊勢崎修弘 千葉大学理学部	対馬海盆での磁気構造探査と大和堆・大和海域での海底地震計による深海構造探査	10

● 2003年度

KT-03-1	2003.4.3(東京)～4.9(新宮)	7	三宅島～熊野灘	大路樹生 東京大学理学研究科	深海性底生生物の進化古生物学的研究	11
KT-03-2	4.12(新宮)～4.17(新宮)	6	紀伊半島周辺海域	久保田信 京都大学瀬戸臨海実験所	紀伊半島周辺における海洋生物の多様性に関する研究 (新プロDOBIS航海)	10
KT-03-3	4.20(新宮)～4.28(東京) (4.23銚子:通船)	9	熊野灘, 房総沖及び伊豆近海	杉本隆成 東京大学海洋研究所	黒潮の離岸の力学機構及び流れ・藻と山周周辺の底生魚類の研究	13
KT-03-4	5.6(東京)～5.11(横須賀)	6	駿河湾	青山潤 東京大学海洋研究所	ウナギ目魚類の生態と多様性 (新プロDOBIS航海)	11
KT-03-5	5.14(横須賀)～5.19(横須賀) (5.17横須賀沖:通船)	6	相模湾・東京湾	西田周平 東京大学海洋研究所	バクテリア, プランクトン, ベントスの相互作用及びクラゲ類の音響計測手法に関する研究 (新プロDOBIS航海)	19
KT-03-6	5.22(横須賀)～5.27(東京)	6	相模湾	才野敏郎 名古屋大学地球水循環研究センター	生物光学的手法を用いた相模湾中央部の基礎生産力の推定とその検証	11
KT-03-7	6.5(東京)～6.14(東京) (6.9～6.10東京)	10	東京湾, 相模湾, 伊豆近海	木暮一啓 東京大学海洋研究所	東京湾, 相模湾及び伊豆近海における生物代謝と有機物動態に関する研究 (DOBIS航海)	18
KT-03-8	6.17(横須賀)～6.25(東京)	9	伊豆小笠原孤島-三宅島近海及び八丈島周辺地域	石塚治 産業技術総合研究所	伊豆小笠原孤島-三宅島-八丈島地域における火山学的及び生物学的研究と深海曳網探査システムの開発	8

航海番号	航海日程(出港～入港【寄港】)	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属(主席代理者)	研究主題	研究者数
KT-03-9	7.3(東京)～7.11(新潟)	9	日本海・富山湾	張勁 富山大学理学部	日本海・富山湾における物質循環の生物地球化学的研究	11
KT-03-10	7.14(新潟)～7.20(新潟) (7.15～7.19両津)	7	佐渡島沖合、秋田沖	浦環 東京大学生産技術研究所	日本海におけるAUVによる海底至近距離観測及び微古生物学的並びに海底堆積学的研究	11
KT-03-11	7.23(新潟)～8.1(塩釜)	10	日本海中部及び北部	藤浩明 富山大学理学部	中部日本及び東北日本背弧の地球電磁気学及び地震学的研究	11
KT-03-12	8.4(塩釜)～8.13(東京)	10	日本海溝周辺	藤本博己 東北大学大学院理学研究科	三陸沖日本海溝周辺における測地・地球物理学的研究	9
KT-03-13	8.27(東京)～9.1(横須賀)	6	相模湾	才野敏郎 名古屋大学地球水循環研究センター	生物光学的手法を用いた相模湾中央部の基礎生産力の推定とその検証	11
KT-03-14	9.4(横須賀)～9.9(大阪)	6	相模湾、駿河湾、本州南方	青山潤 東京大学海洋研究所	相模湾及び駿河湾、本州南方におけるウナギ目魚類と動物プランクトンの多様性に関する研究	11
KT-03-15	10.17(東京)～10.23(大槌)	7	鹿島沖、福島沖、仙台沖、三陸沖	塚本勝巳 東京大学海洋研究所	マアナゴの産卵生態、ツノナシオキアミの生理活性及び生物多様性に関する研究	11
KT-03-16	10.27(大槌)～11.6(東京)	11	房総沖、鹿島沖	道田豊 東京大学海洋研究所	黒潮表層流速構造及び海溝部深層流に関する研究	11
KT-03-17	11.14(東京)～11.19(東京)	6	房総沖、相模湾	太田秀 東京大学海洋研究所	深海ベントス群集構造及び多様性の時空間的変動の研究	10
KT-03-18	12.1(東京)～12.9(東京)	9	相模湾、駿河湾、黒潮フロント域	木村伸吾 東京大学海洋研究所	相模湾及び駿河湾における稚仔の分布と流動構造に関する研究(DOBIS)	14
KT-04-1	2004.3.2(東京)～3.8(名古屋)	7	南海トラフ(東海沖～紀伊半島沖)	山野誠 東京大学地震研究所	南海トラフにおける熱輸送・堆積過程に関する研究	10
KT-04-2	3.11(名古屋)～3.17(東京)	7	熊野灘、四国海盆中央部及び伊豆諸島海域	増澤敏行 名古屋大学環境学研究所	四国海盆における大気・海洋物質循環に関する研究	10

●2004年度

KT-04-3	2004.4.12(東京)～4.14(東京)	3	相模湾	稲垣正 東京大学海洋研究所	海洋観測に関する技術手法の確立	11
KT-04-4	4.16(東京)～4.20(横須賀機構)	5	相模湾	北里洋 海洋研究開発機構	相模湾における同位体地球化学的手法による深海食物連鎖網の解明と中層プランクトンの接餌・代謝活性・種多様性	11
KT-04-5	4.22(横須賀機構)～4.26(東京)	5	相模湾	才野敏郎 名古屋大学地球水循環研究センター	光学的手法による海洋基礎生産の自動計測と検証	11
KT-04-6	4.29(東京)～5.5(清水)	7	伊豆半島南方沖、駿河湾、遠州灘、熊野灘	大路樹生 東京大学理学研究科	深海性底生動物の進化古生物学的研究	11
KT-04-7	5.8(清水)～5.15(横須賀)	8	相模湾・相模灘・外房沖	太田秀 東京大学海洋研究所	相模湾・房総沖における深海性底生生物の分類学・系統進化学および生態学研究	11
KT-04-8	5.17(東京)～5.23(横須賀機構)	7	相模湾・東京湾・伊豆小笠原海溝	小畑元 東京大学海洋研究所	相模湾、東京湾における微量元素の同位体組成と地球化学的挙動に関する研究	11
KT-04-9	5.26(横須賀)～6.1(東京)	7	相模湾・東京湾・伊豆近海	木暮一啓 東京大学海洋研究所	海洋細菌およびウイルス様粒子の生態的研究	11
KT-04-10	6.4(東京)～6.14(東京) (6.9～10.10横浜)	11	相模湾	西田周平 東京大学海洋研究所	相模湾の漂流一底生群集における食物網と汚染物質の動態、及び生物相互作用に関する研究(DOBIS航海)	17
KT-04-11	6.17(東京)～6.21(清水)	5	相模湾・黒潮域	才野敏郎 名古屋大学地球水循環研究センター	光学的手法による海洋基礎生産の自動計測と検証	11
KT-04-12	6.24(清水)～7.3(高知)	10	南海トラフ(熊野トラフ)・日向灘	寿寿一郎 東京大学海洋研究所	熊野トラフおよび日向灘のエアガンを用いた地下構造探査	10
KT-04-13	7.5(高知)～7.13(高知)	9	四国海盆	市川洋 鹿児島大学水産学部	四国南方黒潮流域における流動構造・流量とその変動機構	10
KT-04-14	7.16(高知)～7.26(清水) (7.17新宮:通船)	11	南海トラフ・四国沖	沖野郷子 東京大学海洋研究所	背弧拡大の終わりの研究・浅海域・深海域での熱流量測定による南海トラフ沈み込み帯の温度構造の研究	11
KT-04-15	7.29(清水)～8.3(横須賀)	6	相模湾・黒潮域	才野敏郎 名古屋大学地球水循環研究センター	光学的手法による海洋基礎生産の自動計測と検証	11
KT-04-16	8.5(久里浜)～8.12(小名浜)	8	相模湾、伊豆諸島近海、房総沖	道田豊 東京大学海洋研究所	黒潮の詳細流速構造に関する研究	11
KT-04-17	8.14(小名浜)～8.21(釧路)	8	常磐日立沖、三陸沖、親潮・黒潮混合水域	猿渡敏郎 東京大学海洋研究所	親潮・黒潮混合水域における食物連鎖と底魚類の初期生態に関する研究	11
KT-04-18	8.24(釧路)～8.31(釧路)	8	親潮海域(サイトH周辺)	池田勉 北海道大学大学院水産学研究所	深海性動物プランクトンの生理・生態学的研究	7
KT-04-19	9.2(釧路)～9.9(網走) (9.3～9.8古釜布)	8	国後・択捉・歯舞・色丹島及びその周辺	向井宏 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	北方四島周辺における海洋生態系の研究	11
KT-04-20	9.12(網走)～9.19(小樽)	8	網走湾、北海道沖日本海	小島茂明 東京大学海洋研究所	オホーツク海の深海生物の起源と海洋環境変動に関する進化的生態学的研究(DOBIS航海)	11
KT-04-21	9.22(小樽)～9.29(富山) (9.26函館:通船)	8	北海道沖日本海及び恵山岬沖太平洋	塚脇真二 金沢大学自然計測応用研究センター	日本海中央部における微古生物学的並びに堆積学的研究	12
KT-04-22	10.1(富山)～10.5(博多)	5	富山湾	木村伸吾 東京大学海洋研究所	富山湾における物質循環に関する研究(DOBIS)	11
KT-04-23	10.8(博多)～10.15(那覇)	8	東シナ海の黒潮周辺	原田哲夫 高知大学教育学部	黒潮流域における浮遊生物に関する研究	11
KT-04-24	10.18(那覇)～10.26(名古屋)	9	南西諸島	窪寺恒己 国立科学博物館	南西諸島海域における深海性動物相の解明	10
KT-04-25	10.29(名古屋)～11.5(横須賀機構) (11.1～11.2清水)	8	相模湾および黒潮周辺域	小池勲夫 東京大学海洋研究所 (代理 小川浩史)	相模湾および黒潮周辺海域における有機物の存在形態と生物作用に関する研究(DOBIS)	12
KT-04-26	11.8(横須賀機構)～11.12(横須賀機構)	5	東京湾・相模湾	北里洋 海洋研究開発機構	東京湾、相模湾における同位体地球化学的手法による深海食物連鎖網の解明	9

航海番号	航海日程 (出港～入港 [寄港])	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属(住席代理者)	研究主題	研究者数
KT-04-27	11.14(横須賀)～11.21(横須賀)	8	東海沖および鹿島灘沖	白井正明 東京大学海洋研究所	東海沖および茨城沖における地層探査とコアリングによる堆積物形成過程の研究	10
KT-04-28	11.24(横須賀)～12.6(東京) (11.30～12.1二見)	13	伊豆・小笠原海域	新井田清信 北海道大学理学研究科	伊豆・小笠原海嶺基盤岩の地質・岩石学的研究(IPOD)	13
KT-05-1	2005.2.23(大阪)～2.24(新宮)	2	紀伊水道, 熊野灘, 相模湾	稲垣正 東京大学海洋研究所	海洋観測に関する技術手法の確立	6
KT-05-2	2.25(新宮)～3.3(名古屋)	7	南海トラフ (東海沖～紀伊半島沖)	山野誠 東京大学地震研究所	南海トラフ沈み込み帯の温度構造の研究	9
KT-05-3	3.5(新宮)～3.11(高知)	7	四国海盆中央部(紀伊半島沖)	増澤敏行 名古屋大学大学院環境学研究所	四国海盆における海洋物質循環の季節変動	5
KT-05-4	3.14(高知)～3.19(東京)	6	土佐湾, 紀伊半島沖合, 駿河湾, 伊豆半島	小松輝久 東京大学海洋研究所	流れ藻の分布とその生態系に関する研究	11
KT-05-5	3.22(東京)～3.31(室蘭)	10	北海道根室半島沖	高波鐵夫 北海道大学大学院理学研究科	1973年根室半島沖地震の震源域およびその周辺における最近の地震活動調査	5
● 2005年度						
KT-05-6	2005.4.4(室蘭)～4.8(青森)	5	北海道南西海域	徳山英一 東京大学海洋研究所	海洋観測に関する技術手法の確立	12
KT-05-7	4.11(青森)～4.20(青森)	10	むつ湾・下北半島200kmまでの西太平洋	木本克典 海洋研究開発機構	下北半島沖のBSR異常とメタン流体・ガスハイドレードに関する研究および下北周辺海域における古海洋学的研究	13
KT-05-8	4.23(青森)～4.29(函館)	7	日本海・日本海盆	伊勢崎修弘 千葉大学理学部	日本海盆の発達過程の解明: 日本海盆における地磁気探査	7
KT-05-9	5.2(函館)～5.8(富山)	7	日本海中央部・若狭湾沖・黒部川河口沖	塚脇真二 金沢大学自然計測応用センター	日本海中央部ならびに若狭湾沖における生物学的ならびに堆積学的研究, およびグムの排砂が黒部川河口域の漁業環境に及ぼす影響	12
KT-05-10	5.10(富山)～5.13(富山)	4	富山湾	木村伸吾 東京大学海洋研究所	富山湾の流動環境と物質循環に関する研究	10
KT-05-11	5.16(富山)～5.26(函館)	11	日本海	蒲生俊敏 東京大学海洋研究所	日本海における深層循環と生物地球化学サイクルの研究(GEOTRACES)	12
KT-05-12	5.29(函館)～6.7(八戸)	10	親潮海域(道南, 東北沖)	池田勉 北海道大学大学院水産化学研究科	深水性動物プランクトンの生理・生態学的研究	9
KT-05-13	6.10(八戸)～6.21(小名浜)	12	東北沖日本海溝周辺海域	藤本博己 東北大学理学研究科	東北沖日本海溝周辺海域における地球物理学的研究	9
KT-05-14	6.24(小名浜)～6.28(横須賀機構)	5	黒潮統流域	植松光夫 東京大学海洋研究所	黒潮統流域における水塊の物理的変動と生物・化学的応答のリンゲージ	12
KT-05-15	6.30(横須賀機構)～7.7(東京)	8	相模湾・黒潮周辺域	小川浩史 東京大学海洋研究所	相模湾・黒潮周辺域における生元素循環に関する研究	8
KT-05-16	7.13(東京)～7.21(横須賀機構)	9	東京湾, 相模湾, 黒潮周辺域	木暮一啓 東京大学海洋研究所	海洋微生物群集の多様性および生態に関する研究	12
KT-05-17	7.23(横須賀機構)～7.27(横須賀機構)	5	伊豆・小笠原海域	小島茂明 東京大学海洋研究所	伊豆・小笠原島の熱水噴出域固有種の幼生分散に関する生態学研究	11
KT-05-18	7.29(東京)～8.5(清水)	8	相模湾, 房総半島沖	北里洋 海洋研究開発機構	相模湾, 房総沖における深海底生生物, 微生物活性, 底層物質循環および廃棄物分布に関する研究	11
KT-05-19	8.8(清水)～8.14(清水)	7	紀伊半島沖熊野トラフ周辺	白井正明 東京大学海洋研究所	熊野トラフ周辺における堆積物運搬過程と熱輸送に関する研究(IPOD)	11
KT-05-20	8.17(清水)～8.25(日の出)	9	伊豆・小笠原	石井輝秋 東京大学海洋研究所	伊豆・小笠原海域海底基盤岩の地質学的・岩石学的形成史の解明	12
KT-05-21	8.28(東京)～9.3(横須賀港機構)	7	三陸沖黒潮統流域	中村恭之 東京大学海洋研究所	反射法地震探査による海洋中の微細構造の3次元観測	12
KT-05-22	9.6(横須賀機構)～9.15(清水) (9.11三崎)	10	相模湾	高橋正征 高知大学大学院黒潮圏海洋科学研究科	海洋の流動環境下における浮遊生態系の機能の把握に関する研究	15
KT-05-23	9.18(清水)～9.25(鹿児島)	8	四国南方	市川香 九州大学応用力学研究所	足摺沖のASUKA測線での黒潮・黒潮反流の観測	10
KT-05-24	9.28(鹿児島)～10.6(那覇)	9	東部東シナ海	武田重信 東京大学大学院農学生命科学研究科	亜熱帯貧栄養海域における窒素固定生物の空間分布と窒素固定能に及ぼす鉄の影響	10
KT-05-25	10.9(那覇)～10.14(石垣)	6	南西諸島	市川香 九州大学応用力学研究所	黒潮上流域における密度・流速の鉛直構造の観測	11
KT-05-26	10.17(石垣)～10.26(鹿児島)	10	南西諸島海域	角皆潤 北海道大学大学院理学研究科	南西諸島海域における海底湧水ブルームの分布と影響の化学的・微生物学的調査研究	12
KT-05-27	10.29(鹿児島)～11.3(宮崎)	6	鹿児島南方および西方沖	窪川かおる 東京大学海洋研究所	鹿児島沖における底生生物と浮遊生物の分布調査研究	12
KT-05-28	11.6(宮崎)～11.11(高知)	6	日向灘, 豊後水道, 瀬戸内海, 紀伊水道	武岡英隆 愛媛大学沿岸環境科学研究センター	瀬戸内海の低次生産に対する陸棚斜面起源栄養塩の影響に関する研究及び豊後水道に仔稚魚の来遊メカニズムに関する研究	12
KT-05-29	11.14(高知)～11.19(高知)	6	土佐湾周辺海域, 室戸岬沖	猿渡敏郎 東京大学海洋研究所	四国周辺海域における底生生物に関する分類学的・生態学的研究	11
KT-05-30	11.21(高知)～11.27(和歌山)	7	四国沖, 紀伊水道, 熊野灘	大路樹生 東京大学大学院理学研究科	深水性底生生物の進化古生物学的研究	12
KT-05-31	11.30(和歌山)～12.10(東京)	11	相模湾, 紀伊水道, 熊野灘, 遠州灘	西田周平 東京大学海洋研究所	相模湾の漂流一底生群集における食物網と汚染物質の動態, および生物相互作用に関する研究	15
KT-05-32	12.13(東京)～12.19(大阪)	7	相模湾, 駿河湾	柳哲雄 九州大学応用力学研究所	相模湾の生物生産と収束発散場の関係及び駿河湾の浮遊性古細菌に関する研究	12

航海番号	航海日程 (出港～入港 [寄港])	日数	研究海域	首席研究員の氏名と所属(生席代理者)	研究主題	研究者数
KT-06-1	2006.2.19(大阪)～2.23(鹿児島)	5	四国沖, 九州沖	石井輝秋 東京大学海洋研究所	ドレッジ用デジタル深海ビデオカメラ, ピンガー, トランスポンダー等の観測機器開発, およびCTD精度試験	12
KT-06-2	2.26(鹿児島)～3.7(鹿児島)	10	若尊火口およびその東側の海丘	浦環 東京大学生産技術研究所	自律型海中ロボットによる熱水性生物群分布の観測研究	10
KT-06-3	3.10(鹿児島)～3.14(長崎)	5	北部沖縄トラフ (五島列島一甌島間)	清川昌一 九州大学大学院理学研究院	九州西部の伸張場テクトニクスの復元: 北部沖縄トラフ形成と古第三系伸張テクトニクス	11
KT-06-4	3.17(長崎)～3.24(横須賀機構)	8	東シナ海, 西日本南岸域	小松輝久 東京大学海洋研究所	黒潮域における流れ藻の分布とその生態系に関する研究	10
●2006年度						
KT-06-5	2006.4.3(東京)～4.9(清水)	7	黒潮主流・再循環海域	津田敦 東京大学海洋研究所	黒潮主流・再循環海域における水塊形成過程と生物生産・輸送過程に関する研究	10
KT-06-6	4.11(清水)～4.22(和歌山)	12	南海トラフ海域 (東海沖～紀伊半島沖)	山野誠 東京大学地震研究所	南海トラフ地震発生帯・付加体の温度構造の研究	9
KT-06-7	4.25(和歌山)～4.29(名古屋)	5	紀伊水道および紀伊半島熊野灘	寺門靖高 神戸大学発達科学部	沿岸海中の希土類元素存在度およびタービダイトの蓄積が深海底環境と生物多様性に与える影響	12
KT-06-8	5.1(名古屋)～5.10(東京)	10	相模湾	才野敬郎 名古屋大学地球水循環研究センター	相模湾における基礎生産, 粒子フラックス, 大気海洋ガス交換の短期間変動	15
KT-06-9	5.15(東京)～5.18(横須賀機構)	4	相模湾	西川淳 東京大学海洋研究所	高解像度ピアオシステム (VPR) を用いた相模湾におけるマリンスノーの分布と動態に関する研究	11
KT-06-10	5.22(横須賀)～5.30(函館)	9	親潮周辺海域	池田勉 北海道大学大学院水産学研究院	動物プランクトンの生理・生態学的研究	8
KT-06-11	6.2(函館)～6.13(東京)	12	小笠原沖一三陸沖	岡崎裕典 海洋研究開発機構	動植物プランクトンの深度方向への適応と種の多様性および古環境復元に関する研究	12
KT-06-12	6.16(東京)～6.20(東京)	5	房総沖・黒潮主流域	須賀利雄 東北大学大学院理学研究科	北太平洋亜熱帯モード水による有光層への栄養塩供給	11
KT-06-13	6.23(東京)～6.27(東京)	5	相模湾	小栗一将 海洋研究開発機構	堆積物-水境界における酸素・pH分布測定と, 生物殻を用いた環境情報の再構築	9
KT-06-14	7.4(東京)～7.12(東京)	9	小笠原明神礁海域	玉木賢策 東京大学大学院工学系研究科	明神礁周辺海底カルアラ密集域の熱水噴出活動集中探査研究	10
KT-06-15	7.15(東京)～7.25(東京)	11	東北沖日本海溝周辺海域	藤本博己 東北大学大学院理学系研究科	海底測地・地震観測による日本海溝周辺における海陸プレート間相互作用と海洋プレート内変形に関する研究	7
KT-06-16	7.28(東京)～8.4(東京)	8	相模湾	石丸隆 東京海洋大学海洋科学部	海洋の流動環境下における浮遊生態系の機能委の把握に関する研究	12
KT-06-17	8.7(東京)～8.10(東京)	4	相模湾	才野敬郎 名古屋大学地球水循環研究センター	基礎生産計測用自動昇降式ブイシステムの高度化	12
KT-06-18	8.14(東京)～8.18(清水)	5	相模湾, 駿河湾, 南海トラフ	小畑元 東京大学海洋研究所	相模湾・駿河湾における微量元素と放射性核種の地球化学的挙動に関する研究 (GEOTRACES)	11
KT-06-19	8.21(清水)～8.30(高知)	10	南海トラフ (熊野灘)	森田澄人 産業技術総合研究所	3次元反射法地震探査による熊野トラフ泥火山の活動履歴研究	9
KT-06-20	9.1(高知)～9.6(宮崎)	6	四国沖黒潮流軸付近	中村恭之 東京大学海洋研究所	反射法地震探査による黒潮域の海洋中微細構造の時空間変動に関する研究	11
KT-06-21	9.9(宮崎)～9.17(鹿児島)	9	東シナ海およびフィリピン海	古谷研 東京大学大学院農学生命科学研究科	亜熱帯海域における浮遊性窒素固定生物の生理生態学的研究	11
KT-06-22	9.18(鹿児島)～9.25(鹿児島)	8	四国南方	市川香 九州大学応用力学研究所	足摺沖黒潮共同観測 (ASUKA) 測線の空間代表性の観測	9
KT-06-23	9.28(鹿児島)～10.3(長崎)	6	鹿児島西南海域と大隅海峡	窪川かおる 東京大学海洋研究所	鹿児島西南海域における鯨骨生物群集の研究とウミアメンボ類の分布および生理学的研究	11
KT-06-24	10.6(長崎)～10.9(秋)	4	対馬海峡	李雅利 水産大学校	対馬海峡から日本海へ流入する物質フラックス観測	12
KT-06-25	10.11(秋)～10.20(新潟)	10	日本海中部～南部海域	北里洋 海洋研究開発機構	日本海中部における有孔虫類の分子系統学的研究および西南日本背弧の電気伝導度構造に関する研究	9
KT-06-26	10.23(新潟)～10.28(八戸)	6	佐渡南西沖	山崎哲生 産業技術総合研究所	海水柱メタンブルームの系統的観測・挙動解析によるメタンフラックスの推定	10
KT-06-27	10.30(八戸)～11.8(東京)	10	東北沖・日本海溝周辺海域	藤本博己 東北大学大学院理学研究科	三陸沖漁場の曳航ブイによる海底精密調査	8
KT-06-28	11.11(東京)～11.19(東京) (11.15～16清水)	9	相模湾・駿河湾・黒潮周辺域	田上英一郎 名古屋大学大学院環境学研究科	沿岸および外洋域での各態有機物の化学的性質およびその動態の比較に関する研究	12
KT-06-29	11.21(東京)～11.27(東京)	7	伊豆・小笠原海域	石井輝秋 東京大学海洋研究所	海洋底と海底構成岩石の地質学的研究 (IODP)	12
KT-06-30	11.30(東京)～12.4(東京)	5	相模湾	小栗一将 海洋研究開発機構	堆積物-水境界における酸素・pH分布測定と, 生物殻を用いた環境情報の再構築	7
KT-06-31	12.6(東京)～12.10(東京)	5	東京湾・相模湾・黒潮海域	木暮一啓 東京大学海洋研究所	海洋細菌による微小懸濁粒子の捕獲過程および物質代謝に関する研究	12
KT-07-1	2007.2.21(高知)～2.25(鹿児島)	5	室戸海盆, 土佐海盆, 日向海盆, 屋久島・種子島周辺海域	大路樹生 東京大学大学院理学系研究科	深海性底生生物の進化古生物学的研究	11

航海番号	航海日程(出港～入港 [寄港])	日数	研究海域	首席研究員の氏名と所属(住席代理者)	研究主題	研究者数
KT-07-2	2.27(鹿児島)～3.5(鹿児島)	7	東シナ海	市川香 九州大学応用力学研究所	東シナ海における衛星海面高度計軌道直下の密度・流速構造の計測, 及びトカラ列島海底カルデラの検証	11
KT-07-3	3.8(鹿児島)～3.18(鹿児島) (3.13～3.14鹿児島)	11	東シナ海, トカラ列島 周辺海域, 橘湾, 鹿児島 湾	清川昌一 九州大学大学院理学研 究院	五島海底谷と北部沖縄トラフのテクトニクス・ 鹿児島湾若尊海底火山および橘湾の熱水循環 系の解明・自律型海中ロボットによる熱水性生 物群分布の観測研究-その2	21
KT-07-4	3.20(鹿児島)～3.26(東京)	7	東シナ海, 西日本南岸 域	小松輝久 東京大学海洋研究所	流れ藻の分布・移動とその生態	12
●2007年度						
KT-07-5	2007.4.2(東京)～4.7(東京)	6	遠州灘, 熊野灘, 相模 湾	戸田龍樹 創価大学工学部 (代理 大村亜希子)	タービダイトの堆積が深海底環境に与える影 響に関する研究と海洋表層の低次生物群集の 生産生態と物質循環に関する研究	21
KT-07-6	4.10(東京)～4.13(小名浜)	4	相模湾, 房総・常磐沖	伊藤幸彦 東京大学海洋研究所	黒潮統流・再循環域における水塊構造と生物生 産・輸送過程に関する研究	12
KT-07-7	4.16(小名浜)～4.30(塩釜) (4.21～4.23釧路)	15	三陸沖	植松光夫 東京大学海洋研究所	春季ブルーム時の大気・海洋間の物質循環の変 遷 (SOLAS/BLOCS I & II航海)	13
KT-07-8	5.2(塩釜)～5.5(小名浜)	4	黒潮フロント域および 統流域	西川淳 東京大学海洋研究所	黒潮統流域におけるメソ動物プランクトン, 特 にサルバ類の糞流生産と微生物分解過程に関 する研究	9
KT-07-9	5.8(小名浜)～5.15(東京)	8	房総沖, 黒潮統流前線 域	安田一郎 東京大学海洋研究所	黒潮統流付近における北太平洋中層水の形成 変質過程と生物生産への影響	12
KT-07-10	5.17(東京)～5.20(清水)	4	相模湾	才野敏郎 名古屋大学地球水循環 研究センター	相模湾における基礎生産モニタリング: 通年運 用試験	12
KT-07-11	5.23(清水)～5.29(高知)	7	南海トラフ海域(東海 沖～紀伊半島)	山野誠 東京大学地震研究所	南海トラフに沈み込む海洋プレートの温度構 造と黒潮変動の研究 (IODP)	11
KT-07-12	5.31(高知)～6.7(長崎)	8	奄美大島東方海域	北川貴士 東京大学海洋研究所	マグロ類・ハゼ類卵仔魚の産卵・輸送環境に関 する研究	12
KT-07-13	6.10(長崎)～6.17(下関) (6.13萩)	8	日本海南海域	大志万直人 京都大学防災研究所 附属地震予知研究センター	西南日本背狐の電気伝導度構造および対馬暖 流域における海丘生態系に関する研究	15
KT-07-14	6.19(下関)～6.26(清水)	8	日向海盆, 四国海盆, 熊野灘, 駿河湾	土屋正史 海洋研究開発機構	北西太平洋における底生有孔虫類の分子系統 学的研究: 汎世界的に分布する同一形態集団は 遺伝的に同一か?	7
KT-07-15	6.28(清水)～7.3(東京)	6	相模湾, 伊豆周辺海域	小川浩史 東京大学海洋研究所	相模湾・伊豆周辺海域における各態有機物の分 布, 化学組成及び分解特性に関する研究	12
KT-07-16	7.9(東京)～7.17(東京) (7.12下田)	9	東京湾・相模湾・黒潮 海域	木暮一啓 東京大学海洋研究所	古細菌を中心とした海洋微生物群集の統一的 解析	15
KT-07-17	7.19(東京)～7.27(東京) (7.22～7.23久里浜)	9	相模湾	才野敏郎 名古屋大学地球水循環 研究センター	相模湾の酸素代謝に関する物理・生態系モデル における生化学的パラメータの計測と検証お よび相模湾における基礎生産モニタリング: 通 年運用試験	14
KT-07-18	7.30(東京)～8.2(東京)	4	相模湾	西川淳 東京大学海洋研究所	高解像度ビデオシステム (VPR) を用いた相 模湾におけるマリンスノーの分布と動態に関 する研究	12
KT-07-19	8.4(東京)～8.13(鹿児島) (8.10～8.11高知)	10	房総半島沖から東シナ 海に至る黒潮上とその 周辺海域	原田哲夫 高知大学研究部人文社 会科学系	黒潮上におけるウミアメンボ類の生態学的研 究と行動の比較生理学的研究及び四国沖黒潮 域の古海洋学的プロクシーに関する総合調査 研究	12
KT-07-20	8.16(鹿児島)～8.26(鹿児島)	11	鹿児島湾奥たぎり海域 から湾口まで	浦環 東京大学生産技術研究所	自律型海中ロボットによるタガリのサツマハ オリムシ群集の分布調査手法の研究	14
KT-07-21	8.29(鹿児島)～9.3(鹿児島)	6	南西諸島横当島・宝島 周辺海域	橋瀬久芳 熊本大学大学院自然環 科学研究科	横当島カルデラおよび宝島カルデラの検証	8
KT-07-22	9.5(鹿児島)～9.13(鹿児島)	9	フィリピン海, 東シナ 海	古谷研 東京大学大学院農学生命 科学研究科	貧栄養海域における栄養塩環境変動と低次生 物生産動態に関する研究	10
KT-07-23	9.16(鹿児島)～9.22(長崎)	7	東シナ海北部(済州島 南西海域)	松野健 九州大学応用力学研究所	東シナ海長江希釈水域の基礎生産を支える栄 養塩の起源について	12
KT-07-24	9.25(長崎)～10.4(富山)	10	日本海	浦生俊敬 東京大学海洋研究所	日本海の化学環境と海水循環に関する総合観 測研究 (Asian GEOTRACES, CREAMS/ PICES)	12
KT-07-25	10.7(富山)～10.10(下関)	4	隠岐諸島及び能登半島 地震震源域周辺	大志万直人 京都大学防災研究所 附属地震予知研究センター	西南日本背狐の電気伝導度構造	8
KT-07-26	10.12(下関)～10.18(清水)	7	四国南方	市川香 九州大学応用力学研究所	膠州海山と土佐岩周辺の精細な海面力学高度 の面的な把握	8
KT-07-27	10.21(清水)～10.24(東京)	5	相模湾, 東京湾, 駿河湾, 太平洋黒潮域	小畑元 東京大学海洋研究所	相模湾・東京湾・駿河湾における微量元素の地 球化学的研究 (GEOTRACES)	12
KT-07-28	10.27(東京)～11.2(大槌)	7	房総沖, 福島沖, 三陸 沖	大竹二雄 東京大学海洋研究所	三陸沖における海洋生物の行動生態と環境汚 染に関する研究	12
KT-07-29	11.5(大槌)～11.10(東京)	7	北海道・三陸沖太平洋	小島茂明 東京大学海洋研究所	北海道・三陸沖太平洋における深海底生物の 系統地理学的研究	11
KT-07-30	11.13(東京)～11.21(東京) (11.16～11.17久里浜)	9	相模湾	才野敏郎 名古屋大学地球水循環 研究センター	相模湾における基礎生産モニタリング: 通年運 用試験および海洋の流動環境下における浮遊 生態系の機能の把握に関する研究	14

航海番号	航海日程 (出港～入港 [寄港])	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属(住席代理者)	研究主題	研究者数
KT-07-31	11.24(東京)～11.30(東京)	7	相模湾, 伊豆半島, 小笠原諸島周辺海域	倉持利明 国立科学博物館	古伊豆・小笠原島の生物相的要素(フォッサマグマ要素)に着目した相模湾産底生無脊椎動物の起源探索に関する研究	12
訓練	2008.2.15(大阪)～2.18(横浜)	4	潮岬沖, 駿河湾	稲垣正 東京大学海洋研究所	海洋観測に関する技術的手法の確立	8
KT-08-1	2.20(横浜)～2.22(清水)	3	相模湾	才野敏郎 名古屋大学地球水循環研究センター	相模湾における基礎生産モニタリング: 通年運用試験	11
KT-08-2	2.25(清水)～2.29(清水)	5	駿河湾	加藤憲二 静岡大学理学部	駿河湾表層から深層における浮遊性古細菌の分布と生態に関する研究	9
KT-08-3	3.3(清水)～3.10(長崎)	8	九州西岸沖, 対馬海峡	大路樹生 東京大学大学院理学系研究科	深海性底生生物の進化古生物学的研究および対馬海峡から日本海へ流入する物質フラックス観測	12
KT-08-4	3.13(長崎)～3.19(鹿児島)	7	南西諸島海域(予備海域; 鹿児島湾)	佐野有司 東京大学海洋研究所	我が国南西法海域における海底熱水活動と物質循環の研究	9
●2008年度						
KT-08-5	2008.4.2(東京)～4.9(東京) (4.6伊東)	8	相模湾	才野敏郎 海洋研究開発機構	人工衛星による海洋基礎生産モニタリングシステムの相模湾における実運用と利用 および 相模湾沿岸域における低次生物群集の生産生態と有機物の分解過程に関する研究	8
KT-08-6	4.12(東京)～4.20(東京)	9	伊豆大島近海, 相模湾	石塚治 産業技術総合研究所	相模湾深海性底生有孔虫の代謝活性測定および伊豆小笠原大島火山におけるマグマ長距離移動を伴うマグマ供給システム, 噴火プロセスの解明	12
KT-08-7	4.23(東京)～5.7(東京)	15	房総沖黒潮流域	安田一郎 東京大学海洋研究所	黒潮流域前線における水塊・栄養塩構造と生物生産・浮遊類魚種交代についての観測研究	12
KT-08-8	5.10(東京)～5.16(鹿児島) (5.12鳥羽)	7	本州南方黒潮域	古谷研 東京大学大学院農学生命科学研究科	黒潮域における窒素固定生物の分布生態	11
KT-08-9	5.18(鹿児島)～5.21(鹿児島)	4	鹿児島湾	山中寿朗 岡山大学大学院自然科学研究科	鹿児島湾若狭海底火山熱水系の化学フラックスと微量元素の分布に関する研究	12
KT-08-10	5.24(鹿児島)～5.29(長崎)	6	東シナ海北部男女海盆	多田隆治 東京大学大学院理学系研究科	東シナ海北部IODP掘削予定地点における音響反射面の年代推定と堆積史, 構造発達史の検討	10
KT-08-11	5.31(長崎)～6.5(小倉)	6	対馬海峡	李雅利 水産大学校	対馬海峡から日本海へ流入する物質フラックス観測	12
KT-08-12	6.8(小倉)～6.12(小倉)	5	隠岐諸島周辺	大志万直人 京都大学防災研究所 附属地震予知研究センター	西南日本背狐の電気伝導度構造	6
KT-08-13	6.14(小倉)～6.21(東京)	8	太平洋黒潮流域, 相模湾, 東京湾	木暮一啓 東京大学海洋研究所	海洋細菌群集の逆システムの機能解析及び黒潮域におけるウミアメンボ類(<i>Halobates</i> 属)の生態学的及び比較生理学的研究	12
KT-08-14	6.24(東京)～7.4(東京) (6.29～6.30清水)	11	相模湾, 伊豆黒潮周辺海域	小川浩史 東京大学海洋研究所	相模湾・伊豆黒潮周辺海域における有機物動態に関する研究	13
KT-08-15	7.6(東京)～7.10(東京)	5	相模湾	才野敏郎 海洋研究開発機構	人工衛星による海洋基礎生産モニタリングシステムの相模湾における実運用と利用	12
KT-08-16	7.13(東京)～7.17(東京)	5	相模湾	浜崎恒二 東京大学海洋研究所	相模湾長期観測地点における微生物群集の動態解析	11
KT-08-17	7.19.24(東京)	6	西部北太平洋・三陸沖	佐野有司 東京大学海洋研究所 (代理 藤尾伸三)	西部北太平洋深層における物質輸送と拡散の研究	9
KT-08-18	7.29(晴海)～8.6(鹿児島)	9	南海トラフ(遠州灘, 熊野トラフ, 紀伊沖, 室戸岬)	岩崎望 高知大学総合研究センター	南海トラフ活断層群の分布と構造, 南海トラフの地殻熱流異常, および高知沖寶石サンゴ類の分布と生産量に関する研究	10
KT-08-19	8.8(鹿児島)～8.18(小倉)	11	東シナ海北部(済州島南西海域)	松野健 九州大学応用力学研究所	夏季における東シナ海長江希釈水域の基礎生産を支える栄養塩の起源について	12
KT-08-20	8.21(小倉)～8.27(小倉)	7	隠岐諸島周辺	大志万直人 京都大学防災研究所 附属地震予知研究センター	西南日本背狐の電気伝導度構造	8
KT-08-21	8.29(小倉)～9.2(鹿児島)	5	黒潮域および周辺外洋域	西川淳 東京大学海洋研究所	本州南方黒潮域におけるメソ動物プランクトン, 特にサルバ類の糞流生産と微生物分解過程に関する研究	12
KT-08-22	9.4(鹿児島)～9.12(鹿児島) (9.7～9.9鹿児島)	9	鹿児島湾	浦環 東京大学生産技術研究所	自律型海中ロボット[Tuna-Sand]によるタギリのサツマハオリムシ群集周辺と山中チムニー周辺のTerrain-Navigationによる全自動潜航観測との広域海底調査手法の研究	13
KT-08-23	9.14(鹿児島)～9.19(清水)	6	土佐湾周辺海域	深見公雄 高知大学大学院黒潮圏海洋科学研究科	土佐湾の黒潮周辺海域における海洋構造および生物再生産過程に関する研究	12
KT-08-24	9.22(清水)～9.28(東京) (9.25～9.26久里浜)	7	相模湾	才野敏郎 海洋研究開発機構	人工衛星による海洋基礎生産モニタリングシステムの相模湾における実運用と利用	11
KT-08-25	10.1(東京)～10.8(塩釜)	8	日本海溝海域(三陸沖)	山野誠 東京大学地震研究所	日本海溝に沈み込む太平洋プレートの温度構造と間隙水流動に関する研究	7
KT-08-26	10.10(塩釜)～10.16(塩釜)	7	東北沖日本海溝周辺海域	藤本博己 東北大学大学院理学系研究科	測地および地震観測による東北沖沈み込み帯の海底地殻変動総合観測	5
KT-08-27	10.19(塩釜)～10.26(八戸)	8	本州東北方沖太平洋	窪寺恒己 国立科学博物館	東北日本沖合太平洋における深海動物相の解明と海洋汚染の調査研究	11
KT-08-28	10.28(八戸)～11.3(東京)	7	大槌湾沖・塩屋崎(福島県)沖	町田龍二 東京大学海洋研究所	遺伝情報にもとづく生物多様性の計画の試みおよび陸棚・海溝斜面上部の堆積相構造とその後氷期温暖化に対する応答の研究	11

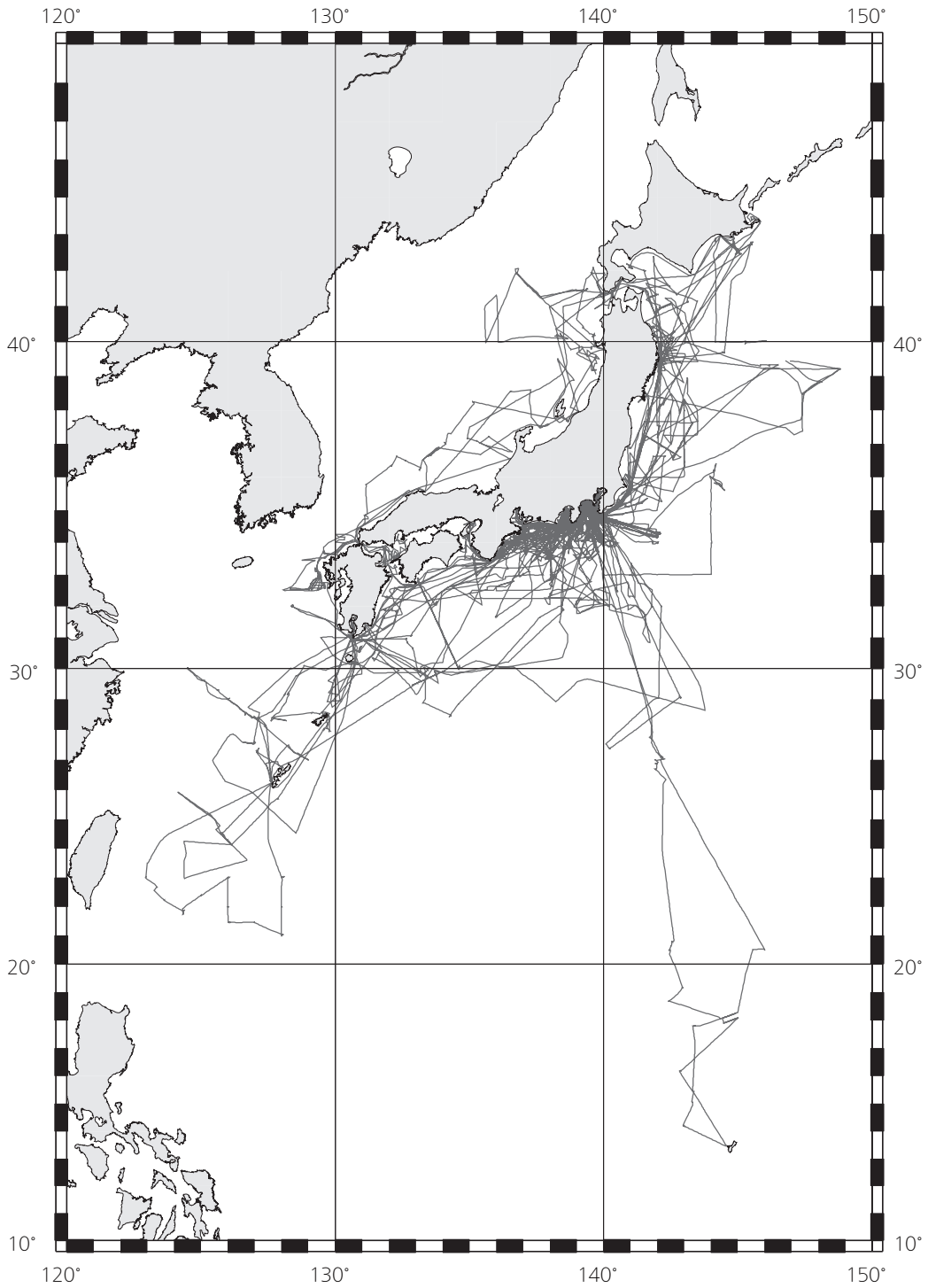
航海番号	航海日程 (出港～入港 [寄港])	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属(首席代理者)	研究主題	研究者数
KT-08-29	11.6(東京)～11.10(東京)	5	相模湾	才野敏郎 海洋研究開発機構	人工衛星による海洋基礎生産モニタリングシステムの相模湾における実運用と利用	11
KT-08-30	11.13(東京)～11.17(鹿児島)	5	遠州灘・熊野灘	白井正明 東京大学海洋研究所	陸域から海域へ流入した洪水流が陸棚域～深海域に与える影響の解明	12
KT-08-31	11.20(鹿児島)～12.2(那覇) (11.24～11.25志布志)	13	東シナ海, 西部北太平洋	塚本勝巳 東京大学海洋研究所	ウナギの産卵回遊生態に関する研究	11
KT-08-32	12.7(那覇)～12.12(那覇)	8	南西諸島	市川香 九州大学応用力学研究所	黒潮上流域で相互作用する黒潮と中規模渦の観測的研究	10
KT-08-33	12.15(那覇)～12.19(那覇)	5	沖縄トラフ・沖縄本島周辺海域	大路樹生 東京大学大学院理学系研究科	深海性底生生物の進化古生物学的研究	12
KT-08-34	12.21(那覇)～12.25(鹿児島)	5	東シナ海	小松輝久 東京大学海洋研究所	東シナ海における流れ藻の分布と生態	11
KT-09-1	2009.3.8(別府)～3.10(高知)	3	別府湾	武岡英隆 愛媛大学沿岸環境科学研究センター	堆積魚鱗を用いたカタチイワシ及びマイワシ資源の長期変動に関する研究	10
KT-09-2	3.13(高知)～3.23(東京)	11	伊豆・小笠原海域	松本亜沙子 東京大学海洋研究所	日本海溝及びその周辺での超深海～大深海底生生物相の分布・多様性調査 (HADEEP) および相模湾産底生無脊椎動物の起源探索	11
● 2009年度						
KT-09-3	2009.4.2(東京)～4.18(東京) (4.10～4.12東京)	17	遠州灘, 伊豆諸島域, 房総半島沖の黒潮域	小松幸生 東京大学大学院新領域創成科学研究科	遠州灘から伊豆諸島黒潮域におけるイワシ類初期生産にかかわる水塊・生態系維持機構の観測研究	11
KT-09-4	4.21(東京)～4.27(東京)	7	相模湾, 伊豆諸島近海, 黒潮統流域	永田俊 東京大学海洋研究所	海洋生態系における物質循環と種多様性の機構論的解明	12
KT-09-5	4.30(東京)～5.7(塩釜)	8	三陸沖海域	植松光夫 東京大学海洋研究所	海洋生物活動による微量気体成分の大気海洋間フラックス変動の直接測定と諸過程に関する研究 (SOLAS/W-PASS-09航海)	11
KT-09-6	5.10(塩釜)～5.18(塩釜)	9	三陸沖	日野亮太 東北大学大学院理学研究科	海底測地観測と海底地震観測による日本海溝の非地震性すべりの揺らぎの解明	8
KT-09-7	5.20(塩釜)～5.28(八戸)	9	西部北太平洋	佐野有司 東京大学海洋研究所	西部北太平洋深層における物質輸送と拡散および千島海溝周辺のメオファウナ群集構造の研究	9
KT-09-8	6.1(八戸)～6.9(塩釜)	9	日本海溝海域(三陸沖), 下北半島沖, 噴火湾	山野誠 東京大学地震研究所	日本海溝に沈み込む太平洋プレートの温度構造と水の分布の研究および日本沿岸における魚類資源の100年スケール変動を駆動する機構, 海洋条件に関する研究	11
KT-09-9	6.12(塩釜)～6.17(東京)	6	黒潮統流南方域	岡英太郎 東京大学海洋研究所	北太平洋亜熱帯モード水に係る物理・化学・生物過程の解明	12
KT-09-10	6.19(東京)～6.29(東京) (6.24～6.25清水)	11	相模湾, 駿河湾, 黒潮域	小川浩史 東京大学海洋研究所	相模湾・駿河湾・伊豆黒潮周辺海域における栄養塩類・有機物の動態と生物活動との相互作用および有機物の化学的性質に関する研究	14
KT-09-11	7.2(東京)～7.6(東京)	5	東京湾, 相模湾, 黒潮海域	木暮一啓 東京大学海洋研究所	表層微生物群集の光環境応答メカニズムの解析	11
KT-09-12	7.8(東京)～7.17(横浜)	10	八丈島南方海域	玉木賢策 東京大学大学院工学系研究科	伊豆小笠原弧明神礁海域における熱水鉱床探査研究	12
KT-09-13	7.24(東京)～7.30(高知)	7	本州南方海域, 東京湾	浦生俊敬 東京大学海洋研究所	本州南方域, 黒潮に関連する海洋の生物地球化学過程の探査 (GEOTRACES)	12
KT-09-14	8.1(高知)～8.5(鹿児島)	5	瀬戸内海西部, 豊後水道	川幡穂高 東京大学大学院新領域創成科学研究科	瀬戸内海西部における古海洋学的研究: 温暖化した縄文時代の人間活動と周辺環境の復元	10
KT-09-15	8.8(鹿児島)～8.21(石垣) (8.14～8.15名瀬)	14	鹿児島県薩摩半島沖～石垣島沖に黒潮域	西田周平 東京大学海洋研究所	黒潮域の漂流生態系における食物網の構造と動態に関する研究	9
KT-09-16	8.24(石垣)～8.31(那覇)	8	沖縄トラフ	松田博貴 熊本大学大学院自然科学研究科	琉球列島における海洋環境と極浅海域・深海域生態系の関係に関する検討	12
KT-09-17	9.8(那覇)～9.13(鹿児島)	6	東シナ海, フィリピン海	古谷研 東京大学大学院農学生命科学研究科	貧栄養海域における生物生産「島効果」の再評価	11
KT-09-18	9.15(鹿児島)～9.21(鹿児島)	7	奄美大島東方沖合海流	小針紘 鹿児島大学水産学部	沈降粒子の形成・変容過程に与える動物プランクトンの影響評価に関する研究	11
KT-09-19	9.23(鹿児島)～9.28(鹿児島)	6	鹿児島湾	巻俊宏 東京大学生産技術研究所	複数のAUVによる鹿児島湾たぎり噴気帯の広域環境マッピング手法の研究	12
KT-09-20	10.2(鹿児島)～10.13(東京) (10.7～10.8高知)	12	東シナ海及び黒潮流域	原田哲夫 高知大学教育研究部人文社会科学系	黒潮上におけるウミアメンボ類 (Halobates 類) の分布・季節変動・繁殖戦略及び環境変動耐性についての研究及び東シナ海における流れ藻の分布に関する研究	17
KT-09-21	10.15(東京)～10.26(塩釜)	12	黒潮統流周辺海域	岩坂直人 東京海洋大学海洋工学部	黒潮統流域における大気海洋双方向作用の観測	12
KT-09-22	10.29(塩釜)～11.8(塩釜)	11	宮城沖	藤本博己 東京大学大学院理学研究科	海底測地観測と海底地震観測による日本海溝の非地震性すべりの揺らぎの解明	5
KT-09-23	11.11(塩釜)～11.17(東京)	7	三陸沿岸域, 仙台湾	木村伸吾 東京大学海洋研究所	三陸沿岸域における海洋生物幼生の輸送拡散過程に関する研究	11
KT-09-24	11.20(東京)～11.24(東京)	5	相模湾	豊福高志 海洋研究開発機構	深海生底生有孔虫殻の化学・同位体組成に記録される情報	10
KT-09-25	11.27(東京)～12.1(東京)	5	相模湾および沖合黒潮域	西田周平 東京大学海洋研究所	相模湾における漂流群集の種多様性と生態機能に関する研究 (CoML-CMarZ航海)	11
KT-09-26	12.7(東京)～12.21(大阪)	15	利根川沖・伊勢湾沖	塚本勝巳 東京大学海洋研究所	新型ポップアップタグによるウナギの産卵回遊行動の解明	8

航海番号	航海日程 (出港～入港 [寄港])	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属(首席代理者)	研究主題	研究者数
訓練航海 KT-10-1	2010.2.10(大阪)～2.18(長崎)	9	南西諸島海域	今井圭理 東京大学海洋研究所	海洋観測に関する技術手法の確立	9
	2.22(長崎)～3.7(東京) (2.28～3.1那覇)	14	東シナ海 黒潮域	小松輝久 東京大学海洋研究所	東シナ海における流れ藻の分布と生態	12
KT-10-2	3.10(東京)～3.14(東京)	5	相模湾, 沖合黒潮域	西田周平 東京大学海洋研究所	相模湾における漂流群集の種多様性と生態機能に関する研究 (CoML-CMarZ 航海)	8
KT-10-3	3.17(東京)～0.23(東京)	7	伊豆・小笠原弧明神礁 周辺海域	飯笹幸吉 東京大学大学院新領域 創成科学研究科	明神礁周辺の火山フロント; 背弧リフト 遷移域における熱水噴出活動集中探査研究	8
●2010年度						
KT-10-4	2010.4.6(東京)～4.15(塩釜)	10	宮城沖	伊藤喜宏 東北大学大学院理学研究科	海底測地・地震観測による日本海溝の非地震性すべりの解明	5
KT-10-5	4.18(塩釜)～4.22(函館)	5	噴火湾, 苫小牧沖, 下 北半島沖	加三千宣 愛媛大学上級研究員セ ンター	噴火湾及び下北半島沖における古海洋学的研究	8
KT-10-6	4.25(函館)～5.8(長崎) (5.1～5.2新潟)	14	津軽海峡～五島列島福 江島南沖	土屋正史 海洋研究開発機構	日本海における有孔虫類の遺伝的多様性の調査および佐渡海盆周辺海域への物質供給増加の影響調査	18
KT-10-7	5.11(長崎)～5.17(富山)	7	北部東シナ海, 対馬海 峡, 能登半島沖	木元克典 海洋研究開発機構	日本海南部における現生有殻動物植物プランクトンの鉛直空間分布と短期的海洋環境変遷の解明	10
KT-10-8	5.20(富山)～5.29(釧路)	10	日本海, オホーツク海, 北海道沖太平洋	小島茂明 東京大学大気海洋研究 所	日本海, オホーツク海, 太平洋間の深海底生生物の遺伝的交流に関する系統地理学的研究	11
KT-10-9	6.1(釧路)～6.10(塩釜)	10	三陸沖	藤尾伸三 東京大学大気海洋研究 所	日本東方海域における深層流の時間変動と物質輸送の研究	7
KT-10-10	6.13(塩釜)～6.21(東京)	9	関東南方海域 (房総半 島沖, 伊豆諸島東方, 相模湾)	山野誠 東京大学地震研究所	地殻熱流量測定による関東南方沈み込み境界震源域の温度構造の研究	7
KT-10-11	6.24(東京)～6.28(東京)	5	相模湾, 沖合黒潮域	西田周平 東京大学大気海洋研究 所	相模湾における中層漂流群集とマリンスノーの動態に関する研究 (CMarZ航海)	11
KT-10-12	7.1(東京)～7.5(東京)	5	東京湾, 相模湾, 伊豆 黒潮海域	木暮一啓 東京大学大気海洋研究 所	海洋表層微生物群集の光環境応答メカニズムの解析	10
KT-10-13	7.8(東京)～7.19(東京) (7.14～7.15新宮)	12	相模湾, 駿河湾, 伊豆 黒潮周辺海域	小川浩史 東京大学大気海洋研究 所	相模湾・伊豆黒潮周辺海域における生元素動態に関する研究および海洋有機物の化学的性質と動態に関する研究	12
KT-10-14	7.24(東京)～8.2(清水)	10	三陸海岸沖合海域	佐藤克文 東京大学大気海洋研究 所	三陸海岸沿岸域から沖合域にかけて回遊するウミガメ類亜体および雄の採餌生態	6
KT-10-15	8.5(清水)～8.10(清水)	6	駿河湾	田中潔 東京大学大気海洋研究 所	駿河湾における海洋循環と海洋生物の分布に関する研究	10
KT-10-16	8.13(清水)～8.18(鹿児島)	6	熊野灘～土佐湾	大路樹生 名古屋大学博物館	深海底生生物の進化古生物学的研究	12
KT-10-17	8.21(鹿児島)～8.24(鹿児島)	4	鹿児島湾内	佐野有司 東京大学大気海洋研究 所	浅海熱水系における海底堆積物を通じたヘリウム・フラックスの研究	8
KT-10-18	8.26(鹿児島)～8.30(鹿児島)	5	鬼界カルデラ周辺域	清川昌一 九州大学大学院理学研 究科	鬼界カルデラのカルデラ底における熱水活動と海底堆積作用の解明	11
KT-10-19	9.3(鹿児島)～9.14(鹿児島) (9.8平良)	12	東シナ海・フィリピン 海	古谷研 東京大学大学院農学生命 科学研究科	貧栄養海域の生物生産における「島効果」の評価	12
KT-10-20	9.16(鹿児島)～9.22(鹿児島) (9.19鹿児島)	7	鹿児島湾	巻俊宏 東京大学生産技術研究所	複数のAUVによる鹿児島湾若草カルデラの時空間的な環境マッピング手法の研究	12
KT-10-21	9.25(鹿児島)～10.3(長崎)	9	東シナ海, 西部北太平 洋	津田敦 東京大学大気海洋研究 所	北太平洋縁辺海から外洋における生態系の気候変化に対する応答	11
KT-10-22	10.6(長崎)～10.12(那覇)	7	東シナ海, 黒潮域	小松輝久 東京大学大気海洋研究 所	東シナ海における夏季と冬季の流れ藻の分布に関する研究 外洋性ウミアメンボ属3種の分布と棲み分けに関する研究	8
KT-10-23	10.15(那覇)～10.21(那覇)	7	南西諸島海域	嶋永元裕 熊本大学沿岸環境科 学教育研究センター	琉球海溝周辺に生息する小型底生生物群集構造と海底堆積物組成の空間変異に関する研究 /堆積層に覆われた海底熱水系における熱水ブルームの化学組成と微生物群集の関係に関する研究	12
KT-10-24	10.23(那覇)～10.28(那覇)	6	南西諸島海域	山本啓之 海洋研究開発機構	熱水活動域における微生物ループと動物プランクトン捕食連鎖の構造解析	12
KT-10-25	10.31(那覇)～11.7(東京)	8	九州パラオ海嶺北部～ 西七島海嶺北部 (日本 南方海域)	日井明 高知大学理学部	マンガンクラストの観察・採取および化学汚染部室の調査	10
KT-10-26	11.10(東京)～11.19(塩釜)	10	三陸・宮城泉沖	日野亮太 東北大学大学院理学研 究科	海底測地・地震観測による日本海溝の非地震性すべりの解明	6
KT-10-27	11.20(塩釜)～12.1(富山)	10	日本海東部	松野健 九州大学応用力学研究所	日本海中深層における鉛直拡散係数の計測と水平循環の推定	10
KT-10-28	12.4(富山)～12.8(八戸)	5	日本海	加藤真 京都大学大学院地球環境 学舎	深海底ベントスの共生者・寄生者群集の解明	6
KT-10-29	12.11(八戸)～12.22(大阪)	12	房総沖・伊勢湾沖	塚本勝巳 東京大学大気海洋研究 所	新規開発のポップアップタグによるウナギ産卵回遊行動の解明	9
訓練航海	2011.1.29(大阪)～2.2(横須賀)	5	伊豆小笠原海溝, 相模 湾	前田和宏 海洋研究開発機構	海洋観測に関する技術手法の確立	12

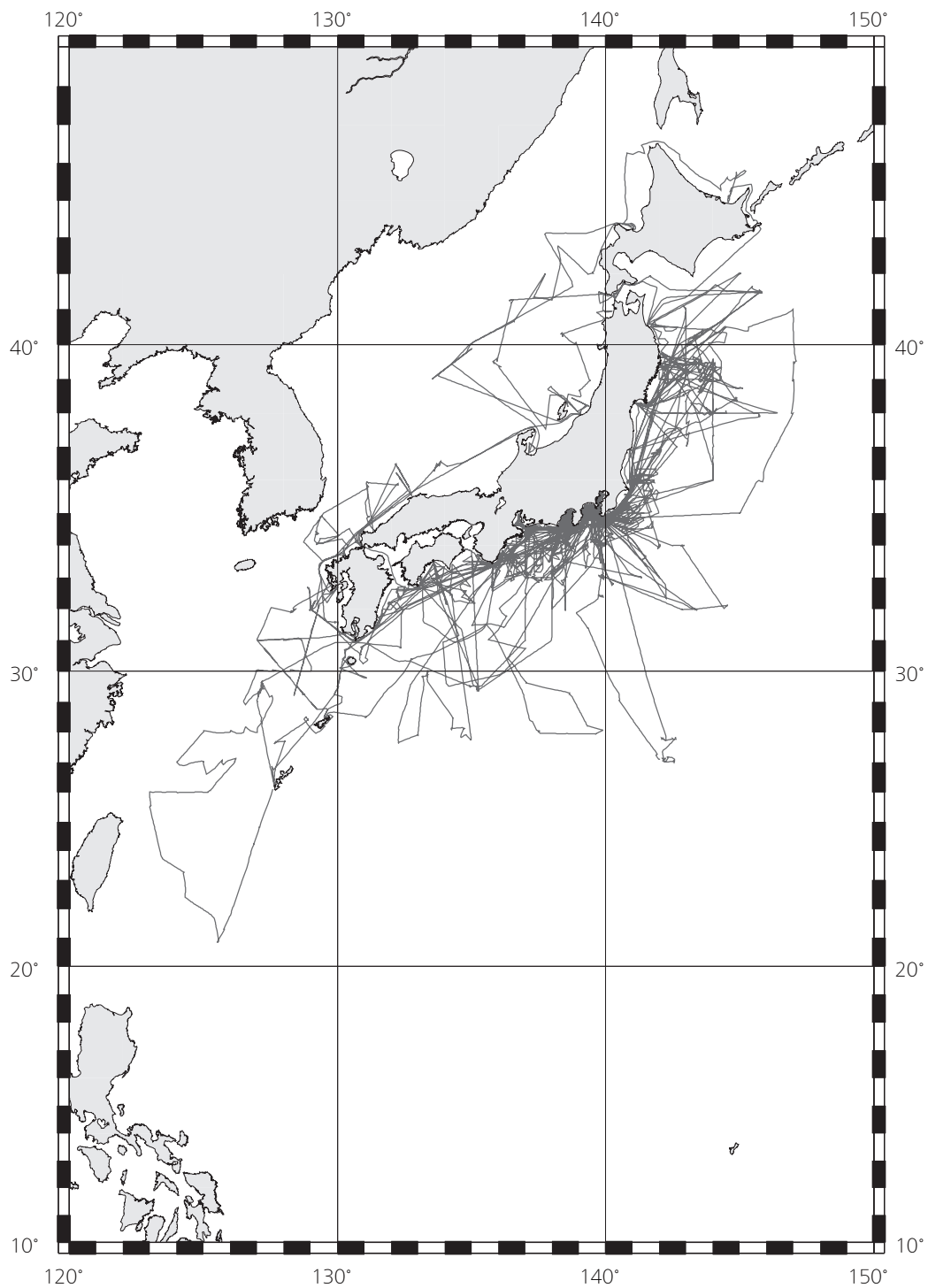
航海番号	航海日程(出港～入港 [寄港])	日数	研究海域	主席研究員の氏名と所属(住席代理者)	研究主題	研究者数
訓練航海	2.3(横須賀)～2.15(長崎) (2.5～2.7東京, 2.9清水, 2.11～2.12東京)	13	伊豆小笠原海溝、相模湾、駿河湾、遠州灘	前田和宏・長谷川繁行・川淵桃子 海洋研究開発機構	外部委託引継ぎに伴う、運行業務引継ぎの確立	11
KT-11-1	2.18(長崎)～2.24(鹿児島)	7	東シナ海	小松輝久 東京大学大気海洋研究所	東シナ海における夏季と冬季の流れ藻の分布	12
KT-11-2	2.26(鹿児島)～3.2(鹿児島)	5	鹿児島湾	巻俊宏 東京大学生産技術研究所	複数のAUVによる鹿児島湾若草カルデラの時空間的な環境マッピング手法の研究	10
KT-11-3	3.8(東京)～3.12(東京)	5	相模湾、沖合黒潮域	西田周平 東京大学大気海洋研究所	相模湾における中層漂流群集とマリンスノーの動態に案する研究	9
KT-11-4	中止					
●2011年度						
KT-11-5	2011.4.13(東京)～4.24(東京) (4.19～4.29東京)	12	遠州灘、伊豆諸島域、房総半島沖の黒潮域	小松幸生 東京大学大学院新領域創成科学研究科	春季の黒潮下流域におけるNutrient Streamの生態系への効果とイワシ類仔魚の初期減耗過程の解明	11
KT-11-6	4.26(東京)～5.4(函館)	9	東日本沖太平洋	藤本博己 東京大学大学院理学系研究科	海底測地・地震観測による日本海溝の非地震性すべりの解明(震災対応)	9
KT-11-7	5.7(函館)～5.13(函館)	7	北海道東南海域	鈴木光次 北海道大学大学院地球環境科学研究院	春季親潮珪藻ブルーム期の基礎生産特性と生物地球化学過程の動態に関する研究	12
KT-11-8	5.17(函館)～5.24(小樽)	8	オホーツク海(網走湾)、北海道沖日本海	小島茂明 東京大学大気海洋研究所	系統地理と耳石解析によるオホーツク海日本海間における深海底魚類の分散と隔離、すみ分け過程の解明	12
KT-11-9	5.27(小樽)～6.4(境)	9	日本海中部	長谷川和範 国立科学博物館	日本海における深海性動物相の解明と汚染物質の調査	12
KT-11-10	6.7(境)～6.10(長崎)	4	日本海山陰沖	辻本彰 島根大学教育学部	日本海南部対馬暖流域における最近のメイオベントス群集の変化と海水温上昇との関係	12
KT-11-11	6.12(長崎)～6.19(鹿児島)	8	薩摩硫黄島・竹島近海	清川昌一 九州大学理学研究科	鬼界カルデラの形成過程とカルデラ底における堆積作用の解明 浅海熱水系におけるヘリウム・フラックスと深海サンゴの研究	17
KT-11-12	6.22(鹿児島)～6.28(神戸)	7	九州・四国沖	嶋永元裕 熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター	九州・四国沖における底生生物の生態学的・系統分類学的研究。および海底堆積物組成の解析	12
KT-11-13	6.30(神戸)～7.2(和歌山)	3	大阪湾	川嶋徳高 東京大学大気海洋研究所	瀬戸内海東部、大阪湾における古海洋学的研究：縄文時代、弥生時代、古墳時代の人間活動と周辺環境の復元	9
KT-11-14	7.4(和歌山)～7.8(新宮)	5	紀伊半島周辺、黒潮流域	猿渡敏郎 東京大学大気海洋研究所	黒潮を介した、小型底魚類の加入・着底機構に関する研究	11
KT-11-15	7.12(新宮)～7.18(清水)	7	南海トラフ周辺海域(紀伊半島沖)	山野誠 東京大学地震研究所	地殻熱流量測定による東南海・南海地震震源域境界付近の温度構造の研究	7
KT-11-16	台風のため中止	5				12
KT-11-17	7.29(東京)～8.5(八戸)	8	三陸沖沿岸海域、震源周辺海域	浜崎恒二 東京大学大気海洋研究所	巨大海底地震に伴う再堆積過程及び生態系の変化に関する研究(震災対応)	12
KT-11-18	8.6(八戸)～8.13(函館)	8	三陸から道東の沖合海域	渡邊良朗 東京大学大気海洋研究所	親潮系冷水域におけるカクチイワシの初期生態研究	11
KT-11-19	8.15(函館)～8.20(八戸)	6	日本海東部	松野健 九州大学応用力学研究所	日本海中深層における鉛直拡散係数の計測と水平循環の推定	11
KT-11-20	8.21(八戸)～8.25(八戸)	5	三陸沖	豊福高志 海洋研究開発機構	古溶存酸素 proxy の確立：有孔虫の生物多様性・群集組成・殻中の redox sensitive な元素組成のアプローチ	12
KT-11-21	8.27(八戸)～9.4(八戸) (8.29大槌)	9	東北地方太平洋沖・沿岸	木戸元之 東北大学大学院理学研究科	三陸沖合における海底測地観測、沿岸潮流調査および海鳥の行動生態に関する研究(震災対応)	6
KT-11-22	9.5(八戸)～9.13(東京)	9	茨城県及び福島県東方大陸棚・大陸棚斜面上とその周辺海域	田中潔 東京大学大気海洋研究所	常磐沖沿岸及びその周辺海域における海洋循環と海洋環境に関する研究(震災対応)	9
KT-11-23	9.18(高知)～9.30(鹿児島) (9.24～9.25平良)	13	フィリピン海、東シナ海	佐藤光秀 東京大学大学院農学生命科学研究科	貧栄養海域の生物生産における「島効果」の評価	9
KT-11-24	10.2(鹿児島)～10.8(鹿児島) (10.5～10.6鹿児島)	7	鹿児島湾	巻俊宏 東京大学生産技術研究所	自律型海中ロボット群による鹿児島湾熱水チムニーおよびサツマハオリムシ群集のマルチセンサーマッピング	16
KT-11-25	10.10(鹿児島)～10.15(清水)	6	熊野灘、遠州灘、駿河湾を含む南海トラフ域	豊福貴志 海洋研究開発機構	Lysocline Ecosystem：石灰化と溶解との狭間の生態系	10
KT-11-26	10.16(清水)～10.24(東京)	9	伊豆、小笠原孤島、明神礁周辺海域	飯笹幸吉 東京大学大学院新領域創成科学研究科	伊豆・小笠原孤島明神礁周辺海域の火山フロート：背弧リフト域における海底熱水鉱床の調査研究	10
KT-11-27	10.26(東京)～11.3(東京)	9	福島沖、三陸沖	植松光夫 東京大学大気海洋研究所	福島原子力発電所事故により大気・海洋環境へ放出された放射性物質の分布と生物地球化学的挙動の観測(震災対応)	11
KT-11-28	11.10(東京)～11.19(東京)	10	東北沖	藤本博己 東北大学大学院理学研究科	海底測地・地震観測による日本海溝の非地震性すべりの解明	7
KT-11-29	11.21(東京)～11.28(鹿児島)	8	伊豆小笠原諸島海域	山本啓之 海洋研究開発機構	熱水活動域における微生物ループと動物プランクトン捕食連鎖の構造解析	12

航海番号	航海日程（出港～入港 [寄港]）	日数	研究海域	首席研究員の氏名と所属(首席代理者)	研究主題	研究者数
KT-11-30	11.30(鹿児島)～12.8(那覇)	9	沖縄トラフ及び宮古島 周辺海域	新井晃作 産業技術総合研究所	沖縄島一宮古島に沈みゆく島嶼に関する地質 層序・構造運動に関する研究及び第四紀黒潮変 動の解明とIODPプロポーザルのサイト・サー ベイ	9
KT-11-31	12.10(那覇)～12.18(那覇)	9	南西諸島海域	塚本勝巳 東京大学大気海洋研究 所	沿岸域におけるウナギの産卵回遊生態と接岸 回遊生態解明	10
KT-11-32	12.20(那覇)～12.26(鹿児島)	7	東シナ海	小松輝久 東京大学大気海洋研究 所	東シナ海の流れ藻の分布と移動	10
訓練航海	2012.1.19(大阪)～1.24(横須賀)	6	伊豆小笠原・相模湾	稲垣正 東京大学大気海洋研究所	海洋観測に関する技術手法の確立	5
KT-12-1	3.4(東京)～3.9(東京)	6	三陸沖から相模湾にか けての沿岸域	西田周平 東京大学大気海洋研究 所	沿岸生態系における放射性物質の分布と動態 に関する研究(震災対応)	12
KT-12-2	03.11(東京)～3.16(高知)	6	伊豆七島海域～日本南 方海域	臼井朗 高知大学理学部	鉄マンガン酸化物クラスト形成の時空変動と 海洋循環	7
KT-12-3	03.19(高知)～3.29(東京)	11	東シナ海及び九州、四 国、本州の南岸	小松輝久 東京大学大気海洋研究 所	東シナ海の流れ藻の分布と移動	12

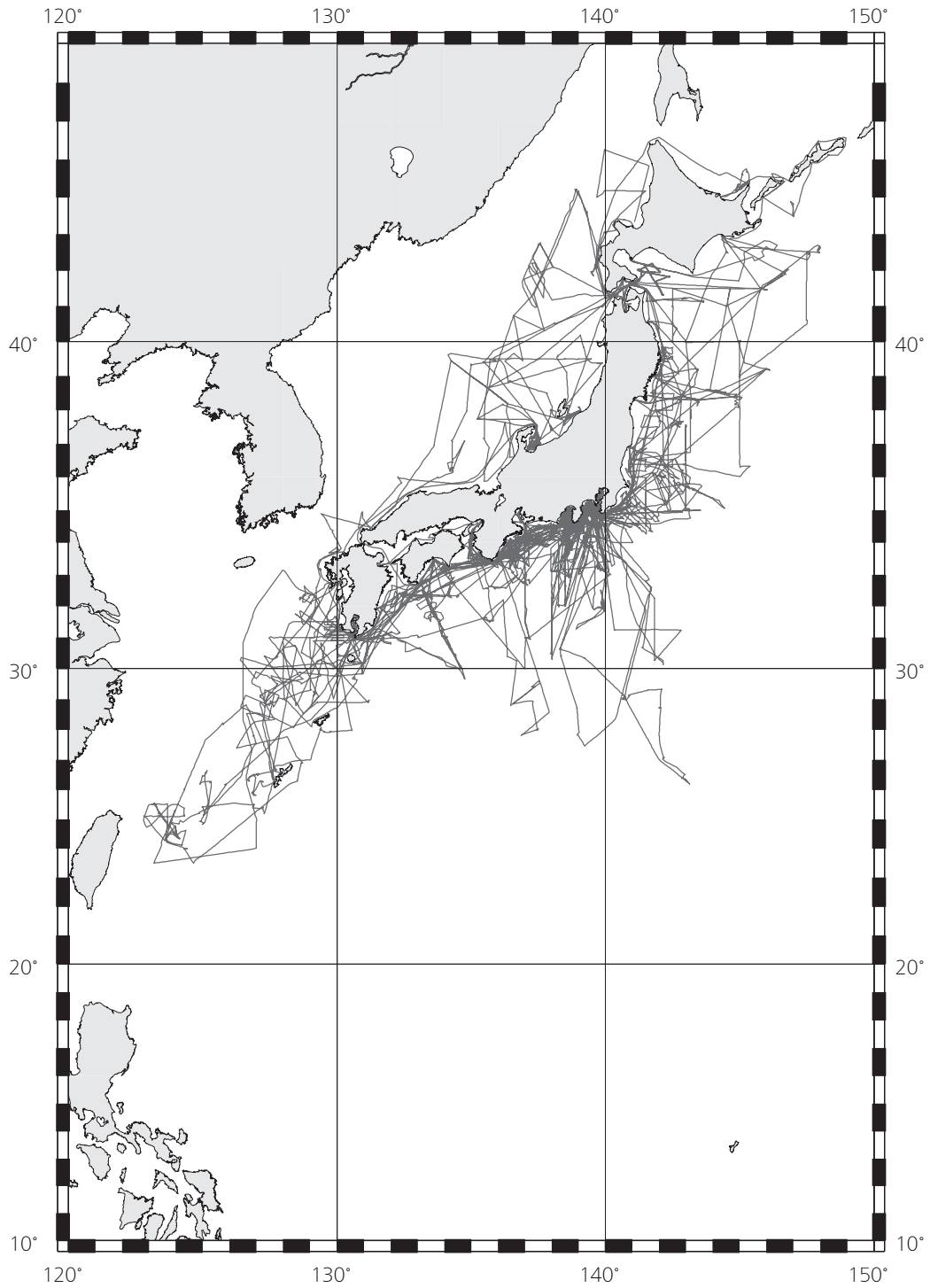
淡青丸航跡図 [1992～1996年度]



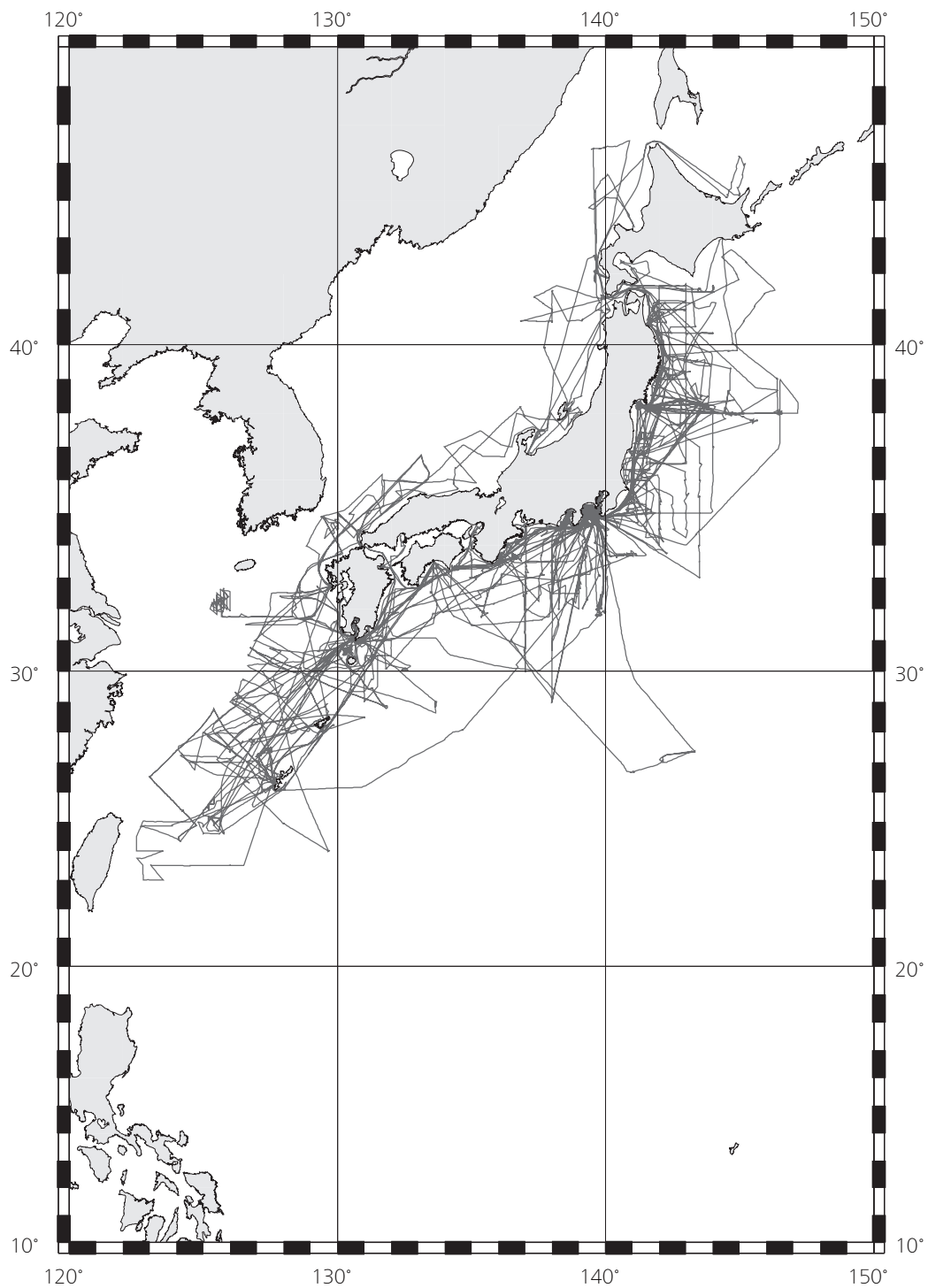
淡青丸航跡図 [1997～2001年度]



淡青丸航跡図 [2002～2006年度]



淡青丸航跡図 [2007～2011年度]



資料2-2-1-2 白鳳丸航海

航海番号	航海日程	日数	研究海域	寄港地・寄港期間	主席研究員	所 属	研究主題	研究者数
● 1992年度								
KH-92-2	1992.5.20~6.26	38	伊豆小笠原孤島弧海溝系	横須賀 6.3~6.9	平 朝彦	東京大学海洋研究所	伊豆・小笠原孤島海溝系の地殻構造の研究	31
KH-92-3	7.17~8.10	25	南海トラフ東部及び千島海溝西端部(納沙布岬沖)	釧路 7.25~7.29	小林 和男	東京大学海洋研究所	海溝・トラフの海底微細構造の研究(KAIKO-TOKAI計画ODP)	32
KH-92-4	9.16~10.27	42	西太平洋	オークランド 10.8~10.13 ケアンズ 10.26	野崎 義行	東京大学海洋研究所	西太平洋におけるオーシャンフラックスに関わる地球化学的過程の研究	37
KH-92-5	10.28~12.7	41	西太平洋熱帯海域	ケアンズ 10.31 ラバウル 11.7~11.10	浅井 富雄	東京大学海洋研究所	西太平洋熱帯海域における大気・海洋相互作用に関する研究(TOGA/COARE, WESTPAC)	49
KH-93-1	1993.1.22~3.4	42	中部北太平洋	ホノルル 2.8~2.14	沼地 健一	東京大学海洋研究所	中部北太平洋域の海山の生物群集の研究(WESTPAC)	32
● 1993年度								
KH-93-2	1993.5.13~6.18	37	北太平洋亜熱帯・亜寒帯	函館 5.30~6.4	平 啓介	東京大学海洋研究所	北太平洋の亜熱帯・亜寒帯循環域におけるエネルギー、運動量と物質の輸送過程の研究(WOCE, WESTPAC)	38
KH-93-3	7.8~9.17	72	インド洋	シンガポール 7.17~7.21 ポートルイス 8.10~8.14 ペナン 9.2~9.6	玉木 賢策	東京大学海洋研究所	インド洋中央海嶺の総合地球科学的研究(InterRidge, ODP, WESTPAC)	47
KH-93-4	10.14~12.3	51	西部太平洋中・低緯度海域	ホノルル 11.2~11.9	小池 勲夫	東京大学海洋研究所	西部太平洋中・低緯度海域における生物活動と物質循環に関する研究	40
KH-94-1	1994.2.24~3.22	27	四国沖~房総沖の黒潮海域	横浜 3.8~3.12	青木 一郎	東京大学海洋研究所	多獲性魚類の再生産と加入機構に関する研究	33
● 1994年度								
KH-94-2	1994.5.17~7.7	52	本州東方及び南方海域	塩釜 5.27~5.31 横浜 6.11~6.16	杉本 隆成	東京大学海洋研究所	多獲性魚類及びウナギの再生産と加入機構に関する研究	54
KH-94-3	9.2~10.21	50	西部北太平洋とその隣接海域	横浜 9.23~10.2	平 啓介 野崎 義行	東京大学海洋研究所	海溝域を中心とした物質循環及び海水流動に関する研究(WESTPAC)	64
KH-94-4	11.22~95.2.14	85	南大洋太平洋区	リトルトン 12.9~12.13 ホバート 1.4~1.9 シドニー 1.28~2.1	川口 弘一	東京大学海洋研究所	南大洋の生物生産過程と物質循環過程の総合的研究(SO-GLOBEC, SO-JGOFs)	57
● 1995年度								
KH-95-1	1995.5.12~6.12	32	日本南方及び東方海域	鹿児島 5.21~5.26	平 啓介	東京大学海洋研究所	黒潮の流量・熱輸送と伊豆海嶺東方での流れと水塊の研究	32
KH-95-2	7.7~9.27	83	南西諸島・マリアナ・ミクロネシア・メラネシア海域	アブラ 7.26~7.30 スバ 8.18~8.24 アブラ 9.12~9.15	大和田紘一	東京大学海洋研究所	太平洋熱帯・亜熱帯海域における生物群集及びウナギの回遊生態に関する研究	61
KH-95-3	10.19~11.24	37	北西太平洋	函館 11.3~11.8	小池 勲夫	東京大学海洋研究所	北西太平洋における生元素の循環と生物活動に関する研究(WESTPAC)	49
KH-96-1	1996.2.23~3.21	28	南海トラフ	清水 3.8~3.14	瀬川 爾朗	東京大学海洋研究所	南海トラフ及び銭州海嶺における地球科学(物理, 化学, 生物)的研究(KAIKO-TOKAI, ODP)	49
● 1996年度								
KH-96-2	1996.5.21~7.1	42	本州東方・南方海域、南海トラフ	横浜 6.7~6.14 坂出 6.28~6.29	青木 一郎	東京大学海洋研究所	海洋生態系のダイナミックスの研究及び深海トラフの地球化学的研究	60
KH-96-3	8.2~9.3	33	日本海溝、シャツキー海台、黒潮続流域、相模湾	釜石 8.18~8.23	瀬川 爾朗	東京大学海洋研究所	日本海溝、シャツキー海台を含む海域における地球科学的、海洋生物・水産資源学的研究(ODP)	56
KH-96-4	10.17~11.27	42	日本南方・東方海域	横浜 11.10~11.16	川辺 正樹	東京大学海洋研究所	黒潮の水塊と力学特性及び日本東方海域での深層流の研究(WESTPAC)	36
KH-96-5	12.19~97.2.18	62	東部インド洋・南大洋	フリーマントル 1.5~1.11 ペナン 2.3~2.7	蒲生 俊敬	東京大学海洋研究所	インド洋及びその近接海域におけるオーシャンフラックスに係わる地球化学過程の研究	43
● 1997年度								
KH-97-1	1997.5.16~6.18	34	黒潮続流、黒潮・親潮混合域、遠州灘、鹿島灘	塩釜 5.29~6.5	杉本 隆成	東京大学海洋研究所	小型浮魚類の加入量変動機構に関する研究(GLOBEC)	42
KH-97-2	7.9~9.8	62	北部北太平洋	コディアック 8.1~8.5 バンクーバー 8.16~8.22	川口 弘一 小池 勲夫	東京大学海洋研究所	北部北太平洋における生物群集・生産と物質循環に関する研究	40
KH-97-3	10.24~11.11	19	本州東方海域、三陸沖暖水塊		杉本 隆成	東京大学海洋研究所	黒潮親潮混合域の生物生産環境に関する研究(GLOBEC)	33
KH-98-1	1998.1.16~3.16	60	マリアナ海嶺・マリアナ海盆、オントンジャワ海台、北ソロモン海溝周辺海域	ケアンズ 2.3~2.9 ボンベイ 2.27~3.2	平 朝彦	東京大学海洋研究所	ソロモン・マリアナ海域における海洋地殻構造と物質循環に関する研究(ODP)	52

航海番号	航海日程	日数	研究海域	寄港地・寄港期間	主席研究員	所 属	研究主題	研究者数
●1998年度								
KH-98-2	1998.5.22~7.2	42	マリアナ諸島周辺海域	アブラ 6.2~6.8	塚本 勝巳	東京大学海洋研究所	マリアナ諸島周辺海域におけるウナギの産卵・回遊と海洋微生物群集に関する研究	51
KH-98-3	7.15~8.14	31	西部北太平洋、オホーツク海・及び日本海	小樽 7.29~8.14	野崎 義行	東京大学海洋研究所	西部北太平洋・オホーツク海・日本海における海洋物質循環ダイナミクスに関する研究	42
KH-98-4	9.7~10.28	52	西部北太平洋(親潮水域、移行域及び黒潮水域)	塩釜 9.21~9.25 釜石 10.12~10.16	川口 弘一 杉本 隆成	東京大学海洋研究所	西部北太平洋における生態系の鉛直構造、生物生産及び物質輸送に関する研究(GLOBEC, JGOFS)	44
KH-99-1	1999.1.14~3.4	50	西部北太平洋熱帯・亜熱帯域	ボンベイ 1.27~1.30 アブラ 2.17~2.22	川辺 正樹	東京大学海洋研究所	北太平洋低緯度域における深層西岸境界流と表層・中層海洋循環の研究	33
●1999年度								
KH-99-2	1999.5.18~6.10	24	黒潮統流域、黒潮・親潮混合域	塩釜 5.26~5.30	杉本 隆成	東京大学海洋研究所	黒潮親潮混合域の低次生産環境と生物資源変動機構に関する研究(GLOBEC)	39
KH-99-3	6.25~8.25	62	北部北太平洋・ベーリング海	コディアック 7.11~7.14 シアトル 7.22~7.29	小池 勲夫 徳山 英一	東京大学海洋研究所	北部北太平洋・ベーリング海における生元素循環と海洋地質学・地球物理学的研究(JGOFS, ODP)	52
KH-99-4	9.21~10.25	35	日本海	新潟 10.7~10.12	寺崎 誠	東京大学海洋研究所	日本海の生物生産に関する総合的研究(NEAR-GOOS)	48
KH-00-1	2000.1.14~3.10	57	西部北太平洋・南太平洋・スルー海	ブリスベン 2.1~2.6 セブ 2.29~3.4	大和田紘一	東京大学海洋研究所	西部太平洋における海洋生物群集の生態ならびに多様性に関する研究	46
●2000年度								
KH-00-2	2000.5.19~6.6	19	黒潮統流及びビシャッキーライズ周辺域		小松 輝久	東京大学海洋研究所	黒潮統流及びビシャッキーライズ周辺域における生物分布とその生息環境	23
KH-00-3	6.20~7.27	38	ハワイ以西の北太平洋(主 中緯度海域)	ホノルル 7.5~7.11	野崎 義行	東京大学海洋研究所	北太平洋の物質循環ダイナミクスとオーシャンフラックスに関する研究	35
KH-00-4	9.5~10.19	45	伊豆諸島・伊豆海嶺東方・四国沖・東シナ海	那覇 9.23~9.29	平 啓介	東京大学海洋研究所	東シナ海の時局変動と本州東方の深層循環の観測研究	50
KH-00-5	11.21~1.2.8	80	インド洋	ベナン 11.30~12.4 アデン 12.21~12.25 チェンナイ 1.12~1.17	徳山 英一	東京大学海洋研究所	インド洋およびその近海海域における海底拡大活動と古環境に関する地球科学的研究	40
●2001年度								
KH-01-1	2001.6.18~7.27	40	マリアナ諸島周辺海域	鹿児島 7.6~7.12	平 啓介 塚本 勝巳	東京大学海洋研究所	マリアナ海溝の海水流動と人工湧昇およびウナギの産卵生態と生物多様性に関する研究(新プロ DOBIS 航海)	59
KH-01-2	8.20~10.5	47	熊野海盆・三陸沖・千島海溝・日本海	函館 9.7~9.14	徳山 英一 太田 秀	東京大学海洋研究所	日本海溝の地震発生帯、千島海溝周辺の深海底生生物および熊野海盆・日本海海底堆積物の運搬過程に関する研究	44
KH-01-3	11.27~2.3.1	95	南太平洋・南極海	ウエリントン 12.27~1.2 パート 1.22~1.27 シドニー 2.12~2.16	寺崎 誠	東京大学海洋研究所	中部南太平洋・南大洋の生物活動と生元素の循環に関する研究およびオーストラリア~南極海嶺の地球物理学的研究	55
●2002年度								
KH-02-1	2002.5.7~6.24	49	東シナ海・沖縄トラフ	那覇 5.22~5.25 那覇 6.5~6.10 那覇 6.21	杉本 隆成 渡邊 良朗	東京大学海洋研究所	東シナ海における流動と魚類の生態に関する研究および沖縄トラフ西端部における背弧リフトの地球科学的研究	77
KH-02-2	7.5~8.15	42	マリアナ諸島西方海域	コロール 7.26~8.1	塚本 勝巳	東京大学海洋研究所	ウナギの産卵・回遊生態と海洋生物多様性に関する研究(新プロ DOBIS 航海)	41
KH-02-3	9.9~10.25	47	日本南方海域・東シナ海・日本海	鹿児島 9.22~9.26 博多 10.10~10.14	川辺 正樹	東京大学海洋研究所	黒潮と東シナ海・日本海の海水と流動の研究および四国南方沖における深海底生生物の生態学的研究	64
KH-02-4	11.7~12.18	42	太平洋、セレベス海、スルー海、南シナ海	セブ 11.26~12.2	西田 周平	東京大学海洋研究所	スルー海および周辺海域の生物多様性と物質循環	41
●2003年度								
KH-03-1	2003.5.13~9.8	119	中部・東部太平洋	ヒロ 5.29~6.1 ホノルル 6.20~6.25 カヤオ 7.19~7.24 パペーテ 8.11~8.16	川辺 正樹 佐野 有司 M. F. Coffin	東京大学海洋研究所	太平洋の海洋長期変動、化学フラックスおよび海台の成因に関する総合的研究	68
KH-03-2	9.30~10.17	18	西部北太平洋		小池 勲夫	東京大学海洋研究所	西部北太平洋における生元素循環と生物活動に関する研究(新プロ DOBIS)	31
KH-03-3	11.11~11.28	18	南部フィリピン海		石井 輝秋	東京大学海洋研究所	フィリピン海南部における地質・地球物理学的研究	34

航海番号	航海日程	日数	研究海域	寄港地・寄港期間	首席研究員	所 属	研究主題	研究数
KH-04-1	2004.3.4~3.22	19	日本南方および東シナ海の黒潮周辺域	鹿児島 3.13~3.14	杉本 隆成	東京大学海洋研究所	黒潮流域における低次生産と物質輸送過程に関する研究	31
●2004年度								
KH-04-2	2004.5.13~7.6	55	中西部太平洋, 北西部太平洋	アブラ 5.25~5.27 アブラ 6.3~6.10	塚本 勝巳	東京大学海洋研究所	マリアナ・中西部太平洋におけるウナギの産卵回遊生態に関する研究, フィリピン海の海洋循環に関する古生物学的研究および自律型海中ロボットによるマリアナトラフ熱水地帯観測研究 (DOBIS航海)	61
KH-04-3	7.13~8.27	46	北西部太平洋	釧路 8.5~8.9	津田 敦	東京大学海洋研究所	西部亜熱帯太平洋における鉄濃度調節に対する生物地球化学的応答の研究	41
KH-04-4	9.7~11.15	70	西部北太平洋	アブラ 9.28~10.3 東京 10.28~11.3	川辺 正樹	東京大学海洋研究所	西部北太平洋亜熱帯域の深層循環流に関する海洋物理学的研究および西太平洋海底の地球物理学的研究	43
KH-04-5	11.29~5.3.22	114	南大洋, 太平洋	ホバート 12.14~12.18 オー克蘭ド 1.15~1.20 スバ 2.11~2.16 ボンベイ 3.11~3.15	蒲生 俊敬 佐野 有司 木暮 一啓	東京大学海洋研究所	南太平洋における微量元素マッピング及び生物地理に関する総合研究 (GEOTRACES およびDOBIS)	76
●2005年度								
試験・訓練	2005.5.1~5.6		南西諸島海域, 九州南方太平洋		稲垣 正	東京大学海洋研究所	海洋観察に関する技術手法の確立	15
KH-05-1	5.10~7.31	83	マリアナ・中西部太平洋・フィリピン海・琉球	那覇 5.26~5.29 アブラ 6.13~6.15 アブラ 6.27~6.30 アブラ 7.15~7.17	塚本 勝巳 太田 秀 沖野 郷子	東京大学海洋研究所	琉球海溝付近・沖繩背弧海盆の深海底生生物群集の生態学的・系統分類学研究および表層堆積物の圧縮成過程の研究/マリアナ・中西部太平洋におけるウナギの産卵回遊生態に関する研究/フィリピン海南部の構造とテクトニクスに関する研究	50
KH-05-2	8.8~9.21	45	中部北太平洋	ホノルル 8.29~9.2	小池 勲夫	東京大学海洋研究所	中部北太平洋における生物地球化学的プロセスの南北断面観測	40
KH-05-3	9.27~11.14	49	日本海溝・千島海溝周辺海域	塩釜 10.5~10.6 塩釜 10.17~10.22	藤本 博己	東北大学大学院理学研究科	日本海溝・千島海溝域における海洋底沈み込み過程に関する測地・地球物理学的研究	27
KH-05-4	11.17~12.28	42	北西太平洋	塩釜 12.11~12.15	川辺 正樹	東京大学海洋研究所	北西太平洋亜熱帯域の海洋循環と水塊の研究	28
KH-06-1	2006.1.11~3.17	66	北西太平洋 (黒潮統流域及び南側再循環流域)	東京 1.27~1.30 東京 2.18~2.21	安田 一郎	東京大学海洋研究所	黒潮統流域・再循環域における水塊形成変動・生物生産・大気海洋相互作用・テクトニクスの研究	46
●2006年度								
試験・訓練	2006.5.11~5.16	6	下関沖, 四国沖, 熊野灘, 駿河湾		稲垣 正	東京大学海洋研究所	海洋観察に関する技術手法の確立	
KH-06-2	6.2~9.5	96	マリアナ・中西部太平洋・北西太平洋・シャツキー海台・フィリピン海・琉球	鹿児島 6.13~6.14 那覇 6.23~6.26 アブラ 7.12~7.15 アブラ 7.27~7.30 アブラ 8.12~8.15	塚本 勝巳 植松 光夫 大竹 二雄 小松 輝久	東京大学海洋研究所	西部北太平洋における大気・海洋間の生物地球化学的相互作用と仔稚魚の輸送環境, 表層生態系ならびにウナギの産卵回遊生態に関する研究	105
KH-06-3	9.14~10.23	40	茨城沖・宮城沖・南海トラフ・奄美海台~四国海盆北西部	横浜 9.25~9.29 横浜 10.21~10.23	芦 寿一郎	東京大学海洋研究所	南海トラフ活断層, 茨城沖・宮城沖プレート境界, 北太平洋古海洋に関する地質・地球物理学的研究 (IODP)	36
KH-06-4	11.2~7.3.7	126	インド洋・東地中海	ポートルイス 11.23~11.26 ポートルイス 12.4~12.7 ポートルイス 12.23~12.26 ポートルイス 1.5~1.7 ピレウス 1.21~1.26 ピレウス 2.5~2.8 横浜 3.5~3.7	青山 潤 玉木 賢策 徳山 英一	東京大学海洋研究所 東京大学工学系研究科 東京大学海洋研究所	インド洋におけるウナギ属魚類 <i>Anguilla</i> spp. の産卵・回遊生態の解明 インド洋中央海嶺口ドリゲスセグメント地球科学総合探査 現行テクトニクスが支配する東地中海の地質学的・生物学的研究	90
●2007年度								
KH-07-1	2007.4.3~6.8	67	親潮域, 北西太平洋	函館 5.4~5.9	池田 勉 川辺 正樹	北海道大学大学院水産科学研究院 東京大学海洋研究所	親潮周辺海域の低次生物生産過程の高精度解析 西部北太平洋における水塊の形成・輸送・変質過程の研究	57
試験・訓練	7.20~7.27	8	熊野灘, 四国沖, 伊豆小笠原海溝		蒲生 俊敬	東京大学海洋研究所	海洋観察に関する技術手法の確立	25
KH-07-2	8.3~10.1	60	中西部太平洋, 北西太平洋	アブラ 8.19~8.21 アブラ 8.29~9.1 アブラ 9.15~9.18	塚本 勝巳 小原 泰彦 塚本 勝巳 石塚 治	東京大学海洋研究所 海上保安庁海洋情報部 東京大学海洋研究所 産業技術総合研究所	ウナギ <i>Anguilla japonica</i> の産卵生態の全貌解明/パレスペラ海盆の海洋コアコンプレックスから探る背弧海盆リソスフェアの組成と構造の解明	67

航海番号	航海日程	日数	研究海域	寄港地・寄港期間	首席研究員	所 属	研究主題	研究者数
KH-07-3	10.12~11.21	41	三陸沖日本海溝	塩釜 10.23~10.27 塩釜 11.9~11.10	藤本 博己 日野 亮太	東北大学大学院理学研究科 東北大学大学院理学研究科	日本海溝近傍における沈み込み過程の研究	38
KH-07-4	12.13~8.3.14	93	インド洋、南極海インド洋区	ポートルイス 1.3~1.6 ケープタウン 1.27~1.31 フリーマントル 2.26~3.1	篠原 雅尚 原田 哲夫 島 伸和 野木 義史	東京大学地震研究所 高知大学教育学部 神戸大学内海域環境教育研究センター 国立極地研究所	ウミアメンボ <i>Halobates micans</i> の3大洋間分布比較および環境応答性における地理的変異についての生理・生態学的研究/マンツルの組成の違いに対応した中央海嶺拡大様式の変化の研究/南大洋の環境変動に関する総合研究	41

●2008年度

試験・訓練	2008.5.9~5.15	7	熊野灘、八丈島北東沖、房総沖		稲垣 正	東京大学海洋研究所	海洋観測に関する技術手法の確立	11
KH-08-01	5.21~7.14	55	フィリピン海	那覇 6.15~6.19	塚本 勝巳	東京大学海洋研究所	ニホンウナギの回遊と産卵に関する研究	35
KH-08-02	7.29~9.15	49	西部北太平洋	釧路 8.19~8.23	植松 光夫 小川 浩史	東京大学海洋研究所	西部北太平洋における大気と海洋の物質循環・生態系の相互作用(SOLAS/IMBER航海)	59
KH-08-03	9.24~11.7	45	日本南方・東方海域	塩釜 10.6~10.9	川辺 正樹 望月 公廣	東京大学海洋研究所 東京大学地震研究所	日本東方海域における水塊の形成・輸送・変質過程の研究及び房総沖における海洋プレート沈み込みに関する地質学的研究	46

●2009年度

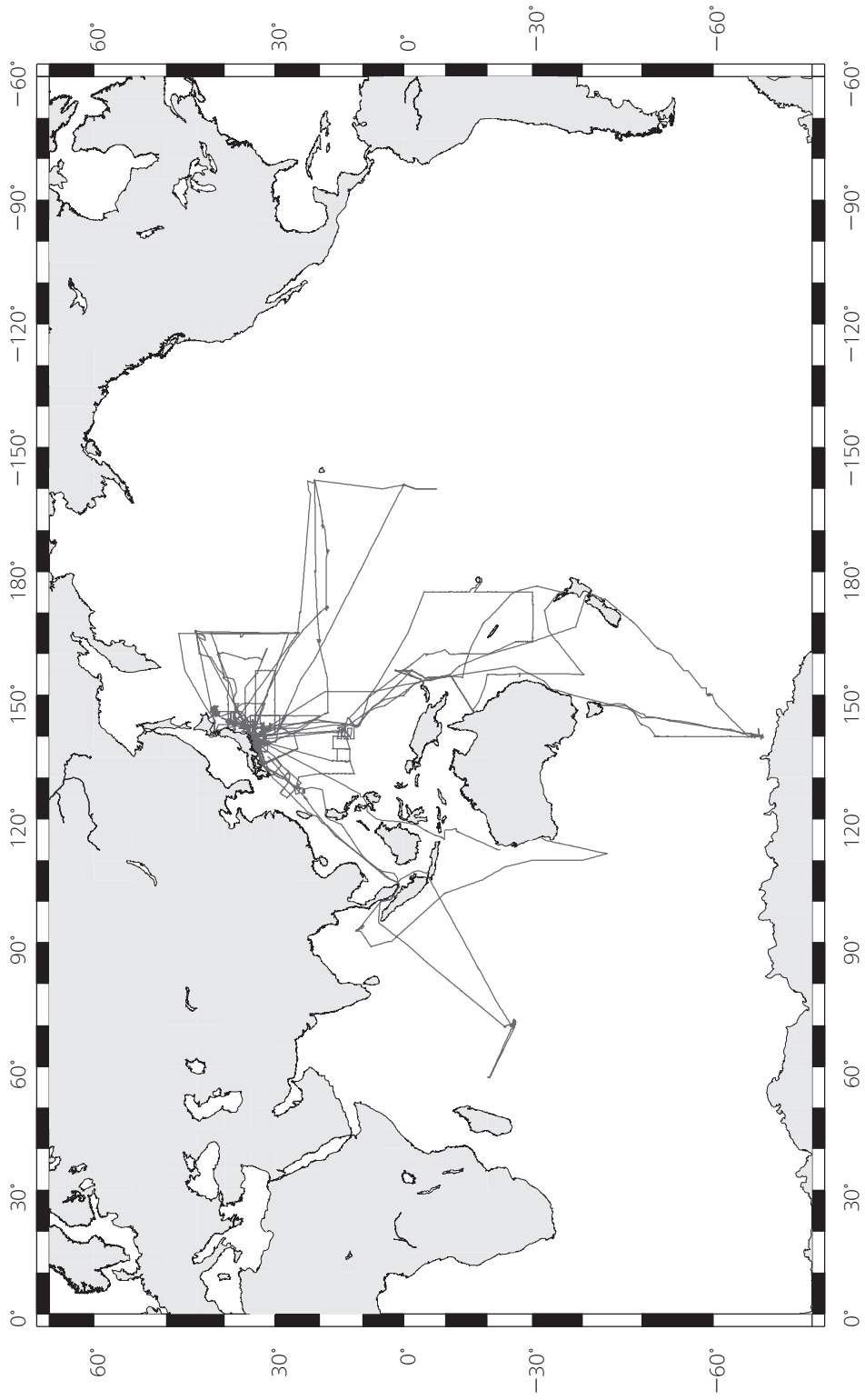
試験・訓練	2009.7.16~7.22	7	熊野灘、八丈島北東沖、房総沖		今井 圭理	東京大学海洋研究所	海洋観測に関する技術手法の確立	17
KH-09-01	4.15~5.5	21	フィリピン海		塚本 勝巳	東京大学海洋研究所	ニホンウナギの回遊と産卵に関する研究	31
KH-09-02	5.14~6.3	21	フィリピン海		塚本 勝巳	東京大学海洋研究所	ニホンウナギの回遊と産卵に関する研究	30
KH-09-03	7.27~8.6	11	房総沖		篠原 雅尚	東京大学地震研究所	房総沖~大島・三宅島近海域における海洋プレートの沈み込みに関する地質学的研究	18
KH-09-04	8.12~9.25	45	北太平洋亜寒帯、アリューシャン・ベーリング海域		安田 一郎	東京大学海洋研究所	アリューシャン列島付近の潮汐混合の実測と強混合域での水塊変質・生態系の研究	36
KH-09-05	11.6~10.3.29	144	インド洋、南極海、セレベス海	コーチン 11.24~11.27 ポートルイス 12.16~12.19 ケープタウン 1.10~1.14 ポートルイス 1.26~1.2	蒲生 俊敬 小畑 元 蒲生 俊敬 沖野 郷子	東京大学海洋研究所	インド洋の微量元素・同位体分布の生物地球化学的縦断観測	53
				ポートルイス 2.10~2.14	大竹 二雄	東京大学海洋研究所	マンツルの組成の違いに対応した拡大様式の変化の研究：南西インド洋海嶺 26-39° E	15
				ポートルイス 2.10~2.14	大竹 二雄	東京大学海洋研究所	インド洋におけるウナギ属魚類 <i>Anguilla</i> spp. の産卵・回遊生態の解明	29
				ペノア 2.25~3.1 ピトン 3.20~3.23	青山 潤	東京大学海洋研究所	スラウェシ島種変海域における熱帯ウナギの産卵場の特定と回遊行動の追跡	29

●2010年度

試験・訓練	2010.5.9~5.15	7	熊野灘、八丈島北東沖、房総沖、駿河湾、伊豆・小笠原海溝		稲垣 正	東京大学大気海洋研究所	海洋観測に関する技術手法の確立	21
KH-10-1	5.18~6.4	18	西部太平洋		津田 敦	東京大学大気海洋研究所	熱帯・亜熱帯太平洋におけるエアロゾル、微量元素、海洋生物の生物地球化学的相互作用の研究および海洋における漂流プラスチック由来の化学物質汚染の調査・研究	34
KH-10-2	6.11~7.23	43	西部太平洋	函館 6.19~21 博多 7.14~17 横浜 7.23	張 勁	富山大学大学院工学研究部	日本近海における微量元素・同位体分布の生物地球化学的縦断観測(極東・アジア GEOTRACES 計画)	52
KH-10-3	7.29~8.25	28	相模・房総、南海トラフ	横浜 7.29 横浜 8.25	芦 寿一郎	東京大学大気海洋研究所	IODP地震発生帯掘削孔周辺での地球科学総合観測	24
KH-10-4	9.1~10.15	43	中部太平洋、マニヒキ海台、赤道周辺海域	ホノルル 9.14~9.18 横浜 10.15	中村 恭之 原田 哲夫	東京大学大気海洋研究所 高知大学教育学部	太平洋におけるウミアメンボの生態、海洋有殻プランクトンの多様性、海洋変動および海台の成因に関する研究	18

航海番号	航海日程	日数	研究海域	寄港地・寄港期間	首席研究員	所 属	研究主題	研究日数
KH-10-5	10.21~11.19	30	スマトラ北西沖, インド洋	横浜 10.21 シンガポール 10.29~10.30 パダン 11.8 ポートルイス 11.19	平田 賢治	気象研究所	巨大津波の発生様式と発生履歴を探索:スマトラ北西沖外苑隆起帯の総合的調査/外洋棲ウミアメンボの分布及び環境応答性に果たす海象・気象動態の役割についての生理・生態学的研究	13
KH-10-6	11.23~12.13	21	インド洋	ポートルイス 11.23 ポートルイス 12.13	沖野 郷子	東京大学大気海洋研究所	インド洋海底熱水系の総合調査	32
KH-10-7	12.17~11.1.17	32	インド洋, 南極海インド洋区	ポートルイス 12.17 フリーマントル 1.17	野木 義史	国立極地研究所	複合分野による南極海インド洋区の総合調査	22
KH-11-1	2011.1.21~2.9	20	オーストラリア西岸域, ティモール海	フリーマントル 1.21 ポर्टダーウィン 1.30~1.31 清水 2.9	横山 祐典	東京大学大気海洋研究所	インドネシア多島海およびティモール海における海水準・古海洋研究	15
KH-11-2	2.11~2.18	8	茨城~房総沖	清水 2.11	望月 公廣	東京大学地震研究所	茨城沖に沈みこんだ海山の構造と周辺の詳細な地震活動	14
KH-11-3	2.25~3.23	27	黒潮統流域, 伊豆海嶺近傍域	晴海 3.11~3.13 (3.14~3.23震災のため中止)	安田 一郎 豊田 邦夫	東京大学大気海洋研究所 東海大学海洋学部	黒潮統流域における浮魚仔稚の輸送環境および大気海洋双方向作用の解明	25
●2011年度								
試験・訓練	2011.5.7~5.13	7	熊野灘, 八丈島北東沖, 房総沖, 駿河湾, 伊豆・小笠原海溝		田中 隆	海洋研究開発機構	海洋観測に関する技術手法の確立	31
KH-11-4	5.20~6.5	17	マリアナ・フィリピン海域		塚本 勝巳	東京大学大気海洋研究所	二ホンウナギの産卵場形成と資源変動メカニズムの解明	27
KH-11-5	6.7~6.21	15	伊豆, 小笠原諸島海域		飯笹 幸吉	東京大学大学院新領域創成科学研究科	小笠原火山弧中軸部の精密地形マッピングに基づく島弧リフトプロセスの研究と熱水鉱床ポテンシャル評価	28
KH-11-7	7.16~8.4	20	西部北太平洋, 福島, 三陸沖		張 勁	富山大学大学院理工学研究部	西部北太平洋における微量元素・同位体分布の生物地球化学的研究:極東・アジアGEOTRACES計画II(震災対応)	31
KH-11-8	8.12~10.4	54	北太平洋北方海域	サンフランシスコ 9.5~9.8	川辺 正樹	東京大学大気海洋研究所	太平洋海洋循環の深層オーバーターンと表層サブダクションの研究	27
KH-11-9	10.14~11.23	41	南海トラフ, 東北沖日本海溝, 日本海東縁上越海盆	台場ライナー埠頭 10.14 晴海 11.2~11.5 台場ライナー埠頭 11.23	松本 良 日野 亮太 芦 寿一郎	東京大学大学院理学系研究科 東北大学大学院理学研究科 東京大学大気海洋研究所	南海トラフ, 日本海溝, 日本海東縁における活断層・地震・地殻変動・メタンハイドレード・底生生物の地質・地球物理・生物学的研究	46
KH-11-10	12.1~12.1.25	56	南北熱帯・亜熱帯太平洋	ホノルル 12.21~12.24 カヤオ 1.25	古谷 研 津田 敦	東京大学大学院農学生命科学研究科 東京大学大気海洋研究所	太平洋熱帯・亜熱帯海域におけるプランクトン群集動態および生物地球化学過程に関する研究	40
KH-12-1	2012.1.29~3.5	37	太平洋赤道海域, 特に東部海域	カヤオ 1.29 ホノルル 2.20~2.23	植松 光夫	東京大学大気海洋研究所	太平洋赤道高生物生産海域における大気海洋間の物質循環と成層圏とのリンゲージおよびウミアメンボの生理・生態学的研究	28

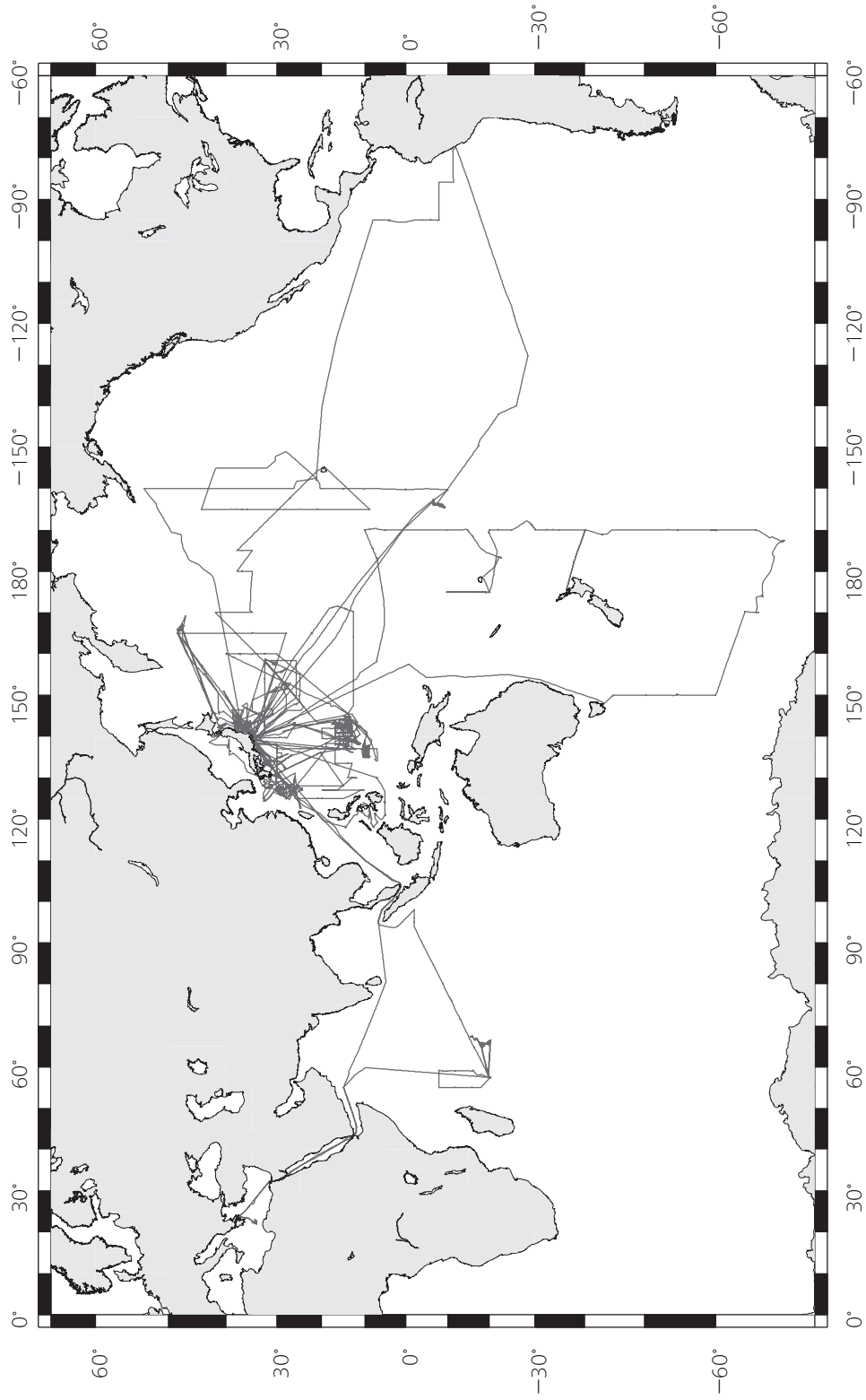
白鳳丸航跡図 [1992～1996年度]



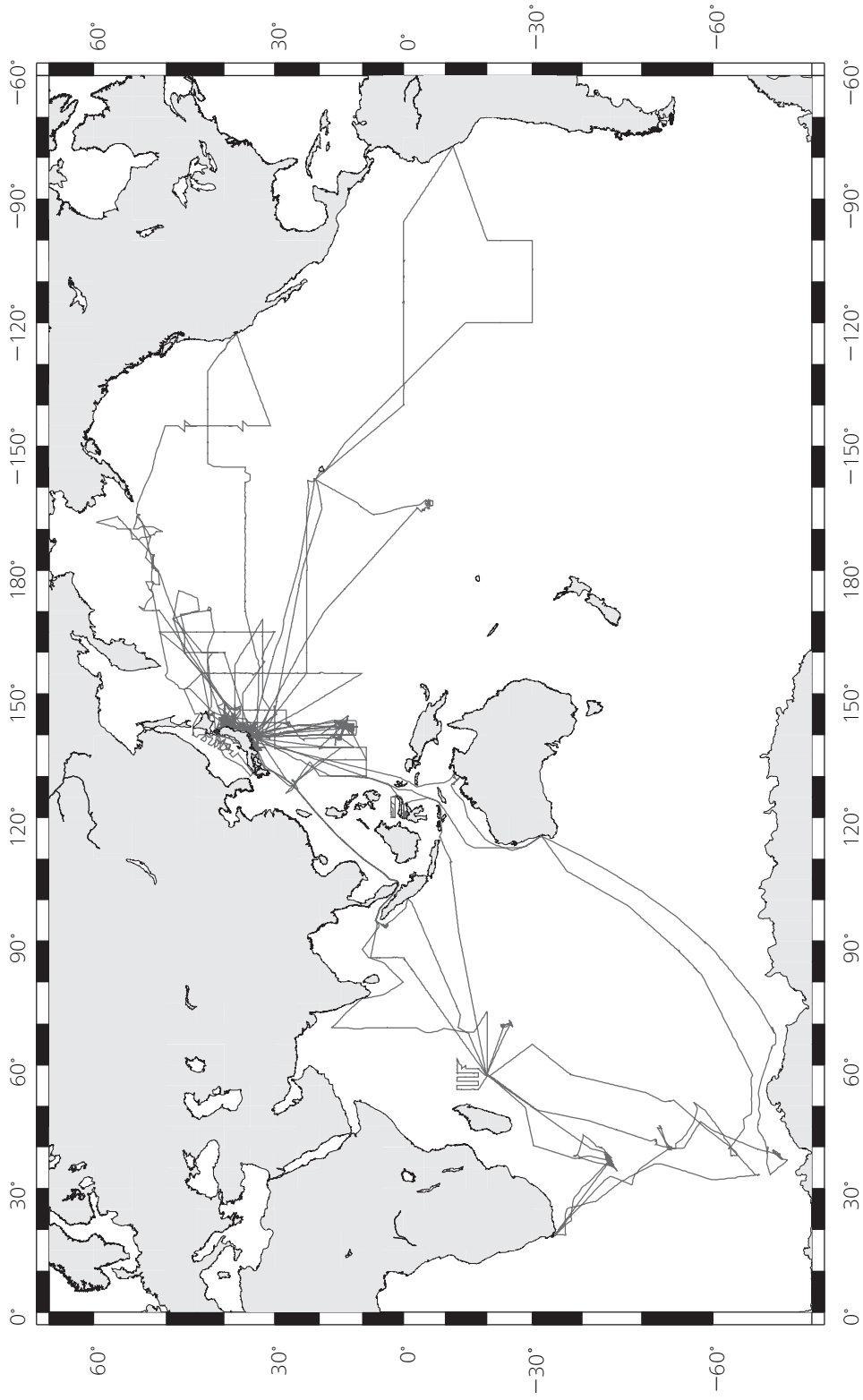
白鳳丸航跡図 [1997～2001年度]



白鳳丸航跡図 [2002～2006年度]



白鳳丸航跡図 [2007～2011年度]



資料2-2-2 陸上施設関連

資料2-2-2-1 研究集会

●海洋研究所(中野) [1990.4~2010.3]

*『東京大学海洋研究所30年史』未掲載の1990・1991年度のデータも含めた

開催期間	研究集会名称	代表者名	参加人数
1990. 5.29 ~ 5.30	フィリピン海とその周辺海域の地球科学—ODPの掘削をおえて	藤岡 換太郎	127
1990. 5.31 ~ 6. 1	遺伝子操作生物の天然への放出に関する研究会	木 暮 一 啓	185
1990. 6. 8	東京湾の物質輸送過程	柳 哲 雄	40
1990. 7. 3	浮魚類の再生産機構と環境の役割	青 木 一 郎	70
1990. 8.21 ~ 8. 22	浅海底ベントスの種間関係および群集生態	玉 置 昭 夫	76
1990. 9. 5	ODP日本海ワークショップ	玉 木 賢 策	28
1990. 9. 7	深海ステーション	瀬 川 爾 朗	198
1990.10. 8	海中無人調査計測機シンポジウム (第7回海中海底工学フォーラム)	浦 環	80
1990.10.25 ~ 10.26	深海における発光現象の解析	大和田 紘 一	57
1990.11. 9	海藻研究における最近の進歩	横 浜 康 継	65
1990.11.13 ~ 11.15	地球の過去の緩急変動リズムと綫状構造	伊 東 敬 祐	62
1990.12.10 ~ 12.11	底生無脊椎動物の幼生の親個体群への加入過程——分布, 着底, 定着および加入	関 口 秀 夫	64
1990.12.12 ~ 12.13	数値シミュレーション・数理的手法を主とした地球内部ダイナミクスの研究	藤 本 博 己	58
1990.12.21	海洋における物質循環と地球環境	野 崎 義 行	69
1990.12.25	流れの構造と水産動植物の分布と移動の研究	河 合 英 夫	35
1991. 1.11	人工衛星による海面リモートセンシングの現状と将来展望	福 島 甫	40
1991. 1.22 ~ 1.23	海洋底地球科学最近の進歩	小 林 和 男	110
1991. 1.24 ~ 1.25	海底ケーブルの地球科学的利用	笠 原 順 三	90
1991. 6. 5	遺伝子情報をもとにした自然生態系の解析	木 暮 一 啓	52
1991. 7.11 ~ 7.12	オーシャンフラックス——地球圏・生物圏におけるその役割	野 崎 義 行	200
1991. 9. 2 ~ 9. 3	魚類内分泌学ワークショップ	金 子 豊 二	160
1991.10. 7	海中無人調査計測機シンポジウム	浦 環	132
1991.11.25 ~ 11.26	海洋性島弧の発達史と背弧拡大——伊豆・小笠原弧の最近の地球科学	藤 岡 換太郎	93
1991.11.27 ~ 11.28	深海底調査研究の現状と将来	末 廣 潔	83
1991.12. 9	生物の分布・成長の解析のための流れの測定法	社 多 哲	72
1991.12.10	沿岸漁業資源培養と海洋循環	坂 本 亘	59
1991.12.12	三浦・房総半島とその周辺海域の地球科学	蟹 江 康 光	44
1991.12.16	浮魚資源の再生産と加入機構	青 木 一 郎	74
1992. 1.16 ~ 1.17	大陸・海洋境界域の電磁気現象	瀬 川 爾 朗	44
1992. 1.23	海洋生命科学における実験生物	森 沢 正 昭	47
1992. 1.24	海洋生物の系統保存とジーンバンク	嵯 峨 直 恒	42
1992. 2.22	気候変動が海洋生態系の変動に及ぼす影響のダイナミクス	杉 本 隆 成	98
1992. 3.16 ~ 3.17	大気海洋相互作用に関するシンポジウム	鳥 羽 良 明	70
1992. 3.18	相模湾およびその周辺域のサイモテクトニクス	徳 山 英 一	71
1992. 3.23	Inter Ridge (国際海嶺研究計画) シンポジウム	藤 本 博 己	50
1992. 3.24	ワークショップ——太平洋の地質・地球物理と深海掘削	西 村 昭	45
1992. 3.26 ~ 3.27	地球ダイナミクスと海洋ダイナミクス	瀬 川 爾 朗	52
1992. 4.22 ~ 4.23	高圧生物化学——水溶液から深海生物まで	谷 口 吉 弘	42
1992. 7.24	東京湾から外洋への物資輸送——東京湾口の沈降粒子のキャラクタリゼーション	柳 哲 雄	40
1992. 7.31	活動的海洋底と生命の進化	柳 川 弘 志	48
1992.10. 5	海中無人調査計測機シンポジウム	前 田 久 明	173
1992.10. 6	暖水塊の物理・化学・生物過程——ストリーマーの構造と機能を中心に	遠 藤 宣 成	32

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
1992.11. 4	種を考える——ホヤでのアプローチ	中内光昭	39
1992.11.24～11.25	中部熱帯太平洋の生物生産	寺崎誠	75
1992.12. 3	海洋学へのCG・GIS技術の効果的利用	斉藤誠一	54
1992.12. 8	海洋生態系の変動機構——GLOBECの重要課題と方法	杉本隆成	67
1992.12.17～12.18	分子生物学的アプローチによる水産生物の系統と進化	沼知健一	162
1992.12.21～12.22	相模湾周辺の地球科学およびシロウリガイ属コミュニティ	蟹江康光	64
1992.12.24～12.25	幼生分散と流れ——海産ベントス個体群の存続機構	向井宏	106
1993. 1.12	地球環境と微生物生態——物質環境研究への新しいアプローチ	加藤憲二	43
1993. 1.18～1.19	わが国における古海洋学研究の現状	大場忠道	60
1993. 2. 5	大洋中央海嶺系研究ワークショップ	藤井敏嗣	44
1993. 2. 8	測地学と地球環境	瀬川爾朗	28
1993. 3. 4	南西太平洋の地球化学	野崎義行	16
1993. 3.23～3.24	大洋底のグローバルダイナミクス——我々はどこまで理解したか	小林和男	180
1993. 5.13～5.14	海洋生物における硬組織研究の新しい展開	大越健嗣	68
1993. 6. 2～6. 3	東北日本横断テクトニクス	堀田宏	97
1993. 8. 2	水生動物の行動と神経系	宗宮弘明	48
1993. 8.30	マグロ類の分類・生態・資源	中村泉	62
1993. 8.31	GLOBECのための新しい生物観測手法	青木一郎	51
1993. 9.20～9.21	無脊椎動物のホルモン——構造と作用	長澤寛道	103
1993. 9.29～9.30	ウナギの生物学と白鳳丸研究航海の展望について	大竹二雄	85
1993.10.12	海中無人調査計測機シンポジウム	前田久明	184
1993.11.11～11.12	火山活動と地殻応力場	小山真人	131
1993.11.16～11.17	海洋と固体地球の研究——TOPEX/POSEIDON海面高度計データの利用	今脇資郎	60
1993.11.18～11.19	海嶺衝突と地質的影響	平朝彦	96
1993.11.24～11.25	栽培漁業の課題と展望——種苗放流事業の進展を防げる原因と解決手法	松宮義晴	269
1993.12.21	黒潮・親潮変動に対する浮魚資源の応答過程——魚種交替の契機を探る	中田英昭	50
1994. 1.10～1.11	自然環境下でのバクテリアの増殖とサバイバル——From log to stationary phase	片山葉子	63
1994. 1.13～1.14	わが国における古海洋学研究の発展	大場忠道	112
1994. 1.17～1.18	海洋観測国際共同研究計画(GOOS)——その成果と展望	平啓介	70
1994. 1.24～1.25	深海生態系と表層形態の相互作用——GLOBECとJGOFsの接点	川口弘一	84
1994. 1.26	黒潮沿岸域の流動と海水交換・魚卵稚仔輸送	松山優治	41
1994. 2.14～2.15	炭酸塩の堆積相、生物相、化学組成と環境変動	松本良	35
1994. 3.11	ガスハイドレートBSRの実態と地球化学的意義	徳山英一	100
1994. 6.29～7. 1	西太平洋大気海洋相互作用(J-COARE)	住明正	53
1994. 9. 5	カジキ類の分類・生態・資源・漁業	中村泉	55
1994. 9.29	海水中の微量元素の地球化学	野崎義行	40
1994.10. 3	海中無人調査計測器	前田久明	55
1994.11. 1～11. 2	砂浜海岸の生態系と物理環境	荻野静也	153
1994.11. 7～11. 8	海洋観測国際共同研究計画(GOOS)	平啓介	76
1994.11.10～11.11	衛星高度計による海洋と固体地球の研究	福田洋一	56
1994.11.15～11.16	陸橋とヒトと生物の渡来	木村政昭	98
1994.11.17～11.18	魚類の成育・適応機能と遺伝子	竹井祥郎	173
1994.12. 5	GLOBEC:気候と海洋生態系の変動——既往資料解析を中心に	杉本隆成	49
1994.12. 6	北太平洋亜寒帯水域および移行水域の低次生産とそのモデリング	岸道郎	45
1994.12. 7～12. 8	漁業生態系モデルによる水産資源評価	松田裕之	156
1994.12.14	東京湾・大阪湾から太平洋への物質フラックス	柳哲雄	25

開催期間	研究集会名称	代表者名	参加人数
1994.12.15～12.16	海産底生無脊椎動物の幼生の親個体群への加入過程	関 口 秀 夫	44
1995. 1.12～ 1.13	カレイ目魚類の変態——その構造と意義	南 卓 志	128
1995. 1.19～ 1.20	干潟の生物群集及び干潟の物質循環と浄化機能	菊 池 泰 二	95
1995. 1.26～ 1.27	古海洋学の大いなる発展	大 場 忠 道	151
1995. 2.20～ 2.21	中央海嶺のダイナミクス	藤 本 博 己	76
1995. 3.24	海底活断層のイメージングとその活動履歴	岡 村 真	40
1995. 5.29～ 5.30	フジツボ類研究の現状と発展	山 口 寿 之	98
1995. 6.29～ 6.30	東海地域・衝突——沈み込み帯のテクトニクス	末 廣 潔	89
1995. 7. 1	炭酸塩の地球化学——炭酸塩の多形形成から生物作用まで	一 國 雅 巳	53
1995.10.16	海中無人調査計測機シンポジウム	浦 環	178
1995.11. 3	沿岸生態系の保護と修復	向 井 宏	82
1995.11. 6～11. 7	「海洋観測国際共同研究計画 (GOOS)」における海洋測定システムの開発と設計	杉ノ原 伸 夫	66
1995.11. 7～11. 8	北太平洋の低次生産環境変動の定期航路船によるモニタリング	木 村 伸 吾	56
1995.11.21～11.22	バイオミネラリゼーション——反応過程の解析と有機マトリックス研究	長 澤 寛 道	111
1995.11.27～11.28	板鰐類の分類・生態・資源に関する研究	田 中 彰	128
1995.11.29	マイクロデータロガー利用による動物行動研究	内 藤 靖 彦	41
1995.11.30	通し回遊現象	塚 本 勝 巳	64
1995.12. 1	地球規模の海洋生態系変動 (GLOBEC) 地球環境変化への応答過程モデル化にむけて	中 田 英 昭	43
1995.12. 7～12. 8	漁業から独立した資源評価手法——海洋生物個体群生態研究法の進展を目指して	白木原 國 雄	178
1995.12.13～12.14	海面高度計データの海洋・個体地球研究への応用	久保田 雅 久	176
1996. 1.16～ 1.17	古海洋学の現状と将来——我々は何をなすべきか	小 泉 格	135
1996. 2. 5～ 2. 7	中央海嶺研究——最近の成果と今後の計画	藤 岡 換 太郎	121
1996. 2.20～ 2.21	天然ガスハイドレート——深海掘削のODP Leg 164の成果と国内研究開発の現状	奥 田 義 久	140
1996. 2.22～ 2.23	南大洋の生物生産過程と物質循環過程	川 口 弘 一	46
1996. 2.26	海洋同位体地球化学の展望	天 川 裕 史	31
1996. 7. 8～ 7. 9	21世紀地球化学への挑戦——深海掘削の新たな展開	平 朝 彦	171
1996. 9.19～ 9.20	梅雨末期のメンスケール雲システムと集中豪雨	木 村 龍 治	47
1996.10.21	海中無人調査計測機シンポジウム	浦 環	178
1996.11. 5	人工衛星による水色リモートセンシングを活用した海洋研	才 野 敏 郎	68
1996.11.12～11.13	動物の変態——現象とその分子機構	渡 邊 俊 樹	70
1996.11.19	地下水挙動の長期予測の可能性——その現状と展望	徳 永 朋 祥	50
1996.11.26～11.27	大気・海洋変動に伴う地球ダイナミクス変動	大 江 昌 嗣	65
1996.11.28	海洋生態系のダイナミクスと計測手法	青 木 一 郎	59
1996.11.29	地球規模の海洋生態系変動 (GLOBEC)——暖水塊及び黒潮親潮移行域の生物生産と環境	遠 藤 宣 成	34
1996.12. 2	地球規模の海洋生態系変動 (GLOBEC)——小型魚類の資源変動機構	和 田 時 夫	42
1996.12. 5～12. 6	南大洋の生物生産過程と物質循環過程 (SO-GLOBEC, J GOFS)	川 口 弘 一	27
1996.12. 5～12. 6	資源管理の数理的研究の展開	原 田 泰 志	164
1996.12. 9～12.10	世界海洋観測システム設計のための研究会	川 辺 正 樹	97
1996.12.12～12.13	再放流と投棄魚の科学——資源・漁業管理における諸問題	二 平 章	228
1997. 1.10	安定同位体による海洋生物研究の展望	南 川 雅 男	50
1997. 1.13～ 1.14	環境変動の共鳴箱としての湖沼・内湾堆積物	鳥 居 雅 之	98
1997. 2.27～ 2.28	炭素塩の同位体化学	松 田 博 貴	95
1997. 5. 8～ 5. 9	水産科学と海洋科学	塚 本 勝 巳	164
1997. 5.21～ 5.22	ヒザラガイの生物学	大 越 健 嗣	136

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
1997. 5.30	魚類の成育・適応機能と遺伝子	川内浩司	73
1997. 6.26 ~ 6.27	原索動物の最新生物学と研究基盤の整備	窪川かおる	110
1997. 9.16	外洋低次生産系の動的構造と栄養塩変動に対する応答	鈴木 款	34
1997. 9.29	海中無人調査計測機シンポジウム	浦 環	213
1997.11.11 ~ 11.12	海面高度計データを基にした海洋と固体地球の研究	今脇資郎	70
1997.11.13 ~ 11.14	海洋観測国際共同研究計画 (GOOS)——研究成果およびその総括	日比谷紀之	86
1997.11.15 ~ 11.16	魚類の環境適応	岩田宗彦	175
1997.11.19	底魚群集の構造と機能を探る	堀川博史	66
1997.11.20 ~ 11.21	魚類の変態機構と生残への適応	沖山宗雄	152
1997.12. 2	海鳥海獣とその餌生物との多様なスケールにおける相互作用	綿貫 豊	47
1997.12. 9 ~ 12.10	Sediment-Water interfaceの動態に関する研究——相模湾を例として	北里 洋	46
1997.12.11 ~ 12.12	21世紀水産資源科学への挑戦——資源保全へ向けての新たな展開	松宮義晴	214
1997.12.17	白亜紀以降の気候変動——No.3ケイ素循環	中森 亨	21
1998. 1. 8 ~ 1. 9	気候のレジーム・シフトに対する海洋生態系の応答	杉本隆成	54
1998. 2.24	沿岸油濁の生態系への負荷とその影響	大和田 紘一	86
1998. 3. 5 ~ 3. 6	炭酸塩の希土類元素地球化学	相沢 省一	62
1998. 3. 9	わが国における鯨類研究の最近の動向と今後の展開	吉岡 基	125
1998. 3.25 ~ 3.27	KAIKO-TOKAI国際シンポジウム	徳山英一	302
1998. 5.14 ~ 5.15	黒潮親潮移行域の低次生産機構——白鳳丸による1997年秋の観測成果を中心に	遠藤宣成	100
1998. 8. 3	科学潜水による海洋生物の観測と行動記録解析	金本自由生	30
1998.10. 6 ~ 10. 7	大陸形成の現行過程と地球物理循環	徳山英一	100
1998.10.26	第2回VNC研究会	木暮一啓	80
1998.11. 4 ~ 11. 5	沿岸海洋環境の変化と生態系の変化	古谷 研	30
1998.11. 6	縁辺海観測国際協同研究計画	平 啓介	70
1998.11.19 ~ 11.20	板鰓類研究における近年の動向	谷内 透	50
1998.11.24 ~ 11.25	ウナギのライフサイクルの解明と制御	塚本勝巳	40
1998.11.26	黒潮・親潮移行域における浮魚類の分布・生態と海洋環境	渡邊良朗	60
1998.12. 9 ~ 12.10	新海洋秩序時代における水産資源の保全と管理	立川賢一	100
1998.12.11	水産学の空白領域	清野聡子	40
1998.12.14 ~ 12.15	海洋生物におけるバイオミネラル化の分子生物学	都木靖彰	50
1998.12.17 ~ 12.18	古海洋学	岡田尚武	100
1998.12.21	黒潮前線の変動に伴う外洋-沿岸相互作用	中田英昭	50
1999. 1.26 ~ 1.27	生物と映像の現状と未来	窪川かおる	100
1999. 2. 5	船舶を用いた海洋大気観測の現状と将来	植松光夫	30
1999. 3. 2 ~ 3. 3	分子海洋学——分子生態学と海洋学の接点	小島茂明	80
1999. 3. 7	海洋物質循環ダイナミクス	野崎義行	50
1999. 3. 9 ~ 3.10	北部北太平洋における生元素循環の特性	小池勲夫	50
1999. 3.18 ~ 3.19	活動的海洋底から海洋への熱・物質フラックス評価	石橋純一郎	50
1999. 5.13 ~ 5.14	軟体動物の最近の動向と将来	斎藤 寛	134
1999. 6.16	地下生物圏シンポジウム	長沼 毅	56
1999. 9. 9 ~ 9.10	多獲性魚類の加入を巡るBottom upとTop down制御	杉本隆成	81
1999. 9.13 ~ 9.14	ウナギ資源の管理状況と保全対象	立川賢一	256
1999. 9.22	森と海の関わり——陸所生態系の内容に対する沿岸生態系の応答	向井 宏	57
1999.10.18	第24回海中海底工学フォーラム	浦 環	180
1999.11. 1	第3回VNC研究会	木暮一啓	60
1999.11.11 ~ 11.12	縁辺海における海洋環境モニタリング	川辺正樹	65

開催期間	研究集会名称	代表者名	参加人数
1999.11.24～11.25	海面変動と遺跡・文明	木村政昭	123
1999.11.29～11.30	中央海嶺研究ワークショップ	木村政昭	63
1999.12. 8	生態学および水産学における統計的方法の新しい展開	粕谷英一	89
2000. 1.11～ 1.21	古海洋学	岡田尚武	167
2000. 3.13	マイクロブ堆積物から見た地球環境と生物進化	松本良	45
2000.10.10	第26回海中海底工学フォーラム	浦環	215
2000.10.27	海洋生物の生理機能の比較分子生物学	浦野明央	36
2000.11. 9～11.10	生体鉱物の形成機構に関する研究集会	佐俣哲郎	76
2000.11.16～11.17	縁辺海モニタリング	平啓介	70
2000.11.16～11.17	ニシン科魚類の繁殖生態と資源変動	渡邊良朗	97
2000.11.21～11.22	魚類神経科学研究の現状と展望	植松一真	91
2000.11.27	第4回VNC研究会	木暮一啓	70
2000.11.28～11.29	地球流体における渦の動態と力学	和方吉信	82
2000.12. 4～12. 5	海洋における窒素循環——その21世紀の海洋学における展望	南川雅男	56
2000.12. 7～12. 8	個体群管理の最前線＝漁業管理、害虫防除、野生動物管理を貫く理論と実践	松田裕之	104
2000.12. 8～12. 9	溪流漁の資源管理：現在・過去・未来	原田泰志	195
2000.12.14～12.15	板鰓類の系統・分類および生態・生理	田中彰	134
2000.12.19～12.20	動物プランクトンの採集・計測法と浅海域海底表層モニタリング法の現状と課題	寺崎誠	43
2000.12.22～12.23	海洋生命系のダイナミクス	塚本勝巳	204
2001. 1.11～ 1.12	2000年度古海洋学シンポジウム	高橋孝三	174
2001. 1.15～ 1.16	海洋生物生産の加速による炭素固定と大気との相互作用	中山英一郎	71
2001. 2.15	生物学と映像・画像技術の現状と未来——その2	窪川かおる	40
2001. 2.20～ 2.21	海底地下水湧出	谷口真人	73
2001. 3. 8	日本海溝海溝軸の地質学、生物学、地球化学——学術的研究の推進のための研究集会	小島茂明	27
2001. 3.13～ 3.14	海洋の生物地球化学的物質循環研究における環境放射性核種の有用性	鈴木款	18
2001. 3.16～ 3.17	黒潮の生物輸送と生産機能	小林雅人	56
2001. 7.23～ 7.24	黒潮および黒潮周辺域の浮魚資源変動とその計測・モデリング	小松輝久	68
2001.10. 4～10. 5	森と海の相互作用	向井宏	88
2001.10.15	第28回海中海底工学フォーラム	浦環	204
2001.11. 6～11. 7	Sulu海および周辺海域の生物多様性と物質循環	西田周平	87
2001.11. 8～11. 9	日本周辺縁辺海の海洋環境	道田豊	88
2001.11.15～11.16	鉄散布実験による海洋生態系と大気組成への影響	植松光夫	115
2001.12. 6	湖沼における遊漁と資源管理	松石隆	58
2001.12.10～12.11	黒潮の生物輸送と生産機能	杉本隆成	93
2001.12.12～12.13	アワビ類資源の現状と展望	河村知彦	174
2002. 1.10～ 1.11	古海洋学シンポジウム	高橋孝三	209
2002. 2.25	第5回VNC研究会——生きているのに培養できない細菌の生理状態についての研究会	木暮一啓	85
2002. 6.26～ 6.27	気候-海洋-海洋生態系のレジーム・シフトの実態とメカニズム解明へのアプローチ	稲掛伝三	156
2002. 6.27～ 6.28	南太平洋における物質循環	野崎義行	88
2002. 8.22～ 8.23	海洋生物の変動——自然変動のしくみ、人間活動のインパクト、変動する資源の管理	渡邊良朗	67
2002.10.21	第30回海中海底工学フォーラム	浦環	224
2002.11. 7～11. 8	シンポジウム 縁辺海の海洋環境モニタリング	藤尾伸三	74
2002.11. 8	沿岸性小型鯨類スナメリの生態と保全	白木原美紀	87

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
2002.11.21 ~ 11.22	内水面における魚類の移植・放流と資源管理	立川 賢一	186
2002.12. 5 ~ 12. 6	板鰓類研究の展望	田中 彰	106
2002.12.19	生物の移動・回遊	塚本 勝巳	123
2002.12.25 ~ 12.26	地球流体における対流——その動態・構造と力学	松田 佳久	80
2003. 1. 9 ~ 1.10	2002年度古海洋学シンポジウム	尾田 太良	200
2003. 1.23 ~ 1.24	海洋発光生物研究の現状と展望	和田 実	113
2003. 2.27 ~ 2.28	背弧海盆・島弧・海溝系の発達過程——フィリピン海を中心に	石井 輝秋	70
2003. 3.26	海洋生物資源変動に係わる環境研究の今後の課題——気候変動・人間活動・地球温暖化の影響を中心に問題点を探る	杉本 隆成	25
2003. 3. 4 ~ 3. 5	動物個体数変動様式の南北差	渡邊 良朗	142
2003.10.20	第32回中海海底工学フォーラム	浦 環	218
2003.11. 6 ~ 11. 7	Sulu 海および周辺海域の生物多様性と物質循環	西田 周平	91
2003.11.18 ~ 11.19	海洋・大気間の物質相互作用計画 (SOLAS) の立案	植松 光夫	50
2003.11.20 ~ 11.21	藻類に見る陸上植物の基本的性質と藻類の活用に見る機構解明へのアプローチ——連続的形質を解剖する	三室 守	60
2003.11.26	多魚種資源管理の諸問題	白木原 國雄	150
2003.11.27 ~ 11.28	生態系保全と水産資源の持続的管理——可能性と展望	帰山 雅秀	132
2003.12. 2 ~ 12. 3	流れ藻の分布と生態	小松 輝久	73
2003.12.11 ~ 12.12	海洋GISと空間解析——そのサイエンスと未来	齋藤 誠一	120
2004. 1. 8 ~ 1. 9	古海洋学シンポジウム	尾田 太良	130
2004. 7.29 ~ 7.30	ウナギの資金と保全	塚本 勝巳	191
2004. 9. 2 ~ 9. 3	海洋の微量元素・同位体研究の最新動向と将来展望	蒲生 俊敬	42
2004.10.18	第34回中海海底工学フォーラム	浦 環	225
2004.11. 4	野生生物資源の持続的利用と予防原則	松石 隆	72
2004.11. 5	順応的管理と理論と実践	勝川 俊雄	49
2004.11.15 ~ 11.16	大気・海洋間の生物地球化学的循環過程 (SOLAS)	津田 敦	72
2004.12. 2	地球規模海洋生態系変動研究 (GLOBEC) ——海洋生態系の総合診断と将来予測	桜井 泰憲	50
2004.12.13 ~ 12.14	境界動物の生物学	森沢 正昭	77
2004.12.17 ~ 12.18	地球流体における渦の構造、動態と力学	和方 吉信	74
2004.12.20 ~ 12.21	ホンダワラ類の分布と生態	鰐坂 哲朗	57
2005. 1. 8 ~ 1. 9	2004年度古海洋学シンポジウム	長谷川 四郎	156
2005. 1.20	南海トラフ地震発生帯の深海掘削	芦 寿一郎	62
2005. 2.15 ~ 2.16	板鰓類研究の現状と将来	田中 彰	127
2005. 3. 7 ~ 3. 8	東北日本と伊豆小笠原弧の地殻——マントル構造とマグマ——サブダクションファクトリーにおける物質循環解明に向けて	石井 輝秋	170
2005. 7.22	海洋生物地球化学と生態系研究の統合研究に向けて	齋藤 宏明	31
2005.10. 5 ~ 10. 6	非静力学数値モデルの現状と将来展望	岩崎 俊樹	146
2005.10.17 ~ 10.18	西部北太平洋における鉄散布実験 (SEEDS II) に関する国際ワークショップ	津田 敦	39
2005.10.28	第36回中海海底工学フォーラム	浦 環	157
2005.11.10 ~ 11.11	低水準期にある浮魚資源の管理	桜本 和美	157
2005.12. 5 ~ 12. 6	水生生物研究機関としての水族館——その研究資源活用の可能性	猿渡 敏郎	222
2005.12. 9	海洋生態系動態研究の将来展望	池田 勉	32
2006. 1.11	海産藻類の光合成系と生産性の再評価	三室 守	36
2006. 1.12 ~ 1.13	2005年度古海洋学シンポジウム	安田 尚登	106
2006. 1.26 ~ 1.27	太平洋および南極海の微量元素・同位体と生物地球化学サイクル (GEOTRACES計画)	蒲生 俊敬	87
2006. 2. 9 ~ 2.10	流れ藻研究最前線	小松 輝久	41

開催期間	研究集会名称	代表者名	参加人数
2006. 7. 6～ 7. 7	鯨骨生物群集研究の最前線——海底に沈んだ鯨が育む生態系	藤原 義弘	146
2006. 9.26～ 9.27	ウナギ資源の現状と保全	塚本 勝巳	175
2006.10.27	第38回海中海底工学フォーラム	浦 環	179
2006.11. 6～ 11. 7	全海洋動物プランクトンセンサスワークショップ	西田 周平	79
2006.11. 9～ 11.10	中央海嶺研究のグローバルな展開 InterRidge-Japan 研究発表会	沖野 郷子	102
2006.11.22	漁業管理におけるリスク評価と合意形成のための社会経済学的アプローチ	松田 裕之	104
2006.11.29	地球規模海洋生態系変動研究 (GLOBEC) —— 温暖化を軸とする海洋生物資源変動のシナリオ	桜井 泰憲	86
2006.11.30～ 12. 1	軟骨魚類を探る	田中 彰	189
2006.12. 7～ 12. 8	浅海域資源の管理と増殖の現状と課題	渡邊 良朗	178
2006.12.18～ 12.19	北太平洋の生態学的および生物地球化学的特徴	齊藤 宏明	123
2007. 1.12～ 1.13	2006年度古海洋学シンポジウム	安田 尚登	167
2007. 1.25～ 1.26	脊索動物の進化と脊椎動物の起源	窪川 かおる	128
2007. 2.19～ 2.20	海洋プレートと島弧の深部構造——IODP 超深度掘削へ向けて	石井 輝秋	119
2007. 3.27～ 3.28	地球流体における波動と対流の学力	松田 佳久	67
2007. 6.11～ 6.12	マアジ仔稚魚の初期生態と東シナ海から日本沿岸への輸送機構	高柳 和史	113
2007. 6.21～ 6.22	バイオミネラリゼーションと石灰化——遺伝子から地球環境まで	川幡 穂高	105
2007. 6.25	温室地球における生命と環境の共進化——酸化還元境界の変動と生物進化	北里 洋	25
2007. 8. 8	南海トラフ巨大地震発生帯の掘削科学 (IODP)	芦 寿一郎	78
2007. 8.23～ 8.24	アワビ類栽培漁業の検証と今後の展望	河村 知彦	165
2007.10.26	第40回海中海底工学フォーラム	浦 環	262
2007.10.30～ 10.31	海底拡大系の総合研究	島 伸和	124
2007.11.15～ 11.16	魚類の適応と進化の統合生物学——遺伝子から行動まで	安東 宏徳	115
2007.11.28	シュミレーションを用いた水産資源の管理——不確実性への挑戦	平松 一彦	77
2007.11.30～ 12. 1	発光生物研究の展開と教育への応用——光がつかなく科学と教育	和田 実	108
2007.12. 6～ 12. 7	環境問題と水族館 その現状、課題、そして将来展望	猿渡 敏郎	186
2007.12.20～ 12.21	繁殖特性の時空間的変異が個体群動態へおよび影響	栗田 豊	126
2008. 1. 7～ 1. 8	古海洋学シンポジウム	安田 尚登	174
2008. 1.17～ 1.18	微量元素と同位体による海洋の生物地球化学的研究 (GEOTRACES 計画) ——その最新動向と今後の方針	浦生 俊敬	85
2008. 1.28	西部北太平洋亜寒帯・亜熱帯域の特徴と相互作用	齊藤 宏明	69
2008. 3.14	地球規模海洋生態系変動研究 (GLOBEC) 温暖化を軸とする海洋生物資源変動のシナリオ2	岸 道郎	28
2008. 3.24～ 3.25	海洋リソスフェア学シンポジウム——海洋底深部構造と進化過程解明に向けて	阿部 なつ江	58
2008. 3.25	選択的漁獲に対する海洋生物資源の進化的対応に関する研究	渡邊 良朗	14
2008. 5.22～ 5.23	潮汐混合とオホーツク海・ベーリング海の物理・化学・生物過程	安田 一郎	62
2008. 6.13	生理、行動、分子から見た海棲哺乳類の生物学——最近の話題から	村山 司	101
2008. 6.19～ 6.20	バイオミネラリゼーションと石灰化——遺伝子から地球環境まで	川幡 穂高	95
2008. 6.25～ 6.26	駿河湾・相模湾の生態系に対する気象と黒潮変動の影響	杉本 隆成	98
2008. 7.31	太平洋の海洋循環と力学過程	川辺 正樹	37
2008. 8. 4	水塊構造の時空間変動と高頻度連続観測による親潮生態系の動態解明	小針 統	31
2008.10.10	第42回海中海底工学フォーラム	浦 環	193
2008.10.30～ 10.31	InterRidge-Japan 研究集会 海底拡大系の総合研究——海底拡大系における海洋地殻内流体	石橋 純一郎	113
2008.11.19	海と畑と森のDNA多型研究	猿渡 敏郎	69
2008.11.20～ 11.21	我が国における刺胞動物研究	三宅 裕志	185
2008.12. 1	ゾーニング——使い分けや棲み分けによる漁場・資源管理	原田 泰志	44
2008.12.11～ 12.12	亜熱帯海洋学の最前線	津田 敦	62

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
2008.12.11 ~ 12.12	板鰓類の魅力と多様性	田中 彰	186
2009. 1. 8 ~ 1. 9	古海洋シンポジウム	佐藤 時幸	168
2009. 1.22 ~ 1.23	「微量元素海洋学」事始——海洋の微量元素・同位体研究の動向と今後の展望 (GEOTRACES計画)	蒲生 俊敬	97
2009. 3. 5 ~ 3. 6	地球流体における構造の組織化とパターン形成の力学	和方 吉信	51
2009. 3.16	ポスト GLOBEC をどのように展開するか	桜井 泰憲	23
2009. 3.24	藻場研究の今——分布・生態から磯焼け対策・利用まで	小松 輝久	43
2009. 4.23 ~ 4.24	バイオミネラリゼーションと石灰化——遺伝子から地球環境まで	鈴木 淳	114
2009. 5.21	DNA情報にもとづく種査定技術とその応用	町田 龍二	41
2009. 6. 4 ~ 6. 5	北太平洋亜熱帯モード水の物理・化学・生物過程	岡 英太郎	90
2009. 6.29 ~ 6.30	微量元素・同位体を用いた海洋の生物地球化学研究の最新動向と展望	小畑 元	67
2009.10. 7	掘削科学および関連分野の現状と将来	川幡 穂高	62
2009.10. 9	第44回海中海底工学フォーラム	浦 環	277
2009.10.29 ~ 10.30	海底拡大系の総合研究 —— InterRidge Japan 研究会 —— 海底熱水が繋ぐ地圏・水圏・生命圏	熊谷 英憲	104
2009.11. 9 ~ 11.10	水生生物の異時性に関する研究 —— 現状の把握と今後の展望	猿渡 敏郎	43
2009.11.20	海底地盤変動学のスズメ——地形学・地質学・地盤工学からのアプローチ	川村 喜一郎	64
2009.11.25	水産資源管理における再生産関係の利用の現状と問題点——理論的・実用的立場から	木所 英昭	50
2009.11.26 ~ 11.27	1970年代の黒潮親潮域において海洋生態系のレジームシフトはいつおこったのか——フンボルト海流域との比較	渡邊 良朗	76
2009.12. 7 ~ 12. 8	水族館における水生生物研究と教育——現状と展望	猿渡 敏郎	175
2009.12.11 ~ 12.12	白鳳丸航海KH-08-2 データシンセシス	津田 敦	75
2009.12.21 ~ 12.22	新しい海洋区分の創設に向けた生物地球化学と生態学の総合研究	齊藤 宏明	88
2010. 1. 5 ~ 1. 6	沿岸海洋生物の広域動態研究の最前線	仲岡 雅裕	92
2010. 1. 7 ~ 1. 8	古海洋学シンポジウム	佐藤 時幸	144
2010. 1.14	pHからみた地球環境——酸性からアルカリ性までの水と生物地球化学	井上 麻夕里	23
2010. 3.23	東シナ海を主としたガラモ場と流れ藻の分布と生態	青木 優和	21

●海洋研究所 (大槌) [1990.4 ~ 2010.3]

*『東京大学海洋研究所30年史』未掲載の1990、1991年度のデータも含めた

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
1990. 9.25 ~ 9.26	北日本の異常気象——日本海豪雪を中心に	浅井 富雄	114
1990. 9.26 ~ 9.27	北西太平洋の海洋循環と混合水域の海況変動	力石 国男	51
1991. 7. 3 ~ 7. 4	生物の光信号伝達機構の研究における海藻の利用	渡辺 正勝	23
1991. 9.24 ~ 9.25	北日本の異常気象——季節変化の不規則性を中心として	木村 龍治	34
1991. 9.26 ~ 9.27	北西太平洋の海洋循環と混合水域の海況変動	力石 国男	38
1991.10.22 ~ 10.23	フジツボ類生態、生物地理、防除に関する研究会	山口 寿之	41
1992. 3.10 ~ 3.11	大槌湾及び隣接海域における底性動物群集とその生活史	竹内 一郎	33
1992. 9. 8 ~ 9. 9	北日本の異常気象——大気・海洋・雪氷の相互作用を中心として	力石 国男	33
1992. 9.10 ~ 9.11	亜寒帯循環と北太平洋中層水	友定 彰	46
1993. 3.10 ~ 3.11	大槌湾生態系の構造と機能	平野 禮次郎	50
1993. 3.25 ~ 3.26	海洋微生物の増殖と飢餓	芝 恒男	30
1993. 7.14 ~ 7.16	オキアミ資源研究会	黒田 一紀	117
1993. 7.19 ~ 7.22	通し回遊魚の生活史パターンの解析に基づく資源動態モデルの構築	塚本 勝巳	79
1993.10.12 ~ 10.14	循環要因が大型海藻類の生理活性におよぼす影響に関する研究の現況と今後の課題	齋藤 宗勝	27
1993.11.16 ~ 11.17	ヤマセの研究の過去・現在・未来	川村 宏	72
1993.11.18 ~ 11.19	亜寒帯循環と北太平洋中層水	友定 彰	124
1994. 3.10 ~ 3.11	大槌湾生態系の構造と機能——生物群集、生活史、生産	平野 禮次郎	60

開催期間	研究集会名称	代表者名	参加人数
1994. 8.24	ヤマセ現象を構成する各要素の物理過程	川 村 宏	16
1994. 8.25 ~ 8.26	親潮とその周辺海域の構造と力学	岩 尾 尊 徳	68
1994.10.25 ~ 10.26	端脚類研究の可能性を探る	松 政 正 俊	34
1995. 3. 8 ~ 3.10	三陸沖の生物多様性と環境	宮 崎 信 之	40
1995. 8.22 ~ 8.23	日本の異常気象と大規模大気・海洋循環場	花 輪 公 雄	40
1995. 8.24 ~ 8.25	親潮とその周辺海域の構造と力学	岩 尾 尊 徳	44
1996. 9.24	大槌湾および沿岸における生態学的研究——化学物質による海洋汚染と毒性影響	山 本 義 和	18
1996.11.12 ~ 11.13	北西太平洋を中心とするグローバルな大気海洋相互作用	関 根 義 彦	40
1996.11.14 ~ 11.15	北太平洋西部亜寒帯循環域の変動と力学	川 崎 康 寛	41
1997. 2.21	海藻現存量の調査法の現状と問題点	飯 泉 仁	62
1997.10. 7 ~ 10. 8	寒流域の階層藻場における生物群集構造の制御機構	仲 岡 雅 裕	80
1997.11.17 ~ 11.18	日本周辺の北西太平洋を中心とするグローバルな大気海洋相互作用	関 根 義 彦	40
1997.11.18 ~ 11.19	北太平洋西部亜寒帯循環域の変動と力学	川 崎 康 寛	46
1997.12. 1	海棲哺乳類ストラディンギンポジウム	山 田 格	63
1998. 8.19 ~ 8.20	北太平洋亜寒帯域及びその周辺海域の循環と水塊過程	須 賀 利 雄	40
1998. 8.20 ~ 8.21	北日本の気象と海象	児 玉 安 正	20
1998. 8.24 ~ 8.25	吸収係数測定法ワークショップ	岸 野 元 彰	40
1998.10.15 ~ 10.16	水生生物の異時性に関する研究の現状	猿 渡 敏 郎	15
1999. 1.25 ~ 1.26	海藻現存量調査手法の現状と問題点——リモートセンシング	小 河 久 朗	30
1999. 8.18 ~ 8.19	北日本の気象と海象	児 玉 安 正	88
1999. 8.19 ~ 8.20	北太平洋亜寒帯域およびその周辺海域の循環と水塊過程	須 賀 利 雄	100
2000. 8.23 ~ 8.24	豪雨と海況	渡 辺 明	183
2000. 8.24 ~ 8.25	北太平洋北西部とその縁辺海の水塊変動と循環	岩 坂 直 人	
2000.10.23 ~ 10.25	棘皮動物ウニ類のボディプラン確立過程におけるシグナル伝達	雨 宮 明 南	75
2001. 3. 7 ~ 3. 9	北海道、東北沿岸域の海藻藻場ワークショップ	相 生 啓 子	53
2001. 8.22	北太平洋北西部とその縁辺海の水塊変動と循環	岩 坂 直 人	44
2001. 8.23	降水システムと降水変動	渡 辺 明	42
2002. 2.28	葉上性甲殻類の生態学——課題と展望	岩 崎 望	20
2002. 8.21	北太平洋西部亜寒帯循環系の変動と大気場の関係	三 宅 秀 男	35
2002. 8.22	モンスーンと東アジア (季節サイクルとその変動)	加 藤 内 藏 進	49
2003. 8.20	北太平洋西部亜寒帯循環系の変動と大気場の関係	三 宅 秀 男	44
2003. 8.21 ~ 8.22	モンスーンと東アジア (季節サイクルとその変動) Part II	加 藤 内 藏 進	31
2003.11. 6 ~ 11. 7	藻場生態系の維持と再生に関する水産学および工学分野での研究の現状と今後の展望	難 波 信 由	57
2004. 8.24 ~ 8.25	2003年夏の異常気象に関する研究集会	立 花 義 裕	44
2004. 8.25 ~ 8.26	北太平洋における表層水塊過程	植 原 量 行	52
2004.10.28 ~ 10.29	寒流系コンブ類藻場の保全とコンブ産業の今後——可能性と展望	難 波 信 由	39
2005. 8.31 ~ 9. 1	北太平洋における表層水塊過程	植 原 量 行	77
2005. 9. 1 ~ 9. 2	冷夏猛暑に代表される夏季異常気象研究の統合	立 花 義 裕	79
2005. 9.29 ~ 9.30	台風のライフサイクル——発生から温低化まで	大 淵 濟	60
2006. 8.21 ~ 8.22	オホーツク海の変動とその親潮海域への影響	河 野 時 廣	64
2006. 8.22 ~ 8.23	西部北太平洋海域における大気海洋相互作用	谷 本 陽 一	92
2006. 9.12 ~ 9.13	台風の力学——何が理解されていないのか?	大 淵 濟 (中澤 哲夫)	64
2007. 8.20 ~ 8.22	三陸の海——その魅力と生物学	佐 藤 矩 行	161
2007. 8.29 ~ 8.30	親潮~混合域の観測研究 ——最新手法の成果と利用	河 野 時 廣	69
2007. 8.30 ~ 8.31	西部北太平洋海域における大気海洋相互作用II ——黒潮統流域におけるフラックス観測	根 田 昌 典	79

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
2008. 8.21 ~ 8.22	水圏生態系の生産力に関わる研究の現状と展望	林 崎 健 一	31
2008. 9.10 ~ 9.11	親潮～混合域の観測研究 —— 「親潮」 認識の再確認	宮 尾 孝	54
2008. 9.11 ~ 9.12	中緯度における大気海洋結合に関する数値モデル実験と観測的研究のレビュー	谷 本 陽 一	50
2009. 8.19 ~ 8.20	北海道周辺から本州東方海域の諸現象とその時間的変動	宮 尾 孝	37
2009. 8.20 ~ 8.21	中緯度大気海洋相互作用における時空間スケール階層構造	谷 本 陽 一	47
2009. 8.27 ~ 8.28	水圏生態系の生産力解析——陸と海との連関	林 崎 健 一	30
2009. 8.29 ~ 8.30	大槌湾の生態系保全と持続的な利用を目指した研究の現状と展望	後 藤 友 明	106

●大気海洋研究所 (柏)

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
2010. 6.24 ~ 6.25	ウナギ——その生物学と資源保全	塚 本 勝 巳	176
2010.10. 1	第46回海中海底工学フォーラム	浦 環	211
2010.10.19 ~ 10.20	水生生物の性的二型 適応と進化	猿 渡 敏 郎	58
2010.11. 1 ~ 11. 2	南海トラフ海溝型巨大地震の新しい描像——大局的構造と海底面変動の理解	芦 寿一郎	83
2010.11. 4 ~ 11. 5	海底拡大系の総合研究 —— InterRidge Japan 研究会	沖 野 郷 子	92
2010.11.30 ~ 12. 1	潮汐混合とオホーツク海・ベーリング海の物理・化学・生物過程——白鳳丸 KH-09-4航海・おしよ丸・クロモフ2006/2007 シンセシス	安 田 一 郎	67
2010.12. 1	漁業情報を用いた水産資源の評価と管理	平 松 一 彦	54
2010.12. 9 ~ 12.10	地球流体における流の変動性と持続性の力学	松 田 佳 久	52
2011. 1. 6 ~ 1. 7	2010年度古海洋シンポジウム	北 里 洋	164
2011. 1.11 ~ 1.12	日本列島周辺に分布するテフラのデータベース整備にむけて	鈴 木 毅 彦	67
2011. 2. 7	中西部太平洋におけるカツオの生態と資源	二 平 章	69
2011. 2.10	バイオミネラリゼーションと石灰化 —— 遺伝子から地球環境まで	鈴 木 淳	46
2011. 2.11	地球生命科学の夢ロードマップ —— 古環境研究から未来環境を予測する	井 上 麻夕里	71
2011. 9. 7 ~ 9. 8	南海トラフ海溝型巨大地震の新しい描像——大局的構造と海底面変動の理解 (その2)	朴 進 午	73
2011. 9.13	大気・海洋間の生物地球化学的循環過程のリンケージ——W-PASS 最終シンポジウム	津 田 敦	33
2011. 9.16	太平洋クロマグロ資源の有効利用に向けた取り組み	松 田 裕 之	43
2011.10. 3 ~ 10. 4	亜熱帯太平洋のプランクトン生態系および物質循環に関する比較海洋学	古 谷 研	66
2011.10. 3 ~ 10. 4	東シナ海および琉球弧の地史と古環境	松 本 剛	54
2011.10. 4 ~ 10. 6	Workshop on Ocean Mantle Dynamics: from Spreading Center to Subduction Zone	島 伸 和	202
2011.10.14	第48回海中海底工学フォーラム	浦 環	195
2011.11. 1 ~ 11. 2	InterRidge-Japan 研究会 海底拡大系の総合研究	砂 村 倫 成	93
2011.11.18	バイオミネラリゼーションと石灰化——遺伝子から地球環境まで	中 島 礼	55
2011.12. 8 ~ 12. 9	電子標識を用いた高度回遊性魚類の生態研究の現状	北 川 貴 士	51
2011.12.12 ~ 12.13	生物多様性と水族館 研究・展示・啓発活動	猿 渡 敏 郎	193
2011.12.16	混獲と生物多様性保全——非意図的漁獲をいかに軽減するか?	松 下 吉 樹	53
2012. 1. 5 ~ 1. 6	2011年度古海洋シンポジウム	北 里 洋	110
2012. 3. 7	大気海洋学の夢ロードマップ——2050年の未来にむけて	川 幡 穂 高	71
2012. 3. 8 ~ 3. 9	白鳳丸クリーン観測による微量元素・同位体研究の現状と展望 (GEOTRACES 計画)	浦 生 俊 敬	54

●大気海洋研究所 (大槌)

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
2010. 8. 3 ~ 8. 4	北太平洋とその周辺海域における循環と水塊過程	岡 英太郎	50
2010. 8. 4 ~ 8. 5	近年の北日本を中心とする異常気象に関わる大気海洋過程	本 田 明 治	58

開催期間	研究集会名称	代表者名	参加人数
2010. 8.24 ~ 8.25	水圏の生産力解析	林 崎 健 一	28
2010. 9.14 ~ 9.15	日本気象学会THORPEX研究連絡会第4回研究集会 太平洋・アジア域に 影響を与える気象	榎 本 剛	24
2011. 8.27	水圏の生産力解析——漁業における三陸の復興に向けて	林 崎 健 一	34
2011. 9.13 ~ 9.14	台風セミナー 発生過程と非軸対称構造の力学	柳 瀬 亘	41
2011.11.11 ~ 11.12	黒潮・親潮統流域の循環と水塊過程	岡 英太郎	63
2011.11.12 ~ 11.13	北日本を中心とした降水・降雪特性に関わる海洋大気陸面過程	本 田 明 治	68

資料2-2-2-2 外来研究員の研究課題数等

●海洋研究所/大気海洋研究所

(): 中止数で内数

年度	外来研究員 (中野/柏)・共同利用研究員 (国際沿岸海洋研究センター (大槌))			研究集会 (中野/柏)		研究集会 (国際沿岸海洋研究センター(大槌))	
	中野/柏 件数	国際沿岸海洋研究センター (大槌)		件数	のべ利用人数	件数	のべ利用人数
		件数	のべ利用人数				
1992	91	49	—	18	1273	2	79
1993	79	44	—	20	1809	6	208
1994	88	37	—	19	1568	4	158
1995	73	41	—	19	1836	2	125
1996	84	41	—	17	1543	4	161
1997	68	48 (利用者数 公募内・外)	261	20	2236	4	229
1998	68	47	219	22	2042	5	239
1999	74	51	239	13	1376	2	188
2000	68	49	195	26(2)	1932	4	311
2001	50	46	242	11	1269	5	230
2002	48	41	362	14	1599	2	84
2003	43	42	199	12	1166	3	132
2004	37	36	236	14	1424	3	132
2005	34	41	179	11	1054	3	216
2006	38	39	260	14	1842	3	220
2007	57	53	218	18	1912	3	309
2008	53	56	202	18	1658	3	135
2009	50	49	215	18	1606	4	220
2010	39	16	公募外 10を除いて震災のため 記録なし	13	1210	4	220
2011	48	48	震災のため記録なし	15	1346	4	206

資料2-2-2-3 共同研究

●気候システム研究センター [1993~2009年度]

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
●1993年度			
特定共同	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学理学部・宮原三郎教授 他4名	松野太郎
	高分解能大気モデル及び高精度物理過程スキームの開発	気象庁数値予報課・佐藤信夫数値予報班長 他4名	住 明正
	東大気候センター及び気象研究所の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・遠藤昌宏研究室長 他2名	杉ノ原伸夫
	雲システムのモデル開発	東京大学理学部・山岬正紀教授	松野太郎
	人工衛星によるエアロゾル・パラメータの評価	東北大学理学部・早坂忠裕助手 他3名	中島映至
	大気の放射対流平衡の基本特性	埼玉工業大学・佐藤正樹講師	松野太郎
	AVHRR (SplitWindow) 雲パラメータの評価	気象研究所・井上豊志郎主任研究員	中島映至
一般共同	中層大気循環の季節内変動に関する数値実験	京都大学理学部・余田成男助教授 他2名	住 明正
	回転球面上の対流の研究	東京大学理学部・林 祥介助手 他3名	松野太郎
	大気モデルの定常解と周期解	気象研究所・木本昌秀研究員 他1名	松野太郎
	モンスーン域における海洋循環の季節・経年変動の研究	東京大学理学部・山形俊男助教授 他1名	杉ノ原伸夫・松野太郎
	内部重力波の非線型相互干渉による乱流スケールへのエネルギー輸送過程	北海道大学理学部・日比谷紀之助教授 他1名	杉ノ原伸夫・中島健介
●1994年度			
特定共同	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学理学部・宮原三郎教授 他4名	高橋正明
	高分解能大気モデル及び高精度物理過程スキームの開発	気象庁数値予報課・佐藤信夫数値予報班長 他3名	住 明正
	東大気候センター及び気象研究所の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・遠藤昌宏研究室長 他3名	杉ノ原伸夫
	雲システムのモデル開発	東京大学理学部・山岬正紀教授	松野太郎
	人工衛星によるエアロゾル・パラメータの評価	東北大学理学部・早坂忠裕助手 他2名	中島映至
	大気モデルによるハドレー循環と傾圧波動の相互作用の研究	埼玉工業大学・佐藤正樹講師	松野太郎
	AVHRR (Split Window等) による雲パラメータの評価	気象庁気象研究所・井上豊志郎主任研究員	中島映至
	地表面熱収支からみた気象モデルの検証	東京都立大学理学部・増田耕一助教授	松野太郎
	人工衛星による気象研究。特に放射収支及び雲パラメータの抽出に関する研究	奈良女子大学・久慈 誠助手	中島映至
気候モデルを用いた亜熱帯前線帯の生成機構の研究	弘前大学理学部・児玉安正助手	新田 勲	
一般共同	中層大気循環の季節内変動に関する数値実験	京都大学理学部・余田成男助教授 他4名	住 明正
	回転球面上の対流の研究	東京大学理学部・林 祥介助手 他3名	松野太郎
	大気モデルの定常解と周期解	気象研究所・木本昌秀研究員 和歌山大学教育学部・伊藤久徳助教授	松野太郎
	モンスーン域における海洋循環の季節・経年変動の研究	東京大学理学部・山形俊男助教授 他1名	松野太郎
	内部重力波の非線型相互干渉による乱流スケールへのエネルギー輸送過程	北海道大学理学部・日比谷紀之助教授 他1名	杉ノ原伸夫・中島健介
	熱帯スコールラインの数値実験	九州大学理学部・高橋 勲教授	松野太郎
	オゾン変動に対する赤外線放射収支に関する研究	東京大学先端研・秋元 肇教授 環境庁環境研究所・中根英昭総合研究官	中島映至
	大気の熱源に対する応答	東京大学理学部・松田佳久助教授 他1名	高橋正明
	ENSO の中高緯度大気・海洋システムに及ぼす影響の再評価実験	東京大学理学部・中村 尚助手 東京商船大学・岩坂直人助教授 東北大学理学部・谷本陽一学振研究員	高橋正明
	ミシシッピ川の流域水収支に関する基礎的研究	東京都立大学理学部・野上道男教授	新田 勲
	放射対流平衡の二次元数値実験	中京学院大学・岩朝美晴助手 東京大学理学部・阿部豊助教授 名古屋大学大気水圏研究所・田中浩教授	松野太郎
	北半球暖冬の最近の長期化とオゾン・炭酸ガス循環の変動に関する研究	富山高専専門学校・川平浩二教授 他2名	高橋正明

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
●1995年度			
特定共同	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学理学部・宮原三郎教授 他4名	高橋正明
	高分解能大気モデルの気候学的特性について	気象庁数値予報課・佐藤信夫数値予報班長 他7名	住 明正
	全球土壌水分の導出と相互比較	気象庁数値予報歌山大予報班長 他2名	住 明正
	大気海洋結合モデルの初期値化および季節予報可能性について	気象庁数値予報課・佐藤信夫数値予報班長 他1名	木本昌秀
	東大気候センター及び気象研究所の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・遠藤昌宏研究室長 他3名	杉ノ原伸夫
	大気モデルによるハドレー循環と傾圧波動の相互作用の研究	埼玉工業大学・佐藤正樹講師	高橋正明
	高精度・海洋大循環モデル構築のための乱流拡散率のマッピング	北海道大学理学部・日比谷紀之助教授	杉ノ原伸夫・中島健介
	モデルの検証データの収集および解析	東京都立大学理学部・松山 洋助手	住 明正
	気候モデルを用いたデータ同化と予測可能性の研究	気象庁海洋気象部エルニーニョ監視センター・桜井邦雄所長 他1名	木本昌秀
	極域海洋における鉛直混合の評価	東京水産大学・長島秀樹助教授	杉ノ原伸夫
	衛星データを用いた日本付近の降雨の解析	気象庁気象衛星センター・操野年之調査官	新田 勲
	東大気候センター及び資源環境研究所の世界海洋大気循環モデルのパフォーマンスの相互比較	資源環境技術総合研究所・中田喜三郎研究室長 他2名	杉ノ原伸夫
高分解能気候モデルを用いた下部成層圏慣性重力波の研究	京都大学理学部・廣田 勇教授	高橋正明	
一般共同	対流圏・成層圏物質交換に関する数値実験	京都大学理学部・余田成男助教授 他5名	住 明正
	大気モデルの定常解と周期解	和歌山大学教育学部・伊藤久徳助教授	木本昌秀
	大気海洋陸面相互作用による海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他1名	高橋正明
	オゾン、その他の大気微量成分の光化学輸送モデルの開発	国立環境研究所・秋吉英治主任研究員	高橋正明
	熱帯スコールラインの数値実験	九州大学理学部・高橋 勁教授	住 明正
	放射対流平衡の二次元数値実験	中京学院大学・岩朝美晴助手 東京大学大学院理学研究科・阿部豊助教授 名古屋大学大気水圏研究所・田中浩教授	住 明正
	赤道波と対流の相互作用に関する研究	東京大学大学院理学系研究科・山岬正紀教授 他1名	新田 勲
	グローバルなモンスーン気候の季節内・季節および経年変動の研究	東京大学大学院理学系研究科・松本 淳助教授 他2名	新田 勲
	グローバルデータを用いた大気波動の解析	京都大学理学部・廣田 勇教授 他3名	高橋正明
	海氷・海洋結合モデルの検証と改良	北海道大学大学院地球環境科学院・池田元美教授 他3名	杉ノ原伸夫
	10年スケールの海洋変動におけるsubduction過程の役割	北海道大学低温科学研究所・竹内謙介教授 他5名	杉ノ原伸夫
	大気海洋結合系の経年変動に関する準備的研究	北海道大学大学院地球環境科学院・松野太郎教授 他2名 国立環境研究所・沼口敦助教授	木本昌秀
●1996年度			
特定共同	東大気候システム研究センター及び気象研究所の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・遠藤昌宏研究室長 他3名	杉ノ原伸夫
	気候モデルを用いたデータ同化と予測可能性の研究	気象庁海洋気象部エルニーニョ監視センター・桜井邦雄所長 他1名	木本昌秀
	GAME-Tに関する高層気象DATAの解析	福島大学教育学部・渡辺 明助教授	住 明正
	大気モデルによるハドレー循環と傾圧波動の相互作用の研究	埼玉工業大学・佐藤正樹講師	高橋正明
	領域型気候モデルの開発	京都大学大学院理学研究科・木田秀次教授 他1名 気象庁気象研究所・佐々木秀孝研究官	住 明正
	高分解気候モデルを用いた下部成層圏慣性重力波の研究	京都大学大学院理学研究科・佐藤 薫助手 長岡技術科学大学・熊倉敏郎助手	高橋正明
	衛星データを用いた日本付近の降雨の解析	気象庁気象衛星センター・操野年之調査官	新田 勲
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学理学部・宮原三郎教授 他5名	高橋正明
	極域海洋における鉛直混合の評価	東京水産大学・長島秀樹助教授	杉ノ原伸夫
	全球土壌水分データセットの評価と感度実験	気象庁数値予報課・佐藤信夫数値予報班長 他2名	住 明正
	大気海洋結合モデルの初期値化および季節予報可能性について	気象庁数値予報課・佐藤信夫数値予報班長 他1名	木本昌秀

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
	高精度・海洋大循環モデル構築のための乱流拡散率のマッピング	東京大学海洋研究所・日比谷紀之助教授	杉ノ原伸夫
	モデル検証のための全球流域分割	東京都立大学理学部・松山 洋助手	住 明正
一般共同	大気海洋結合系の経年変動に関する準備的研究	北海道大学大学院地球環境科学院・松野太郎教授 他2名 国立環境研究所・沼口 敦研究員	木本昌秀
	海水・海洋結合モデルの検証と改良	北海道大学大学院地球環境科学院・池田元美教授 他1名 北海道大学低温科学研究所・大島慶一郎助教授 他1名	杉ノ原伸夫
	プリミティブ方程式系海洋大循環流の力学の研究	東北大学大学院理学研究科・花輪公雄教授 他1名	杉ノ原伸夫
	大気海洋陸面相互作用による海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学研究科・山形俊男教授 他3名	高橋正明
	グローバルなモンスーン気候の季節内・季節および経年変動の研究	東京大学大学院理学系研究科・松本 淳助教授 他4名	新田 勉
	赤道波と対流の相互作用に関する研究	東京大学大学院理学系研究科・山岬正紀教授 他1名	新田 勉
	対流圏・成層圏物質交換に関する数値実験	京都大学理学部・余田成男助教授 他5名	住 明正
	超高分解三次元モデルによる海洋の鉛直対流の研究	九州大学理学部・中島健介助手	杉ノ原伸夫
	10年スケールの海洋変動における subduction 過程の役割	北海道大学低温科学研究所・竹内謙介教授 他4名	杉ノ原伸夫
	放射対流平衡の二次元数値実験	中京学院大学・岩朝美晴助手 東京大学大学院理学研究科・阿部豊助教授 名古屋大学大気水圏研究所・田中浩教授	住 明正
	大気モデルの定常解と周期解	和歌山大学教育学部・伊藤久徳教授	木本昌秀

● 1997年度

特定共同	東大気候システム研究センター及び気象研究所の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・遠藤昌宏研究室長 他3名	杉ノ原伸夫
	気候モデルを用いた同化と予測可能性の研究	気象庁気候・海洋気象部エルニーニョ監視センター・桜井邦雄所長 他1名	木本昌秀
	大気モデルによるハドレー循環と傾圧波動の相互作用の研究	埼玉工業大学・佐藤正樹講師	高橋正明
	領域型気候モデルの開発に関する研究	京都大学大学院理学研究科・木田秀次教授 他1名 気象庁気象研究所・佐々木秀孝研究官	住 明正
	高分解気候モデルを用いた下部成層圏慣性重力波の研究	京都大学大学院理学研究科・佐藤 薫助手 長岡技術科学大学・熊倉敬郎助手	高橋正明
	衛星データを用いた日本付近の降雨の解析	気象庁気象衛星センター・操野年之調査官	新田 勉
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究科・宮原三郎教授 他5名	高橋正明
	極域海洋における鉛直混合の過程について	東京水産大学・長島秀樹助教授 他1名	杉ノ原伸夫
	全球土壌水分データセットの評価と感度実験	気象庁数値予報課・佐藤信夫数値予報班長 他2名	住 明正
	大気海洋結合モデルの初期値化および季節予報可能性について	気象庁数値予報課・佐藤信夫数値予報班長 他2名	木本昌秀
	海洋大循環モデルの高精度化に向けた乱流拡散率の全球的マッピング	東京大学海洋研究所・日比谷紀之助教授 東京大学気候システム研究センター・杉ノ原伸夫教授 他1名	杉ノ原伸夫
	実測データとモデルの入出力の比較	東京東京都立大学理学部・松山 洋助手	住 明正
	亜熱帯収束帯の生成機構の研究	弘前大学理学部・児玉安正助手	新田 勉
	海洋大循環モデルによるデータ同化実験と予測可能性の研究	東京大学大学院理学系研究科・和方吉信助教授	木本昌秀
一般共同	大気海洋結合系の経年変動に関する準備的研究	北海道大学大学院地球環境科学研究科・山崎孝治教授 他2名	木本昌秀
	海水・海洋結合モデルにおける高密度水の形成	北海道大学大学院地球環境科学研究科・池田元美教授 北海道大学低温科学研究所・大島慶一郎助教授 北海道大学大学院理学研究科・見延庄士郎助手 他1名	杉ノ原伸夫
	大気海洋陸面相互作用による海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院・山形俊男教授 他2名	高橋正明
	グローバルなモンスーン気候の季節内・季節および経年変動の研究	東京大学大学院理学系研究科・松本 淳助教授 他5名	新田 勉
	赤道波と対流の相互作用に関する研究	東京大学大学院理学系研究科・山岬正紀教授 他1名	新田 勉
	対流圏・成層圏物質交換に関する数値実験	京都大学大学院理学研究科・余田成男助教授 他4名	住 明正
	非静力学高解像度モデルによる海洋鉛直対流の研究	九州大学大学院理学研究科・中島健介助手	杉ノ原伸夫

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員	
	10年スケールの海洋変動におけるsubduction過程の役割	北海道大学低温科学研究所・竹内謙介教授 他4名	杉ノ原伸夫	
	放射対流平衡の二次元数値実験	中京学院大学・岩朝美晴助手 東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授 名古屋大学大気水圏科学研究所・田中 浩教授	住 明正	
	大気低周波変動モデル研究	和歌山大学教育学部・伊藤久徳助教授	木本昌秀	
	梅雨前線帯に発生するメソスケール降水の研究	北海道大学低温科学研究所・藤吉康志教授 他1名	新田 勲	
	混合層モデルを組み込んだ海洋大循環データ同化モデルの研究	京都大学大学院理学研究科・淡路敏之教授 他2名	杉ノ原伸夫	
●1998年度				
特定共同	東大気候システム研究センター及び気象研究所の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・遠藤昌宏研究室長 他3名	杉ノ原伸夫	
	気候モデルを用いた気候変動とその予測可能性の研究	気象庁気候・海洋気象部エルニーニョ監視センター・中村和信所長 他1名	木本昌秀	
	大気モデルによるハドレー循環と傾圧波動の相互作用の研究	埼玉工業大学・佐藤正樹助教授	高橋正明	
	領域型気候モデルの開発に関する研究	京都大学大学院理学研究科・木田秀次教授 他2名	住 明正	
	衛星データを用いた日本付近の降雨の解析	気象庁気象衛星センター・操野年之調査官 他1名	木本昌秀	
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学理学部・宮原三郎教授 他7名	高橋正明	
	極域海洋における鉛直混合の過程	東京水産大学・長島秀樹教授 他1名	杉ノ原伸夫	
	全球土壌水分データセットの評価と感度実験	気象庁数値予報課・岩崎俊樹数値予報班長 他3名	住 明正	
	中・深層循環像の高精度化に向けた乱流拡散率の全球的マッピング	東京大学海洋研究所・日比谷紀之助教授 他2名	杉ノ原伸夫	
	亜熱帯収束帯の生成機構の研究	弘前大学理学部・児玉安正助教授	木本昌秀	
チベット高原上の水循環過程とそれら循環がユーラシア大陸の季節内変動に果たす役割に関する研究	農林水産省東北農業試験場・桑形恒男主任研究官 他1名	沼口 敦		
一般共同	大気海洋結合系の経年変動に関する研究	北海道大学大学院地球環境科学研究科・山崎孝治教授 他1名	木本昌秀	
	海水生成・融解にともなう水塊形成のパラメータ化	北海道大学大学院地球環境科学研究科・池田元美教授 北海道大学低温科学研究所・大島慶一郎助教授 北海道大学大学院理学研究科・見延庄士郎助教授 日本海区水産研究所・渡辺達郎研究員	杉ノ原伸夫	
	大気海洋陸面相互作用による海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他1名	高橋正明	
	非静力学モデルの改善と対流の組織化に関する研究	東京大学大学院理学系研究科・山崎正紀教授 他2名	住 明正	
	大気循環の季節内変動に関する数値実験	京都大学大学院理学研究科・余田成男助教授 他4名	住 明正	
	非静力学高解像度モデルによる海洋鉛直対流の研究	九州大学大学院理学研究院・中島健介助手	杉ノ原伸夫	
	海洋亜熱帯循環系の境界域の構造とその内部領域に与える影響	北海道大学低温科学研究所・竹内謙介教授 他1名 北海道大学大学院地球環境科学研究科・久保川 厚教授 他2名	杉ノ原伸夫	
	大気低周波変動のモデル研究	和歌山大学教育学部・伊藤久徳助教授	木本昌秀	
	梅雨前線帯に発生するメソスケール降水システムの研究	北海道大学低温科学研究所・藤吉康志教授 他1名	沼口 敦	
	混合層モデルを組み込んだ海洋大循環データ同化モデルの研究	京都大学大学院理学研究科・淡路敏之教授 他2名	杉ノ原伸夫	
	海洋物質循環モデルの構築と検証	北海道大学大学院地球環境科学研究科・池田元美教授 他1名	杉ノ原伸夫	
	雲・対流系のマクロダイナミクス	北海道大学電子科学研究所・柳田達雄助手	木本昌秀	
	大循環に及ぼす海底地形の効果に関する数値的実験	東北大学大学院理学研究所・花輪公雄教授 他2名	杉ノ原伸夫	
	アジアモンスーンの年々変動の研究	気象庁気象研究所・山崎信雄研究室長 他2名	木本昌秀	
	全陸惑星の水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授 他1名	沼口 敦	
	対流圏界面付近におけるオゾン等の物質輸送研究	東京大学大学院理学系研究科・北 和之助手 他1名	高橋正明	
	アジアモンスーン降水雲システムのモデル研究	桜美林大学・高橋 勲教授	住 明正	
	●1999年度			
	特定共同	東大気候システム研究センター及び気象研究所の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・北村佳照第一研究室長 他3名	杉ノ原伸夫

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
	衛星データを含む海洋データ同化とエルニーニョ現象の予測可能性について	気象庁気象研究所・海洋気象部エルニーニョ監視予測センター・中村和信所長 他1名	木本昌秀
	大気モデルによる低緯度循環と中緯度循環の相互作用の研究	埼玉工業大学・佐藤正樹助教授	高橋正明
	領域型気候モデルの開発に関する研究	京大大学院理学研究科・木田秀次教授 他2名	住 明正
	衛星データを用いた東アジアの降雨の解析	気象庁気象・海洋気象部気候情報課・探野年之調査官 他1名	木本昌秀
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学理学部・宮原三郎教授 他1名	高橋正明
	極域海洋における鉛直混合の過程	東京水産大学・長島秀樹教授 他1名	杉ノ原伸夫
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化	気象庁数値予報課・露木 義数値予報班長 他3名	住 明正
	海洋の中・深層における乱流拡散率のグローバルな時空間分析解明	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之助教授 他1名	杉ノ原伸夫
	亜熱帯収束帯の生成機構の研究	弘前大学理工学部・児玉安正助教授	木本昌秀
	チベット高原上の水循環過程とそれら循環がユーラシア大陸の季節内変動に果たす役割に関する研究	農林水産省東北農業試験場・桑形恒男主任研究官 他1名 科学技術振興財団・徐健青科学技術特別研究員	沼口 敦
	衛星データによる雲パラメータ算出アルゴリズムの開発	気象庁気象研究所・井上豊志朗主任研究官	中島映至
	東南アジア熱帯地域における水エネルギー循環に関するモデル研究	東京大学生産技術研究所・沖 大幹助教授 他3名	沼口 敦
一般共同	季節内から数十年スケール気候変動の数値的研究	北海道大学大学院地球環境科学研究科・山崎孝治教授 他3名	木本昌秀
	海氷生成・融解にともなう海氷・水塊形成のパラメータ化	北海道大学大学院地球環境科学研究科・池田元美教授 北海道大学低温科学研究所・大島慶一郎助教授 北海道大学大学院理学研究科・見延庄士郎教授 日本海区水産研究所・渡辺達郎研究員	杉ノ原伸夫
	大気海洋陸面相互作用による海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他1名 地球フロンティア研究システム・郭新宇研究員, 鍵本崇研究員	木本昌秀
	非静力学モデルの改善と対流の組織化に関する研究	東京大学大学院理学系研究科・山岬正紀教授 他2名	住 明正
	大気循環の季節内変動に関する数値実験	京都大学大学院理学研究科・余田成男助教授 他5名	住 明正
	非静力学高解像度モデルによる海洋鉛直対流の研究	九州大学理学部・中島健介助手	杉ノ原伸夫
	海洋亜熱帯循環系の境界域および内部領域の構造と変動	北海道大学低温科学研究所・竹内謙介教授 他1名 北海道大学大学院地球環境科学研究科・久保川厚教授, 細田滋毅院生, 須股浩院生	杉ノ原伸夫
	大気低周波変動のモデル研究	九州大学理学部・伊藤久徳教授	木本昌秀
	梅雨前線帯に発生するメソスケール降水システムの研究	北海道大学低温科学研究所・藤吉康志教授 他1名	沼口 敦
	海洋物質環境モデルの構築と検証	北海道大学大学院地球環境科学院・地田元美教授 他1名	杉ノ原伸夫
	大循環に及ぼす海底地形の効果に関する研究	東北大学大学院理学研究科・花輪高雄教授 他2名	杉ノ原伸夫
	アジアモンスーンの年々変動の研究	気象庁気象研究所・山崎信雄第5研究室長 他1名	木本昌秀
	全陸惑星の水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授 他1名	沼口 敦
	対流圏界面付近におけるオゾン等の物質輸送研究	東京大学大学院理学系研究科・北 和之助手 他1名	高橋正明
	アジアモンスーン降水雲システムのモデル研究	桜美林大学・高橋 助教授	住 明正
	大気中の2次元及び3次元乱流の構造とその効果	東京大学大学院理学系研究科・松田佳久助教授	高橋正明
	共同利用ツールとしての3次元化学輸送モデルの高度化	宇宙開発事業団・井上修司招聘研究員 他3名	高橋正明
	地衡流乱流の低派数帯域におけるエネルギースペクトルに関する数値実験的研究	神戸大学大学院自然科学研究科・山中大学教授 他1名	高橋正明
● 2000年度			
特定共同	東大気候システム研究センター及び気象研究所の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・北村佳昭第一研究室長 他2名	杉ノ原伸夫
	衛星データを含む海洋データ同化とエルニーニョ現象の予測可能性について	気象庁気象研究所海洋気象部エルニーニョ監視予測センター・中村和信所長 他1名	木本昌秀
	大気モデルによる低緯度循環と中緯度循環の相互作用の研究	埼玉工業大学・佐藤正樹助教授	高橋正明
	領域型気候モデルの開発に関する研究	京大大学院理学研究科・木田秀次教授 他5名 気象庁気象研究所・佐々木秀孝主任研究官	住 明正
	衛星データを用いた東アジアの降雨の解析	気象庁気象・海洋気象部気候情報課・探野年之調査官 他1名	木本昌秀
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究院・宮原三郎教授 他6名	高橋正明

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
	極域海洋における鉛直混合の過程	東京水産大学・長島秀樹教授 他1名	杉ノ原伸夫
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化	気象庁数値予報課・露木 義数値予報班長 他4名	住 明正
	北太平洋の中・深層における乱流拡散率の時空間分析解明	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之助教授 他2名	杉ノ原伸夫
	亜熱帯収束帯の生成機構の研究	弘前大学理工学部・児玉安正助教授	木本昌秀
	チベット高原上の水循環過程とそれら循環がユーラシア大陸の季節内変動に果たす役割に関する研究	農林水産省東北農業試験場・桑形恒男主任研究官 他1名 科学技術振興事業団・徐 健青科学技術特別研究員	住 明正
	衛星データによる雲パラメータ算定と放射収支の評価	気象庁気象研究所・井上豊志朗主任研究官	中島映至
	東南アジア熱帯地域における水エネルギー循環に関するモデル研究	東京大学生産技術研究所・沖 大幹助教授 他1名	住 明正
	領域及び全球赤道域雲集団シミュレーション並列非静力モデル研究	(財)高度情報科学技術研究機構・山岸米二郎特別招聘研究員 他1名	住 明正
一般共同	季節内から数十年スケール気候変動の数値的研究	北海道大学大学院地球環境科学研究科・山崎孝治教授 他2名	木本昌秀
	海氷生成・融解にともなう海氷・水塊形成のパラメータ化	北海道大学大学院地球環境科学研究科・地田元実教授 他1名 北海道大学低温科学研究所・大島慶一郎助教授 北海道大学大学院理学研究科・見延庄士郎教授 他2名 日本海区水産研究所・渡辺達郎研究員	杉ノ原伸夫
	大気海洋陸面相互作用による海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他1名 愛媛大学沿岸環境科学研究センター・郭 新宇助教授	木本昌秀
	大気低周波変動のモデル研究	九州大学理学部・伊藤久徳教授	木本昌秀
	アジアモンスーンの年々変動の研究	気象庁気象研究所・山崎信雄第5研究室長 他1名	木本昌秀
	全陸感星の水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授	住 明正
	アジアモンスーン降水雲システムのモデル研究	桜美林大学・高橋 助教授	住 明正
	海洋上エアロゾルによる放射強制力精度向上の研究	北海道大学低温科学研究所・遠藤辰雄助教授 千葉大学・高村民雄教授	中島映至
●2001年度			
特定共同	東大気候システム研究センター及び気象研究所の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・北村佳照第1研究室長 他2名	住 明正
	大気モデルにおける低緯度循環と中高緯度循環の相互作用の研究	埼玉工業大学・佐藤正樹助教授	高橋正明
	領域型気候モデルの開発に関する研究	京都大学大学院理学研究科・木田秀次教授 他5名	住 明正
	衛星データを用いた東アジアの降雨の解析	気象庁気候・海洋気象部気候情報課・操野年之調査官 他1名	木本昌秀
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究院・廣岡俊彦教授 他4名	高橋正明
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化	気象庁予報部数値予報課・露木 義数値予報班長 他4名	住 明正
	海洋深層における鉛直乱流拡散率の全球的空間分布の解明	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之助教授 他2名	住 明正
	亜熱帯収束帯の生成機構の研究	弘前大学理工学部・児玉安正助教授	木本昌秀
	東南アジア熱帯地域における水エネルギー循環に関するモデル研究	東京大学生産技術研究所・沖 大幹助教授 他1名	住 明正
	領域及び全球赤道域雲集団シミュレーション並列非静力モデル開発	高度情報科学技術研究機構・山岸米二郎特別招聘研究員 他1名	住 明正
	金星大気大循環モデルの開発	九州大学応用力学研究所・和方吉信教授	高橋正明
	高分解能大気モデルによる降水分布の地形依存性に関する研究	北海道大学大学院地球環境科学研究科・沼口 敦助教授 他1名 ハワイ大学SOEST・謝 尚平助教授 他1名	住 明正
	海洋データ同化とエルニーニョ予測の研究	気象庁気候・海洋気象部気象情報課・木村吉宏監視予報管理官 他1名	木本昌秀
	代替フロン物質の赤外吸収特性の測定と大気中分解速度の測定	産業技術総合研究所・関屋 章副センター長 他1名	今須良一
	季節内から数十年スケール気候変動の数値的研究	北海道大学大学院地球環境科学研究科・山崎孝治教授 他2名	木本昌秀

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
一般共同	海洋数値モデルを用いた季節～数十年変動研究	北海道大学大学院地理学研究所・見延庄士郎助教授 他4名 北海道大学大学院地球環境科学研究科・池田元美教授 他1名 北海道大学低温科学研究所・大島慶一郎助教授	住 明正
	大気海洋陸面相互作用における海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他1名 愛媛大学沿岸環境科学研究センター・郭 新宇助教授	木本昌秀
	大気低周波変動のモデル研究	九州大学大学院理学研究院・伊藤久徳教授	木本昌秀
	アジアモンスーン降水雲システムのモデル研究	桜美林大学・高橋 劭教授	住 明正
	海洋上エアロゾルによる放射強制力向上の研究	北海道大学大学院低温科学研究所・遠藤辰雄助教授 千葉大学・高村民雄教授	中島映至
	古火星循環における水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授 他1名	住 明正
	GCMを利用した熱帯太平洋域における物質輸送過程の研究	茨城大学理学部・長谷部文雄助教授	高橋正明
	大気大循環モデルを用いた金星大気スーパーローテーションの研究	和歌山大学教育学部・山本 勝講師	高橋正明
地球及び惑星流体力学における乱流の数値実験	東京大学大学院理学系研究科・松田佳久助教授 他2名	高橋正明	

● 2002年度

特定研究	東大気候システム研究センター及び気象研究所の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・石崎 廣主任研究官 他2名	住 明正
	大気モデルにおける低緯度循環と中高緯度循環の相互作用の研究	埼玉工業大学・佐藤正樹助教授	高橋正明
	領域型気候モデルの開発に関する研究	京都大学大学院理学研究科・木田秀次教授 他2名	住 明正
	衛星データを用いた東アジアの降雨の解析	気象庁気候・海洋気象部気候情報課・操野年之調査官 他1名	木本昌秀
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究院・廣岡俊彦教授 他4名	高橋正明
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化	気象庁予報部数値予報課・露木 義数数値予報班長 他4名	住 明正
	海洋深層における乱流拡散率のグローバルなマッピング	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之教授 他3名	住 明正
	東南アジア熱帯地域における水エネルギー循環に関するモデル研究	東京大学生産技術研究所・沖 大幹助教授 他1名	住 明正
	領域及び全球赤道域雲集団シミュレーション並列非静力モデル開発	高度情報科学技術研究機構・山岸米二郎特別招聘研究員 他1名	住 明正
	金星大気大循環モデルの開発	九州大学応用力学研究所・和方吉信教授	高橋正明
	海洋データ同化とエルニーニョ予測の研究	気象庁気候・海洋気象部気候情報課・石井正好技術専門官	木本昌秀
	代替フロン物質の空間濃度分布予想計算	産業技術総合研究所フッ素系等温暖化物質対策テクノロジー研究センター・関屋 章副センター長 他1名	今須良一
	GAME再解析実験のモデル評価およびエータ面解析値整備・解析	総合地球環境学研究所・石田亜紀代助手・山崎信雄気候研究部第5部研究室長 他1名	住 明正
一般研究	季節内から数十年スケール気候変動の数値的研究	北海道大学大学院地球環境科学研究科・山崎孝治教授 他3名 ハワイ大学SOEST・謝 尚平助教授 他6名	木本昌秀
	海洋数値モデルを用いた季節～数十年変動気候	北海道大学大学院理学研究科・見延庄士郎助教授 他4名 北海道大学大学院地球環境科学研究科・池田元美教授 他1名 北海道大学低温科学研究所・大島慶一郎助教授	住 明正
	大気海洋陸面相互作用における海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他1名 愛媛大学沿岸環境科学研究センター・郭 新宇助教授	木本昌秀
	大気低周波変動のモデル研究	九州大学大学院理学研究院・伊藤久徳教授	木本昌秀
	アジアモンスーン降水雲システムのモデル研究	桜美林大学・高橋 劭教授	住 明正
	海洋上エアロゾルによる放射強制力精度向上の研究	北海道大学大学院低温科学研究所・遠藤辰雄助教授 千葉大学・高村民雄教授	中島映至
	古火星循環における水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授 他1名	住 明正
	大気大循環モデルを用いた金星大気スーパーローテーションの研究	和歌山大学教育学部・山本 勝講師	高橋正明
	地球及び惑星流体力学における乱流の数値実験	東京大学大学院理学系研究科・松田佳久助教授 他2名	高橋正明
	海洋における水塊形成・輸送に関する数値的研究	東京大学大学院理学系研究科・安田一郎助教授 他3名	住 明正
	全球水循環モデルの最適並列化プログラム構築に関する研究	防災科学技術研究所・矢崎 忍主任研究員	住 明正
	人工衛星による気候研究	総合地球環境学研究所・河本和明助手	中島映至

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
	地表面非均一性が大気に及ぼす影響に関する研究	長岡技術科学大学・熊倉俊郎助手	木本昌秀
●2003年度			
特定研究	CCSR/気象研の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・石崎 廣室長 他2名	遠藤昌宏
	大気モデルにおける低緯度循環と中高緯度循環の相互作用の研究	埼玉工業大学・佐藤正樹助教授	高橋正明
	領域型気候モデルの開発に関する研究	京都大学大学院理学研究科・木田秀次教授 他1名	住 正明
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究院・廣岡俊彦教授 他4名	高橋正明
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化	気象庁予報部数値予報課・斎藤和雄数値予報班長 他6名	住 正明
	東南アジア熱帯地域における水エネルギー循環に関するモデル研究	東京大学生産技術研究所・沖 大幹助教授 他1名	住 正明
	金星大気大循環モデルの開発	九州大学応用力学研究所・和方吉信教授	高橋正明
	海洋データ同化とエルニーニョ予測の研究	気象庁気候・海洋気象部気候情報課・北村佳照エルニーニョ監視予報管理室 他2名	木本昌秀
	GAME再解析実験のモデル評価およびエータ面解析値整理・解析	総合地球環境学研究所・谷田貝亜紀代助手・山崎信雄気候研究部第5部研究室長 他1名	木本昌秀
	海洋深層における乱流拡散のパラメタリゼーション	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之教授 他4名	遠藤昌宏
アジアモンスーン変動に与えるチベット高原の役割を理解するための数値実験	東京大学大学院工学系研究科・小池俊雄教授 他1名	住 正明	
一般研究	季節内から数十年スケール気候変動の数値的研究	北海道大学大学院地球環境科学研究科・山崎孝治教授 他3名 ハワイ大学 SOEST・謝 尚平教授 他4名	木本昌秀
	大気海洋陸面相互作用による海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他6名 愛媛大学沿岸環境科学研究センター・郭 新宇助教授	木本昌秀
	大気低周波変動のモデル研究	九州大学大学院理学研究院・伊藤久徳教授	木本昌秀
	アジアモンスーン降水雲のシステムのモデル研究	桜美林大学・高橋 勲教授	住 正明
	大気大循環モデルを用いた金星大気スーパーローテーションの研究	和歌山大学教育学部・山本 勝助教授	高橋正明
	海洋における水塊形成・輸送に関する数値的研究	東京大学大学院理学系研究科・安田一郎助教授 他5名	遠藤昌宏
	人工衛星による気候研究	総合地球環境学研究所・河本和明助手 他1名	中島映至
	地表面の降積雪及び融雪が水循環に与える影響に関する研究	長岡技術科学大学・熊倉俊郎助手	木本昌秀
	海洋大循環モデルを用いた季節内～数十年変動研究	北海道大学大学院理学研究科・見延庄士郎助教授 他7名	遠藤昌宏
	惑星軌道要素と水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授	住 正明
	各気候域における降水システムのモデル研究	九州大学大学院理学研究院・川野哲也助手	木本昌秀
	異常気象と予測可能性に関する研究	京都大学防災研究所・向川 均助教授 他2名	木本昌秀
	●2004年度		
特定研究	CCSR/気象研の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・石崎 廣室長 他2名	遠藤昌宏
	領域型気候モデルの開発に関する研究	京都大学大学院理学研究科・木田秀次教授 他1名	住 明正
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究院・廣岡俊彦教授 他4名	高橋正明
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化	気象庁予報部数値予報課・斎藤和雄数値予報班長 他7名	住 明正
	東南アジア熱帯地域における水エネルギー循環に関する研究	東京大学生産技術研究所・沖 大幹助教授 総合地球環境学研究所・鼎 信次郎助教授	住 明正
	金星大気大循環モデルの開発	九州大学応用力学研究所・和方吉信教授 他2名	高橋正明
	海洋深層における乱流拡散のパラメタリゼーション	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之教授 他4名	遠藤昌宏
	東アジアの降水量変動および夏季インドモンスーン開始に関する研究	東京大学大学院工学系研究科・小池俊雄教授 他2名	住 明正
一般研究	季節内から数十年スケール気候変動の数値的研究	北海道大学大学院地球環境科学研究科・山崎孝治教授 他3名 ハワイ大学 SOEST・謝 尚平教授 他6名	木本昌秀
	大気海洋陸面相互作用による海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他7名 愛媛大学沿岸環境科学研究センター・郭 新宇助教授	木本昌秀
	大気低周波変動のモデル研究	九州大学大学院理学研究院・伊藤久徳教授	木本昌秀

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
一般研究	アジアモンスーン降水量システムのモデル研究	桜美林大学・高橋 劭教授	住 明正
	大気大循環モデルを用いた金星大気スーパーローテーションの研究	和歌山大学教育学部・山本 勝助教授	高橋正明
	海洋における水塊形成・輸送に関する数値的研究	東京大学大学院理学系研究科・安田一郎助教授 他4名	遠藤昌宏
	人工衛星による気象研究	総合地球環境学研究所・河本和明助手	中島映至
	放射伝達計算コードの高度化とライダー観測に基づく放射収支計算への応用	東京海洋大学海洋工学部・村山利幸助教授	中島映至
	梅雨・秋雨前線の水循環過程の季節進行と変動に関するモデル研究	岡山大学教育学部・加藤内蔵進助教授 他1名	高橋正明
	地表面の降積雪及び融雪が水循環に与える影響に関する研究	長岡技術科学大学・熊倉俊郎助手	木本昌秀
	海洋大循環モデルを用いた季節～数十年変動研究	北海道大学大学院理学研究科・見延庄士郎助教授 他8名	遠藤昌宏
	惑星軌道要素と水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授	住 明正
	各気候域における降水システムのモデル研究	九州大学大学院理学研究院・川野哲也助手	木本昌秀
異常気象と予測可能性に関する研究	京都大学防災研究所・向川 均助教授 他2名	木本昌秀	

● 2005年度

特定研究	CCSR/気象研の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・石崎 廣室長 他2名	遠藤昌宏
	領域型気候モデルの開発に関する研究	京都大学大学院理学研究科・木田秀次教授 他1名	住 正明
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究院・廣岡俊彦教授 他4名	高橋正明
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化	気象庁予報部数値予報課・竹内義明数値予報班長 他8名	住 正明
	水同位体GCMとISO-MATSIROの開発	東京大学生産技術研究所・沖 大幹助教授 総合地球環境学研究所・鼎 信次郎助教授	住 正明
	金星大気の数値シミュレーション	九州大学応用力学研究所・和方吉信教授 他1名	高橋正明
一般研究	海洋深層における乱流拡散のパラメタリゼーション	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之教授 他5名	遠藤昌宏
	チベット高原の大気昇温及び夏季インドモンスーン開始に関する研究	東京大学大学院工学系研究科・小池俊雄教授 他3名	住 正明
	季節内から数十年スケール気候変動の数値的研究	北海道大学大学院地球環境科学研究科・渡部雅浩助教授 他3名 ハワイ大学SOEST・謝 尚平教授 他7名	木本昌秀

一般研究	大気海洋陸面相互作用による大気海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他6名	木本昌秀
	大気低周波変動のモデル研究	九州大学大学院理学研究院・伊藤久徳教授 他2名	木本昌秀
	大気大循環モデルを用いた金星大気スーパーローテーションの研究	和歌山大学教育学部・山本 勝助教授	高橋正明
	海洋における水塊形成・輸送・生態系に関する数値的研究	東京大学大学院理学系研究科・安田一郎助教授 他4名	遠藤昌宏
	潮汐波を介したMLT領域と成層圏のカップリング研究	九州大学大学院理学研究院・宮原三郎教授 他2名	高橋正明
	放射スキームの高精度化	東京海洋大学海洋工学部・関口美保講師	中島映至
	梅雨・秋雨前線の水循環過程の季節進行と変動に関するモデル研究	岡山大学教育学部・加藤内蔵進助教授 他1名	高橋正明
	地表面の降積雪及び融雪が水環境に与える影響に関する研究	長岡技術科学大学・熊倉俊郎助教授	木本昌秀
	海洋大循環モデルを用いた季節内～数十年変動研究	北海道大学大学院理学研究科・見延庄士郎助教授 他6名	遠藤昌宏
	惑星軌道要素と水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授	住 正明
一般研究	各気候域における降水システムのモデル研究	九州大学大学院理学研究院・川野哲也助手	木本昌秀
	異常気象と予測可能性に関する研究	京都大学防災研究所・向川 均助教授 他2名	木本昌秀

● 2006年度

一般研究	CCSR/気象研の世界海洋大循環のパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・石崎 廣室長 他2名	遠藤昌宏
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究院・廣岡俊彦教授 他4名	高橋正明
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化とデータ同化手法の開発	気象庁予報部数値予報課・竹内義明数値予報班長 他9名	住 明正

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
特定研究	水同位体大循環モデルにおける大気・陸面・河川過程の結合および大気陸面相互作用の研究	東京大学生産技術研究所・沖 大幹助教授 他1名 総合地球環境学研究所・鼎 信次郎助教授	全教員
	金星大気の数値シミュレーション	九州大学応用力学研究所・山本 勝助教授 他2名	高橋正明
	海洋深層における乱流拡散のパラメタリゼーション	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之教授 他6名	遠藤昌宏
	チベット高原の大気昇温及び夏季インドモンスーン開始に関する研究	東京大学大学院工学系研究科・小池俊雄教授 他4名	住 明正
	全球雲解像モデルにおける熱帯対流圏界層の解析	北海道大学大学院環境科学院・藤原正智助教授 他1名	佐藤正樹
一般研究	季節内から数十年スケール気候変動の数値的研究	北海道大学大学院地球環境科学研究院・渡部雅浩助教授 他3名 ハワイ大学 SOEST・謝 尚平教授 他5名	木本昌秀
	大気海洋陸面相互作用による大気海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他7名	木本昌秀
	海洋における水塊形成・輸送・生態系に関する数値的研究	東京大学海洋研究所・安田一郎教授 他2名	遠藤昌宏
	潮汐波を介した MLT 領域と成層圏のカップリング研究	九州大学大学院理学研究院・宮原三郎教授 他3名	高橋正明
	放射スキームの高精度化	東京海洋大学海洋工学部・関口美保講師	中島映至
	梅雨・秋雨前線の水循環過程の季節進行と変動に関するモデル研究	岡山大学教育学部・加藤内蔵進助教授	高橋正明
	地表面の降積雪及び水循環に与える影響に関する研究	長岡技術科学大学・熊倉俊郎助教授	木本昌秀
	海洋モデルおよび海洋・海水結合モデルを用いた気候変動研究	北海道大学大学院理学研究科・見延庄士郎教授 他7名	遠藤昌宏
	惑星軌道要素と水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授	住 明正
	異常気象とその予測可能性に関する研究	京都大学防災研究所・向川 均助教授 他1名	木本昌秀
GMS 可視データを用いた東アジア地域の雲気候の解析	気象庁気象衛星センター・練野年之課長 他3名	中島映至	

● 2007年度

特定研究	水の安定同位体循環を組み込んだ大気陸面結合モデルの開発と検証	東京大学生産技術研究所・沖 大幹教授 他1名 総合地球環境学研究所・鼎 信次郎助教授	全教員
	次世代重力波パラメタリゼーション開発に向けた基礎研究	東京大学大学院理学系研究科・佐藤 薫教授 海洋研究開発機構・渡辺真吾ポスドク研究員 国立極地研究所・富川喜弘プロジェクト研究員 海洋研究開発機構・河谷芳雄ポスドク研究員	高橋正明
	金星大気の数値シミュレーション	九州大学応用力学研究所・山本 勝助教授 他2名	高橋正明
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究院・廣岡俊彦教授 他4名	高橋正明
	海洋深層における乱流拡散のパラメタリゼーション	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之教授 他7名	遠藤昌宏
	CCSR/気象研の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・石崎 廣部長 他2名	遠藤昌宏
	植生および大気の影響を考慮した4次元データ同化手法の開発	東京大学大学院工学系研究科・小池俊雄教授 他5名	木本昌秀
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化とデータ同化手法の開発	気象庁予報部数値予報課・小泉 耕数値予報班長 他8名	木本昌秀
	全球雲解像モデルにおける熱帯対流圏界層の解析	北海道大学大学院地球環境科学研究院・藤原正智助教授 他1名	佐藤正樹
	全球雲解像モデルを用いた4次元同化実験	筑波大学計算科学研究センター・田中 博教授 筑波大学陸域環境研究センター・渡来 靖準研究員	佐藤正樹
一般研究	季節サイクルの中でみた東アジア前線帯付近の水循環と変動に関する数値的研究	岡山大学教育学部・加藤内蔵進助教授 他3名	高橋正明
	海洋における水塊形成・輸送・生態系に関する数値的研究	東京大学海洋研究所・安田一郎教授 他5名	遠藤昌宏
	GMS 可視データを用いた東アジア地域の雲気候の解析	気象庁気象衛星センター・練野年之課長 他3名	中島映至
	放射スキームの高精度化	東京海洋大学海洋工学部・関口美保助教授	中島映至
	エアロゾル物理化学モジュールの開発研究	東京大学先端科学技術研究センター・近藤 豊教授 他3名 東京大学大学院理学系研究科・小池 真助教授	中島映至・ 木本昌秀
	大気海洋陸面相互作用による大気海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他6名	木本昌秀
	地表面の降積雪及び融雪が水循環に与える影響に関する研究	長岡技術科学大学・熊倉俊郎助教授	木本昌秀
	異常気象とその予測可能性に関する研究	京都大学防災研究所・向川 均助教授 他2名	木本昌秀
惑星軌道要素と水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊助教授 他1名	阿部彩子	

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
	海洋モデルおよび海洋・海水結合モデルを用いた気候変動研究	北海道大学大学院理学研究院・見延庄士郎教授 他3名 北海道大学大学院環境科学研究院・池田元美教授 他1名	羽角博康
●2008年度			
特定研究	水の安定同位体循環を組み込んだ大気陸面結合モデルの開発と検証	東京大学生産技術研究所・沖 大幹教授 他2名	木本昌秀
	次世代重力波パラメタリゼーション開発に向けた基礎研究	東京大学大学院理学系研究科・佐藤 薫教授 海洋研究開発機構・渡辺真吾ポスドク研究員 国立極地研究所・富川喜弘助教 海洋研究開発機構・河谷芳雄ポスドク研究員	高橋正明
	金星大気の数値シミュレーション	九州大学応用力学研究所・和方吉信教授 他2名	高橋正明
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究院・廣岡俊彦教授 他3名	高橋正明
	海洋深層における乱流拡散のパラメタリゼーション	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之教授 他9名	遠藤昌宏
	CCSR/気象研の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・石崎 廣部長 他2名	遠藤昌宏
	植生および大気の影響を考慮した衛星データ同化手法の開発	東京大学大学院工学系研究科・小池俊雄教授 他4名	木本昌秀
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化とデータ同化手法の開発	気象庁予報部数値予報課・小泉 耕数値予報班長 他8名	木本昌秀
	TRMM衛星データ解析アルゴリズム開発のための雲解像モデルシミュレーション	大阪府立大学大学院工学研究科・重 尚一助教 他1名	高 敏 縁
	全球雲解像モデルにおける対流圏界層の解析	北海道大学大学院地球環境科学研究院・藤原正智准教授 他1名	佐藤正樹
全球雲解像モデルを用いた4次元同化実験	筑波大学計算科学研究センター・田中 博教授 他1名	佐藤正樹	
一般研究	季節サイクルの中でみた東アジア前線帯付近の水循環と変動に関する数値的研究	岡山大学教育学部・加藤内藏進准教授 他1名	高橋正明
	海洋における水塊形成・輸送・生態系に関する数値的研究	東京大学海洋研究所・安田一郎教授 他3名	遠藤昌宏
	GMS可視データを用いた東アジア地域の雲気候の解析	気象庁気象衛星センター・線野年之課長 他3名	中島映至
	エアロゾル物理化学モジュールの開発研究	東京大学先端科学技術研究センター・近藤 豊教授 他2名 東京大学大学院理学系研究科・小池 真准教授	中島映至・木本昌秀
	大気海洋陸面相互作用による大気海洋循環の季節・経年変動のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他6名	木本昌秀
	地表面の降積雪及び融雪が水循環に与える影響に関する研究	長岡技術科学大学・熊倉俊郎准教授	木本昌秀
	異常気象とその予測可能性に関する研究	京都大学防災研究所・向川 均准教授 他1名	木本昌秀
	季節内から数十年スケールの気候変動の数値的研究	北海道大学大学院理学研究院・稲津 将准教授 他2名 北海道大学大学院地球環境科学研究院・山崎孝治教授 他3名	木本昌秀
	アジアの雨量計による日降水量グリッドデータによるMIROCモデル降水量の再現と変動性の評価	総合地球環境学研究所・谷田貝亜紀代助教 気象庁気象研究所・高島久洋上級研究員 他3名	木本昌秀
	惑星軌道要素と水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊准教授	阿部彩子
	海洋モデルおよび海洋・海水モデルを用いた海洋・海水変動研究	北海道大学大学院理学研究院・見延庄士郎教授 他2名 北海道大学大学院地球環境科学研究院・池田元美教授 他1名	羽角博康
	数値モデルを用いた夏季亜熱帯高気圧の変動力学の探究	東京大学大学院理学系研究科・中村 尚准教授 他2名	渡部雅浩
	●2009年度		
特定研究	湖沼・湿地のダイナミクスを考慮した陸面過程モデルの開発と検証	東京大学生産技術研究所・沖 大幹教授 他2名	木本昌秀
	気候モデルにおける力学過程の研究及び惑星大気大循環モデルの開発	九州大学応用力学研究所・山本 勝准教授	高橋正明
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究院・廣岡俊彦教授 他3名	高橋正明
	海洋深層における乱流拡散のパラメタリゼーション	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之教授 他9名	羽角博康
	CCSR/気象研の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・石崎 廣部長 他2名	羽角博康
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化とデータ同化手法の開発	気象庁予報部数値予報課・小泉 耕数値予報班長 他9名	木本昌秀
	エアロゾル・氷晶相互作用スキームのMIROCへの導入と検証	九州大学応用力学研究所・竹村俊彦准教授	中島映至

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	気候システム研究センター担当教員
	TRMM衛星データ解析アルゴリズム開発のための雲解像モデルシミュレーション	大阪府立大学大学院工学研究科・重 尚一助教 他1名	高数 縁
	全球雲解像モデルにおける対流圏界面層の解析	北海道大学大学院地球環境科学研究院・藤原正智准教授 他1名	佐藤正樹
	全球雲解像モデルを用いた4次元同化実験	筑波大学計算科学研究センター・田中 博教授 他1名	佐藤正樹
一般研究	季節サイクルの中でみた東アジア前線帯付近の水循環と変動に関する数値的研究	岡山大学院教育学研究科・加藤内蔵進准教授 他1名	高橋正明
	海洋における水塊形成・輸送・生態系に関する数値的研究	東京大学海洋研究所・安田一郎教授 他6名	羽角博康
	GMS可視データを用いた東アジア地域の雲気候の解析	気象庁気象衛星センター・大野智生課長 他4名	中島映至
	エアロゾル物理化学モジュールの開発研究	東京大学先端科学技術研究センター・近藤 豊教授 他1名 東京大学大学院理学系研究科・小池 真准教授 他2名	中島映至・木本昌秀
	大気海洋循環系における気候変動過程のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他6名	木本昌秀
	異常気象とその予測可能性に関する研究	京都大学防災研究所・向川 均教授	木本昌秀
	季節内から数十年スケールの気候変動の数値的研究	北海道大学大学院理学研究院・稲津 将准教授 他2名 北海道大学大学院地球環境科学研究院・山崎孝治教授 他3名	木本昌秀
	アジアの雨量計による日降水量グリッドデータによるMIROCモデル降水量の再現と変動性の評価	総合地球環境学研究所・谷田貝亜紀助教 他2名	木本昌秀
	惑星軌道要素と水循環	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊准教授	阿部彩子
	海洋・海氷モデルを用いた海洋・海氷変動研究	北海道大学大学院理学研究院・見延庄士郎教授 他2名 北海道大学大学院地球環境科学研究院・池田元美教授 他1名	羽角博康
数値モデルを用いた東アジア大気循環の変動力学の探究	東京大学大学院理学系研究科・中村 尚准教授 他2名	渡部雅浩	
北太平洋におけるCFC-11,12の海洋内循環再現実験	北海道大学低温科学研究所・中村知裕講師 他3名	羽角博康	

●大気海洋研究所

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	大気海洋研究所担当教員
●2010年度			
特定研究	湖沼・湿地のダイナミクスを考慮した陸面過程モデルの開発と検証	東京大学生産技術研究所・沖 大幹教授 他3名	木本昌秀
	金星大気の数値シミュレーション	九州大学応用力学研究所・山本 勝准教授	高橋正明
	海洋深層における乱流拡散のパラメタリゼーション	東京大学大学院理学系研究科・日比谷紀之教授 他7名	羽角博康
	CCSR/気象研の世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・平原幹俊主任研究官 他2名	羽角博康
	アジアモンスーンの数値シミュレーションのための物理過程の高度化とデータ同化手法の開発	気象庁予報部数値予報課・小泉 耕数値予報班長 他8名	木本昌秀
全球雲解像モデルを用いた4次元同化実験	筑波大学計算科学研究センター・田中 博教授 他1名	佐藤正樹	
一般研究	季節サイクルの中でみた東アジア前線帯付近の水循環と変動に関する数値的研究	岡山大学院教育学研究科・加藤内蔵進准教授 他2名	高橋正明
	海洋における水塊形成・輸送・生態系に関する数値的研究	東京大学海洋研究所・安田一郎教授 他6名	羽角博康
	静止気象衛星の可視データを用いた東アジア地域の雲気候の解析	気象庁気象衛星センター・大野智生課長 他4名	中島映至
	大気海洋循環系における気候変動過程のモデル研究	東京大学大学院理学系研究科・山形俊男教授 他4名	木本昌秀
	異常気象とその予測可能性に関する研究	京都大学防災研究所・向川 均教授	木本昌秀
	季節内から数十年スケールの気候変動の数値的研究	北海道大学大学院理学研究院・見延庄士郎教授 他5名 北海道大学大学院地球環境科学研究院・山崎孝治教授 他2名	木本昌秀
	汎地球型惑星の水循環と気候の検討	東京大学大学院理学系研究科・阿部 豊准教授 他1名	阿部彩子
	数値モデルを用いた東アジア大気循環の変動力学の探究	東京大学大学院理学系研究科・中村 尚准教授 他1名 ハワイ大学国際太平洋研究センター・小坂 優研究員	渡部雅浩
北太平洋におけるCFC-11,12の海洋内循環再現実験	北海道大学低温科学研究所・中村知裕講師 他3名	羽角博康	
放射スキームの高速・高精度化	東京海洋大学海洋工学部・関口美保准教授	中島映至	

研究区分	研究課題	採択者・組織の名称	大気海洋研究所 担当教員
●2011年度			
特定研究	地表面・水文モデルの開発及びデータ解析	東京大学生産技術研究所・沖 大幹教授 他2名	芳村 圭
	地表面・水文モデルの開発及びデータ解析	東京大学大学院工学系研究科・平林由希子准教授 他2名 東京工業大学大学院情報理工学系研究科・鼎 信次郎准教授	芳村 圭
	衛星データと数値モデルの複合利用による温室効果気体の解析	気象庁気象研究所・松枝秀和室長 他2名	今須良一
	世界海洋大循環モデルのパフォーマンスの相互比較	気象庁気象研究所・平原幹俊主任研究官 他2名	羽角博康
	オゾン化学輸送モデルの開発と数値実験	九州大学大学院理学研究院・廣岡俊彦教授 他2名	高橋正明
	気候モデルにおける力学過程の研究及び惑星大気大循環モデルの開発	九州大学応用力学研究所・山本 勝准教授	高橋正明
一般研究	オホーツク海・北太平洋の高分解能シミュレーション	北海道大学低温科学研究所・中村知裕講師 他3名	羽角博康
	数値モデルを用いた東アジア大気循環の変動力学の探究	東京大学大学院理学系研究科・中村 尚准教授 他1名 ハワイ大学国際太平洋研究センター・小坂 優研究員	渡部雅浩
	大気海洋結合モデルを用いたインド洋・太平洋・アジア域の気候変動・気候変化に関する研究	電力中央研究所・大庭雅道主任研究員	渡部雅浩
	放射伝達モデルに基づく静止気象衛星の可視データ校正技術の開発	気象庁気象衛星センター・大野智生課長 他4名	中島映至
	季節サイクルの中でみた東アジア前線帯付近の水循環と変動に関する数値的研究	岡山大学大学院教育学研究科・加藤内蔵進教授 他2名	高橋正明
	放射スキームの高速・高精度化	東京海洋大学海洋工学部・関口美保准教授	中島映至

資料2-3 研究費等

資料2-3-1 科学研究費補助金

●海洋研究所 [1992～2004年度]

単位：千円 -印：データなし

年 度	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
件 数	40	40	—	44	67	57	61	55	47	47	61	51	64
総 計	167,100	151,100	161,706	183,100	203,400	191,600	175,100	265,000	621,000	431,000	504,630	395,910	507,040

●海洋研究所 [2005～2009年度]

単位：千円

年 度	2005		2006		2007		2008		2009	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
特定領域研究	1	7,500	4	116,900	5	78,300	5	67,207	6	59,700
新学術領域研究(研究領域提案型)	1	1,500	0	0	0	0	1	46,670	2	144,950
新学術領域研究(研究課題提案型)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	11,310
基盤研究S	1	80,340	1	9,360	1	5,590	2	53,690	3	115,440
基盤研究A	8	87,360	8	112,450	10	123,760	9	109,980	6	57,980
基盤研究B	9	44,000	11	54,600	12	61,490	12	67,340	16	102,700
基盤研究C	9	13,800	6	8,100	8	12,870	6	9,100	8	16,380
挑戦的萌芽研究(萌芽研究)	4	8,300	4	6,000	4	5,300	3	4,600	5	6,800
若手研究S	0	0	0	0	0	0	0	0	1	65,520
若手研究A	2	21,580	2	13,000	2	12,870	1	11,960	2	30,420
若手研究B	5	6,200	9	14,700	8	8,200	6	7,800	4	7,800
研究活動スタート支援 (若手研究(スタートアップ))	0	0	1	1,380	3	4,100	3	5,252	2	2,170
奨励研究	0	0	0	0	0	0	0	0	1	480
特別研究員奨励費	24	24,200	20	19,100	20	20,600	24	23,600	19	1,700
研究成果公開促進費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総計	64	294,780	66	355,590	73	333,080	72	407,199	76	623,350

●気候システム研究センター [1991～2004年度]

単位：千円 -印：データなし

年 度	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
件 数	3	10	7	9	9	14	—	—	—	—	9	9	9	6
総 計	51,400	50,220	66,250	76,050	30,400	171,200	175,185	96,000	61,500	47,700	37,600	29,000	9,800	14,500

●気候システム研究センター [2005～2009年度]

単位：千円

年 度	2005		2006		2007		2008		2009	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
特定領域研究	1	5,000	0	0	0	0	0	0	0	0
新学術領域研究(研究領域提案型)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新学術領域研究(研究課題提案型)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究S	3	7,600	3	7,400	2	1,430	7	4,650	5	2,355
基盤研究A										
基盤研究B										
基盤研究C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
挑戦的萌芽研究(萌芽研究)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
若手研究S	3	11,500	3	8,300	4	10,926	4	13,286	2	8,320
若手研究A										
若手研究B										
研究活動スタート支援 (若手研究(スタートアップ))	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
奨励研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別研究員奨励費	0	0	0	0	3	3,400	4	3,600	5	4,700
研究成果公開促進費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総計	7	24,100	6	15,700	9	15,756	15	21,536	12	15,375

●大気海洋研究所

単位：千円

年 度	2010		2011	
	件数	金額	件数	金額
特定領域研究	6	56,000	0	0
新学術領域研究(研究領域提案型)	2	56,160	2	142,740
新学術領域研究(研究課題提案型)	1	10,400	1	10,270
基盤研究S	2	99,190	3	97,630
基盤研究A	7	72,150	7	96,200
基盤研究B	12	54,990	17	74,100
基盤研究C	6	7,410	9	12,610
挑戦的萌芽研究(萌芽研究)	3	3,800	1	1,950
若手研究S	1	17,030	0	0
若手研究A	1	7,280	2	23,010
若手研究B	11	20,670	11	13,910
研究活動スタート支援 (若手研究(スタートアップ))	1	1,638	0	0
奨励研究	0	0	0	0
特別研究員奨励費	22	16,100	22	16,700
研究成果公開促進費	0	0	2	2,900
総計	0	422,818	0	492,020

資料2-3-2 受託研究費, 奨学寄付金, 共同研究費

●海洋研究所

受託研究費			奨学寄付金			共同研究費		
単位: 千円			単位: 千円			単位: 千円		
年度	件数	金額	年度	件数	金額	年度	件数	金額
1992	13	36,349	1992	19	14,159	1992	0	0
1993	12	39,532	1993	23	18,523	1993	0	0
1994	11	32,659	1994	29	43,575	1994	2	1,412
1995	12	31,835	1995	32	32,945	1995	0	0
1996	10	37,016	1996	34	74,865	1996	0	0
1997	14	57,396	1997	25	27,900	1997	0	0
1998	11	174,253	1998	15	20,400	1998	1	1,954
1999	13	98,959	1999	15	US \$ 68,689	1999	2	3,000
2000	14	85,986	2000	20	22,923	2000	2	3,700
2001	9	59,774	2001	11	10,715	2001	3	5,750
2002	9	24,396	2002	14	40,244	2002	5	15,925
2003	10	29,321	2003	13	26,504	2003	8	16,491
2004	14	34,140	2004	14	22,100	2004	7	13,951
2005	19	120,651	2005	8	US \$ 72,500	2005	7	27,685
2006	19	125,244	2006	8	7,530	2006	5	30,600
2007	23	143,107	2006	14	35,447	2006	5	30,600
2008	20	201,052	2007	13	29,142	2007	6	29,804
2009	20	247,193	2008	14	41,188	2008	6	18,687
			2009	8	31,498	2009	3	1,650

●気候システム研究センター

受託研究費			奨学寄付金			共同研究費		
単位: 千円 -印: データなし			単位: 千円 -印: データなし			単位: 千円 -印: データなし		
年度	件数	金額	年度	件数	金額	年度	件数	金額
1991	—	7,331	1991	3	—	1991	—	0
1992	2	7,329	1992	3	54,500	1992	—	0
1993	—	7,726	1993	—	—	1993	—	0
1994	3	7,317	1994	—	—	1994	—	0
1995	4	9,987	1995	—	—	1995	1	10,635
1996	5	10,046	1996	—	—	1996	1	12,189
1997	—	9,163	1997	—	35,049	1997	—	14,802
1998	5	24,668	1998	—	32,929	1998	—	4,200
1999	9	23,969	1999	—	16,172	1999	2	10,150
2000	8	35,172	2000	—	11,049	2000	2	14,574
2001	9	36,960	2001	—	9,840	2001	—	13,100
2002	10	295,800	2002	24	11,600	2002	3	13,200
2003	10	664,900	2003	24	15,000	2003	6	9,300
2004	11	690,000	2004	26	10,000	2004	3	10,100
2005	14	980,900	2005	25	8,500	2005	3	14,700
2006	14	874,667	2006	25	8,706	2006	6	25,495
2007	12	1,054,120	2007	24	10,900	2007	8	30,491
2008	12	1,075,964	2008	20	13,300	2008	8	21,732
2009	12	1,119,541	2009	20	13,300	2009	6	28,826

●大気海洋研究所

受託研究費

単位：千円

年度	件数	金額
2010	32	1,448,873
2011	40	789,747

奨学寄付金

単位：千円

年度	件数	金額
2010	34	76,983
2011	22	56,681

共同研究費

単位：千円

年度	件数	金額
2010	7	40,507
2011	5	62,635

資料2-4 教育活動

資料2-4-1 学生数等

●海洋研究所

(): 外国人で内数

年 度			1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
大学院	理学系研究科	修士	13(4)	8(2)	20(1)	23(2)	20(3)	18(3)	23(3)	27(4)	28(3)	34(3)	26(2)	20(1)	29(1)	33(1)	27(1)	18	12	22
		博士	25(8)	27(11)	30(9)	26(5)	38(7)	34(5)	26(7)	20(4)	24(3)	26(5)	34(1)	32(2)	34(3)	34(3)	26(3)	20(3)	18(3)	14(1)
	農学生命科学研究科	修士	11	9(1)	8(1)	13	22(1)	20(1)	21(1)	16(2)	18(2)	20(1)	27(1)	23	13(1)	10(1)	14	22(1)	25(3)	20(1)
		博士	12(4)	23(3)	22(4)	38(6)	27(5)	32(4)	28(4)	32(3)	32(4)	26(4)	38(7)	35(4)	22(2)	24(2)	26(3)	26(3)	26(3)	31(7)
	新領域創成科学研究科	修士	—	—	—	—	—	—	—	0	0	11	15	12	14	18(1)	28(2)	38(1)	44(1)	43(2)
		博士	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	1	4(1)	4(1)	8(1)	12(2)	15(3)	20(3)	24(3)
	大学院研究生		2	1	1	0	1	1	4(3)	3(1)	1(1)	1(1)	0	0	2	0	0	2	0	1
	特別研究学生		1	0	4	2	3	4	5	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0
	外国人研究生		0	2	2	6	3	3	3	0	0	1	3	1	2	0	2(2)	2(2)	1(1)	1(1)
	研究生		10	10	14	11	6	6	11	9(1)	16(2)	8(1)	3	4	3	6	1	6(3)	3(2)	1(1)

* 2000・2001年度 総合文化研究科の大学院学生（修士）1名在席

●気候システム研究センター

(): 外国人で内数

年 度			1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	
大学院	理学系研究科	修士	5	11	9	12(2)	16(2)	21(1)	21(2)	15(1)	12	10	18(1)	28(2)	23	20	21(3)	17	18	13(1)	11	
		博士	4	5	7	7	8(1)	9(1)	12	14	17	16(1)	20(1)	16(1)	22(2)	18(2)	18	18	16	15(1)	18(2)	
	新領域創成科学研究科	修士	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	2	1	0	1	2	2	2	4	5	
		博士	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	1	1	1	1	1	1	2(1)	2	4(1)	
	大学院研究生		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
	特別研究学生		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	外国人研究生		0	1	2	3	5	2	0	0	1	1	2	1	0	0	0	2	0	0	0	
	研究生		0	1	0	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	

●大気海洋研究所

(): 外国人で内数

年 度			2010	2011
大学院	理学系研究科	修士	49(1)	56
		博士	21(2)	22(1)
	農学生命科学研究科	修士	18(1)	15
		博士	28(9)	28(6)
	新領域創成科学研究科	修士	38(3)	35(2)
		博士	30(4)	32(2)
	工学系研究科	修士	0	1
		博士	0	2
	大学院研究生		1	1
	特別研究学生		0	0
外国人研究生		1(1)	0	
研究生		1(1)	2	

資料2-4-2 修士論文

●海洋研究所

理学系研究科

学位取得年月	氏名	論文題目
1993.3	川島正行	梅雨前線に伴うレインバンドの維持機構に関する研究——リトリーバル法を用いた1998年7月17日九州特別観測の事例解析
1993.3	上野義和	前線不安定の室内実験
1993.3	李芝旺	浅海域の海底近底層・堆積物最表層における微生物群集とその環境因子に関する研究
1993.3	柿澤昌	Involvement of somatolactin in calcium regulation in fish
1994.3	有家秀郎	北部伊豆小笠原弧リフト域浅部地殻の地震構造
1994.3	森田澄人	Topography, geologic structures and geochemical variations of the northern Izu-Bonin Arc
1994.3	大森琴絵	南海トラフ域の巨大地震と活構造
1994.3	松本晃治	Study of the ocean tides by TOPEX/Poseidon Altimetry
1994.3	是永淳	Analysis of geomagnetic vector anomalies at the East Pacific Rise 26°-32°S
1994.3	Moe Kyaw Thu	Seismic stratigraphy of the Yamato Basin, Japan Sea
1995.3	亀山真典	A numerical model of magma-migration in a convecting upper mantle
1995.3	大谷竜	超伝導重力計で計られた重力変化に含まれる地下水の影響の研究
1995.3	本荘千枝	Three dimensional gravity and magnetics study in the Rodriguez Triple Junction
1995.3	清水建司	Study of life form and behavior of benthic animals through analysis of photographic observations
1995.3	渡部元	Parasitic interrelationships between <i>Paralomis multispina</i> (Lithodidae: Anomura) and <i>Briarosaccus callosus</i> (Peltogastridae: Cirripedia)
1995.3	Susana Sainz Trapaga	Warm water intrusions from the northern boundary of the Kuroshio extension into the perturbed area
1995.3	山口耕生	Stratigraphic and geochemical study of early Precambrian banded iron formations, Pilbara Craton, Western Australia: Implications for hydrothermal activity
1996.3	岡英太郎	東シナ海における黒潮と水塊・密度の時間変動
1996.3	鈴木真一	移動する台風に対する海洋の応答
1996.3	渡辺毅	グローバルエネルギーバランスモデルの改良
1996.3	福田(宗林)留美	海洋細菌の大量濃縮と細菌起源有機物の分解特性
1996.3	原口悟	Volcanism of the paleo-Izu-Ogasawara (Bonin) arc (northern part of the Kyushu-Palau Ridge and Izu outer arc high) in Eocene to Oligocene
1996.3	嶋永元裕	Reproductive ecology of interstitial harpacticoids (Copepoda, Crustacea) at sandy bottom in Otsuchi Bay, Northeastern Japan
1996.3	葉信明	Community structure of deep-sea demersal fish around Japan, Northwestern Pacific
1996.3	福沢敦	Structure and function of natriuretic peptides in Amphibians
1996.3	三科祥里	Characterization of natriuretic peptide receptors in the gill of eels, <i>Anguilla japonica</i>
1996.3	宮崎裕明	Development of osmoregulatory ability during early life stages of euryhaline tilapia, <i>Oreochromis mossambicus</i> , reared in fresh water or seawater
1996.3	中野和民	Effects of ambient salinities on carbohydrate metabolism in two species of tilapia, <i>Oreochromis mossambicus</i> and <i>O. niloticus</i>
1996.3	白石清乃	Development of multicellular complexes of the chloride cells in the yolk-sac membrane of tilapia (<i>Oreochromis mossambicus</i>) embryos and larvae in seawater
1997.3	豊田英司	寒冷前線付近に発生したメソβスケールの渦列に関する観測的・理論的研究
1997.3	呉之翔	東京に大雨をもたらした降水系の事例解析
1997.3	井田雅也	表面電離型質量分析計を用いた海水中のThの定量
1997.3	Lerche, Dorte Bjerregaard	Fractionation of yttrium and holmium in the aquatic environment
1997.3	宮田佳樹	負イオン質量分析法によるルテニウム定量法の開発
1997.3	福田秀樹	海洋における微細鞭毛藻の捕食過程と溶存有機物の動態
1997.3	荒木英一郎	海底地震計に記録された自然地震波によるソロモン島弧・オントンジャワ海台下の地殻・上部マントル構造

学位取得年月	氏名	論文題目
1997.3	豊原哲彦	Population dynamics of and reproductive traits of phytal gastropod, <i>Lirularia iridescens</i> and <i>Hiloa tristis</i> inhabiting subtidal seagrass bed in Otsuchi Bay, Northeastern Japan
1997.3	奥野敦朗	オカダンゴムシの造雄腺ホルモンの精製と化学的性質
1997.9	Alibo, Dia Sotto	The marine geochemistry of indium
1998.3	松丸圭一	小型のスーパーセルに関する数値的研究
1998.3	間仲俊樹	東部インド洋, スル海, アンダマン海および南シナ海のバリウムの分布と挙動の比較
1998.3	五十嵐智子	海底地震計による房総沖海溝三重会合点付近の微小自然地震活動
1998.3	佐々木智之	Distribution of active structures in the lower landward slope and seaward slope of the northern Japan trench and subduction tectonics
1998.3	二宮悟	日本海東縁のネオテクトニクスの研究
1998.3	氏家由利香	Drastic changes of the Kuroshio Current around the Ryukyu Arc region: Based on the faunal analyses of planktonic foraminifera
1999.3	米島慎二	海底地震観測によるソロモン島弧におけるセイスモテクトニクス
1999.3	長田幸仁	海底測地観測に向けた基礎実験
1999.3	謝冠園	Surface and deep-tow magnetic anomaly analyses of the Shikoku Basin and its tectonic evolution
1999.3	土田貴政	The effect of atrial natriuretic peptide on drinking in eels, <i>Anguilla japonica</i>
1999.3	村山英未	魚類の耳石形成機構に関する分子生物学的研究
1999.9	Julio García	Community structure and zonation of deep-sea ophiuroids around Japan
2000.3	永野憲	日本南岸潮位の年内変動の時空間特性——黒潮流路との関連
2000.3	野田暁	小型のスーパーセルにおけるメソサイクロンの発達機構
2000.3	野口尚史	Diffusive型二重拡散対流による層構造の発生と成長
2000.3	雨谷幸郎	海洋中の溶存有機物のサイズ分布とそのC:N比に関する研究
2000.3	荒田直	海洋中における細胞外酸性多糖類の分布とそのサイズ特性に関する研究
2000.3	梅澤有	亜熱帯サンゴ礁海域における定着性大型藻類の化学組成を用いた陸源窒素影響域の把握
2000.3	山足友浩	Tectonics of super slow spreading ridge
2000.3	鈴木達也	ウナギの鰓上皮細胞に対するナトリウム利尿ペプチドの作用
2000.3	遠藤博寿	甲殻類の表皮において脱皮後期に特異的に発現する遺伝子の解析
2000.3	池谷鉄兵	甲殻類外骨格の石灰化に同調して発現される遺伝子DD5の構造の解析と発現部位の同定
2000.3	伊藤幸彦	三陸沖暖水塊の移動機構に関する研究
2000.3	平野圭司	Morphology of the Toyama deep sea channel in the Japan Sea as revealed by the side-scan sonar IZANAGI
2000.3	笹川基樹	北部北太平洋におけるエアロソル・降水・霧水の化学組成と相互関係
2000.9	張燕	Oceanic profiles of dissolved silver and the biochemical processes controlling them
2001.3	長谷江里子	1999年梅雨期の擾乱と大規模場に関する解析的研究
2001.3	柳瀬亘	日本海のポーラーロウの構造と発達機構に関する数値的研究
2001.3	本郷やよい	北太平洋の溶存態希土類元素の広域分布とその支配要因
2001.3	土岐知弘	南海トラフ付加体内部から表層堆積物へのメタン供給
2001.3	町田嗣樹	Volcanisms of the backarc echelon seamounts and the backarc knolls along the Enpo seamount chain in the northern Izu-Ogasawara Arc
2001.3	河内直子	海草藻場における葉上性コケムシの個体群動態
2001.3	川越暁	ナトリウム利尿ペプチドファミリーの分子進化
2001.3	大木修一	造礁サンゴの骨格に含まれるタンパク質の解析
2001.3	Yudi Anantasena	Sediment distribution of the Eastern Nankai Forearc Region – Significance of tectonic and sea level control –
2001.3	神宮花江	化学輸送モデルによる東アジア域のエアロソル輸送に関する研究
2001.3	松葉亮子	海洋環境中粒子の粒径及び化学組成による解析
2002.3	金井秀元	集中豪雨をもたらす温帯低気圧とそのメソスケール構造に関する研究
2002.3	吉田優	熱雷の予報可能性に関する研究

学位取得年月	氏 名	論 文 題 目
2002.3	結 城 陽 介	激しい降雹と突風をもたらす積乱雲の構造に関する研究
2002.3	池 俊 宏	3-D multi-channel seismic reflection analysis in the eastern Nankai Trough accretionary prism, off Tokai district
2002.3	黒 田 潤一郎	Paleoceanographic study of black shale at Cenomanian/Turonian boundary: high-resolution geochemical mapping of the Bonarelli horizon, central Italy
2002.3	浅 田 美 穂	サイドスキャンソナー画像の解析による超低速斜め拡大軸の地質学的研究——北極海クニボビッチ海嶺
2002.3	北 沢 光 子	Geomagnetic records over the last 780 kyr obtained by a deep-sea three components magnetometer onboard a submersible at the Central Indian Ridge, 19°S
2002.3	三 浦 亮	反射法地震は探査を用いた伊豆・小笠原海溝南部、小笠原海台周辺の沈み込みテクトニクスに関する研究
2002.3	佐 藤 泰 彦	インド洋中央海嶺ロドリゲス三重点近傍に産出する玄武岩類の岩石学的研究
2002.3	塚 田 岳 大	ウナギの海水適応における心房性ナトリウム利尿ペプチド (ANP) の役割
2003.3	田 上 浩 孝	梅雨前線に伴う擾乱とその環境場に関する研究
2003.3	田 副 博 文	海洋表層における Ce, Nd 同位体比の分布とその支配要因
2003.3	吉 沢 明 子	マンガノジュール中の天然放射性核種と希土類元素の挙動
2003.3	今 田 恵	Viral proliferation and decay in the ocean: Role of UV radiation in degradation of viral particles
2003.3	伊 藤 美央子	植物プランクトンが生産する細胞外有機物の特性——その炭素：窒素比と分解特性に注目して
2003.3	Udrekhanif	Physical property estimation of gas hydrate layer using a high resolution multichannel seismic data in the Tokai area, Japan
2003.3	李 毅 兵	小笠原前弧域ボニナイト質海山産ドレレッジ試料の岩石学的研究——初期島弧火成活動の一例
2003.3	松 田 康 平	オーストラリア——南極不連続における地形・地磁気・重力異常とデタッチメント仮説
2003.3	中 瀬 香 織	深海地磁気観測による大西洋中央海嶺 36°14' N, Rainbow 熱水地域の磁化構造
2003.3	若 林 直 樹	中央インド洋海嶺南端部およびロドリゲス三重会合点における地球物理学的研究
2003.3	弓 削 進 弥	ウナギにおけるグアニリンファミリーの浸透圧調節作用
2003.3	仲 村 将 蔵	海流構造と生態的性質は海洋生物の遺伝的集団構造にどのような影響を及ぼすか？
2003.3	早 野 輝 朗	西部北太平洋における炭素質エアロソルの時空間変動
2003.3	宇 井 剛 史	北太平洋における大気エアロソルの元素組成と輸送過程
2003.3	宇 山 悠紀子	西部北太平洋における春季大気エアロソルの主要無機成分の特徴
2004.3	大 縄 将 史	総観規模波動と中間規模波動の相互作用に関する研究
2004.3	杉 本 智 里	台風とポーラーロウのスパイラルバンド構造に関する研究
2004.3	辻 健	Evolution of the decollement in the Nankai Trough: Insights from seismic attributes analysis employing Kohonen self-organizing maps
2004.3	渡 邊 奈保子	東シナ海における完新世の環境変動
2004.3	早 川 英 毅	アザミサンゴの卵タンパク質の分子生物学的解析
2004.3	神 前 悠 治	アカネキンチャクダイは種間交雑の産物か？——核およびミトコンドリア DNA の多面的分析によるアプローチ
2004.3	中 谷 将 典	ミトコンドリアゲノム全長配列に基づく骨鯨上目の系統進化学的研究
2004.3	白 井 厚太郎	Deep-sea coral geochemistry: Potential proxy for paleoclimate reconstruction
2004.9	Ferrer i Santos, Antoni	Distribution and dynamics of platinum in Tokyo area
2005.3	加 藤 史 拓	中部北太平洋での海洋観測による深層循環の研究
2005.3	小笠原 麻 喜	北陸地方における冬季スプライト発生時の気象場の解析
2005.3	田 中 亮	Dust Devil の発生環境と構造に関する数値的研究
2005.3	雪 本 真 治	吸い込み渦の構造に関する実験的・理論的研究
2005.3	堀 川 博 紀	富山深海長谷中部海域の現行堆積構造と表層堆積物——タービダイトの2次元分布
2005.3	児 玉 安 見	日本海とオホーツク海における深海性底生魚ノロゲンゲの集団構造
2005.3	御 興 真 穂	トラフグにおける新規アドレノメデュリンファミリーの発見と浸透圧調節
2005.3	頼 信 実	造礁サンゴと褐虫藻の共生の分子機構研究のためのモデル系の確立
2005.3	遠 藤 真 紀	太平洋における大気エアロソルおよび海洋表層懸濁粒子の化学的リンケージ

学位取得年月	氏名	論文題目
2005.3	井上由美子	Ion microprobe analysis of Rb and Sr isotopes in K-rich minerals: An attempt of radiometric dating
2006.3	古川祐貴	水平シア流と熱対流の相互作用に関する研究
2006.3	西山裕子	亜熱帯低気圧の構造とライフサイクルの事例解析
2006.3	井上博之	Stratigraphic and structural development of the Ontong Java Plateau
2006.3	渡邊みづき	Spreading evolution in the southern Lau Basin based on geophysical surveys
2006.3	渡邊太朗	脊椎動物におけるレニン・アンジオテンシン系の起源
2006.3	宮崎垂紀子	日本沿岸域のシオダマリミジンコ <i>Tigriopus japonicus</i> に見出された著しい遺伝的多様性
2006.3	湯山育子	サンゴと渦鞭毛藻の共生に関する遺伝子の解析
2006.3	西川悠	北西太平洋におけるマイワシ・サンマの魚種交代と海洋環境・海洋生態系変動に関する研究
2006.3	長船哲史	北太平洋亜寒帯域における水塊変動と潮汐の18.6年周期変動
2006.3	岩本洋子	北太平洋北西部における海洋表層濁粒子の粒径と化学組成を基にした解析
2006.3	近藤雅輝	西武北太平洋海域を中心とした大気エアロゾル中微量元素の季節変動と挙動
2006.3	吉田健太郎	海霧の粒径と化学組成による成長過程
2006.3	国岡大輔	The distribution of Mg/Ca, Sr/Ca, Ba/Ca ratios in <i>Pulleniatina obliquiloculata</i> test by using a Nano-SIMS: Implication for the vital effect
2006.3	内田麻美	段階加熱法によるサンゴ骨格中の窒素・炭素・酸素同位体組成
2007.3	軸屋陽平	突風を生じたメソ低気圧の多重構造
2007.3	梶原佑介	日本海のポーラーロウの発生・発達メカニズムと内部構造に関する研究
2007.3	吉原香織	北西太平洋における亜熱帯低気圧の統計解析
2007.3	小尾垂由美	東海沖メタンハイドレート層の水平方向速度変化と濃集プロセス
2007.3	佐藤太一	中央インド洋嶺南端部に位置する海洋コアコンプレックスの磁化構造, 船上および深海三成分磁力計を用いた解析
2007.3	伊藤誠	千島海溝及び南西諸島海溝における小型底生生物の群集構造
2007.3	内海隆司	アルビンガイ類の系統進化と生物地理
2007.3	Albert Ventura	Interaction between fast-acting and slow-acting hormones in fish osmoregulation
2007.3	古田好美	イトヨのV2R型嗅覚受容体遺伝子群の多様性解析
2007.3	鈴木悠太	マイクロサテライトマーカーによるアザミサンゴ集団構造の解析
2007.3	宇都宮嘉宏	サンゴ-褐虫藻のモデル共生系確立と共生に関わる遺伝子の探索
2007.3	山田創	シオダマリミジンコ群の遺伝的構造の解析——分布境界に着目して
2007.3	井口秀憲	北太平洋中央部における海洋大気エアロゾル中の微量金属の化学的特徴
2007.3	真野佑輝	北太平洋における海洋大気エアロゾル中の主要無機イオンとMSAの動態解析
2007.3	織田志保	サンゴ骨格中の微量金属元素の測定と手法の評価
2008.3	福谷陽	梅雨前線上のメソスケール低気圧の構造と発達機構に関する研究
2008.3	齊藤洋一	離散進行型スコールラインの数時間変動に関する数値的研究
2008.3	杉本裕之	黒潮流軸上に発生する対流雲に関する研究
2008.3	足立健郎	日本海, オホーツク海および北西太平洋における深海性底生魚コブシカジカ属の集団構造
2008.3	山口陽子	軟骨魚類の海洋環境への適応——サメ腎臓における尿素輸送体の動態
2008.3	飯田高広	核遺伝子によるイトヨ日本海型と太平洋型間の遺伝的分化の解析
2008.3	金子仁	乱流鉛直混合による北太平洋中層水の変質過程についての観測的研究
2008.3	八木雅宏	千島列島海域における密度逆転を用いた乱流混合の観測研究
2008.3	目黒垂衣	北太平洋における海洋大気エアロゾル中のリンの挙動
2008.3	小林紗由美	NanoSIMSを用いたシャコガイ殻の高解像度分析
2008.3	徳竹大地	希ガスをトレーサーとした海洋循環の研究
2009.3	原田まりこ	南太平洋タヒチの最終融氷期サンゴ化石による海洋環境復元
2009.3	小林達哉	フィリピンのサンゴを用いた南シナ海の中期完新世古環境復元
2009.3	小泉真認	新しい脂肪酸精製法を用いた化合物レベル放射性炭素年代測定法の開発——南極縁辺海堆積物の正確な年代構築に向けて

学位取得年月	氏名	論文題目
2009.3	島田和明	長期飼育実験系によるハマサンゴ <i>Porites australiensis</i> の光応答に関する研究
2009.3	牛江裕行	Evaluation of land-water interaction in aquatic chemistry and carbon cycle of small rivers on Iriomote and Ishigaki Islands, Okinawa, Japan
2009.3	古川由紀子	大気中ヘリウム同位体比の精密測定
2010.3	黛健斗	北太平洋亜熱帯域における中層海洋循環の構造と特性
2010.3	井上貴子	斜面の加熱冷却によって生ずる局地循環に関する理論的研究
2010.3	山口春季	湿潤対流混合層に生ずるマイクロスケールの旋風に関する数値的研究
2010.3	小倉健	インド洋における四重極質量分析装置を用いた海水中の溶存ガス（窒素、酸素、アルゴン）濃度の高精度同時測定
2010.3	柴田直弥	西部北太平洋における亜鉛の分布と存在状態に関する研究
2010.3	松田直也	ジャカルタ湾より採取されたサンゴ骨格 (<i>Porites</i> sp.) 中の微量元素を用いた海洋環境の復元
2010.3	山口保彦	Nitrogen isotopic signatures of amino acids in Eukarya, Bacteria and Archaea: a novel tool in biogeochemistry
2010.3	塩澤彩	ウナギ心臓におけるナトリウム利尿ペプチドファミリーの機能形態学
2010.3	丹羽良知	18.6年周期潮位振幅変化率の評価とアムクタ海峡における乱流観測
2010.3	高田未緒	NanoSIMSを用いた炭素質コンドライト隕石のAl-Mg年代測定

農学系研究科／農学生命科学研究科

学位取得年月	氏名	論文題目
1993.3	廣瀬太郎	三陸大槲湾におけるチカの資源生物学的研究
1993.3	小林晴美	西部北太平洋における翼足類の生物地理
1993.3	高橋一生	近底層動物プランクトンの生態学的研究——砂浜域砕波帯のアミ類を中心として
1993.3	崎山徳起	深海微生物の生理・生態に関する研究
1993.3	須藤和彦	芦ノ湖のワカサギ資源に関する研究
1993.3	釜石隆	mtDNAの分析によるアユ集団の遺伝学的研究
1993.3	阪倉良孝	ブリ仔稚魚の個体間干渉の発現・発達に関する研究
1994.3	石垣哲治	従属栄養鞭毛虫の生態学的研究
1994.3	砂村倫成	海洋におけるメタン生成に関する微生物学的研究
1994.3	中井宗紀	北太平洋ピンナガの回遊と環境に関する研究
1995.3	渡辺光	黒潮とその隣接海域における夜表性ハダカイワシ科魚類群集生物量の長期変動および深海への物質輸送に果たす役割
1995.3	浦川秀敏	海洋における低温細菌に関する研究
1995.3	柴田晃	海洋における微小粒子生成に関する微生物学的プロセス——特にファージと細菌の役割について
1995.3	青山潤	ミトコンドリアDNAによるウナギ属魚類の系統と進化に関する研究
1995.3	山田朋秀	伊豆諸島海域のマサバ (<i>Scomber japonicus</i>) の再生産機構
1996.3	渡部諭史	Studies on the reproduction of <i>Syngnathus schlegeli</i> with brief comparison with <i>Hippichthys penicillus</i>
1996.3	山口素臣	Molecular phylogenetic study of myctophid fishes (Pisces: Myctophidae)
1996.3	小山靖弘	<i>Pusa</i> 亜属3種の成長と形態
1997.3	日高清隆	西部熱帯太平洋のイカ類マイクロネクトン群集とその分布様式
1997.3	空雅利	西部北太平洋亜寒帯域および移行域におけるハダカイワシ科魚類の日周鉛直移動と摂餌生態
1997.3	三朝千稚	海洋性ビブリオ科細菌の系統に関する研究——PCR/RFLPパターンによる解析
1997.3	黒木麻希	北海道天売島におけるウトウの給餌量の日変動と雛の成長
1997.3	笹井清二	Studies on osmoregulatory functions of chloride cells in Japanese eel, <i>Anguilla japonica</i>
1997.3	宮崎裕介	駿河湾のサクラエビ資源の変動に対する海水交換の影響
1997.3	大島ゆうこ	厚岸湖の栄養塩循環に果たすアマモの役割の数値モデルによる研究
1997.3	勝川俊雄	産卵ポテンシャルによる資源管理
1997.3	加藤久嗣	サバ型魚類仔稚魚における感覚器の葉辰に関する研究
1998.3	奥村賢一	中・深層性エビ類の摂餌生態に関する比較生物学的研究

学位取得年月	氏名	論文題目
1998.3	佐々千由紀	黒潮及び移行域のハダカイワシ科魚類仔稚の分布生態
1998.3	木全則子	溶存態ポリタンパクの期限となる細菌の分布と生理的特性
1998.3	筒井直昭	アメリカザリガニの胃石に含まれる基質タンパク質のcDNAの構造と発現に関する研究
1998.3	井上潤	ウナギ目魚類の進化に関する分子系統学的研究
1998.3	菅原顕人	三浦半島三崎地先のアラメ・カジメの生態に関する基礎的研究
1998.3	山口佳孝	日本中南部の太平洋岸、特に相模湾における流れ藻とそれにつく魚類に関する研究
1998.3	日下彰	道南～房総沿岸海域における春期ブルームと環境要因の関係
1998.3	李雅鈴	ズワイガニ日本海系群のSPR解析
1998.3	高橋素光	黒潮・親潮移行域におけるカタクチワシ仔稚魚の成長
1998.3	田中美穂	室蘭沖に來遊するカマイルカ群の生態学的研究
1999.3	蔵田泰治	親潮域における浮遊性端脚類の鉛直分布に関する研究
1999.3	松浦弘行	中・深層性カイアシ類の生態学的研究——とくにアウガプティルス科の分布と食性について
1999.3	好田勉	キノン分析を用いた海洋堆積物中の微生物群集特性の比較
1999.3	丸井美穂	耳石によるウナギ属魚類5種の初期生活史の解明
1999.3	篠田章	ウナギの接岸回遊生態に関する研究
1999.3	井上貴史	ウナギ幼生の輸送に影響する北赤道海域の海洋構造と変動特性
1999.3	北川貴士	標識型小型記録計を用いたクロマグロ未成魚の鉛直遊泳行動に関する研究
1999.3	阪下考研	常磐・鹿島灘沿岸海域におけるイカナゴの稚仔輸送と加入機構に関する研究
1999.3	吉田尚郁	黒潮前線波動が日本南岸沿岸海域の流動環境に及ぼす影響
1999.3	小坂実顕	カスピカイザラシの年齢査定と成長に関する研究
2000.3	豊田圭太	油濁に対する沿岸生態系の応答——メソコスムを用いてのアプローチ
2000.3	木村呼郎	日本沿岸のマアナゴの集団構造に関する研究
2000.3	宮井猛士	魚野川における外国産ウナギ属魚類の降河生態
2000.3	徳永和彦	ウミガメ類の保護に関する資源学的研究
2000.3	大地まどか	トリプチルスズがワレカラ類(甲殻類:端脚目)に及ぼす影響
2000.3	梶原夏子	日本近海産イシイルカ(<i>Phocoenoides dalli</i>)における有機塩素化合物の汚染とその蓄積特性
2000.3	杉山恵	日本近海産イシイルカ(<i>Phocoenoides dalli</i>)における人工放射性核種($^{239+240}\text{Pu}$ と ^{137}Cs)の蓄積特性
2000.3	加藤扶美	Functional morphology of chloride cells in killifish, <i>Fundulus heteroclitus</i>
2001.3	Sean Treacy Toczko	Community structure and vertical distribution of micronektonic crustaceans (decapods, euphausiids and mysids) in the subarctic Pacific and Bering Sea in summer
2001.3	川合桃子	アイスランドにおけるウナギ属魚類の接岸生態
2001.3	河合裕朗	Recovery policy for the chub mackerel fishery using the recruitment-per spawning parameter
2001.3	堺卓郎	河川環境改変のウナギ漁業に対する影響
2001.3	千村昌之	宮古湾におけるニシンの産卵と初期成長
2001.3	白藤徳夫	串本周辺海域におけるキビナゴの成長と成熟
2001.3	筒井繁行	噴火湾に來遊するカマイルカ(<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>)の鳴音に関する研究
2002.3	大久保綾子	^{234}U 、 ^{230}Th および ^{228}Ra 、 ^{228}Th 放射非平衡から推定される東部インド洋における粒子フラックス
2002.3	栗山美樹子	デトリタス食性カイアシ類 Scolecitrichidae 科の鉛直分布と機能形態
2002.3	神谷英里子	Determination of natural marine bacteria by flow cytometry
2002.3	吉田明弘	変性剤ゲル電気泳動法を用いた海洋細菌群集の解析
2002.3	皆川源	Distribution and community structure of Anguilliform leptocephali in the western North Pacific and around Sulawesi Island
2002.3	蝦名晋一	キューバ海域に生息するタイマイの順応的管理
2002.3	森光代	Observer experience and minke whale sighting ability in IWC/IDCR-SOWER surveys
2002.3	安江尚孝	数理シミュレーションによるコクチバスの駆除効果の評価
2002.3	村上恵美	アワビ類の精巣と精子に関する研究

学位取得年月	氏 名	論 文 題 目
2003.3	福 田 伊佐央	造礁サンゴにおけるアクチンと骨格タンパク質遺伝子の分子生物学的解析
2003.3	今 川 修 造	造礁サンゴ <i>Favites chinensis</i> における卵形成機構の分子生物学的解析
2003.3	武 島 弘 彦	マイクロサテライトDNAマーカーから見たアユの遺伝的集団構造
2003.3	小 竹 朱	耳石Sr・Ca比から推定したウナギの回遊履歴に関する生態学的研究
2003.3	馬 涛	Age, growth and distribution of the Anguilliform leptocephali identified by mt DNA marker in the East China Sea
2003.3	峰 岸 有 紀	ミトコンドリアゲノム分析に基づくウナギ属魚類の系統進化に関する研究
2003.3	中 嶋 美 冬	Persistence and fluctuation of lateral dimorphism in fishes
2003.3	川 崎 将 義	コノシロ <i>Konoshirus punctatus</i> 仔稚魚の相模川河口域への進入と成長過程
2003.3	鬼 塚 年 弘	三浦半島長井沿岸におけるトコブシの初期生態に関する研究
2003.3	鈴 木 龍 生	土佐湾におけるウルメイワシの成長と成熟
2003.3	工 藤 俊 哉	インド洋沿岸域における鯨類の混獲とその生物特性
2003.3	服 部 徹	魚類の酸性適応に関する機能形態学的研究
2004.3	竹 光 保	相模湾における動物プランクトン・マイクロネクトンの脂質・脂肪酸組成に関する研究
2004.3	吉 田 圭 佑	相模湾におけるメゾ動物プランクトンの季節変動および鉛直分布に関する研究
2004.3	井 上 雄 介	密度勾配分画法を用いた天然の海洋細菌群集の解析
2004.3	神 谷 明 子	共生発光細菌 <i>Photobacterium leiognathi</i> の <i>lux</i> 遺伝子の系統解析
2004.3	東海林 伸 哉	密度勾配遠心分離法を利用した細菌の比重変化に関する研究
2004.3	高 橋 真紀子	DNAレベルからみたアロザイム多型の実態——アユGPIを例に
2004.3	深 町 徹 生	オオウナギの集団構造に関する分子遺伝学的研究
2004.3	川 上 達 也	分子形質を用いた魚卵の分類に関する研究
2004.3	黒 木 真 理	熱帯海域におけるウナギ属レプトケファルス回遊生態に関する研究
2004.3	甲 斐 幹 彦	禁漁区のフィードバック制御による資源管理
2004.3	緑 川 さやか	沿岸域における有機スズ化合物の分布特性
2004.3	渡 辺 佑 基	Diving behaviour of free-ranging Baikal seals in Lake Baikal
2005.3	森 田 幹 晴	海洋性発光細菌におけるナトリウム駆動型呼吸鎖に関する研究
2005.3	佐 藤 行 人	魚類におけるフスフォルコース・イソメラーゼ遺伝子の重複に関する分子進化的研究
2005.3	飯 田 碧	和歌山県太田川におけるボウズハゼ <i>Sicyopterus japonicus</i> の生活史に関する研究
2005.3	横 内 一 樹	浜名湖水系におけるニホンウナギの生態に関する研究
2005.3	加 藤 慶 樹	海洋乱流および水温変動がクロマグロ仔魚に及ぼす影響
2005.3	岸 田 宗 範	若狭湾に來遊するマアジ稚魚の形態変異に関する研究
2005.3	青 木 かがり	マッコウクジラの潜水行動
2005.3	岡 まゆ子	大槌湾の生態系における残留性有機汚染物質の蓄積特性
2005.3	高 田 佳 岳	ロシア領カラ海とチュクカ沖で採集した採集したワモンアザラシ
2006.3	原 慈 子	西部北太平洋における希土類元素およびポロニウム-210, 鉛-210の挙動と植物プランクトンブルームの関係に関する研究
2006.3	陶 景 倫	緑膿菌のバイオフィーム形成に関する研究
2006.3	福 田 野歩人	浜名湖におけるニホンウナギの接岸回遊生態に関する研究
2006.3	吉 澤 菜津子	ニホンウナギの集団構造と産卵生態に関する研究
2006.3	東 信 隆	標識放流データからみたカツオの移動
2007.3	徐 維 那	Particle-capture by marine bacteria
2007.3	須 藤 竜 介	ウナギの降河回遊行動に伴う生殖関連ホルモンの動態に関する研究
2007.3	早 川 淳	相模湾長井におけるサザエの繁殖生態と初期生態
2007.3	金 治 佑	東シナ海と日本海西部におけるマアジ仔稚魚の生態
2007.3	三 宅 陽 一	三浦半島西岸における暖流系大型アワビ類浮遊幼生の輸送
2007.3	菊 池 夢 美	加速度ロガーによる時系列データに基づく海棲哺乳類の行動把握
2008.3	水 上 碧	浮遊性刺胞動物における種特異的DNA塩基配列領域の探索
2008.3	徳 江 有 里	黒潮統流域における生物生産に関する研究

学位取得年月	氏名	論文題目
2008.3	高木 伸	板鰓類の体液調節機構——塩分調節に関わる鰓の役割
2008.3	井上 健太郎	海洋性古細菌の鉛直的構造とその変動
2008.3	澤田 悦子	太平洋-インド洋におけるノコバウナギ科仔稚魚の分類と生態に関する研究
2008.3	国峯 充浩	相模湾におけるカタクチイワシ仔魚の分布と移動
2008.3	西田 淳子	冬季の黒潮統流域におけるサンマ仔稚魚の分布と成長
2008.3	鈴木 隆史	Studies on migration history of Ayu (<i>Plecoglossus altivelis</i>) using otolith trace element and stable isotopic composition
2008.3	富田 泰生	Studies on distinguishing between wild and stocked pink salmon (<i>Oncorhynchus gorbuscha</i>) using otolith oxygen and carbon stable isotopic ratios
2009.3	成田 拓	日本近海の表層水中における水素ガスの挙動に関する研究
2009.3	町田 真通	イセエビ類・セミエビ類フィロゾーマ幼生の摂餌生態に関する研究
2009.3	佐藤 由季	海洋における酸素非発生源好気性光合成細菌の生態に関する研究
2009.3	角村 佳吾	Identification of novel transporter proteins contributing urea transport in cartilaginous fish
2009.3	伊藤 吉彦	サンゴ・褐虫藻共生系の環境ストレスに応答する遺伝子の探索
2009.3	冢口 泰道	都市河川・猪名川におけるアユ自然個体群の回復：耳石および遺伝子の分析による検証
2009.3	Ben Romdhane, Haifa	Mapping seagrass beds and coral reefs in tropical islands: A case of Barrang Lompo Island, Spermonde Archipelago, South Sulawesi, Indonesia
2009.3	眞鍋 諒太郎	ウナギの産卵回遊行動に関する生態学的研究
2009.3	岡澤 洋明	分子形質を用いたシギウナギ科魚類の分類に関する研究
2009.3	三股 智子	九州天草周辺海域に生息するミナミハンドウイルカの生残率・個体数推定と個体群存続可能性分析
2009.3	太田 雄樹	大型海藻幼芽の生残におよぼす植食動物の摂食の影響
2009.3	脇 司	相模湾長井の岩礁域における貝類の生態に関する研究
2009.3	香森 英宜	加速度データロガーを使用したカラチヨウザメの遊泳行動に関する研究
2010.3	佐野 雅美	相模湾における中層性カイアシ類の食性に関する比較生態学的研究
2010.3	杉本 康則	浮遊性被嚢動物 <i>Salpa fusiformis</i> 遺骸の微生物分解過程に関する研究
2010.3	高部 宗一郎	ドチザメの鰓は塩分調節に関わるか——分子形態学的解析
2010.3	山脇 有紗	海洋同化モデルを用いたマイワシ卵仔魚の輸送環境変動に関する研究
2010.3	Alicia Toyo Brandt	Feeding behavior of the juvenile Japanese sea urchin <i>Strongylocentrotus nudus</i>
2010.3	深道 絹代	相模湾におけるカタクチイワシ仔稚魚の成長と発達
2010.3	落合 伸一郎	マイワシとウルメイワシ当歳魚の比較生態学的研究
2010.3	大村 文乃	アサリの摂餌生態と消化吸収機構に関する研究
2010.3	山内 梓	日本沿岸域に來遊するマアジの初期生態
2010.3	辻野 拓郎	加速度データロガーを用いたブラックバス属2種の捕食に関する研究

新領域創成科学研究科

学位取得年月	氏名	論文題目
2003.3	小牧 加奈絵	降下式音響ドップラー流速プロファイラー LADCP を用いた北太平洋西部の海洋循環の研究
2003.3	足立 昌則	遊魚海域の堆積物表層におけるよせ餌の分解過程
2003.3	松山 為時	サンゴ礁の堆積物表層における底生微生物群集による窒素代謝——アミノ酸光学異性体別の同位体比分析による藻類と細菌群集での窒素取込の分別への試み
2003.3	竹内 謙介	海洋における溶存態有機物のサイズ分布とその生化学的特性
2003.3	澤田 拓也	ピストンコア試料からみた熊野泥火山の表層地質と活動史
2003.3	田中 千尋	音波散乱層の発生要因の解明
2003.3	水田 貴信	産卵行動と受精効率から見たナメクジウオの繁殖生態
2003.3	地下 久哉	ウナギ産卵場の生物・物理環境
2003.3	三上 温子	鍋田湾・志太ヶ浦のガラモ場における年間純生産量の推定
2003.3	館岡 篤志	南極昭和基地における海面水位変動
2004.3	見澤 直人	アミノ酸ラセミ化度年代測定法による冷湧水活動履歴解明
2004.3	桜井 大志	水中における石油エマルジョンの生分解過程

学位取得年月	氏名	論文題目
2004.3	安井 晋典	魚類胚を用いた環境ストレス応答タンパク質の探索手法の開発
2004.3	柴谷 恵子	岩手県船越湾における海草の分布と環境
2005.3	久保 亜希子	海水中の低分子溶存有機物のキャラタリゼーション
2005.3	佐藤 妙子	東京湾におけるサイズ別粒状有機物の炭素・窒素安定同位体比による起源解析
2005.3	田中 泰章	造礁サンゴによる硝酸塩の利用と有機物代謝に関する研究
2005.3	林 亮太	アオウミガメに付着するフジツボ類の生態
2005.3	片山 隆成	黒潮統流域における前線渦の物理的・生物学的変動過程
2005.3	齋藤 新	北赤道海流域における二ホンウナギ仔魚の輸送環境
2005.3	稲田 真一	伊豆海嶺・房総沖における黒潮の流速構造と水塊分布について
2006.3	田島 義史	海水中における生物由来ケイ酸のサイズ分布
2006.3	豊田 倫子	ロス海海底堆積物に含まれるバイオマーカーの水素同位体比を用いた西南極氷床の変動解析
2006.3	和田 耕一郎	海洋から分離された緑膿菌の系統的位置づけ
2006.3	佐川 龍之	衛星リモートセンシングによる藻場分布マッピング手法の開発
2006.3	青柳 大志	沿岸域における粒子分散に関する研究
2006.3	海老原 希美	カスピ海アザラシの季節による移動と潜水行動
2006.3	瀧本 良太	北部タイランド湾における収束発散場と生物生産の関係
2007.3	坪井 良恵	河川中の溶存態・懸濁態生物由来ケイ素の動態
2007.3	内山 奈美	海洋性発光細菌 <i>Photobacterium leiognathi</i> における発光遺伝子の系統解析
2007.3	松永 大輔	東シナ海東部海域における流れ藻の分布と移動
2007.3	山本 以智人	東シナ海・黄海における底魚資源の変遷と種間相互変動
2007.3	浅野 啓輔	表層漂流プイを用いた北太平洋亜寒帯表層循環の季節変動の描写
2007.3	石神 健二	駿河湾東部海域における収束発散場に関する研究
2007.3	小糸 智子	マイルカ科鯨類の進化遺伝学的研究
2007.3	檜崎 友子	三陸海岸に來遊するアカウミガメ <i>Caretta caretta</i> の潜水行動解析
2007.3	八木 玲子	データロガーを用いたシロサケ <i>Oncorhynchus keta</i> の母川回帰行動の解析
2007.3	丹藤 由希子	ナメクジウオの環境刺激の受容と内分泌機構に関する研究
2007.9	Daniel Edison Husana	Biodiversity and biogeography of brachyuran crabs from the anchialine caves in the Philippines
2008.3	日佐戸 友美	海水中の揮発性有機炭素・窒素濃度測定手法の検討・確立
2008.3	三島 真理	Reconstruction of paleoenvironment at 16 ka in the last glacial period by Faviidae coral collected from Ryukyus, southwestern Japan
2008.3	菅 友美	The dynamics of marine bacteria with particle capturing activity
2008.3	岩崎 藍子	地中海深海高塩分無酸素海盆 (DHAB) における底生有孔虫群集
2008.3	村上 宗樹	サツマハオリムシ (<i>Lamellibrachia satsuma</i>) の遺伝的集団構造解析
2008.3	萩原 聖士	東北沖太平洋の大陸斜面におけるイラゴアナゴの分布と繁殖生態に関する研究
2008.3	日下 崇	駿河湾の流れ藻に関する研究
2008.3	鈴江 真由子	枯死海藻・海草起源有機物の分解特性
2008.3	櫻田 玲子	不確実性を考慮したスルメイカ (<i>Todarodes pacificus</i>) 資源管理手法の検討
2008.3	宮崎 幸恵	安定同位体比を用いたウナギ幼生の餌料環境と親魚の生態に関する研究
2008.3	山岡 直樹	地球温暖化がクロマグロおよびウナギの初期生活史に与える影響
2008.3	銭本 慧	ウナギ仔魚輸送に関わる北赤道海流域における海洋構造の季節的・経年的変動に関する研究
2008.3	召田 圭子	アカボウクジラ科 (Family: Ziphiidae) 鯨類の脊椎骨における形態学的研究
2008.3	中嶋 理人	沿岸域表層における水平乱流拡散係数の水深依存性
2008.3	高田 雄一郎	マンガンクラスト中の鉛同位体比を用いた北西太平洋の古海洋環境復元の試み
2009.3	古原 聡美	南太平洋における中層循環と南極中層水の時間変動
2009.3	寺西 源太	希土類元素を用いた水曜海山海底熱水系における物質循環研究
2009.3	大塚 宏徳	三次元反射法地震探査データを用いた東部南海トラフ付加体における流体移動の研究——地層内流体の分布形態を示す特徴的な反射面

学位取得年月	氏名	論文題目
2009.3	渡辺陽子	異なる培養温度条件下での白潮形成円石藻の増殖特性と円石の元素分析
2009.3	小池いづみ	海洋環境における酸素非発生型好気性光合成細菌の増殖解析
2009.3	近藤英恵	海洋性粒子捕獲細菌の時空間変動
2009.3	村田奈穂	多摩川水系における糞便汚染指標菌の評価
2009.3	和田英里	RNAを用いた海洋細菌群集の構造解析
2009.3	伊藤萌	東北地方におけるホソウミナナの系統地理学的研究
2009.3	頼末武史	日本周辺の熱水噴出域に生息するマリアナイトエラゴカイの分散と沖縄トラフにおけるイトエラゴカイ未記載種の報告
2009.3	田村百奈美	‘アオ鰻’に関する人文的・生物学的総合研究
2009.3	榎本明子	日本近海におけるカツオの回遊生態
2009.3	池尾誠之	ウォッチングボートがミナミハンドウイルカ (<i>Tursiops aduncus</i>) の海域利用と行動に及ぼす影響
2009.3	前田圭祐	小型鯨類スナメリの分布と環境要因の関係
2009.3	森田博之	水産資源管理における新規加入量予測の有効性の評価
2009.3	森岡裕詞	英国メナイ海峡におけるヨーロッパパイガイ (<i>Mytilus edulis</i>) の餌料環境に関する研究
2009.3	青山高幸	自然環境下におけるコクチパスの遊泳行動
2009.3	藤ノ木優	シンカイヒバリガイ類の共生硫黄酸化細菌定量のためのFISH画像解析
2009.3	稲葉真由美	還元環境における脊索動物の環境適応に関する研究
2009.3	岩田尚之	ナメクジウオの環境因子の受容体に関する研究
2009.9	吉村寿紘	Development and application of paleoenvironmental proxy in biogenic calcium carbonate
2009.9	Felipe Hurtado Ferro	Exploring effective management strategies to recover the Japanese sardine stock from depletion
2010.3	馬瀬輝	現場型自動分析法を用いた海洋における鉄(II)の生物地球化学的循環に関する研究
2010.3	黒田光輔	海洋中の低分子溶存有機物のキャラクタリゼーション
2010.3	三澤文慶	反射法地震探査に基づく相模湾東部地域の海底浅部構造
2010.3	谷岡慧	反射法地震探査による熊野トラフの泥火山と周辺堆積盆の地質構造
2010.3	小崎沙織	酸性化海水がサンゴの石灰化および骨格の微量元素比に与える影響
2010.3	佐藤愛希子	オホーツク海における浮遊性有孔虫 <i>Neogloboquadrina pachyderma</i> を用いた温暖期(完新世, MIS 5e, 11)の海洋環境変動の復元
2010.3	猪又健太郎	外洋に生息域を持つ <i>Pseudomonas</i> 属細菌の分離と進化上の起源
2010.3	岡本垂矢子	南大洋における有機硫黄化合物の変換に関与する細菌群集の解析
2010.3	今村陽一郎	多摩川河口域に優占する十脚甲殻類の食性および環境浄化能力に関する研究
2010.3	中野祐	伊豆・小笠原諸島海域及び北マリアナ諸島海域の熱水噴出域に生息する腹足類オガサワラマンジの初期発生に関する研究
2010.3	國分優孝	海洋底に堆積した海産大型植物の現存量の推定
2010.3	毛利明彦	SAR(合成開口レーダ)を利用したリモートセンシングによる干潟マッピング法の開発
2010.3	中山洋輔	漁獲統計を用いた水産資源の資源量推定値の信頼性の検討
2010.3	柴田直人	有明海・橘湾におけるスナメリの分布と環境要因の関係
2010.3	溝呂木奈緒	地球温暖化に伴う水温上昇がクロマグロ (<i>Thunnus orientalis</i>) の初期生残に及ぼす影響
2010.3	木村祥吾	静岡県大井川におけるウナギ <i>Anguilla japonica</i> の生活史と耳石微量元素組成に関する研究
2010.3	井口千鶴	駿河湾奥部におけるサクラエビ産卵海域の流況について
2010.3	井上朋也	釜石湾湾口防波堤の建設による沿岸環境の変化
2010.3	松村萌	Three-dimensional analysis on diving behavior of northern elephant seals and their environmental preference
2010.3	鈴木一平	Research on energy budget of marine mammals using accelerometers
2010.3	亀田綾乃	^3He をトレーサーとした海洋深層循環の研究
2010.3	豊島考作	生物起源アパタイトを用いた局所 $^{87}\text{Sr}/^{86}\text{Sr}$ 分析法の確立と顕生代の古環境復元の試み

●気候システム研究センター

理学系研究科

学位取得年月	氏名	論文題目
1992.3	古 恵 亮	鉛直モード分解による熱塩循環モデルの解釈
1992.3	石 川 一 郎	熱塩循環に対するドレーク海峡の効果
1993.3	沼 田 直 美	緑のサハラは本当か？
1993.3	関 根 創 太	熱帯地域における対流活動の日変化の解析
1993.3	塚 本 雅 仁	大気大循環モデルのための放射フラックスの精密解法
1993.3	椋 田 貴 郁	熱塩循環に対する風の効果
1993.3	田 辺 清 人	海洋の2層湧昇拡散モデルによるCO ₂ 吸収の推定
1994.3	中 島 孝	A method for wide area determination of cloud microphysical properties from satellite measurement
1994.3	仙 波 秀 志	ピナツポ火山噴火に伴う成層圏汚染——GMS/VISSRによるリモートセンシングデータの解析及び光学的厚さの推定
1994.3	西 村 照 幸	鉛直1次元モデルによる気候実験
1994.3	羽 角 博 康	海洋—海氷結合モデルの構築
1994.3	河 宮 未知生	海洋生態系モデルの構築——感度実験の応用
1995.3	井 上 孝 洋	保存則を考慮したsemi-Lagrangian法の開発
1995.3	可 知 美佐子	大気—海洋の年々～十年規模変動
1996.3	河 本 和 明	異なる大気条件下における雲微物理特性の衛星リモートセンシングに関する研究
1996.3	對 馬 洋 子	衛星データと大循環モデルを用いた地球の放射収支に関する研究
1996.3	小 高 正 嗣	赤道大気海洋結合不安定の励起とその成長について
1996.3	辻 野 博 之	北太平洋の上層循環に対する熱塩効果
1996.3	久保田 尚 之	熱帯対流活動の日変化
1996.3	和 田 浩 治	熱帯成層圏下部の短周期擾乱
1997.3	片 桐 秀一郎	AVHRR赤外チャンネルによる上層雲の光学的特性の導出に関する研究
1997.3	留 小 強	二次元数値モデルによる非定常加熱に対するHadley循環の応答のシミュレーション
1997.3	鈴 木 英 一	アジアにおける梅雨季の大気循環場の変動とその構造
1997.3	滝 川 雅 之	CCSR/NIES AGCMを用いた大気化学結合モデルによるO ₃ , NO _x 等の数値計算
1997.3	中 野 英 之	世界海洋大循環モデルにおける熱塩循環の季節変動
1997.3	赤 井 靖 雄	簡易大気海洋結合モデルによる熱帯域の気候形成の研究
1997.3	松 山 志 保	熱帯西部太平洋における対流活動の年々変動と北半球の大気循環
1997.3	中 村 恵 子	カルマンフィルタを用いた海洋4次元データ同化と観測ネットワークデザインに関する研究
1997.3	渡 部 雅 浩	冬季北半球における大気循環の急激な変化と10年規模変動
1998.3	丸 山 祥 宏	CCSR/NIES AGCMにおける土壌性エアロゾルのモデリング
1998.3	有 田 帝 馬	TOGA-COARE データおよびArakawa-Schubert積雲パラメタリゼーションを用いた大規模場と積雲活動の関係に関する研究
1998.3	永 島 達 也	大気大循環モデルを用いたオゾンホール再現実験
1998.3	斎 藤 冬 樹	南極氷床の三次元モデリング
1998.3	徐 敏	熱帯の季節内振動とその年々変動
1998.3	内 田 淳一郎	地球温暖化に伴う中緯度内陸気候の応答——特に土壌水分量に注目して
1998.3	三 木 緑	高精度移流スキームを組み込んだ海洋大循環モデルの開発とその北太平洋表層循環モデルへの応用
1998.3	水 上 英 樹	物質循環モデルを用いた北太平洋中・深層における栄養塩分布形成過程の研究
1998.3	角 田 智 彦	軸対称大気—海洋結合モデルにおける海洋深層循環の振動と安定性
1998.3	輪 木 博	夏の大規模モンスーン循環における湿潤過程の役割
1999.3	張 業 文	A study of the cloud radiative forcing with use of satellite and objective analysis data
1999.3	黒 田 俊 介	衛星搭載マイクロ波放射と可視・近赤外放射系から得られた雲物理量について
1999.3	竹 村 俊 彦	A study of simulating aerosol distributions of various origins with a numerical climate model
1999.3	千喜良 稔	The Green Sahara at 6000 years before present: mechanism of moisture-transport from the Tropics to the Sahara
1999.3	小 倉 知 夫	新生代寒冷化における南極氷床形成の影響に関する数値実験

学位取得年月	氏名	論文題目
1999.3	岡 顕	海洋・簡易大気結合系における海洋大循環の振舞い
1999.3	佐藤 尚毅	夏の関東平野における積雲対流の日々変化——晴れた日の次の日は晴れにくいのか？
1999.3	山本 陽子	南半球中緯度下部成層圏における重力波の解析
1999.3	堤 大地	太平洋10年規模変動の数値シミュレーション
1999.3	安富 奈津子	日本の天候と大気大循環の年々変動についての解析的研究
2000.3	須藤 健悟	CCSR/NIES AGCMを用いた対流圏光化学モデルの開発——オゾン・各関連気体の全球分布と対流圏オゾン変動に関するモデル実験
2000.3	鈴木 健太郎	大気大循環モデルと衛星観測を用いた雲-エアロゾル相互作用の研究
2000.3	臼井 崇行	海色観測衛星によるエアロゾルの全球分布特性の導出
2000.3	橋本 智帆	球面傾圧波モデルにおけるブロッキングと多重天候レジーム
2001.3	関口 美保	地球放射収支における雲とエアロゾルの影響に関する研究
2001.3	河谷 芳雄	水平鉛直高解像度AGCMを用いた梅雨前線と重力波の研究——大規模場とメソスケールの様相に関するモデル実験
2001.3	黒田 剛史	CCSR/NIES AGCMを用いた火星大気シミュレーション
2001.3	大石 龍太	植生の有無が全球気候に与える影響
2001.3	山岸 孝輝	氷期北半球氷床の形成維持に関する数値実験
2001.3	小室 芳樹	海氷-海洋結合モデルによる全球水輸送の見積もりと海氷の海洋大循環に果たす役割の評価
2001.3	伊藤 智之	ENSOに対する全球大気-海洋混合層の応答
2001.3	三浦 裕亮	雲解像モデルを用いた積雲対流と大規模場の相互作用についての研究
2002.3	橋本 尚久	火星GCMを用いた極冠形成シミュレーション
2002.3	中元 美和	太陽活動11年周期変動と気候変動との関係
2003.3	黄 宣淳	大気大循環モデルを用いたエアロゾル間接効果と放射強制力の評価
2003.3	井口 享道	雲核影響を取り入れた雲解像領域モデルによる雲物理特性の再現に関する研究
2003.3	丸山 優二	雲が東シナ海の放射収支場に与える影響に関する研究
2003.3	向井 真木子	エアロゾル輸送モデルを用いた黄沙現象の研究
2003.3	新井 豊	大気硫黄循環モデルを用いた海洋生物起源DMSの気候への影響に関する研究
2003.3	加藤 美樹	秋雨季の前線帯に関わる気象場の特徴について
2003.3	蜷川 雅晴	火山性エアロゾルによる熱帯下部成層圏の大気変動
2003.3	太田 芳文	衛星搭載赤外センターによるオゾン空間分布の導出に関する研究
2003.3	坂本 圭	夏季北太平洋で発生する上層寒冷低気圧に関する研究
2003.3	田代 朋之	代替フロン物質の気候影響に関する研究
2003.3	金丸 由紀子	大気海洋結合モデルがシュミレートするエルニーニョ・南方振動の振幅に影響を与える熱帯基本場の構造
2003.3	鹿島 崇宏	大気大循環モデルにおける湿潤大気境界層過程の検討と気候感度への影響
2003.3	大蔵 革	1次元モデル, CCSR/NIES5.6を用いた積雲対流パラメタリゼーションの比較
2003.3	大森 志郎	軌道要素の変化に対する大気・海洋・氷床結合系の応答について
2003.3	清木 亜矢子	赤道域における西風バーストの発生とENSO・季節内振動との相互関係についての統計的解析
2004.3	浅湫 五郎	ピン法モデルによるエアロゾルの雲核生成と輸送過程に関する研究
2004.3	佐伯 貴之	AVHRRデータを用いたエアロゾルに関する長期解析
2004.3	芦川 亮	関東地方の広域海風に関する研究
2004.3	平野 映良	南太平洋収束帯の維持機構に関する研究
2004.3	小熊 健太郎	地表面射出率が気候に与える影響に関する研究
2004.3	酒井 大輔	GCMを用いた火星のダスト, ドライアイス雲, 水収支過程に関する研究
2004.3	辻 宏一郎	AGCMを用いた熱帯域の重力波に関する研究
2004.3	千葉 史哉	スーパーパラメタリゼーションを用いた大気大循環モデルの開発
2004.3	中村 卓也	高解像度大気大循環モデルで再現されたモンスーン域の季節内変動
2004.3	片山 勝之	TRMM PRデータのメソスケール統計を用いた熱帯・亜熱帯域の降雨特性とその降雨要因についての研究

学位取得年月	氏名	論文題目
2004.3	森田 純太郎	TRMM衛星データを用いた Madden-Julian 振動に伴う降水特性の解析
2004.3	渡辺 英嗣	Multi-category 海氷モデルを用いた風応力変動に対する北極海海氷分布の応答に関する研究
2005.3	喜名 朋子	人工衛星を用いた都市域気候の特徴抽出に関する研究
2005.3	廣田 渚郎	梅雨期における東アジアの降水傾向と気圧パターン
2005.3	倉田 耕輔	赤道近傍で発生した台風 Vamei (0126 号) の生成過程に関する研究
2005.3	齊川 真介	安定同位体を用いた水循環プロセス解析手法に関する研究
2005.3	川崎 高雄	海洋大循環モデルを用いた北太平洋深層循環と鉛直拡散係数に関する研究
2005.3	松村 義正	非静力学海洋数値モデルを用いた極域海氷下での中規模渦生成及び混合層形成に関する研究
2005.3	網野 尚子	解像モデルを用いた積雲のエントレインメントに関する研究
2005.3	宮坂 隆之	夏季ユーラシア大陸上の準定常ロスビー波とオホーツク海高気圧の発達
2005.3	高橋 真耶	大気海洋結合モデルにおけるエルニーニョの振幅変調の研究
2005.3	横森 淳一	高層ゾンデデータ解析による大規模場と積雲対流活動の相互作用についての研究
2006.3	福田 悟	多波長型イメージャーを利用したエアロゾル・リモートセンシング手法の開発に関する研究
2006.3	五藤 大輔	大循環モデルを利用した有機炭素エアロゾルのモデリングに関する研究
2006.3	三井 達也	非静力学モデルを利用した雲の形成過程に及ぼすエアロゾルと地表面状態の影響に対する研究
2006.3	小澤 慶太郎	衛星データ解析による赤外射出率のスペクトル構造と地表面状態の関係
2006.3	門脇 正尚	火星ダストストームの時間発展に関する研究
2006.3	山下 陽介	地球大気・火星大気の北極振動とそれに関する波の活動及び外部強制力
2006.3	高橋 文朋	複数の大気海洋結合モデルを用いた地球温暖化に伴うアジアモンスーン域の気候変動に関する研究
2006.3	関根 永渚至	高分解能気候モデルによる 20 世紀気候変動再現ランの解析
2006.3	横山 千恵	TRMM 衛星データを用いた台風の降雨特性に関する全球的な統計解析
2007.3	池田 恒平	大気大循環モデルを用いた金星大気スーパーローテーションの研究
2007.3	丹羽 洋介	CO ₂ ソース・シンク逆解析のための大気物質輸送シミュレーション
2007.3	加藤 聖也	3次元海洋物質循環モデルの沈降粒子生成溶解過程に対する感度
2007.3	千葉 明子	大気大循環モデルを用いた季節予測可能性の評価
2007.3	妹尾 卓	大気大循環モデルを用いたアンサンブル・カルマンフィルタ実験
2008.3	一條 寛典	ダスト輸送モデルを用いた氷期のダスト分布シミュレーション
2008.3	門脇 弘幸	ピン型領域雲モデルを用いた東部太平洋における夏季層積雲の微物理特性に関する研究
2008.3	木村 隆太郎	氷期における急激な気候変動が北太平洋および東アジア域へ与える影響
2008.3	児嶋 恵	チベット高原の有無が気候と植生へ与える影響
2008.3	岡田 裕毅	氷期間氷期サイクルにおける北半球氷床の氷床-固体地球相互作用に関する研究
2008.3	佐藤 陽祐	雲粒子成長過程モデリングにおける統計的手法の導入に関する研究
2008.3	比連崎 路夫	大気化学モデルを用いたアラスカ上空対流圏 CO の変動に関する研究
2008.3	浦川 昇吾	海底熱源に対する熱塩循環の応答のエネルギー論
2008.3	松田 優也	放射対流平衡問題における雲面積の雲物理依存性
2008.3	彦坂 健太	TRMM 衛星データを用いた梅雨期における降雨特性の統計的解析
2009.3	井手 智之	氷期-間氷期における大気 CO ₂ 濃度変化への鉄循環の役割
2009.3	及川 栄治	CALIPSO データおよび GCM シミュレーションによる雲天域のエアロゾル直接効果に関する研究
2009.3	金森 史郎	インドネシア周辺における対流圏界面近傍の大気擾乱に関する研究
2009.3	荒金 匠	台風 0616 に生じた爆発的対流に関する数値的研究
2009.3	大野 知紀	3次元モデルにおける成熟期の軸対照的な熱帯低気圧の構造について
2009.3	仙石 健介	軸対称結合モデルによる台風の集団的振舞いの再現性について
2010.3	外川 遼介	雲氷成長モデリングに関する研究
2010.3	片山 匠	成層圏 QBO に伴う冬期北半球大気場の応答とその力学プロセスについて
2010.3	奥谷 智	大気大循環モデルを用いた中間圏夜光雲に関する研究
2010.3	樋口 博隆	衛星搭載レーダーを用いた南米アマゾン域の季節間・季節内雲降水特性変動に関する統計的研究

新領域創成科学研究科

学位取得年月	氏名	論文題目
2002.3	原田 千夏子	サハラ砂漠域の降水形成過程
2003.3	守屋 俊海	春のユーラシア大陸上の積雪分布と夏季インドモンスーンの関係
2006.3	若林 康雄	地上直接観測による東アジア域のエアロゾル光学・化学特性に関する研究
2006.3	新見 陽大	地球温暖化時における梅雨気候の変化
2007.3	濱田 太郎	地球温暖化による冬期日本海側地域の降水量変動の研究
2008.3	安生 哲也	大気中におけるメタンの化学輸送シミュレーションに関する研究
2009.3	武田 淳平	Rstar放射コードに含まれるエアロゾルモデルの改良、特に鉱物ダストモデルについて
2010.3	笛田 将矢	化学輸送モデルを用いた乾季のタイにおける対流圏オゾンとCO濃度変動に関する研究
2010.3	林 洋司	赤外線天体望遠鏡を用いた温室効果ガスの観測
2010.3	久保田 貴久	温帯低気圧化の過程で再発達する台風的环境場に関する研究

●大気海洋研究所

理学系研究科

学位取得年月	氏名	論文題目
2011.3	橋本 真喜子	天空輝度観測から導出されるエアロゾル光学特性に関する研究
2011.3	金澤 周平	地表面到達太陽放射およびエアロゾル放射特性におけるエアロゾル全球輸送モデルと観測間の比較研究
2011.3	北澤 達哉	数千年スケールの気候変動による氷床への影響とその役割
2011.3	小山 佑介	大循環モデルを用いた中生代～新生代の気候モデリング
2011.3	村山 裕紀	TRMM 降雨レーダーデータを用いた extreme rain の地域特性の解析
2011.3	大泉 二郎	熱帯太平洋十年規模変動の起源に関する数値的研究
2011.3	夫馬 康仁	移動性高気圧の後面で持続した停滞性レインバンドに関する事例解析
2011.3	伊藤 淳二	Polar Low の発生と発達に対する上層渦の影響について
2011.3	宮城 和明	中国山地東部に豪雨をもたらした降水系に関する研究
2011.3	武田 一孝	台風の水平スケールに影響する要因に関する数値的研究
2011.3	川久保 友太	喜界島サンゴ骨格を用いた過去432年間の海洋環境復元
2011.3	松倉 誠也	ホウ素から見た海底下の熱水循環系——トルドス・オフィオライト、キプロス
2011.3	高橋 理美	宇宙線生成核種を用いた南極ドームふじ氷床コア中のBlake古地磁気エクスカージョンの検出
2011.3	山崎 隆宏	最終氷期における西南極氷床ロス棚氷後退史復元と微量試料を用いたC-14年代測定法の開発
2011.3	安岡 亮	樹木年輪中の ¹⁴ Cを利用した太陽活動の高解像度における復元及び気候との関連性について
2011.3	佐久間 啓	耳石微量元素を用いた深海性底魚類の生活史推定
2011.3	田口 佳奈子	海水に適応したウナギの食道における脱塩機構
2011.3	田中 雄大	ベーリング海陸棚斜面域の高生物生産を支える水塊構造・混合に関する観測的研究
2011.9	村上 康隆	梅雨前線帯における低気圧の発生環境とメカニズム
2011.9	金 泰辰	Determination of picomolar level of zinc species in seawater using cathodic stripping voltammetry
2012.3	大方 めぐみ	三次元離散雲の放射収支算定に関わる放射伝達解法の研究
2012.3	住吉 政一郎	過去1000年の気候変化に対する陸域炭素循環の応答評価
2012.3	若松 俊哉	最終氷期数千年スケールの気候変動における急激な温暖化を起こす大気海洋メカニズム
2012.3	太田 真衣	Roles of intraseasonal disturbances and diabatic heating in formation of anomaly patterns associated with East Asian winter monsoon
2012.3	山下 文弘	北太平洋亜熱帯モード水形成の中規模渦活動に伴う変動性
2012.3	前田 文	気候モデルで再現された熱帯季節内振動の解析——積雲対流スキームへの依存性
2012.3	二本松 良輔	偏東風波動に関連する熱帯低気圧発生要因の研究
2012.3	高橋 良彰	2010年夏季にロシア西部で発生したブロッキング現象の解析
2012.3	信井 礼	気候モデルMIROCを用いた温暖化時の速い気候応答に関する研究
2012.3	横田 祥	ITCZ breakdownにより発生する台風に関する数値的研究

学位取得年月	氏名	論文題目
2012.3	吉村 淳	Twin Tropical Cyclones の発生・発達過程に関する研究
2012.3	岡部 宣章	海底熱水及び温泉水中のヨウ素濃度及び化学種の挙動に関する研究
2012.3	脇山 真	現場型自動分析装置を用いた海水中の極微量鉄(II)の分析法の開発に関する研究
2012.3	山田 洋輔	Role of attached bacteria in controlling settling velocity of organic aggregates in marine environments
2012.3	太田 祥宏	火星隕石中のリン酸塩の水素同位体と元素濃度の分布
2012.3	東 真幸	南海トラフにおける沈み込む堆積物の分布と堆積史
2012.3	福島 彩香	白亜紀アンモナイト・オウムガイ殻のホウ素同位体比を用いた 海洋 pH / pCO ₂ 復元の試み
2012.3	窪田 薫	サンゴ骨格中のホウ素同位体比を用いた最終退氷期における亜赤道南太平洋中央部の海洋表層 pH 変動復元
2012.3	中村 淳路	宇宙線生成核種 Be-10・Al-26 の深度プロファイルを用いた湿潤地域における浸食速度の評価
2012.3	坂下 渉	マウンダー極小期における太陽磁場活動と東アジア地域の気候変動の因果関係
2012.3	俵 研太郎	インド洋モルディブサンゴ骨格を用いた中期完新世および中世の海洋環境復元
2012.3	安木 奈津美	台風通過が亜熱帯外洋生態系に及ぼす影響
2012.3	高木 互	卵生軟骨魚類ゾウギンザメの発生過程における浸透圧調節
2012.3	近田 俊輔	潮汐 18.6 年振動と水温・気圧場との関係——太平洋低緯度域への影響

農学生命科学研究科

取得年月	氏名	論文題目
2011.3	中村 慎太郎	アワビ類の行動と繁殖に係わる生態学的研究
2011.3	大土 直哉	相模湾長井沿岸の小型紅藻群落に生息する甲殻類の生態学的研究
2011.3	須原 三加	カタクチイワシの繁殖生態の海域間比較
2011.3	塩崎 麻由	潮流路変動と関連した二ホンウナギの浜名湖への来遊機構に関する研究
2011.3	小暮 潔央	採餌旅行中のヨーロッパヒメウが行う羽ばたき飛翔に関する研究
2011.3	町野 翔一	オオミズナギドリ of 婚外受精とヒナの性比の実態把握に関する研究
2011.3	中村 乙水	行動と食性からみたマンボウ (<i>Mola mola</i>) の採餌生態
2012.3	藤岡 秀文	浮遊性カイアシ類 <i>Neocalanus plumchrus</i> 及び <i>N. flemingeri</i> の初期生活史に関する研究
2012.3	渡辺 敬吾	黒潮統流域における細菌群集の動態
2012.3	清野 大樹	ドチザメにおける成長ホルモンカスケードの同定とその発現動態
2012.3	長崎 稔拓	深海性二枚貝におけるヒポタウリン合成機構と硫化水素への適応における役割
2012.3	水野(吉澤)紫津葉	東シナ海における流れ藻の分布と輸送に関する研究
2012.3	中村 政裕	異なる緯度の3河川感潮域における魚類の回遊生態に関する研究
2012.3	伯耆 匠二	アサリの摂餌と消化に関する研究
2012.3	張 愷	夏季の北日本沖合海域におけるカタクチイワシ当歳魚の生態

新領域創成科学研究科

学位取得年月	氏名	論文題目
2010.9	長田 暁子	Identification of genus <i>Thunnus</i> fossil from Hokkaido on the basis of morphological characteristics of cranium
2011.3	岡田 暁矩	ライダーデータによる大気エアロゾルの同化に関する研究
2011.3	宮村 真人	アフリカにおけるバイオマスバーニングの焼失割合の推定
2011.3	藤井 堯典	アミノ酸窒素安定同位体比を用いた造礁サンゴの窒素源の解明
2011.3	小嶋 孝徳	前弧海盆の横ずれを伴う活断層の構造とその発達——東部南海トラフ遠方断層系の例
2011.3	桜井 紀旭	掘削柱状試料と掘削同時検層データの統合による熊野前弧海盆の貯留砂層の検出
2011.3	荒岡 大輔	Reconstruction of paleo-tsunami disasters: Evidence from radiometric dating of massive <i>Porites</i> coral boulders in Southern Ryukyu Islands
2011.3	新免 浩太郎	翼足類およびサンゴを用いた石灰化生物への環境変動の影響評価
2011.3	前田 玲奈	Volumetric and morphological analyses of olfaction in deep-sea fish
2011.3	徐 美恵	沖縄トラフ熱水噴出域の生物多様性保全に関する研究——ゴエモンコシオリエビを指標として

学位取得年月	氏 名	論 文 題 目
2011.3	小 池 佳 寛	統合的沿岸域管理のためのリモートセンシングによるマッピングに関する研究——宮古湾周辺を例にして
2011.3	Mohammad, Natheer Mohammad	Studies on the behavior of a deep-water fish, the splendid alfonsino (<i>Beryx splendens</i>) using micro data loggers
2011.3	渡 口 響 子	加速度データロガーを用いた飼育下におけるアカエイ <i>Dasyatis akajei</i> の行動分類
2011.3	畠 由 佳	自然状態での小型鯨類スナメリの鳴音特性と浮上行動——定点での受動的音響観察と目視観察の併用から
2011.3	坂 本 絢 香	陸域からの汚濁負荷流入が東京湾の高次生態系に与える影響
2011.3	青 木 良 徳	アーカイバルタグを用いたキハダ (<i>Thunnus albacares</i>) の鉛直遊泳行動に関する研究
2011.3	板 倉 光	人為的環境変化に伴うニホンウナギ漁獲量の変動特性
2011.3	魚 里 怜 那	クロマグロ水温環境履歴の解明に向けた耳石 $\delta^{18}\text{O}$ の有効性に関する研究
2011.3	詫 間 峻 一	三陸沿岸に來遊するアカウミガメの採餌生態に関する研究
2012.3	稲子谷 昂 子	GOSAT衛星を用いたフロン類等大気中微量気体の解析
2012.3	染 谷 有	衛星搭載赤外センサーを用いた南極の極域成層圏雲の観測
2012.3	鈴木 麻彩実	西部北太平洋およびその縁辺海における白金の分布とその循環に関する研究
2012.3	前 澤 琢 也	セディメントトラップ試料分解実験による沈降粒子分解における化学量論の解明
2012.3	安 達 啓 太	三次元反射法地震探査による第3熊野海丘の構造と形成過程の解明
2012.3	多 良 賢 二	音波探査による海底熱水鉱床の浅部地下構造——中部沖縄トラフ伊是名解決の例
2012.3	林 恵里香	Growth-rate influences on coral climate proxies tested by a multiple colony culture experiment
2012.3	氷 上 愛	Calcification responses of symbiont-bearing reef foraminifers to ocean acidification; Results of high-precision culture experiment
2012.3	石 川 大 策	サンゴ骨格 (<i>Porites</i> sp.) 中微量元素を用いた石垣島轟川周辺海域における海洋環境の復元
2012.3	松 岡 めぐみ	過去1万年間における西日本の環境変動と人間活動への影響
2012.3	日 高 裕 華	マリアナトラフにおけるアルピンガイの集団構造に関する研究
2012.3	金 城 梓	海産無脊椎動物のGAT-1が示すGABA輸送体グループの進化の歴史
2012.3	橋 本 緑	Effects of human activities on population viability of finless porpoises in the Inland Sea, Ariake Sound and Tachibana Bay
2012.3	大 内 健太郎	スナメリの生息地としての海岸近接域の利用
2012.3	中 嶋 泰 三	水温がクロマグロ卵仔魚のふ化・成長・生残に与える影響
2012.3	堤 理沙子	繁殖期におけるオオミズナギドリの採餌行動に関する研究

工学系研究科

学位取得年月	氏 名	論 文 題 目
2011.3	小 島 啓太郎	サンゴ記録と同位体大循環モデルを用いた表層海水同位体比の変動メカニズムの解明
2012.3	岡 崎 淳 史	熱帯温帯アイスコアに刻まれた気候情報の復元精度向上に向けた同位体モデリング研究

資料2-4-3 博士論文

●海洋研究所 (課程博士)

理学系研究科

学位取得年月	氏 名	論 文 題 目
1993.3	村 山 雅 史	Deep water circulation on the northwest Pacific during the last 35,000 years: Accelerator mass spectrometric ¹⁴ C dating of foraminifera
1993.3	中久喜 伴 益	Studies of convection in the mantle with the phase and the chemical boundaries by numerical simulation
1993.3	島 伸 和	Study of the Earth's dynamics using superconducting gravimeter data
1993.3	押 田 淳	Basement topography and magnetic anomalies in the Japan Sea
1993.3	仲 岡 雅 裕	Population dynamics and life history traits of <i>Yoldia notabilis</i> (Bivalvia: Protobranchia)
1993.3	Everyn Grace De Jesus	Studies on the hormonal regulation of metamorphosis in the Japanese flounder, <i>Paralichthys olivaceus</i>
1993.6	清 川 昌 一	Stratigraphy and structural evolution of a Middle Archean Greenstone Belt, northwestern Pilbara craton, Australia
1994.3	鈴 木 雅 一	Molecular evolution of neurohypophysial hormone genes
1994.4	丁 享 斌	Characteristics of variability of the atmospheric circulation in the troposphere
1994.4	富士原 敏 也	Magnetic structure and evolution of the Mid-Atlantic Ridge between 29°N and 31°31' N in the last 10 Ma from analysis of vector geomagnetic anomalies
1994.7	金 海 東	Study on mechanism to maintain MCC and air mass modification process in Yamase event
1994.9	Masalu, Desiderius C. P.	Paleomagnetism of the Joban Seamount Chain: Its origin and tectonic implications for the Pacific Plate
1994.9	Felix G. Ayson	Osmoregulation in embryos and larvae of tilapia: mitochondrion-rich cells and their hormonal regulation
1995.3	伊 賀 啓 太	Theoretical study on frontal waves
1995.3	大河内 直 彦	Lipids as biogeochemical tracers in the late Quaternary
1995.9	張 勁	海水中のイットリウムとランタノイドの地球化学
1996.3	水 田 元 太	Dynamics of thirmohaline circulation steered by bottom topography
1996.3	仲 佐 ゆかり	A geophysical study on the rifting and spreading of the South China Sea
1996.3	金 東 成	Energy-budget of nematode community inhabiting subtidal coarse sand in Otsuchi Bay, northeastern Honsyu, Japan
1996.3	海 谷 啓 之	Mechanisms regulating secretion of atrial and ventricular natriuretic peptides in the eel, <i>Anguilla japonica</i>
1996.3	柿 澤 昌	Physiological function of somatolactin in salmonid fishes
1996.3	金 松 敏 也	A study on the magnetic fabric of the sediment in the accretionary complex, the Boso and Miura Peninsulas, central Japan
1996.9	朴 進 午	Seismic stratigraphy and tectonic evolution of the southern Ryukyu Island Arc
1997.2	阿波根 直 一	Accumulation of biogenic components in the Northwestern Pacific during the last 120 kyrs: paleoproductivity versus sedimentation
1997.3	松 本 晃 治	Development of a new precise ocean tide model based on satellite altimeter data
1997.3	内 田 勝 久	Functional differentiation of gill chloride cells and its hormonal control in chum salmon
1997.3	玄 相 民	Geochemical study for paleoproductivity reconstruction in Northwest Pacific and North Atlantic ocean
1997.3	池 原 実	Late Pleistocens southern ocean paleoceanography based on organic and isotope geochemistry
1998.3	岡 村 慶	Development of a deep-sea in-situ chemical analyzer and its implication for hydrothermal fields
1998.3	E. John Joseph	Sea floor electromagnetic induction studies in the Bay of Bengal
1998.3	亀 山 真 典	Conditions for plate tectonics inferred from numerical experiments of mantle convection and shear zone formation
1998.3	森 田 澄 人	Structural and volcanic evolution of the northern Izu-Bonin Arc
1998.3	大 森 琴 絵	四万十付加体の古温度構造とその発達史

学位取得年月	氏 名	論 文 題 目
1998.7	清 水 建 司	Foraging behavior of deep-sea demersal fishes — Adaptation strategy for the deep-sea environment through food acquisition
1999.3	傅 剛	An observational and numerical study on polar lows over the Japan sea
1999.3	中 西 幹 郎	霧の内部構造と予報に関する数値的研究
1999.3	山 崎 彰 子	Submicrometer particles in northwest pacific coastal environments: physicochemical character, distribution and biological origins
1999.3	大 谷 竜	A study on the evaluation of GPS retrieved precipitable water vapor
1999.3	本 荘 千 枝	Magnetic structure of the Mid-Atlantic Ridge 21°40'N segment: an approach from near-bottom magnetic measurements onboard a submersible
1999.3	江 口 暢 久	Seasonal variability of planktonic foraminifera: Results from the central North Pacific Ocean sediment trap experiments
1999.3	木 元 克 典	Late Quaternary deepwater circulation in the western Pacific Ocean based on Cd/Ca in benthic foraminifera
1999.3	多田井 修	Electron spin resonance analysis of foraminifera and its implications to Quaternary paleoceanography
1999.7	Moe Kyaw Thu	Seismic stratigraphy of the Yamato Basin, Japan Sea from core-log-seismic data integration
1999.12	宮 崎 裕 明	Functional differentiation of chloride metabolism in euryhaline tilapia, <i>Oreochromis mossambicus</i>
2000.1	渡 部 元	Faunal zonation, symbiosis, and taxonomy of bathyal saprophagous decapods chiefly around the Tokyo Submarine Canyon
2000.3	岡 英太郎	Characteristics of variations of water and dynamic properties of the Kuroshio in the East China Sea
2000.3	鈴 木 真 一	移動する台風に対する海洋の応答機構に関する研究
2000.3	福田(宗林)留美	Microbial degradation of proteinaceous organic matter in marine environments
2000.3	長谷川 徹	Release of dissolved organic nitrogen by planktonic community in coastal waters
2000.3	荒 木 英一郎	Geophysical nature of broadband seismic signals in deep oceans
2000.3	原 口 悟	Early arc and rifting volcanism in the paleo-Izu-Ogasawara-Mariana arc (Kyushu-Palau Ridge and Izu-Ogasawara-Mariana forearc region)
2000.3	嶋 永 元 裕	Seasonal changes in abundance, vertical distribution and reproductive activity, and species diversity of the meiofaunal community at a bathyal site in Sagami Bay, Central Japan
2000.3	奥 野 敦 朗	Structure and expression of androgenic gland hormone of the terrestrial isopod, <i>Armadillidium vulgare</i>
2000.9	中 田 隆	対流圏の鉛直微細構造に関する研究
2000.9	Alibo, Dia Sotto	The rare earth in seawater: particle association, Ce oxidation, and geochemical characterization of the water masses
2000.9	宮 田 佳 樹	負イオン質量分析法の地球化学的研究応用：海洋試料中のルテニウム定量法の開発と大気中のホウ素同位体比に関する研究
2001.3	福 田 秀 樹	Role of attached nanoflagellates on aggregation of marine particles
2001.3	氏 家 由利香	Late Quaternary changes of surface waters in the Kuroshio source region, northwestern Pacific Ocean
2001.9	青 池 寛	Geology of the Tanzawa, Misaka and Koma districts, central Japan —Tectonic evolution of the Izu collision zone—
2001.9	Carla B. Dimalanta	A study of the tectonic evolution of oceanic island arc systems
2002.2	葉 信 明	Community structure, faunal zonation and biogeography of the deep-sea demersal fishes around Japan, and their relationships with environmental parameters
2002.3	Moamen Mahmoud Ibrahim El-Masry	Sedimentation and physical property variability of hemipelagic mudstone in response to the Pleistocene glacial and interglacial cycles —Records from the Choshi area, Chiba Prefecture, Japan—
2003.3	野 田 暁	スーパーセル型積乱雲に伴う竜巻の発生過程とその構造に関する数値的研究
2003.3	大 木 淳 之	西部北太平洋域におけるエアロソルの化学的特徴
2003.3	笹 川 基 樹	北部北太平洋における海霧の化学的特徴と発生・除去機構
2003.9	張 燕	The marine geochemistry of silver
2003.11	家 長 将 典	The early stages of formation and evolution of the Nankai accretionary prism inferred from quantitative analysis of logging-while-drilling and core data, ODP Leg 196

学位取得年月	氏名	論文題目
2004.1	野口尚史	Formation, growth, and structure of multi-layered convection due to double-diffusive instability
2004.3	永野 憲	Characteristics of the generation and propagation of small meanders of the Kuroshio clarified by sea-level analysis
2004.3	柳瀬 亘	A numerical study on the structure and dynamics of polar lows
2004.3	田中義幸	Effect of physical environmental factors on community structure of tropical seagrass meadows
2004.3	梅澤 有	Nutrient dynamics in tropical and subtropical coastal ecosystems assessed by $\delta^{15}\text{N}$ in macroalgae
2004.3	町田嗣樹	北部伊豆・小笠原弧、背弧雁行海山列における背弧火成活動
2004.3	川越 暁	Molecular evolution of the natriuretic peptide family
2004.3	遠藤博寿	Molecular analysis of calcification in the crustacean exoskeleton
2004.3	吉田尚郁	黒潮前線波動が日本南岸沿岸海域の流動環境に及ぼす影響
2004.7	佐々木 智之	広域精密海底地形データに基づいた北部日本海溝の沈み込みテクトニクスに関する研究
2005.3	本郷 やよい	太平洋の希土類元素に関する地球化学的研究
2005.3	黒田潤一郎	Anatomy of Cretaceous black shales: paleoceanography of Oceanic Anoxic Event-2 based on lamina-scale geochemical analyses
2005.3	野牧 秀隆	The fate and degradation processes of phytodetritus by benthic communities: in situ ^{13}C -tracer experiments
2005.3	菅沼 悠介	Paleomagnetism of the Marble Bar Chert Member, Western Australia: implications for geomagnetic field behavior and an apparent polar wander path for Pilbara craton during Archean
2005.3	末次 貴志子	Short-term fluctuation and diel periodicity in species composition of deep-sea demersal fishes, and its relationships with physical factors on the upper slope around Japan
2005.3	渡部 裕美	Larval ecology and genetic differentiation of hydrothermal vent-endemic barnacles of the Family Neoverrucidae
2005.3	塚田 岳大	The role of atrial natriuretic peptide in seawater adaptation in eel: An integrative physiological
2005.3	中村 篤博	A study on the atmospheric particulate matter transported from the east
2005.3	西澤 学	Geochemistry of Archean surface environment
2006.3	田上 浩孝	Structure and dynamics of the meso- α -scale low on the Baiu front
2006.3	浅田(吉村)美穂	Styles of seafloor spreading along the central Mariana Trough: Insights from sidescan sonar and multibeam bathymetry data
2006.3	橋口 康之	Evolution of V2R-type odorant receptor gene family in fishes
2006.3	川原 玲香	Evolutionary characterization of genes encoding glue-like protein spiggin in gasterosteid fishes
2006.3	竹内 絵美利	Studies on the wintertime shoaling of oceanic surface mixed layer
2006.5	田副 博文	海洋におけるセリウムの地球化学的研究——高精度同位体分析によるアプローチ
2006.9	弓削 進弥	A novel guanylin family in eels: Possible osmoregulatory hormones
2006.9	土田 浩平	Ecological and evolutionary study on host-parasite association between brachyuran crabs and rhizocephalan barnacles
2006.12	増島 雅親	Formation and distribution of North Pacific Intermediate Water in the subarctic frontal zone
2007.3	辻 健	Seismic characteristics of out-of-sequence thrusts and plate boundary decollements: In-situ pore pressures, velocity structure, and geometries of Nankai accretionary prism faults
2007.3	Udrehk Hanif	Three dimensional investigations on BSR developed in the accretionary prism off Muroto, western Nankai Trough
2007.3	三浦 亮	Tectonic evolution of a classic arc-backarc system: the southern Izu-Bonin arc, southern Shikoku Basin, and central Kyushu-Palau ridge
2007.3	仲 忠臣	Natriuretic peptide and circulatory regulation in cetaceans
2007.5	白井 厚太郎	Elemental fractionation in biogenic calcium carbonate
2008.3	雪本 真治	Structure of a suction vortex: importance of the bottom boundary layer
2008.3	内藤 和也	A numerical study of subduction initiation with deformation analysis of lithosphere in convergent system using Discrete Element Method

学位取得年月	氏名	論文題目
2008.3	御 興 真 穂	A novel adrenomedullin family in teleost fish: molecular evolution and physiological function
2008.3	早 川 英 毅	Molecular analysis of egg proteins in a reef-building coral
2009.3	加 藤 史 拓	Observational study of deep water circulation in the North Pacific
2009.3	藤 内 智 士	Extensional tectonics in the northern end of the Ryukyu Arc: Studies on fault ages, paleostress fields, and paleomagnetism in western Kyushu, Japan
2009.3	阿 瀬 貴 博	Cosmogenic nuclides analysis of the Laschamp geomagnetic excursion in the Dome Fuji ice core, Antarctica
2009.3	李 毅 兵	Petrological studies on boninitic, adakitic, calc-alkalic, tholeiitic and MORB-like volcanic rocks dredged from Bonin (Ogasawara) Ridge forearc seamounts: varied magmatic evolutions of early stage island-arc
2009.3	湯 山 育 子	Analysis of endosymbiosis genes in coral harboring zooxanthellae
2009.3	Setiamarga, Davin Hadryant Ekaputra	Phylogeny and evolution of the Medaka
2009.3	長 船 哲 史	Water-mass variability in the subarctic North Pacific in relation to 18.6-year tidal cycle
2009.3	岩 本 洋 子	Biogeochemical processes of suspended particles in the North Pacific
2009.9	杉 本 久 賀 子	Dynamics and bacterial controls of transparent exopolymer particles in marine coastal environments
2010.3	伊 藤 純 至	A numerical study on dust devils
2010.3	楨 洸	Stable isotopic analyses of organic matter dynamics in aquatic ecosystems

農学系研究科／農学生命科学研究科

学位取得年月	氏名	論文題目
1992.12	呉 奉 喆	Ecological studies on the deep-sea copepods in Sagami Bay, Central Japan
1993.3	後 藤 睦 夫	ケガニ mtDNA の遺伝的変異と集団管理の標識としての利用に関する研究
1994.3	蔡 辰 豪	Functional morphology and ecology of the iridescent copepods of the family Sapphirinidae
1994.3	チュティワン・デ サクンワッタナー	Inhibitory effect of marine bacteria on barnacle larvae
1994.3	和 田 実	Ecological and physiological studies of marine luminous bacteria
1994.3	東 信 行	マイワシの摂餌に関する行動生態学的研究
1994.11	カンチャナ・ ジュントンジ	Marine bacteria producing paralytic shellfish poisons and tetrodotoxins with emphasis on the association with the toxicity of marine sand clam (<i>Asaphis violascens</i>) in the coastal area of Thailand
1995.3	西 川 淳	浮遊性被囊類、特にサルバ・ウミタル類の生態学的研究
1995.3	豊 川 雅 哉	東京湾に出現するクラゲ類の生態学的研究
1995.3	濱 崎 恒 二	Studies on microbial production of tetrodotoxin in marine environment with emphasis on suspended particles as a site for production and accumulation
1995.2	朴 泳 泰	Studies on the ecology of marine sulfate reducing bacteria using 16S rRNA probe and in situ hybridization
1995.3	益 田 玲 爾	シマアジの群れ行動の個体発生に関する研究
1995.3	赤 川 泉	アミメハギの繁殖行動に関する研究
1996.3	廣 瀬 太 郎	三陸大槌湾におけるチカの資源生物学的研究
1996.3	高 橋 一 生	三陸大槌湾における潜砂性アミ類の生態
1996.3	崎 山 徳 起	深海微生物の生理・生態に関する研究——高水圧下における増殖ならびに現場活性を中心に
1996.3	宮 下 和 士	音響的手法を用いた動物プランクトンの分布および量推定に関する研究
1996.3	阪 倉 良 孝	ブリの攻撃行動の発現と発達に関する研究
1996.3	古 島 靖 夫	相模湾における栄養塩類の補給と基礎生産に及ぼす沖合環境
1996.3	釜 石 隆	アユに寄生する微孢子虫類 <i>Glugea plecoglossi</i> の分子系統学的研究
1996.3	小出水 規 行	人為的環境変化の魚類資源への影響に関する数理的評価手法
1996.3	神 田 優	ニザダイ科魚類の摂食に関わる機能形態学的研究
1997.3	石 垣 哲 治	海産従属栄養性微小鞭毛虫類の生物学的研究

学位取得年月	氏名	論文題目
1997.3	砂村倫成	海洋におけるメタン生成に関する微生物学的研究
1997.3	黄康錫	ニューラルネットワークを用いた相模湾定置網の漁海況予測手法の開発に関する研究
1997.3	Kawser Ahmed	Impact of wind and offshore oceanic environment on nutrient supply and primary production in Otsuchi Bay: an observational and numerical modeling approach
1997.10	田所和明	北太平洋亜寒帯水域におけるプランクトンおよびサケ属魚類の生産と環境要因の関係
1997.12	中原史生	Vocal exchanges and recognition in bottlenose dolphins, <i>Tursiops truncatus</i>
1998.3	三宅裕志	ミズクラゲの生物学的研究
1998.3	渡辺光	黒潮とその隣接海域に於ける夜表性ハダカイワシ科魚類の生態学的研究
1998.3	柴田晃	海洋におけるコロイド粒子生成に関する微生物学的研究——特にウイルスと細菌の役割について
1998.3	浦川秀敏	西部北太平洋における海洋低温細菌の分類および遺伝的多様性に関する研究——ビブリオ科細菌を中心に
1998.3	青山潤	ウナギ属魚類の系統と進化に関する研究
1998.3	石川智士	オオウナギの集団構造に関する分子遺伝学的研究
1998.3	Susana Sainz Trapaga	Spreading of warm water from the Kuroshio Extension into the Kuroshio-Oyashio transitional area
1998.3	大泉宏	イシイルカの摂餌生態
1998.7	Dhugal J. Lindsay	Applications of the stable isotope technique in marine food web studies
1999.3	林周	魚類の耳石に記録された生態情報の抽出とその応用
1999.3	呉秀賢	Experimental studies of the sediment microbial processes associated with a marine deposit feeding polychaete, <i>Capitella</i> sp.1
1999.3	渡部諭史	The role of male brood pouch in the reproduction of the seaweed pipefish, <i>Syngnathus schlegelii</i>
1999.3	山口素臣	ハダカイワシ科魚類の分子系統と進化
1999.9	都丸垂希子	Small scale fluctuation and photobehaviour of marine aloricate ciliates
2000.1	新井崇臣	スラウェシ島におけるウナギ属魚類の接岸回遊生態に関する研究
2000.1	吉永龍起	シオミズツボムシの個体数の変動機構と生活史特性に関する実験生態学的研究
2000.3	日高清隆	西部熱帯太平洋有光層内の動物プランクトン・マイクロネクトン食物網の構造と機能に関する研究
2000.3	李雅利	西部北太平洋亜寒帯域および移行域におけるハダカイワシ科魚類の生態学的研究
2000.3	岡崎雄二	海洋フロントが仔魚の分布及び餌料環境に及ぼす影響に関する研究
2001.3	佐々千由紀	西部北太平洋におけるハダカイワシ科魚類仔稚の生態学的研究
2001.3	Ocky Karna Radjasa	Phylogenetic diversity of low temperature and high pressure adapted bacteria from deep-sea environments assessed based on 16S rDNA
2001.3	井上潤	ミトコンドリアゲノム分析に基づくカライワシ類 (Elopomorpha) の系統に関する研究
2001.3	菅原顕人	褐藻アラメ・カジメの生育と物理環境に関する生態学的研究
2001.3	渡邊俊	ウナギ属魚類 (genus <i>Anguilla</i>) の分類に関する研究
2001.3	Mishera, Pravakar	Studies on temporal evolution, mixing and biological production in the Kuroshio warm-core rings
2001.3	加藤久嗣	日本海におけるキュウリエソの初期生活史に関する研究
2001.3	高橋素光	カタクチイワシの仔稚魚期における成長・発達様式と資源加入機構
2001.10	森田ひとみ	日本産ヨシノボリ属魚類の系統と進化に関する研究
2002.3	笹井清二	Ontogeny and ecophysiology of chloride cells in the Japanese eel
2002.3	北川貴士	西部北太平洋におけるクロマグロ未成魚の遊泳行動とそれに及ぼす環境要因に関する研究
2002.3	楊健	Trace elements in Dall's porpoise, <i>Phocoenoides dalli</i> , off the Sanriku coast of Japan
2002.9	金熙容	東シナ海におけるマアジ卵、仔魚の輸送過程に影響する流動構造と変動に関する研究
2003.3	町田龍二	Structural characteristics of copepods mitochondrial DNA and its application for phylogenetic studies
2003.3	西野智彦	Studies on the physiological state of marine bacteria under stressed conditions
2003.3	山本軍次	Experimental and evolutionary genetic studies on intraspecific variation and genesis of triploid lineages in the crucian carp (<i>Carassius auratus</i>) in Japan
2003.3	山内視嗣	ミトコンドリアゲノム分析に基づく十脚甲殻類の分子系統学的研究

学位取得年月	氏 名	論 文 題 目
2003.3	木 村 呼 郎	マアナゴの集団構造に関する生態学的研究
2003.3	Sugeha, Hagi Yulia	Life history of tropical eel <i>Anguilla marmorata</i> in the Indonesian waters
2003.3	兪 俊 宅	黒潮の離接岸変動に伴う沿岸域の海況変化とそのシラス漁況への影響
2003.3	勝 川 木 綿	進化生態学から見た魚類の繁殖戦略と個体数変動様式の関係
2003.3	大 地 まどか	ワレカラ類（甲殻綱：端脚目）における有機スズ化合物の生物学的影響に関する研究
2003.3	加 藤 扶 美	Morphological and functional studies on chloride cells in fish
2003.9	Sultana, Sayeeda	Studies on distribution and seasonal changes in biomass, shoot density and leaf area index of seagrass, <i>Zostera caulescens</i> Miki, in Funakoshi Bay, Sanriku Coast
2004.3	篠 田 章	ウナギの接岸回遊に関する生態学的研究
2004.3	千 村 昌 之	宮古湾におけるニシンの初期生態に関する研究
2004.3	白 藤 徳 夫	串本周辺海域におけるキビナゴの生活史と資源加入機構に関する研究
2005.3	大久保 綾 子	Thorium isotopes in sea water and their applications to marine biogeochemical studies
2005.3	Travis Blake Johnson	Ecological study of pelagic chaetognaths in the Pacific Ocean
2005.3	松 浦 弘 行	中・深層性カイアシ類 <i>Euaugaptilus</i> 属の多種共存機構に関する研究
2005.3	深 澤 博 達	エゾアワビの成熟と卵質に関する研究
2005.12	栗 山 美樹子	デトリタス食性カイアシ類 Scolecitrichidae 科の群集生態学的研究
2005.12	Sean Treacy Toczko	The distribution, community structure and feeding ecology of micronektonic crustaceans in the subarctic Pacific and the Bering Sea
2006.3	吉 田 明 弘	Studies on marine bacterial community structure using denaturing gradient gel electrophoresis and multidimensional scaling
2006.3	佐 藤 崇	魚類ミトコンドリアゲノムの構造に関する比較研究
2006.3	皆 川 源	ウナギ目魚類の生活史と分布特性に関する研究
2006.3	渡 邊 国 弘	日本産アカウミガメの遺伝子流動と回遊生態に関する研究
2006.3	中 嶋 美 冬	A theoretical study of population dynamics and frequency dependent selection due to asymmetric predation in laterally dimorphic fishes
2006.3	嘉 山 定 晃	西部太平洋におけるカツオ当歳魚の成長と回遊生態に関する研究
2006.3	鬼 塚 年 弘	相模湾長井におけるトコブシの繁殖生態と初期生態に関する研究
2006.3	水 田 貴 信	ナメクジウオの脊椎動物型性ステロイドに関する研究
2006.10	峰 岸 有 紀	ウナギ属魚類の集団構造と分類に関する研究
2006.10	畠 山 類	ニシン科魚類の初期生活史特性とその適応的意義に関する研究
2006.11	馬 涛	Morphological variation and evolution of larval characteristics of congrid leptocephali in the Indo-Pacific region
2007.3	黒 木 真 理	ウナギ属レプトセファルス分布と回遊に関する生態学的研究
2007.3	渡 辺 佑 基	バイカルアザラシの潜水行動に関する研究
2007.6	栗 岩 薫	アイゴ科魚類の系統と進化に関する研究
2007.9	Won Nam-Il	Study on the ecological niches of abalone (<i>Haliotis</i> spp.) using stable isotope analyses
2008.1	神 谷 英里子	Studies on flow cytometric determination of marine microbes
2008.3	野々村 卓 美	Ecological studies on the pelagic copepods of the genus <i>Calanus</i> in the temperate western North Pacific
2008.3	佐 藤 行 人	Evolution of genes duplicated through fish-specific genome doubling
2008.3	武 島 弘 彦	アユの集団構造と地域適応に関する分子遺伝学的研究
2008.3	加 藤 慶 樹	海洋物理環境と関連したクロマグロ初期生残に関する研究
2008.3	青 木 かがり	マッコウクジラの潜水行動に関する研究
2008.3	岡 まゆ子	沿岸生態系における有機塩素系化合物の蓄積特性に関する研究
2009.3	川 口 慎 介	深海熱水系における還元性気体の生物地球化学
2009.3	井 上 雄 介	Ecological implication of marine bacterial buoyant density
2009.3	田 上 英 明	海丘における計量魚群探知機と地理情報システムを用いた魚群量の推定
2009.3	甲 斐 幹 彦	禁漁区を用いたフィードバック管理方式に関する数値的研究

学位取得年月	氏名	論文題目
2010.3	宮本 洋 臣	Molecular and morphological studies on the diversity and biogeography of pelagic chaetognaths
2010.3	多田 雄 哉	Dynamics of major phylogenetic groups of marine bacteria in response to phytoplankton blooms, as revealed by novel single-cell based technique
2010.3	Hamdy, Shabaka Soha	Studies on dynamics, morphology and distribution of three seagrass species in Funakoshi Bay, northeast Honshu Island, Japan
2010.3	飯田 碧	和歌山県太田川におけるボウズハゼの生活史に関する研究
2010.3	横内 一 樹	浜名湖水系におけるウナギの回遊多型に関する資源生態学的研究
2010.3	早川 淳	相模湾長井におけるサザエの初期生態に関する研究
2010.3	三宅 陽 一	Studies on larval dispersal processes of large abalone in relation to establishment of harvest refugia
2010.3	河津 静 花	シュモクザメおよびフトツノザメの遊泳行動に関する研究
2010.3	菊池 夢 美	アマゾンマナティーの潜水行動および自然回帰に関する研究
2010.3	丹藤 由希子	Studies on the origin of the hypothalamus-pituitary endocrine axis and the evolution of glycoprotein hormones in amphioxus

新領域創成科学研究科

取得年月	氏名	論文題目
2006.9	Nd Nuru Huda Khan	Isolation, characterization and phylogeny of marine <i>Pseudomonas aeruginosa</i>
2007.3	三上 温 子	固着期から流れ藻期における褐藻ホンダワラ類の純一次生産量の推定
2007.9	小牧 加奈絵	Study of deep ocean circulations in the North Pacific using lowered acoustic Doppler current profiler (LADCP)
2008.3	田中 泰 章	Impacts of nutrient enrichment on carbon and nitrogen cycling through reef-building coral colonies
2008.9	佐川 龍 之	衛星リモートセンシングによる海草藻場分布マッピング手法の開発
2009.3	吉澤 晋	Light emission spectral diversity of marine luminous bacteria
2009.12	徐 維 那	Particle capture by marine bacteria
2010.3	大岩根 尚	Rifting process of the northern Okinawa Trough
2010.3	三島 真 理	Changes in the East Asian climate and ocean environments reconstructed by using coral skeletons from the East China Sea
2010.3	山岡 香 子	Study on hydrothermal alteration of oceanic crust in the Oman ophiolite based on isotope geochemistry
2010.3	小糸 智 子	深海性イガイ類の硫化水素無毒化機構におけるタウリン輸送体の役割
2010.3	檜崎 友 子	Diving behavior of loggerhead turtles, <i>Caretta caretta</i> , migrating to the northern Pacific coast of Japan
2010.3	Syaizwan, Zahmir Bin Zulkifli	Mobility of trace elements in the mangrove ecosystem of Peninsular Malaysia

●気候システム研究センター（課程博士）

理学系研究科

学位取得年月	氏名	論文題目
1993.3	佐藤 正 樹	軸対称モデルによる放射対流平衡——ハドレー循環の力学
1995.3	沖 理 子	衛星観測による気候値の定量的評価に関する研究
1995.6	中田 稔	世界海洋大循環モデルから見た太平洋深層循環
1997.3	羽角 博 康	Ocean's role in forming the steady state of the climate
1997.9	河宮 未知生	北太平洋におけるクロロフィルの季節変動のメカニズム——海洋大循環モデルに組み入れられた生態系モデルを用いた研究
1998.3	日暮 明 子	A study of aerosol properties on global scale using satellite remote sensing
1998.3	西村 照 幸	全球土壌水分の変動と土壌水分が気候システムに与える影響についての研究

学位取得年月	氏名	論文題目
1999.3	河本和明	On the global distribution of the water cloud microphysics derived from AVHRR remote sensing
1999.3	辻野博之	Modelling study on the thermohaline circulation in the Pacific Ocean
1999.9	久保田尚之	熱帯海洋上の対流活動の日変化
2000.3	渡部雅浩	A study on mechanisms of the decadal climate variability in the midlatitude atmosphere-ocean system
2000.9	滝川雅之	成層圏硫酸エアロゾルの気候変動に及ぼす影響について
2000.9	中野英之	海底境界層モデルを組み込んだ海洋大循環モデルによる深層循環の研究
2001.3	片桐秀一郎	赤外射出法を用いた上層雲の長期衛星モニタリングに関する研究
2001.3	永島達也	中層大気に於けるオゾン減少の役割
2001.9	竹村俊彦	全球気候モデルによるエアロゾルの分布及び光学特性に関する研究
2002.1	木村俊義	衛星受信赤外放射スペクトルに含まれる地球放射収支情報に関する研究
2002.3	小倉知夫	海水分布の決定メカニズムに関する研究——海氷力学過程の及ぼす影響
2002.3	齋藤冬樹	三次元氷床モデルの構築と南極およびGreenland氷床に関する数値実験
2002.9	佐藤尚毅	盛夏期の日本の天候の年々変動に関連する大規模場の力学過程
2003.3	須藤健悟	対流圏オゾンの全球分布および関連化学要因の変動過程に関する研究
2003.3	岡 顕	大西洋深層循環の形成における海面水フラックスと海洋塩分輸送の役割
2003.9	安富奈津子	夏季アジアモンスーン域の主要変動モード——その検出と力学
2003.9	菊地一佳	Modden-Julian振動の伝播特性に関するデータ解析研究
2004.3	関口美保	ガス吸収大気中における放射フラックスの算定とその計算最適化に関する研究
2004.3	河谷芳雄	大気大循環モデルを用いた重力波の研究——全球分布、励起源と3次元伝播特性の解析
2004.3	三浦裕亮	球面測地格子を用いた浅水モデルにおける有限差分法/有限体積法混合スキームの開発
2004.3	千喜良 稔	中期完新生の緑のサハラに関する数値的研究——非混合層起源対流のインパクト
2004.9	鈴木健太郎	粒子成長に関わる雲微物理過程の数値モデリングに関する研究
2004.9	小室芳樹	大西洋子午面循環の強度に対する北半球極域海洋淡水輸送の役割
2005.9	車 恩 貞	北半球における季節予測可能性に関する診断的数値的研究
2006.3	太田芳文	衛星からの熱赤外放射観測によるCO ₂ 濃度解析
2006.3	坂本 圭	夏季北太平洋における上層寒冷低気圧と熱帯対流活動の相互作用に関する研究
2006.3	清木 垂矢子	赤道域西風バーストの発生過程におけるマルチスケール相互作用に関する研究
2006.3	大石 龍 太	地球温暖化における気候動態植生相互作用の役割
2006.11	黒田剛史	Study of the effects of dust in the Martian meteorology using a general circulation model
2007.3	井口享道	A numerical study of the cloud microphysical properties in the East China Sea region by a bin-type cloud resolving model
2007.9	向井真木子	人為起源気候変動要因が東アジア域の放射場と雲場に及ぼす影響に関する研究
2008.3	渡邊英嗣	Modeling study on Pacific water transport in the Arctic Ocean
2008.12	山岸孝輝	A numerical study of surface mass balance on the Northern Hemisphere ice sheet during ice age by atmospheric general circulation model and 3-D ice sheet model
2009.3	廣田 渚 郎	Formation processes of tripolar climate anomaly over the East Asia in summer
2009.3	松村義正	Modeling study on ice shelf water descent in the Weddell Sea
2009.10	山下陽介	太陽11年周期変動に伴う成層圏大気の応答に関する研究
2009.11	五藤大輔	エアロゾル直接効果・間接効果の放射強制力に関するGCMモデル評価の改良
2009.12	川崎高雄	千島列島周囲に局在化した鉛直混合が引き起こす太平洋熱塩循環
2010.3	丹羽洋介	Numerical study on atmospheric transport and surface source/sink of carbon dioxide
2010.3	今田由紀子	A numerical modeling study on the climatic impact of tropical instability waves in the Pacific Ocean
2010.3	宮川知己	A study on the effects of convective momentum transport associated with rain bands within the Madden-Julian oscillation
2010.3	横山千恵	東部熱帯太平洋域の浅い対流を伴う大気擾乱に関するデータ解析研究

新領域創成科学研究科

学位取得年月	氏名	論文題目
2005.9	原田 千夏子	地球温暖化に伴う乾燥・半乾燥地域の気候変動に関する研究

●大気海洋研究所（課程博士）

理学系研究科

学位取得年月	氏名	論文題目
2010.7	清木 達也	Development of a two-moment bulk cloud microphysics scheme for a non-hydrostatic atmospheric model and its application to study the cloud optical properties
2010.11	西川 悠	Studies on the environmental impacts on long-term variation in abundance of Japanese sardine (<i>Sardinops melanostictus</i>)
2011.3	福田 悟	A study of atmospheric aerosol remote sensing with use of near ultraviolet wavelengths
2011.3	池田 恒平	Development of radiative transfer model for Venus atmosphere and simulation of superrotation using a general circulation model
2011.3	浦川 昇吾	Energy budget analysis on the role of the Southern Ocean in driving the global thermohaline circulation
2011.3	佐藤 太一	Faulting and melt supply at the ultra-slow spreading Southwest Indian ridge 35-40E, based on geophysical mapping and modeling
2011.3	城谷 和代	A study on aridification of the Atacama Desert, South America using in-situ terrestrial cosmogenic nuclides
2011.3	渡邊 太郎	Physiological studies on sulfate regulation in the eel: with special reference to renal regulation
2012.3	佐藤 陽祐	A numerical study on the microphysical properties of warm clouds off the west coast of California
2012.3	宮西 弘	Functional analyses of the natriuretic peptide family in fishes
2012.3	Albert Ventura	Regulation of cortisol secretion by fast-acting hormones in eel osmoregulation
2012.3	山口 陽子	Urea-based body fluid regulation in cartilaginous fish: studies on the physiological mechanisms and regulation by environmental and endocrine factors
2012.3	依藤 実樹子	Molecular phylogenetic study on the geographic variation of sea slug-zooxanthellae symbiosis
2012.3	八木 雅宏	Observational studies on turbulent mixing in the Bussol' Strait.

農学系研究科／農学生命科学研究科

学位取得年月	氏名	論文題目
2010.9	福田 野歩人	浜名湖水系におけるニホンウナギの接岸遡河生態に関する研究
2011.3	海部 健三	岡山県児島湾旭川水系におけるニホンウナギの資源生態学的研究
2011.3	須藤 竜介	ニホンウナギの産卵回遊の開始機構に関する生理生態学的研究
2011.3	Le Quang Dung	Studies on the accumulation of trace metals in tropical anguillid eels from Vietnam
2012.3	伊知地 稔	アンモニア酸化能を有する海洋古細菌の分布と系統
2012.3	川上 達也	DNAを分類形質とした浮遊性魚卵の種査定と初期発生に関する研究
2012.3	塩見 こずえ	Decision time to return in seabirds
2012.3	山根 広大	日本沿岸域におけるニシンの個体群構造に関する研究

新領域創成科学研究科

学位取得年月	氏名	論文題目
2010.6	井上 誠	アジアモンスーン域における成層圏対流圏結合
2010.9	Onmar Htway	A study of climate system over Myanmar during the transition season to the summer monsoon
2011.3	Boisnier, Etienne	Can marine artificial reefs effectively replace lost natural habitats?
2011.3	Ferdous, Mohamat Yusuf	Assessment of organotin contamination and imposex incidence in tropical gastropods (<i>Thais</i> spp.) collected along the Malaysian coastal areas

学位取得年月	氏名	論文題目
2011.9	銭本 慧	Larval transport of anguillid eels in the Pacific and Atlantic in relation to oceanic environmental fluctuations
2012.3	内宮 万里央	Spatiotemporal variations in prokaryote community and their regulation by environmental factors in the ocean
2012.3	井上 健太郎	Distribution and characterization of halophilic archaea in marine environments

●海洋研究所（論文博士）

理学系研究科

学位取得年月	氏名	論文題目
1993.3	藤 浩 明	Electrical conductivity structure of the Izu-Bonin arc revealed by seafloor electromagnetic observations
1995.3	上原 克人	On the dynamics of thermohaline circulation based on the expansion in terms of diffusive vertical modes
1995.3	橋本 惇	Studies on ecology and distribution of the chemosynthetic communities in Sagami Bay, Kagoshima Bay and the Minami-Ensei Knoll
1995.4	田口 彰一	The study on the inter-hemispheric exchange of tropospheric air masses
1995.7	河野 時廣	北太平洋西部における中層亜寒帯水の変質過程と北太平洋中層水の形成
1995.10	浅田 昭	Data processing of multi-beam echo sounder for seafloor topography analysis
1995.11	鈴木 靖	Development and application of a global ocean wave prediction model including nonlinear interactions and dissipation
1997.3	池田 穰	Carbon dynamics in the coral reef ecosystem
1998.9	加藤 輝之	Numerical study of the formation and maintenance mechanisms of a rainband inducing a heavy rainfall
1999.6	露木 義	Four-dimensional variational assimilation for the tropical atmosphere using precipitation data
1999.7	道田 豊	Structure of the Kuroshio and the surface Ekman layer by current data analysis of shipborne ADCP
2000.3	川島 正行	スコールライン型対流システムの周期的変動に関する数値的研究
2001.2	山城 徹	Characteristics of variations in current axis and velocity of the Kuroshio around the Tokara Strait
2001.3	瀬古 弘	中緯度のメソβスケール線状降水系の形態と維持機構に関する研究
2003.3	Yusuf Surachaman Djajadihardja	Tectonic evolution of the Celebes sea, eastern Indonesia-subduction processes along Suawesi trench and seismic stratigraphy of the Celebes basin
2004.3	伊藤 幸彦	Behavior and dynamics of Kuroshio warm-core rings
2004.5	森 厚	Dynamics of nonlinear horizontal convection with and without rotation

農学系研究科／農学生命科学研究科

学位取得年月	氏名	論文題目
1992.11	稲垣 正	超音波散乱層の音響リモートセンシングに関する基礎的研究
1993.1	為石 日出生	魚群の回遊および漁場形成に果たす暖水ストリーマ
1993.2	木曾 克裕	本州北部太平洋岸の河川を母川とするサクラマス在生活史の研究
1993.2	塩垣 優	北方系ギンポ類の産卵生態・仔稚魚の形態および系統に関する研究
1993.3	高杉 由夫	海峡およびその周辺における潮流の微細流動構造と懸濁物質輸送機能
1993.4	笠松 不二男	南極海に出現する鯨類資源の分布、回遊および資源量に関する研究
1993.4	關 哲夫	エアゾワビの種苗生産技術体系とその基礎となる生物学的研究
1993.4	渡辺 健一	日本産メイタガレイ2同種種の遺伝学的、生態学的、形態学的分化に関する研究
1993.4	堀川 博史	Bathymetric gradient analysis of demersal fish fauna across the continental shelf and slope of Tosa bay, southwestern Japan.
1993.4	井口 恵一朗	アユの生活史特性
1994.10	神山 孝史	富栄養内湾域における有鐘織毛虫類の生態学的研究
1994.10	河村 知彦	海産付着珪藻群落の変動機構に関する研究

学位取得年月	氏名	論文題目
1994.11	カンチャナ・ジュ ントングジン	Marine bacteria producing paralytic shellfish poisons and tetrodotoxins with emphasis on the association with the toxicity of marine sand clam (<i>Asaphis violascens</i>) in the coastal area of Thailand
1995.3	二平章	潮海域における回遊魚群の行動生態および生理に関する研究
1995.10	帆秋利洋	Physiological and ecological studies on hyperthermophilic sulfur-dependent heterotrophic archaea in submarine hydrothermal field near Kodakara-Jima Island: Relationship between habitat and physiological properties
1995.12	笠井亮秀	Effect of variations in the Kuroshio and Oyashio Currents on the egg and larval transport and recruitment of Japanese sardine (<i>Sardinops melanostictus</i>)
1995.12	戸石薫	黒潮周辺海域におけるマイワシの初期餌環境に関する研究
1996.3	大西修平	資源変動要因の解析と漁況予測のための統計モデルの応用
1996.3	山川卓	イセエビの資源評価と漁業管理
1997.5	小西芳信	Developmental and comparative morphology of Beryciform larvae (Teleostei: Acanthomorpha), with comments on Trachichthyoid relationships
1997.9	木立孝	黒潮とその隣接海域におけるマクロ動物プランクトンの分布生態
1998.3	永澤亨	日本海および周辺海域におけるメバル属魚類の初期生活史
1998.9	高山晴義	瀬戸内海およびその近海に出現する浮遊性無殻渦鞭毛藻の形態学および分類学的研究
1999.2	小泉喜嗣	豊後水道東岸域における急潮と植物プランクトンの増殖に関する研究
2000.5	山田秀秋	ヒラメ幼稚魚の主要餌料生物ミツクリハマアミの生産生態学的研究
2000.11	石戸谷博範	相模湾における急潮と定置網の防災に関する研究
2002.9	高見秀輝	エゾアワビの生活史初期における食性、生残、成長に関する研究
2002.10	勝川俊雄	Adaptive management theory based on the concepts of population reproductive potential and target switching
2003.5	高橋勇夫	四万十川河口域におけるアユの初期生活史に関する研究
2003.7	岡村寛	海産哺乳類を中心とした生態系モデリングのための数理統計学的研究
2003.9	伊東宏	東京湾および多摩川河口域における <i>Hemicyclops</i> 属カイアシ類 (Poecilostomatoida, Clausidiidae) の生態
2003.9	瀧憲司	本州東方海域におけるツノナシオキアミの漁業及び生活史に関する研究
2004.3	伊藤智幸	太平洋クロマグロの回遊生態に関する研究
2004.8	宮腰靖之	北海道におけるサクラマス放流効果および資源評価に関する研究
2006.3	市川忠史	ビデオプランクトンレコーダーを用いた親潮域～黒潮親潮移行域におけるメソ動物プランクトン群集構造の解析に関する研究
2006.9	西隆昭	ウナギの磁気感化と磁気コンパス定位に関する研究
2006.9	清田雅史	キタオットセイの一夫多妻制繁殖システムに関する生理・生態学的研究
2007.4	富山実	伊勢湾周辺におけるイカナゴの資源管理に関する研究——間欠的に加入する資源の有効な管理方策
2009.2	坪井潤一	The effectiveness of catch and release fishing in sustainable use of stream-dwelling salmonids populations
2010.1	日下部敬之	大阪湾に出現するイカナゴの資源管理に関する研究
2010.3	安江尚孝	紀伊水道東部海域におけるカタクチシラスの生態と漁業管理に関する研究
2010.3	山田浩且	伊勢湾におけるイカナゴの新規加入量決定機構に関する研究

●気候システム研究センター（論文博士）

理学系研究科

学位取得年月	氏名	論文題目
1993.2	柴田清孝	効率的な高精度放射スチームの開発とその気候モデルの適用について
1993.11	高藪縁	熱帯太平洋における積雲対流活動の組織化
1994.10	中島健介	積雲対流の大規模組織化の直接数値計算
1995.5	山中康裕	海洋生物化学大循環モデルの構築
1997.3	松山洋	大陸規模の水循環の季節変化・年々変動に関する解析的研究
1999.2	古恵亮	小規模内部波スペクトル中でのエネルギー輸送に対する局所的相互作用の重要性——3次元数値計算

学位取得年月	氏 名	論 文 題 目
2002.1	中 島 孝	衛星観測による雲微物理特性推定のための解析システムに関する研究
2003.1	田 中 佐	Solution of Chandrasekhar's integral equation for radiative transfer in plane-parallel atmospheres
2003.3	對 馬 洋 子	全球平均気温の年変動における放射フィードバック及び雲の影響の評価
2003.5	杉 正 人	数値予報モデルを用いた気候予測の研究
2003.9	久 世 暁 彦	Space-borne atmosphere measuring UV spectrometer development and study on retrieval algorithm
2006.5	石 井 正 好	海洋データ客観解析手法の開発と歴史的観測データへの適用
2009.5	小 畑 淳	数値モデルによる気候炭素循環結合系の研究——海洋の経年変動及び北大西洋の淡水流入に対する応答について

●大気海洋研究所（論文博士）

理学系研究科

学位取得年月	氏 名	論 文 題 目
2011.2	益 子 涉	Generation mechanisms of severe winds and tornadoes associated with typhoons
2011.3	柳 本 大 吾	Observational studies on the temporal and spatial structures of the deep-circulation current in the western North Pacific
2011.3	和 田 章 義	A study on interactions between tropical cyclones and the ocean

資料2-5 研究員等数

●海洋研究所

(): 外国人で内数 -印: データなし

年 度	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
農学特定研究員					3	2(1)	5(1)	5	5	6(1)	4(1)	5	5(1)	2	5	2	5	3
海洋科学特定共同研究員									2(1)	7(1)	9(1)	7(1)	9(1)	9	7	4	5	4
日本学術振興会特別研究員	5	1	4	7	6	5	7(1)	8	11	10	11	9	13	8	8	7	8	4
日本学術振興会外国人特別研究員	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	3	2	5

●気候システム研究センター

年 度	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
日本学術振興会特別研究員	2	2	3	2	2	4	1	1	2	5	4	3	1	1	1	0	2	2
日本学術振興会外国人特別研究員	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	1	2	2	1	1	0	0

●大気海洋研究所

年 度	2010	2011
農学特定研究員	3	2
海洋科学特定共同研究員	2	4
日本学術振興会特別研究員	5	2
日本学術振興会外国人特別研究員	6	6

資料2-6 論文数

●海洋研究所

年	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
論文数	275	236	237	237	247	299	270	202	194	208	234	235	221	340	340	283	266	304

●気候システム研究センター

年	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
論文数	11	18	33	42	78	45	53	46	30	21	21	23	23	27	39	31	59	35	87

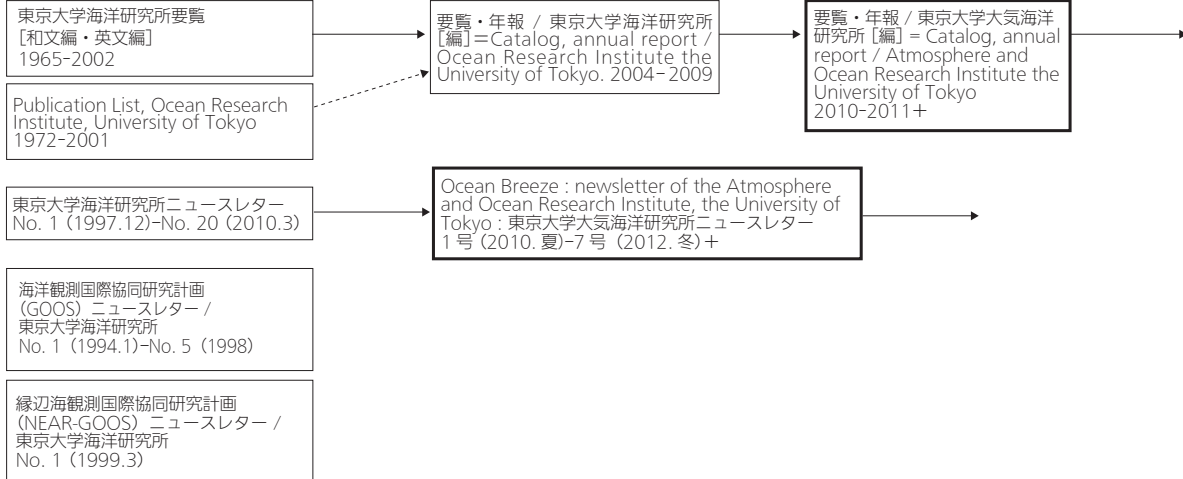
●大気海洋研究所

年	2010	2011
論文数	318	284

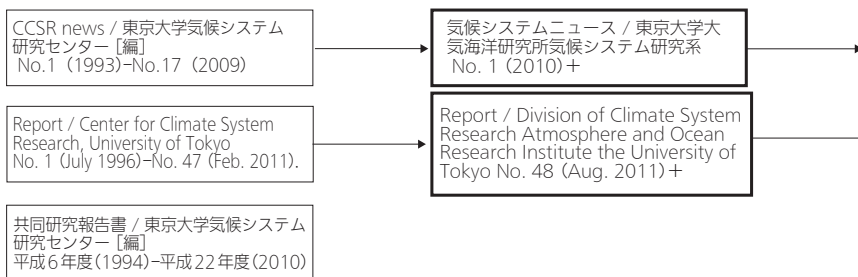
資料2-7 出版物等

資料2-7-1 逐次刊行物 [太線で囲んだものは2012年3月現在も刊行中, →は誌名の変遷を表す]

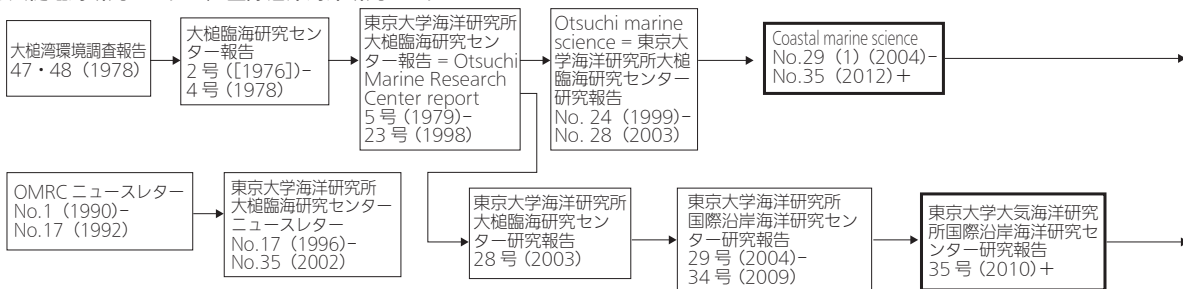
●海洋研究所/大気海洋研究所



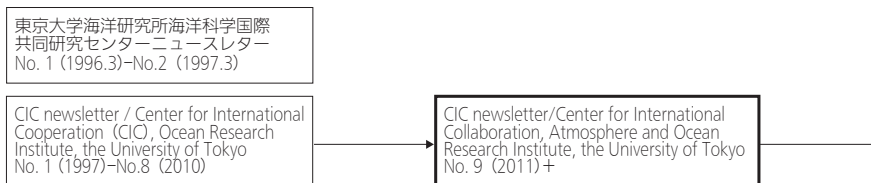
●気候システム研究センター/気候システム研究系



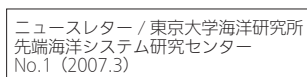
●大槌臨海研究センター/国際沿岸海洋研究センター



●海洋科学国際共同研究センター/国際連携研究センター



●先端海洋システム研究センター



資料2-7-2 白鳳丸研究航海報告 (Preliminary report of the Hakuho Maru cruise 1992-)

- KH-90-2 Terasaki, Makoto: Eastern tropical Pacific, September 3–October 25, 1990/121 p., (1993), 26 cm.
- KH-91-1 Asai, Tomio: (OMLET and WENPEX Cruise) The Western North Pacific South of Japan, January 11–February 5, 1991/115 p., (1992), 26 cm.
- KH-91-4 Otake, Tsuguo; Tsukamoto, Katsumi: Eel cruise V, June 14–July 22, 1991/207 p., (1994), 26 cm.
- KH-91-5 Taira, Keisuke; Kawabe, Masaki: Studies on ocean circulations in the North Pacific, August 13–October 2, 1991/119 p., (1994), 26 cm.
- KH-91-6 Ohuta, Suguru: Japan trench, Northwestern Pacific, November 1–25, 1991/97 p., (1993), 26 cm.
- KH-92-1 Segawa, Jiro: Tokyo-Guam-Cebu-Tokyo Geophysical and geological investigations of the Mariana region and Ayu Trough, January 21–March 4, 1992/266 p., (1993), 26 cm.
- KH-92-2 Suyehiro, Kiyoshi: The Tansei maru cruise KT92-7 and the Kaiko maru-5 cruise: Izu-Ogasawara Campaign 92: Marine geophysical investigation of Izu-Ogasawara Arc system, May 20–June 26, 1992/140 p., (1993), 26 cm.
- KH-92-3 Kobayashi, Kazuo: Geophysical and geological investigation of Western Kuril trench and Eastern Nankai trough (ODP and KAIKO-TOKAI site survey), July 17–August 10, 1992/137 p.: maps, (1993), 26 cm.
- KH-92-5 Asai, Tomio: (Toga/Coare Cruise) The Western Equatorial Pacific Ocean, October 28–December 7, 1992/129 p., (1993), 26 cm.
- KH-93-1 Numachi, Ken-ichi: Biogeographic and population genetic study of marine organisms on the Sea mounts in the Northwestern Pacific, January 22–March 4, 1993/59 p., (1994), 26 cm.
- KH-93-2 (KH-91-5とまとめて発行) May 13–June 18, 1993
- KH-93-3 Tamaki, Kensaku; Fujimoto, Hiromi: Rodriguez triple junction expedition in the Indian Ocean (InterRidge and ODP), July 8–September 17, 1993/183 p., (1995), 26 cm.
- KH-94-1 Aoki, Ichiro: Reproduction and recruitment of small pelagic fishes in the Kuroshio system, February 24–March 22, 1994/60 p., (1997), 26 cm.
- KH-94-2 (Leg 1 & 2) Sugimoto, Takeshige: Studies on reproduction and recruitment process of pelagic fish, May 17, 1994–June 11, 1994/63 p., (2002), 30 cm.
- KH-94-2 (Leg 3) Inagaki, Tadashi; Tsukamoto, Katsumi: Eel Cruise VI, June 16, 1994–July 7, 1994/126 p., (1995), 26 cm.
- KH-94-3 (Leg 1) Taira, Keisuke; Kawabe, Masaki: (WESTPAC) Studies on the Kuroshio and deep currents in the Western North Pacific, September 2–23, 1994/86 p., (1995), 26 cm.
- KH-94-4 Kawaguchi, Kouichi: Southern Ocean expedition, November 22, 1994–February 14, 1995/135 p., (1996), 26 cm.
- KH-95-1 Kawabe, Masaki: Studies on the Kuroshio and deep currents in the Western North Pacific, May 12–June 12, 1995/82 p., (1996), 26 cm.
- KH-96-4 Kawabe, Masaki: Studies on the Kuroshio from the East China Sea to the East of Japan and deep currents in the Japan trench, October 17–November 27, 1996/68 p., (1998), 26 cm.
- KH-96-5 Gamo, Toshitaka: (Piscis Austrinus expedition) Studies on ocean flux in the Eastern Indian Ocean and its adjacent seas, December 19, 1996–February 18, 1997/178 p., (1997), 26 cm.
- KH-97-1 Sugimoto, Takashige: Study on the mechanism of recruitment variations of small pelagic fish populations (GLOBEC), May 16–June 18, 1997/27 p., (2002), 30 cm.
- KH-97-2 Kawaguchi, Kouichi: Subarctic North Pacific and Bering Sea ecosystem expedition, July 9–September 8, 1997/157 p., (1998), 26 cm.
- KH-97-3 Sugimoto, Takashige: Ocean environment related to biological production in the Kuroshio Oyashio transitional region (GLOBEC), October 24–November 11, 1997/21 p., (2002), 30 cm.
- KH-98-2 Inagaki, Tadashi; Tsukamoto, Katsumi: Eel Cruise VIII, May 22–July 2, 1998/122 p., (2000), 26 cm.
- KH-98-4 (Leg 1) Sugimoto, Takashige: Studies on ecological profile, material cycle and ocean environment related to biological production in western North Pacific (GLOBEC/JGOFs), September 7–21, 1998/25 p., (2002), 30 cm.
- KH-99-1 Kawabe, Masaki: Tokyo-Pohnpei-Guam-Tokyo: Cruise for Pacific Ocean circulation Study with CTD and moorings, January 14–March 4, 1999/41 p., (2002), 30 cm.
- KH-99-2 Sugimoto, Takashige: Ocean environment related to primary production and the mechanism of biological resources variations in the Kuroshio Oyashio transitional region (GLOBEC), May 18–June 10, 1999/22 p., (2002), 30 cm.
- KH-00-1 Nishimura, Masahiko; Ohwada, Kouichi: Southern Ocean Expedition, January 14–March 10, 2000/71 p., (2003), 30 cm.
- KH-00-4 Taira, Keisuke; Kawabe, Masaki: Tokyo-Naha-Tokyo, September 5–October 19, 2000/57 p., (2004), 30 cm.
- KH-01-1 (Leg 1) (KH-00-4とまとめて刊行) Tokyo-Kagoshima, June 18–July 9, 2001.
- KH-01-3 (Southern Pacific and Southern Ocean) Terazaki, Makoto; Ogawa, Hiroshi; Tamaki, Kensaku: Studies on the biological production and

- biogeochemical cycles in the central Southern Pacific and Southern Ocean and geophysical study of Australia-Antarctic ridge, November 27, 2001-March 1, 2002/170 p., (2003), 30 cm.
- KH-02-1 (Leg 1) Sugimoto, Takashige: Studies on current structure and fish ecology in the East China Sea, May 7-22, 2002/14 p., (2002), 30 cm.
- KH-02-4 (The Sulu Sea and the Western Pacific) Nishida, Shuhei; Gamo, Toshitaka: Studies on biodiversity and geochemical cycles in the Sulu Sea and its adjacent Waters, November 7-December 18, 2002/76 p., (2004), 30 cm.
- KH-03-1 (leg1, leg2) Kawabe, Masaki: Tokyo-Hilo-Honolulu: Cruise for observations of water masses and currents in the western and central North Pacific, May 13-June 23, 2003/31 p., (2005), 30 cm.
- KH-04-1 Sugimoto, Takashige: Studies on primary production and material cycle in the Kuroshio area, March 4-March 22, 2004/46 p., (2004), 30 cm.
- KH-04-4 (leg1, leg2) Kawabe, Masaki: Tokyo-Guam-Tokyo: Cruise for observations of deep currents and water masses in the western North Pacific, September 7-October 31, 2004/58 p., (2005), 30 cm.
- KH-05-4 Kawabe, Masaki: Tokyo-Shiogama-Tokyo: Cruise for observations of water masses, circulation, and turbulence in the Northwest Pacific Basin, November 17-December 28, 2005/42 p., (2006), 30 cm.
- KH-07-1 (leg 2) Kawabe, Masaki: Hakodate-Tokyo: Cruise for observations of water masses, circulation, and turbulence in the Northwest Pacific Basin, May 7-June 8, 2007/39 p., (2008), 30 cm.
- KH-08-3 (leg 2) Kawabe, Masaki: Shiogama-Tokyo: Cruise for deep-water circulation, turbulence, mode waters in the eastern region off Japan, October 7-November 7, 2008/40 p., (2009), 30 cm.
- KH-11-8 Kawabe, Masaki: Tokyo-San Francisco-Tokyo: Cruise for overturning circulation, turbulence, and subduction in the northeastern North Pacific, August 12-October 4, 2011/44 p., (2011), 30 cm.
- 『グランパシフィコ航海記』東京大学海洋研究所編, 東海大学出版会発売, 2004年10月, 199頁, AB判.
- 『海洋生物の機能:生命は海にどう適応しているか』竹井祥郎編[東京大学大気海洋研究所 海洋生命系のダイナミクス2巻], 東海大学出版会, 2005年5月, 438頁, A5判.
- 『海の生物資源:生命は海でどう変動しているか』渡邊良朗編[東京大学大気海洋研究所 海洋生命系のダイナミクス4巻], 東海大学出版会, 2005年5月, 446頁, A5判.
- 『해양생물의 신비 100』도쿄대학교 해양연구소; 김상우역 서울: 이치, 2005年, 223頁, 23 cm (『海の生き物 100 不思議』韓国語版, 金相祐訳).
- 『海洋観測マニュアル』東京大学海洋研究所編, 蓮本浩志監修, 2006年3月, 261頁, B5判.
- 『海洋生物の連鎖:生命は海でどう連環しているか』木暮一啓編[東京大学大気海洋研究所 海洋生命系のダイナミクス3巻], 東海大学出版会, 2006年5月, 350頁, A5判.
- 『海の環境 100の危機』海洋研究所DOBIS編集委員会編, 東京書籍, 2006年7月, 231頁, A5判.
- 『海洋の生命史:生命は海でどう進化したか』西田睦編[東京大学大気海洋研究所 海洋生命系のダイナミクス1巻], 東海大学出版会, 2009年6月, 430頁, A5判.
- 『海と生命:「海の生命観」を求めて』塚本勝巳編[東京大学大気海洋研究所 海洋生命系のダイナミクス5巻], 東海大学出版会, 2009年6月, 518頁, A5判.
- 『海の大研究: 広くてふしぎな世界: 姿・役割・地球環境とのかかわり』東京大学海洋研究所監修, 造事務所編集・構成, PHP研究所, 2009年11月, 79頁, A4変型判.
- 『海洋学』ポール・R. ピネ著, 東京大学海洋研究所監訳, 東海大学出版会, 2010年3月, 621頁, B5判.
- 『海の大国ニッポン: 東大の最先端頭脳(トップブレイン)が解き明かす日本の海の不思議と可能性』東京大学海洋アライアンス編, 小学館, 2011年10月, 112頁, B5判.

■VHSビデオテープ

- 『海洋研究船白鳳丸』東京大学海洋研究所, 三菱重工株式会社企画, 菱重印刷ビデオセンター製作, 1989年5月, 1巻(25分), VHS, カラー.
- 『白鳳丸: ocean-going laboratory research vessel』東京大学海洋研究所, 三菱重工株式会社企画, 株式会社リョーイン製作, 日本語版, 1989年10月, 1巻(52分), VHS, カラー.
- 『Hakuho maru: ocean-going laboratory research vessel』東京大学海洋研究所, 三菱重工株式会社企画, 株式会社リョーイン製作, 英語版, 1989年10月, 1巻(52分), VHS, カラー.
- 『海洋研究所の今: 東大チャンネル』東京大学創立120周年記念東京大学展第四部知の解放プロジェクト制作, 1997年, 1巻, VHS, カラー.
- 『海に魅せられて』東京大学海洋研究所企画, Channel J制作, 2002年, 1巻(10分), VHS, カラー.

■DVD

- 『海が好き! オーシャンサイエンスで活躍する女性研究者たち: 白鳳丸見学会』東京大学海洋研究所企画, 有限会社総合ビデオサウンド制作, 2008年, 1巻(162分).

資料2-7-3 出版物

■図書

- 『東京大学海洋研究所30年史: 1962~1992』東京大学海洋研究所編, 1993年3月, 271頁, B5判.
- 『海洋のしくみ』東京大学海洋研究所編, 日本実業出版社, 1997年9月, 173頁, A5判.
- 『海の生き物 100 不思議』東京大学海洋研究所編, 東京書籍, 2003年7月, 227頁, B6判.
- 『東京大学海洋研究所国際沿岸海洋研究センター(旧大槌臨海研究センター)30年の歩み: 1973-2003』東京大学海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター編, 2003年10月, 222頁, A4判.

『グリグリできる!? : 3D-CT 深海生物』東京大学大気海洋研究所HADEEP制作, 2010年, 1 DVD-ROM.

■報告書

海洋研究所編集または発行

Proceedings of third ORI-LIPI seminar on Southeast Asia marine science: oceanography for fisheries/edited by Takashige Sugimoto et al./1992, ii, 193 p., 30 cm.

『海洋研究船による地球環境温暖化に係わる温室効果気体の海洋における収支の観測研究中間報告書』全17巻, 1994～2009年, 17冊, A4判.

Proceedings of seventh joint seminar on marine science: National Olympics Memorial Youth Center, Tokyo, Japan, December 3-5, 1996/edited by Makoto Terasaki et al., The Center for International Cooperation, the Ocean Research Institute, the University of Tokyo/1998, 167 p., 30 cm.

Proceedings of the Fourth International Scientific Symposium: role of ocean sciences for sustainable development Intergovernmental Oceanographic Commission subcommission for the western Pacific (UNESCO/IOC/WESTPAC), 2-7 Feb 1998, Okinawa, Japan/organized by Ministry of Education, Science, Sports and Culture, University of the Ryukyus, University of Tokyo, Intergovernmental Oceanographic Commission/1998, 634 p., 30 cm.

Field guide to Lombok Island: identification guide to marine organisms in seagrass beds of Lombok Island, Indonesia/edited by Keiichi Matsuura, O. Kurnaen Sumadhihanga and Katsumi Tsukamoto/2000, 457 p., 27 cm.

Proceedings of the 11th JSPS joint seminar on marine science/edited by Makoto Terasaki et al., Center for International Cooperation, Ocean Research Institute, University of Tokyo/2001, 377 p., 30 cm.

Coastal management and sustainable development, 9 July 2002 Tokyo, Japan: proceedings/United Nations University/c2002, 168 p., 26 cm. (Conserving our coastal environment: man and the ocean 『沿岸環境の保全 : 人間と海』国連大学発行)

UNU-ORI-Iwate Symposium marine ecology and environment, 10 July 2002 Tokyo, Japan: proceedings/United Nations University/c2002, 144 p., 26 cm. (Conserving our coastal environment: man and the ocean 『沿岸環境の保全 : 人間と海』国連大学発行)

Endocrine disruptor pollution in Asia and the Pacific, 8 July 2002 Tokyo, Japan: proceedings/United Nations University/c2002, 122 p., 26 cm. (Conserving our coastal environment: man and the ocean 『沿岸環境の保全 : 人間と海』国連大学発行)

JSPS international workshop for inter-calibration of hazardous chemicals: Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand, 10-14 March, 2003/edited by Nobuyuki Miyazaki, Gullaya Wattayakorn, printed by

Bangkok Block Ltd./2003, 200 p., 30 cm.

Proceedings coastal oceanography: environmental, characteristic and resources: second ORI-LIPI seminar on southeast Asia marine science in cooperation with Diponegoro University, sponsored by JSPS/edited by Djoko Suprpto, Kasijan Romimohtarto, Takashige Sugimoto, Department of Marine Science, Faculty of Science, Chulalongkorn University/2004, 312 p., 30 cm.

An introduction to leptocephali: biology and identification/Michael J. Miller and Katusmi Tsukamoto, Department of Marine Bioscience, Behavior and Ecology Laboratory/c2004, 104 p., 26 cm.

The 2nd KIOS-ORI joint symposium on marine science: extended abstracts: September 22-23, 2006, Pukyong National University, Busan, Korea/2006, 114 p., 30 cm.

『海學問 : 白鳳丸・淡青丸研究成果発表会講演要旨集, 成果資料 : 平成18年9月8～9日, 2006年, 228頁, A4判.

『輝け未来! オーシャンサイエンスで活躍する女性研究者たち : 委託業務成果報告書』2008年3月, 205頁, A4判.

気候システム研究センター編集または発行

『気象力学から気候力学へ』気候システム研究叢書no. 1, 1996年4月, 145頁, B5判(松野太郎教授退官記念シンポジウム, 1995年5月, 報告書).

『気候研究の最前線』気候システム研究叢書no. 2, 1997年, 242頁, B5判(「気候研究の最前線」シンポジウム, 1996年4月, 報告書).

Proceedings of the International Workshop on the Climate System of Monsoon Asia/organized by Meteorological Research Institute and Center for Climate System Research, University of Tokyo, sponsored by Meteorological Society of Japan, December 3-7, 1996, Kyoto International Community House, Kyoto, Japan/1996, 354 p., 30 cm.

『グローバル気候学』成果報告書』1997年3月, 244頁, A4判.

『気候システム変動の謎に挑む』気候システム研究叢書 no. 3, 1998年11月, 241頁, B5判(「気候システム変動の謎に挑む」シンポジウム, 1998年4月東大山上会館, 報告書).

『グローバル気候変動学』成果報告書』2000年3月, 314頁, A4判.

『高解像度気候モデルによる近未来気候変動予測に関する研究 : 21世紀気候変動予測革新プログラム 平成20年度研究成果報告書』(共同刊行) 文部科学省研究開発局, 2009年3月, 196頁, A4判.

大槌臨海研究センター編集または発行

Otsuchi Marine Research Center, Ocean Research Institute, the University of Tokyo [1995]/edited by Nobuyuki Miyazaki/1995, 599p, 26 cm.

Otsuchi Marine Research Center, Ocean Research Institute, the University of Tokyo [2000]/edited by Nobuyuki Miyazaki/2000, 569p, 30 cm.

「新世紀を拓く深海科学リーダーシッププログラム (HADEEP) 編集または発行

『新世紀を拓く深海科学リーダーシッププログラム: Hadal environmental science/education program (HADEEP): 助成事業完了報告書; 2006年度~2010年度』5冊, 2007年3月~2011年9月, A4判.

『新世紀を拓く深海科学リーダーシッププログラム: Hadal environmental science/education program (HADEEP): 完了報告書(抄); 2007年度~2009年度, 2006年度~2010年』4冊, 2008年5月~2011年9月, A4判.

『地球最後のフロンティア深海を探る: 新世紀を拓く深海科学リーダーシッププログラム: HADEEP Hadal environmental science/education program』2010年, 23頁, A4判 (教育プログラム [追補] 2009年4月発行, [追補2] 2010年10月発行).

Trench Connection: International Symposium on the Deepest Environment on Earth 10th-13th November 2010, Atmosphere and Ocean Research Institute, The University of Tokyo, Japan: symposium programme and abstracts/2010, 63 p., 30cm.

大気海洋研究所編集または発行

『高解像度気候モデルによる近未来気候変動予測に関する研究: 21世紀気候変動予測革新プログラム 平成22年度研究成果報告書』(共同刊行) 文部科学省研究開発局, 2011年3月, 211頁, A4判.

『暑いだけじゃない地球温暖化: 世界の気候モデルから読む日本の将来』東京大学大気海洋研究所「暑いだけじゃない地球温暖化」編集委員会編, 2011年10月, 22頁, A4判.

New direction of ocean research in the western pacific: past, present and future of UNESCO/IOC/WESTPAC Activity for 50 years and JSPS project Coastal marine science: program and abstracts/2010, 97 p., 30cm.

The 3rd AORI-KIOS joint symposium on marine science: program and abstracts: November 10-11, 2011, Kashiwa campus, the University of Tokyo/2011, 29 p., 30 cm.

Seagrasses resource status and trends in Indonesia, Japan, Malaysia, Thailand and Vietnam/Ogawa H., Japar Sidik B., Muta Harah Z., Seizando-Shoten Pub./c2011, 168 p., 27 cm.

海洋アライアンス編集または発行

『「海と人類との新たな接点」概要集: シンポジウム第3回「東京大学の海研究」』2008年, 51頁, A4判.

『東京大学海洋アライアンス: 海底熱水鉱床の開発に関する勉強会: 中間報告』2008年12月, 39頁, A4判.

『「海の現在と明日」: シンポジウム第4回「東京大学の海研究」』2009年, 38頁, A4判.

『海洋アライアンス・イニシアティブ報告書「海洋にかかわる諸活動のコスト・ベネフィットの評価検討」及び海洋アライアンスワークショップ報告書「海洋保護区: そのコストとベネフィット」』2009年3月, 24頁, A4判.

『「地球システムとしての海」: シンポジウム第5回「東京大学の

海研究」』2010年, 34頁, A4判.

『東京大学海洋アライアンス: 大学における学際的海洋教育に関する研究: 報告書 平成21年度』2010年3月, 162頁, A4判.

『「海洋科学調査をめぐる法的諸問題」に関する勉強会研究報告書』2011年3月, 147頁, A4判.

『「震災を科学する」: 海洋アライアンスシンポジウム第6回「東京大学の海研究」』2011年, 7頁, A4判.

『東京大学海洋アライアンス: 大学における学際的海洋教育に関する研究: 報告書 平成22年度』2011年3月, 192頁, A4判.

■評価等

海洋研究所

『海洋研将来構想に関する中間報告書III 平成4年』1992年, 41頁, B5判.

『東京大学海洋研究所 現状と課題 平成6年』1994年, 58頁, A4判.

『海洋研将来構想に関する中間報告書IV 平成7年』1995年, 24頁, A4判.

Summary of activities for assessment external review 2007/169 p., 2007.12, 30cm.

Individual data of faculty members external review 2007/551 p., 2007.12, 30cm.

Report of external review/144p. 2008.4

気候システム研究センター

『東京大学気候システム研究センター外部評価報告書: 平成11年7月』1999年7月, A4判.

『東京大学気候システム研究センター外部評価報告書: 平成20年8月』2008年8月, A4判.

先端海洋システム研究センター

『東京大学海洋研究所先端海洋システム研究センター中間外部評価報告書』2007年12月, 106頁, A4判.

■Bulletin of the Ocean Research Institute, University of Tokyo

No. 30 (1992.3), A universal marine geophysical data processing system/Tamaki, K; Nakanishi, M; Oshida, A; Sayanagi, K/50 p., 26 cm.

No. 31 (1993.3), Map of geoid in around Japan with JODC J-BIRD bathymetric chart in a scale of 1: 1,000,000/Fukuda, Y; Shi, P; Segawa, J/6 p., 26 cm + 3 maps.

No. 32 (1995.3), Anomalies of geomagnetic and geoelectric variations at the seafloor around the Izu-Ogasawara arc/Toh, H; Segawa, J/368 p., 26 cm.

No. 33 (1998.3), An ultrastructural review of the spermatozoa of Japanese fishes/Hara, M; Okiyama, M.; Comparative studies on the spermatozoon motility of Japanese fishes/Ishijima, S; Hara, M; Okiyama, M/152 p., 30cm.

資料2-7-4 データベース

データベース名	蓄積情報の概要	URL	年、蓄積量	利用件数
化学天気図	気候システム研究センターの開発した化学気候モデルを用いたオゾンなどの準リアルタイム予報を公開	http://157.82.240.165/~takigawa/	2000年～	約350件/年
地球気候系の診断に関わるバーチャルラボラトリーの形成	4大学連携研究による衛星プロダクトなどの公開および若手研究者育成のための講習会の案内	http://157.82.240.167/vl/index.html	5種類	1,320件
放射コード計算ツール集 (OpenCLASTR)	当センターの開発した、大気放射計算に関する数値モデルを公開	http://www.ccsr.u-tokyo.ac.jp/~clastr/	13種類	360件
LBMによる異常気象要因分析	気象庁異常分析検討委員会と連携して、毎月の大気循環場に関する力学的要因分析を掲載	http://www.ccsr.u-tokyo.ac.jp/~hiro/ex/	1979年～	約250件/年
全球雲解像モデル NICAM データベース	全球雲解像モデルNICAMのデータ、プログラム、論文、セミナー情報をアーカイブ、プログラム共同開発のプラットフォーム	http://www.nicam.jp	2007年6月～	1,000件
TRMM衛星推定潜熱加熱データベース	JAXAとの共同開発による熱帯降雨衛星観測をベースにした北緯36度から南緯36度範囲の対流活動に伴う非断熱加熱量の3次元推定データベース	http://www.eorc.jaxa.jp/TRMM/lh/index.html	—	5,763件/年
地球表層圏データベース	大気海洋研究所で保有する地球表層圏の諸データに関する統合データベース	http://cesd.aori.u-tokyo.ac.jp/cesddb/	4種類	629件
研究船基本観測資料データベース	研究船基本観測資料に関する蓄積情報(研究航海実績、研究報告書、ルーチン観測基本データ、気象・海象データ、航跡データ等)	Web上での公開準備中	—	—
東京大学大気海洋研究所教員実績入出力システム	教員実績データ	非公開	2002年度～	—
魚類ミトコンドリアゲノムデータベース (MitoFish)	魚類ミトコンドリアゲノムDNA全塩基配列データおよび部分塩基配列データ	http://mitofish.aori.u-tokyo.ac.jp/	全魚類約3万種のうち約900種のミトコンドリア全ゲノムデータと約1万7000種の部分配列データ	16,278件
全海洋動物プランクトンセンサスデータベース (CMarZ-Asia Database)	動物プランクトンの遺伝子塩基配列、分類、試料コレクション、分布、映像、および関連メタデータ	http://www.cmarz-asia.org/db/index.html	23,198件	51,185件
NORPAC-NETプランクトンコレクション	NORPACネットにより採集されたプランクトン試料情報	Web上での公開準備中	1,350件	—
白鳳丸海鳥目視観測データベース	白鳳丸航海で目視観測された海鳥の出現記録	Web上での公開準備中	80種・2,000日分	—

資料2-7-5 ウェブサイト

訪問数

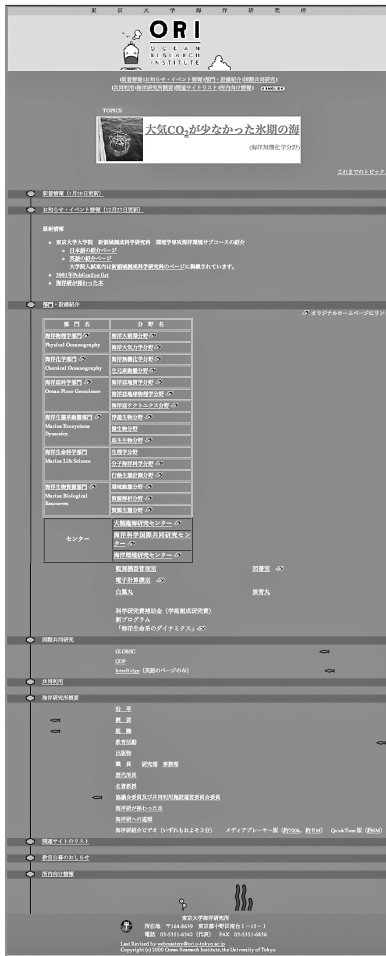
年	訪問数	閲覧ページ数
2010	74,315	209,489
2011	109,140	294,269

* http://www.aori.u-tokyo.ac.jp/ のみの集計
 2010年4~5月は、主なコンテンツは旧ページ (ori.u-tokyo.ac.jp) にあったため、過小集計となっている
 海洋研究所、気候システム研究センター時代のデータはなし

歴代トップページ

●海洋研究所

[設置(2000年ごろ)~2004.3]



[2004.4~2008.7]



[2008.8~2010.3]



●大気海洋研究所

[2010.4~2011.9]



[2011.10~]



*気候システム研究センターのデータはなし

資料2-8 受賞等

資料2-8-1 受賞

●海洋研究所

教職員が在職期間中に受けた賞

受賞者氏名	受賞年月	授賞団体・賞の名称	受賞題目
小池 勲 夫	1992.6	日仏海洋学会賞	海洋の窒素循環に関する研究
平 朝 彦	1994	アメリカ地質学会フェロー	付加体調査による地殻成長の研究
伊 賀 啓 太	1996.2	日本流体力学会専門賞	Transition modes of rotating shallow water waves in a channel
安 田 一 郎	1997.4	日本水産海洋学会日高論文賞	Two dimensional asymmetric vortex merger: Contour dynamics experiment
山 本 富士夫	1998.3	日本水路協会水路技術奨励賞	IZANAGI (いざなぎ) サイドスキャンソナーの開発と音響画像処理システムの構築
野 崎 義 行	1998.4	日本海洋学会賞	天然放射性核種および希土類元素による海洋の物質循環に関する研究
野 崎 義 行	1998.4	海洋化学研究所海洋化学学術賞 (石橋賞)	地球環境とオシャンフラックス
徳 山 英 一	1998.10	海洋調査技術学会功労賞	
末 廣 潔	1998.11	海洋調査技術学会技術賞	DATレコーダを用いたデジタル大容量海底地震計
小池 勲 夫	1999.4	日本海洋学会賞	海洋における窒素を中心とした生元素循環の研究
西 田 睦	1999.4	日本水産学会賞進歩賞	魚類の集団構造と系統に関する分子進化学的研究
浅 井 富 雄	1999.5	日本気象学会藤原賞	大気熱対流に関する基礎からメソ気象現象に亘る広範な研究、地球環境問題および気候変動に関する啓発的研究
藤 尾 伸 三	2000.3	日本海洋学会岡田賞	診断モデルと海洋観測による深層循環の研究
木 村 伸 吾	2000.10	北太平洋海洋科学機構 (PICES) 年次総会最優秀講演賞	Biological production process associated with frontal disturbances of the Kuroshio and the Kuroshio Extension
野 崎 義 行	2001.1	日本地球化学会賞	海洋における天然放射性核種と希土類元素の分布と変動に関する地球科学的研究
西 川 淳	2001.4	日本海洋学会岡田賞	海洋のゼラチン質プランクトン、特にサルバ・ウミタル類の生態学的研究
寺 崎 誠	2001.5	日仏海洋学会賞	肉食プランクトン、毛顎動物の生態学的研究
木 村 龍 治	2001.7	日本流体力学会流体力学技術賞	大規模流体现象に対する実験室モデルの開発及びそれを用いた啓蒙活動
金 子 豊 二	2001.10	日本動物学会 Zoological Science Award	Excellent salinity tolerance of Mozambique Tilapia (<i>Oreochromis mossambicus</i>): elevated chloride cell activity in the Branchial and Opercular Epithelia of the fish adapted to concentrated seawater
木 村 伸 吾	2001年度	水産海洋学会論文賞	Fluctuation in distribution of low-salinity water in the North Equatorial Current and its effect on the larval transport of the Japanese eel
小 畑 元	2002.4	日本海洋学会岡田賞	海水中の微量金属 (特に鉄) に関する海洋分析化学的研究
道 田 豊	2002.5	海洋理工学会論文賞	A practical method of current measurement with shipmounted ADCP
平 啓 介	2002.6	日仏海洋学会賞	直接測流による黒潮および亜熱帯循環系の研究
木 暮 一 啓	2002.10	日本微生物生態学会論文賞	Isolation of bacteria with membrane proteins homologous to <i>Vibrio anguillarum</i> porin <i>Omp35La</i>
川 辺 正 樹	2002年度	日本海洋学会賞	黒潮の流路と流量の変動に関する研究
平 啓 介	2002年度	日仏海洋学会賞	直接測流による黒潮および亜熱帯循環系の研究
渡 邊 良 朗	2003.3	水産海洋学会論文賞	Growth of larval and early juvenile Japanese anchovy, <i>Engraulis japonicus</i> , in the Kuroshio-oyashio transition region
木 村 龍 治	2003.5	日本気象学会藤原賞	地球流体力学研究の推進ならびに気象学の普及に関する貢献
渡 邊 良 朗	2004.3	水産海洋学会宇田賞	小型浮魚類の初期生態と加入量変動機構に関する研究
植 松 光 夫	2004.9	日本地球化学会賞	海洋大気エアロゾルの挙動と組成変動に関する地球化学的研究
青 山 潤	2004.11	農学会日本農学進歩賞	遺伝子マーカーによるウナギ属魚類の系統解析と種査定法の開発
北 川 貴 士 木 村 伸 吾	2004年度	水産海洋学会論文賞	Diving behavior of immature, feeding Pacific bluefin tuna (<i>Thunnus thynnus orientalis</i>) in relation to season and area: the East China Sea and the Kuroshio-Oyashio transition region
青 山 潤	2004年度	農学会日本農学進歩賞	DNA マーカーによるウナギ属魚類の系統解析と種査定法の開発
兵 藤 晋	2005.1	パソプレシン研究会研究奨励賞	サメ・エイの腎臓における尿素再吸収と後葉ホルモン
蒲 生 俊 敬	2005.4	日本海洋学会賞	海水中の溶存気体をトレーサーとする海洋学的研究

受賞者氏名	受賞年月	授賞団体・賞の名称	受賞題目
勝川 俊雄	2005. 4	日本水産学会論文賞	Numerical investigation of the optimal control rule for decision-making in fisheries management
西田 睦	2005. 4	日本水産学会論文賞	Isolation of microsatellite markers by in silico screening implicated for genetic linkage mapping in Japanese pufferfish <i>Takifugu rubripes</i>
西田 睦	2005. 9	Arledi Lecturer Award, the Royal Swdsh Academy of Sciences	Towards a comprehensive phylogeny of fishes: An approach from complete mitochondrial genome sequences
西田 睦 塚本 勝巳	2005. 9	日本魚類学会論文賞	Genetic evidence for multiple geographic populations of the giant mottled eel <i>Anguilla marmorata</i> in the Pacific and Indian Oceans
原 政子	2005. 9	日本魚類学会論文賞	ハゼ亜目魚類精子の微細構造の多様性
猿渡 敏郎	2005.11	日本DNA多型学会優秀研究賞	トモヘカリの生活史 塩基配列が明かすその概略
浦川 秀敏	2005年度	日本水産学会水産学奨励賞	海洋微生物の分子生態学に関する研究
河村 知彦	2006. 2	国際アワビ学会賞	アワビ類の初期生態に関する研究
塚本 勝巳	2006. 3	日本水産学会賞	ウナギ回遊生態の解明
小川 浩史	2006. 4	日本海洋学会日高論文賞	Dissolved organic matter in oceanic waters
井上 潤	2006.10	日本魚類学会奨励賞	ミトコンドリアゲノム全長配列に基づく下位条鰭類の系統解析と分岐年代推定
道田 豊	2006.11	海洋調査技術学会技術賞	沿岸海域における流速計の相互比較
北川 貴士 木村 伸吾	2006年度	日本水産学会論文賞	Thermal adaptation of Pacific bluefin tuna <i>Thunnus orientalis</i> to temperate waters
町田 龍二	2007. 4	日本海洋学会岡田賞	海洋動物プランクトンの進化遺伝学的研究
塚本 勝巳	2007. 4	日本農学賞・読売農学賞	ウナギの回遊に関する研究
新井 崇臣	2007. 4	日本水産学会奨励賞	耳石解析による魚類の生活史と回遊履歴に関する研究
勝川 俊雄	2007. 4	日本水産学会奨励賞	水産資源の順応的管理に関する研究
津田 敦	2007. 7	滋賀県生態学琵琶湖賞	海洋酸化鉄に関する研究
北川 貴士	2007年度	日本水産学会水産学奨励賞	クロマグロの行動生理生態と水温適応機構に関する研究
塚本 勝巳	2008. 3	日本水産学会論文賞	Effects of water temperature on early development of Japanese eel <i>Anguilla japonica</i>
塚本 勝巳 MILLER, Michael J. 青山 潤	2008. 3	日本水産学会論文賞	Genetic identification of Conger myriaster leptocephali in East China Sea
竹井 祥郎	2008. 9	日本動物学会賞	海洋環境への浸透圧的適応に関わる新規ホルモンの探索
佐藤 克文	2008. 9	講談社科学出版賞	ペンギンもクジラも秒速2メートルで泳ぐ
佐藤 克文	2009. 2	ナショナルジオグラフィック協会	2009 Emerging Explorer
安田 一郎	2009. 4	日本水産海洋学会論文賞	Variation of Japanese sardine (<i>Sardinops melanostictus</i>) mortality in relation to the winter mixed layer in the Kuroshio Extension
植松 光夫	2009. 4	日本海洋学会賞	大気圏を通して海洋に運ばれる化学物質に関する研究
津田 敦	2009. 4	日本海洋学会日高論文賞	Evidence for grazing hypothesis: Grazing reduces phytoplankton responses of the HNLC ecosystem to iron enrichment in the western subarctic pacific (SEEDS II)
猿渡 敏郎	2009. 4	水産海洋学会論文賞	Variation in migration patterns of pond smelt, <i>Hypomesus nipponensis</i> , in Japan determined by otolith microchemical analysis
佐野 有司	2009. 4	文部科学大臣表彰科学技術賞 (研究部門)	高感度高分解能質量分析計を用いた海洋地球化学の研究
横山 祐典	2009. 4	文部科学大臣表彰若手科学者賞	過去の海水準変動の高時間解像度復元と変動メカニズムの研究
新野 宏	2009. 5	日本気象学会賞	ラージ・エディ・シミュレーションに基づく改良 Mellor-Yamada Level 3 乱流クローザーモデル (MYNN モデル) の開発と大気境界層の研究
横山 祐典	2009. 6	日本第四紀学会学術賞	南北氷床のふるまいと海水準——最終氷期の気候変動との関係
柳瀬 亘	2009.10	日本気象学会山本・正野論文賞	Dependence of the polar low development on baroclinicity and physical processes: An idealized high-resolution numerical experiment
馬淵 浩司	2009.10	日本魚類学会奨励賞	分子系統解析による東アジア魚類相形成史への新たな問題提起: ササノハベラ属と在来コイの研究から
浜崎 恒二	2009.11	農業開発技術者協会・農道館 山崎賞	微生物の海
塚本 勝巳	2010. 3	日本水産学会論文賞	Discovery of mature freshwater eels in the open ocean
小畑 元	2010. 3	日本海洋学会日高論文賞	Iron, manganese and aluminum in upper waters of the western South Pacific Ocean and its adjacent seas

●気候システム研究センター

教職員が在職期間中に受けた賞

氏名	受賞年月	授賞団体・賞の名称	受賞題目
松野 太郎	1992. 5	日本気象学会藤原賞	大気力学ならびに気候変動の研究の推進
住 明 正	1994. 5	日本気象学会藤原賞	TOGAを中心とする熱帯海洋大気結合システム研究の推進
高 橋 正 明	1994. 5	日本気象学会賞	数値実験による準2年周期振動の研究
中 島 映 至	1995. 5	日本気象学会賞	遠隔測定法による雲とエアロゾルの相互作用に関する研究
山 中 康 裕	1996.11	日本気象学会堀内基金奨励賞	海洋の生物地球科学的サイクルのモデリング
山 中 康 裕	1998. 4	日本海洋学会岡田賞	海洋の生物地球化学物質循環モデルの開発
高 藪 縁	1998. 5	日本気象学会賞	熱帯域の大規模擾乱に関する研究
中 島 映 至	2000. 3	日産財団日産科学賞	人工衛星を利用した地球大気中の粒子環境に関する気候学的研究
渡 部 雅 浩	2001.10	日本気象学会山本・正野論文賞	Atmosphere-ocean thermal coupling in the North Atlantic; A positive feedback Quart
羽 角 博 康	2002. 3	日本海洋学会岡田賞	海洋大循環モデリングを主体とした気候システムの研究
木 本 昌 秀	2004. 5	日本気象学会賞	グローバルな気候系の変動メカニズムに関する力学的研究
稲 津 将	2005.11	日本気象学会山本・正野論文賞	The zonal asymmetry of the Southern Hemisphere winter storm track
人・自然・地球共生プロジェクト温暖化予測第一課題研究グループ (代表:住 明正)	2005.10	日本経済新聞社日経地球環境技術賞	高分解能大気海洋モデルを用いた地球温暖化予測に関する研究
佐 藤 正 樹	2007. 5	日本気象学会賞	準一様格子を用いた全球雲解像大気モデルの開発とそれによる熱帯対流雲集団のシミュレーション
高 藪 縁	2007. 5	女性科学者に明るい未来をの会猿橋賞	熱帯における雲分布の力学に関する観測的研究
阿 部 彩 子	2007.10	日本気象学会堀内賞	氷床及び古気候に関するモデリング研究
中 島 映 至 木 本 昌 秀 阿 部 彩 子	2007.12	ノーベル財団ノーベル平和賞 (IPCCの一員として)	IPCC (気候変動に関する政府間パネル) の気候変動問題に関する活動
三 浦 裕 亮	2008.11	日本気象学会山本・正野論文賞	A Madden-Julian oscillation event realistically simulated by a global cloud-resolving model
中 島 映 至	2009.12	Elsevier 出版社 JQSRT 誌歴史的論文	切断法による適度に厚い大気中の放射輝度計算アルゴリズム

●大気海洋研究所

教職員が在職期間中に受けた賞

氏名	受賞年月	授賞団体・賞の名称	受賞題目
伊 藤 幸 彦	2010. 4	日本水産海洋学会論文賞	Transport and environmental temperature variability of eggs and larvae of the Japanese anchovy (<i>Engraulis japonicus</i>) and Japanese sardine (<i>Sardinops melanostictus</i>) in the western North Pacific estimated
木 本 昌 秀	2010. 6	日産財団日産科学賞	高分解能気候システムモデルを用いた地球温暖化と降水量変動予測に関する研究
西 田 睦	2010. 8	日本進化学会賞	魚類の進化に関する分子系統学的研究
西 田 睦	2010. 8	公益信託進化学振興木村資生基金 木村資生記念学術賞	
西 田 睦	2010. 9	日本魚類学会論文賞	Mitochondrial genome and a nuclear gene indicate a novel phylogenetic position of deep-sea tube-eye fish (Stylephoridae)
伊 藤 幸 彦	2010.10	岩手県三陸海域研究論文知事賞	三陸沖暖水塊の構造・移動特性と熱・塩分輸送に及ぼす影響
小 松 輝 久	2010.10	日仏海洋学会賞	藻場の環境、生態、分布に関する研究
北 川 貴 士	2010年度	農学会日本農学進歩賞	クロマグロ <i>Thunnus orientalis</i> の行動生態と水温適応機構に関する研究
木 村 伸 吾	2010年度	水産海洋学会宇田賞	海洋物理現象が魚類の資源変動ならびに回遊に及ぼす影響の研究
元 南 一	2010年度	水産海洋学会奨励賞	アワビ類を中心とした岩礁生態系の構造と機能に関する研究
新 野 宏	2011. 1	日本気象学会気象集誌論文賞	A numerical investigation of a supercell tornado: Genesis and vorticity budget
伊 藤 純 至 新 野 宏	2011. 2	日本気象学会 SOLA 論文賞	Large eddy simulation on dust suspension in a convective mixed layer
渡 邊 俊	2011. 3	日本水産学会水産学奨励賞	ウナギ属魚類の分類に関する研究
蒲 生 俊 敬	2011. 4	海洋化学研究所海洋化学学術賞 (石橋賞)	観測にもとづく海底熱水活動および海洋環境変化の地球化学的研究

氏名	受賞年月	授賞団体・賞の名称	受賞題目
安田 一郎	2011. 4	日本海洋学会賞	北太平洋中層水の形成・輸送・変質過程に関する研究
伊藤 幸彦	2011. 4	日本海洋学会岡田賞	海洋生態系にかかわる親潮・黒潮海域の水塊と変動に関する研究
岡 英太郎	2011. 4	日本海洋学会日高論文賞	Seasonal and interannual variation of north pacific subtropical mode water in 2003-2006
横山 祐典	2011. 4	国際ソロプチミスト日本財団クラブ賞環境貢献賞	喜界島サンゴを用いた古環境解析と島の小学校での出前授業等による科学教育促進
塚本 勝巳	2011. 6	太平洋学術会議畑井メダル	北太平洋における魚類の回遊に関する研究への貢献
井上 潤	2011. 8	日本進化学会教育啓蒙賞	ウェブサイトを通じた情報発信
西田 睦	2011. 9	日本魚類学会論文賞	Cyptic diversification of the swamp eel <i>Monopterus albus</i> in East and Southeast Asia, with special reference to the Ryukyuan populations
猿渡 敏郎	2011.10	日本甲殻類学会賞	Larval development of two Artegatis species (Deacapoda, Xanthidae) described from laboratory reared material.
芳村 圭	2011.10	ACRS2011 Innovation Award, The 32nd Asian Conference on Remote Sensing	Validating an isotopic AGCM with new satellite measurements of water vapor isotopologues
植松 光夫	2011.11	PICES 2011 Science Board Best Presentation Award	Potential importance of volcanic emissions on marine biogeochemical cycles and clouds over the North Pacific
北川 貴士 木村 龍治 新野 宏 木村 伸吾	2012. 3	日本水産学会論文賞	Vortex flow produced by schooling behavior of arabesque greenling <i>Pleurogrammus azonus</i>
塚本 勝巳 青山 潤	2012. 3	日本水産学会論文賞	First capture of post-spawning female of the Japanese eel <i>Anguilla japonica</i> at the southern West Mariana Ridge
塚本 勝巳	2012. 3	日本学士院エジンバラ公賞	魚類の回遊現象に関する基礎研究——とくにウナギの回遊機構の発見
津田 敦	2012. 3	日本海洋学会賞	亜寒帯北太平洋における動物プランクトンを中心とした低次生態系の動態に関する研究

資料2-8-2 学会長等への就任

氏名	在任期間(年)	学会名	役職名
浅井 富雄	1989～1995	日本気象学会	理事長
浅井 富雄	1990～1992	水文・水資源学会	会長
冲山 宗雄	1994～1995	日本魚類学会	会長
松野 太郎	1995～1998	日本気象学会	理事長
平 啓介	1995～1999	日本海洋学会	会長
木村 龍治	1995～2001	日本気象予報士会	会長
杉本 隆成	1997～2001	水産海洋学会	会長
冲山 宗雄	1998～1999	日本魚類学会	会長
木村 龍治	1999～2000	日本流体力学会	会長
西田 睦	2004～2005	日本魚類学会	会長
中島 映至	2005～2008	International Radiation Commission	President
寺崎 誠	2005～2009	日本プランクトン学会	会長
渡邊 良朗	2006～2009	水産海洋学会	会長
新野 宏	2007～	日本気象学会	理事長
小池 勲夫	2007～2011	日本海洋学会	会長
蒲生 俊敬	2008～2009	日本地球化学会	会長
西田 睦	2008～2009	日本魚類学会	会長
木暮 一啓	2009～	日本微生物生態学会	会長
徳山 英一	2009～	海洋調査技術学会	会長
植松 光夫	2011～	日本大気化学研究会	会長

資料2-9 外国人研究員

●海洋研究所 [1998.4～2010.3]

-印: データなし

受入期間	氏名	国籍	所属	職名	受入先
1997. 8. 2～1998. 8. 1	NGUYEN, Hoang	ベトナム	東京大学海洋研究所	外国人特別研究員	大洋底構造地質部門
1998. 6. 5～1998. 7. 2	LEE, Tae Won (李 泰源)	韓国	忠南大学	教授	漁業測定部門
1998. 6. 5～1998. 7. 2	HOSSENPELUG, Gustav	ドイツ	マックスプランク研究所	研究員	漁業測定部門
1998. 6. 5～1998. 7. 2	KOHLER, Uwe	ドイツ	マックスプランク研究所	研究員	漁業測定部門
1998. 6. 5～1998. 7. 2	HISMANN, Karen Martina	ドイツ	マックスプランク研究所	研究員	漁業測定部門
1998. 6. 5～1998. 7. 2	SCHAUER, Jürgen Detlef Gunther	ドイツ	マックスプランク研究所	研究員	漁業測定部門
1998. 6. 5～1998. 7. 2	FRICKE, Hans	ドイツ	マックスプランク研究所	研究員	漁業測定部門
1998. 6.11～1998. 6.27	JIANG, Lili	中国	中国科学院海洋研究所	大学院生	海洋物理部門
1998. 7. 1～1998. 7. 5	石 奉出	韓国	大韓民国海洋研究所・海洋地質部	部長	海底堆積部門
1998. 7. 5～1998. 7.18	DYMENT, Jerome	フランス	プレスト大学	CNRS 研究員	大洋底構造地質部門
1998. 7. 9～1998.12.20	PERSSON, Petra L.	スウェーデン	イエーテボリ大学	大学院生	海洋分子生物学部門
1998. 7.14～1998. 7.31	SASAKI, Yoshikazu (佐々木 嘉和)	アメリカ	オクラホマ大学ジョージリンクロス研究所	名誉教授	海洋気象部門
1998. 8. 1～1998. 8.26	SCHOTT, Bertram Woifgang Erich	ドイツ	フランクフルト大学気象地球物理学研究所	博士特別研究員	海底物理学部門
1998. 9.30～1998.11. 9	DJAJADIHARDJA, Yusuf	インドネシア	インドネシア科学技術評価局	主任研究員	海洋科学国際共同研究センター
1998.11. 6～1998.11.20	MEVEL, Catherine	フランス	フランス国立科学研究センター	研究主任	大洋底構造地質部門
1999. 1.20～1999. 2. 4	KUNARSO, Djoko Hadi	インドネシア	インドネシア科学院海洋学開発センター	室長	漁業測定部門
1999. 2. 1～1999.11.31	SAINZ-TRAPAGA, Susana	スペイン	東京大学農学生命科学研究科	農学特定研究員	資源環境部門
1999. 3. 1～2000. 3. 3	WURMAN, Joshua M.	アメリカ	オクラホマ大学気象学教室	准教授	海洋気象部門
1999. 3.15～2000. 3.19	MOORE, G. W. Kent	カナダ	トロント大学	副理学部長	海洋気象部門
1999. 3.21～2000. 4. 7	LORETZ, Christopher A.	アメリカ	ニューヨーク州立大学	助教授	海洋生物生理部門
1999. 5. 1～2001. 4.30	REN, Jianye	中国	中華人民共和国地質大学	副教授	大洋底構造地質部門
1999. 5.15～2000. 6. 6	BERN, Howard A.	アメリカ	カリフォルニア大学	名誉教授	海洋生物生理部門
1999. 6.17～2000. 6.21	BOYER, Don Lamar	アメリカ	アリゾナ州立大学機会航空宇宙工学科	教授・学科長	海洋気象部門
1999. 7. 3～2000. 7.10	LORETZ, Christopher A.	アメリカ	ニューヨーク州立大学	助教授	海洋生物生理部門
1999. 9.14～2000. 9.18	PARSON, Linsay M.	イギリス	サウザンプトン国立海洋研究所	主席研究員	大洋底構造地質部門
1999.10.20～2000.12.20	GARCIA, José Manuel Guerra	スペイン	セベリア大学生物学部	大学院生	大槌臨海研究センター
1999.11. 8～2000.11.10	VELIMIROV, Branko	オーストリア	ウィーン大学	教授	海洋微生物部門
2000. 1.10～2000. 2. 8	CLIFFORD, Rankin Jhon	イギリス	オデンセ大学生物学部	教授	海洋生物生理部門
2000. 1.10～2001. 1. 9	ADAMCZEWSKA, Agnieszka	ポーランド・オーストリア	ピエールエマリーキュリー大学インターリッジ事務局	サイエンスコーディネーター	大洋底構造地質部門
2000. 1.12～2000. 2. 3	MARQUET, Gerard	フランス	フランス太平洋大学 (ニューカレドニア)	研究員	漁業測定部門
2000. 1.22～2000. 3.16	YUMUL, Graciano P. JR	フィリピン	フィリピン大学理学部地球科学科	助教授	大洋底構造地質部門
2000. 2.20～2000. 2.27	MOORE, G. W. Kent	カナダ	トロント大学	副理学部長	海洋気象学部門
2000. 2.21～2000. 3. 3	PATRIAT, Philippe	フランス	ピエールエマリーキュリー大学	CNRS 研究員	大洋底構造地質部門
2000. 2.21～2000. 3. 3	DYMENT, Jerome	フランス	プレスト大学	CNRS 研究員	大洋底構造地質部門
2000. 2. 3～2000. 3. 2	CASTILLO, Lourdes V.	フィリピン	フィリピン大学ロスバニョス校	助教授	海洋微生物部門
2000. 2. 3～2000. 3. 2	MUDJONO, M. SC	インドネシア	インドネシア科学院	研究員	漁業測定部門
2000. 2. 3～2000. 3. 2	WOUTHUYZEN, Sam	インドネシア	インドネシア科学院	研究員	漁業測定部門

受入期間	氏名	国籍	所属	職名	受入先
2000. 2. 3～2000. 3. 2	LIMBONG, Daniel	インドネシア	サムラトランギ大学	助教授	漁業測定部門
2000. 2. 3～2000. 3. 2	CAMPOS, Wilfredo L.	フィリピン	フィリピン大学ピサセス校	助教授	海洋微生物部門
2000. 3. 2～2000. 3.10	NOAKES, Devid L. G.	カナダ	ゲルフ大学	教授	漁業測定部門
2000. 3. 2～2000. 3.10	FEUNTEUN, Eric	フランス	レンヌ第一大学	助教授	漁業測定部門
2000. 3.22～2002. 3.21	MILLER, Michael James	アメリカ	ルトジャーズ大学	助教	行動生態計測分野
2000. 6.30～2000. 7. 9	LORETZ, Christopher A.	アメリカ	ニューヨーク州立大学	助教授	海洋生命科学部門
2000. 7. 1～2000.12.31	BAKER, Mohamed	シリア	ティシュリーン大学海洋研究所	—	資源環境部門
2000. 8. 1～2000. 9. 9	BAOPRASERTKUL, Puttharat	タイ	国立養殖遺伝研究所	—	海洋生命科学部門
2000. 9. 3～2000. 9.23	LIU, Cho-Teng (劉 偉騰)	中国・台湾	国立台湾大学海洋研究所	教授	海洋物理学部門
2000. 9.27～2000.10.21	呉 京姫	韓国	釜州大学校海洋学科	大学院生	海洋物理学部門
2000.10.21～2000.11.29	DECHSAKULWATANA, Chutiwan	タイ	ブラパー大学海洋研究所	上級研究員	海洋生態系動態微生物部門
2000.10.23～2000.11.16	GULICK, Sean P. S.	アメリカ	テキサス大学地球物理学研究所	研究員	海洋科学国際共同研究センター
2000.11. 6～2000.12. 3	LIMBONG, Daniel	インドネシア	サムラトランギ大学	助教授	行動生態計測分野
2000.11. 6～2000.12. 5	WOUTHUYZEN, Sam	インドネシア	インドネシア科学院	研究員	行動生態計測分野
2000.11. 8～2000.11.27	PRAMDJI	インドネシア	インドネシア科学院海洋学研究開発センター	主任研究員	海洋科学国際共同研究センター
2000.11.13～2000.12.12	ROSMAN, Abdullah	マレーシア	マラヤ大学	講師	海洋科学国際共同研究センター
2000.11.16～2002.11.15	LI, Yuan-You	中国	汕頭大学	助教授	海洋生命科学部門
2001. 1.10～2002. 1. 9	文 大淵	韓国	釜山国立水産振興院	研究員	海洋生物資源部門
2001. 1.25～2003. 1.24	NAYAK, Binaya	インド	漁業教育中央研究所	研究員	海洋生態系動態部門
2001. 2. 1～2001. 3.17	PERMANA, Haryadi	インドネシア	インドネシア科学院地質工学地質動態学研究センター	助手	海洋底テクトニクス部門
2001. 3. 4～2001. 4. 1	LORETZ, Christopher A.	アメリカ	ニューヨーク州立大学バッファロー校生物科学部	助教授	海洋生命科学部門
2001. 3.10～2001. 4.10	BERN, Howard A.	アメリカ	カリフォルニア大学	名誉教授	海洋生命科学部門
2001. 3.15～2003. 3.14	DOU, Shouzeng	中国	中国科学院海洋研究所	准教授	行動生態計測分野
2001. 4. 1～2001. 7.31	FAURE, Michel	フランス	ブレーズパスカル大学モデリング応用情報学高等研究所	大学院生	行動生態計測分野
2001. 6.24～2001. 7.14	DONALD, John	オーストラリア	ディーキン大学	助教授	海洋生命科学部門
2001. 6.24～2001. 7.14	TOOP, Tes	イギリス・アメリカ	ディーキン大学	助教授	海洋生命科学部門
2001. 7. 9～2001. 7.28	李 泰源	韓国	忠南大学	教授	行動生態計測部門
2001. 9.10～2003. 9. 9	CLARKE, Christopher B.	ニュージーランド	オークランド大学	研究員	海洋生物資源部門
2001.11.30～2003.11.29	XIE, Songguang (謝 松光)	中国	中国科学院	博士研究員	海洋生物資源部門
2002. 1. 7～2002. 1.22	KHANBARI, Khaled	イエメン	サナー大学環境地球学科	助教授	海洋底科学部門
2002. 2. 1～2002. 2.28	KUNARSO, Djoko Hadi	インドネシア	インドネシア科学院海洋学研究開発センター	LIPI研究員	行動生態計測部門
2002. 2. 1～2002. 3. 7	JACUB, Ridwan	インドネシア	インドネシア科学院科学技術協力振興局	協力部長	海洋科学国際共同研究センター
2002. 3.23～2002. 4.21	BERN, Howard A.	アメリカ	カリフォルニア大学	名誉教授	海洋生命科学部門
2002. 4. 1～2002. 8.31	ZOBEL, Arnaud	フランス	ブレーズパスカル大学モデリング応用情報学高等研究所	大学院生	海洋生命科学部門
2002. 4. 8～2002. 8.31	FEUGIER, François	フランス	エブリバルデソンヌ大学情報学部博士課程	大学院生	海洋生命科学部門
2002. 5. 9～2002. 6.18	LORETZ, Christopher A.	アメリカ	ニューヨーク州立大学バッファロー校生物科学部	助教授	海洋生命科学部門
2002. 5.30～2002. 6.14	ANDERSON, Gary W.	イギリス	セントアンドリュース大学	特別研究員	海洋生命科学部門
2002. 6.21～2002. 7.20	TOOP, Tes	イギリス・アメリカ	ディーキン大学	助教授	海洋生命科学部門
2002. 6.21～2002. 7.20	DONALD, John	オーストラリア	ディーキン大学	助教授	海洋生命科学部門
2002. 7. 2～2002. 8.21	ROSS, Oliver Nicolas	イギリス	サウザンプトン国立海洋研究所	大学院生	海洋生物資源部門
2002. 7.15～2002. 8.18	都 亨基	韓国	韓東大学校	副教授	海洋生態系動態部門

受入期間	氏名	国籍	所属	職名	受入先
2002. 7.15～2002. 7.29	李泰源	韓国	忠南大学	教授	海洋生命科学部門
2002. 8. 5～2004. 3.31	CHEN, Shang (陳尚)	中国	—	—	海洋生物資源部門
2002. 8.12～2004. 3.31	LAVOUÉ, Sébastien	フランス	—	—	海洋生命科学部門
2002. 9. 1～2004. 8.31	LORETZ, Catherine Pollina	アメリカ	ニューヨーク州立大学バッファロー校	助手	海洋生命科学部門
2002. 9.10～2002.10. 9	WU, Shiguo	中国	中国科学院海洋研究所	研究員	海洋底科学部門
2002. 9.24～2002.10.12	李錫	韓国	国立水産振興院	博士研究員	海洋物理学部門
2002. 9.24～2002.10.12	CHO, Cheol-Ho	韓国	国立水産振興院	主任研究員	海洋物理学部門
2002. 9.25～2004. 5. 9	DALAI, Tarun Kumer	インド	物理学研究所	研究員	海洋環境研究センター
2002.10.25～2002.11.25	WARNE, Justin	イギリス	マンチェスター大学生物科学部門	博士研究員	海洋生命科学部門
2002.10.30～2002.11. 7	ALIBO, Dia Sotto	フィリピン	サンカルロス大学	助教授	海洋科学国際共同研究センター
2002.10.30～2002.12.20	CASTILLO, Lourdes V.	フィリピン	フィリピン大学ロスバニョス校生物科学研究所	助教授	浮遊生物分野
2002.11. 5～2002.12.20	NEELAM, Ramaiah	インド	東京大学大学院農学生命科学研究科	客員助教授	浮遊生物分野
2002.11. 6～2002.12.20	葉信明	中国・台湾	台湾中央研究院	博士研究員	海洋生態系動態部門
2002.11.27～2004. 8.31	MOULIN, Frédéric Yann	フランス	ヨゼフフーリエ大学地球物理学流体研究所	大学院生	海洋物理学部門
2002.11.28～2004.11.12	BARBARA, Gregory M.	オーストリア	フリンダース大学	大学院生	海洋生態系動態部門
2002.11.29～2002.12.20	CAMPOS, Wilfredo L.	フィリピン	フィリピン大学ピサヤ校生物科学部	助教授	海洋生態系動態部門
2002.12.23～2003. 1. 7	VERONIS, George	アメリカ	エール大学地質地球物理学教室	教授	海洋物理学部門
2002.12.27～2003. 2.15	都亨基	韓国	韓東大学校	副教授 (主任教授)	海洋生態系動態部門
2003. 2. 1～2003. 2.21	WOUTHUYZEN, Sam	インドネシア	インドネシア科学院海洋学開発センター	研究員	海洋生命科学部門
2003. 3.15～2003. 4.30	DOU, Shouzeng	中国	中国科学院海洋研究所	教授	海洋生命科学部門
2003. 4. 2～2003. 6.22	ALIBO, Dia Sotto	フィリピン	サンカルロス大学	助教授	海洋科学国際共同研究センター
2003. 4.17～2004. 4. 2	TIKKU, Anahita A.	アメリカ	コロンビア大学ラモンドハティ地球観測所	研究員	海洋底科学部門
2003. 5.24～2003. 6. 8	BERN, Howard A.	アメリカ	カリフォルニア大学総合生物科学部	名誉教授	海洋生命科学部門
2003. 6. 2～2003. 6.21	JOHNSON, Keven R	アメリカ	ノートルダム大学生物科学部	大学院生	生理学分野
2003. 6. 7～2003. 6.27	ANDERSON, Gary W.	イギリス	セントアンドリュース大学生物学部	特別研究員	海洋生命科学部門
2003. 6.13～2003. 6.23	HAZON, Neil	イギリス	セントアンドリュース大学生物学部	教授	生理学分野
2003. 7.14～2003. 9. 5	DUR, Gael	フランス	リール科学技術大学大学院修士課程個体群生態系生物学専攻	大学院生	行動生態計測分野
2003. 8. 5～2005. 3.31	CHEN, Shang (陳尚)	中国	中華人民共和国国家海洋局第一海洋研究所	研究助手	資源生態分野
2003. 8.12～2005. 3.31	LAVOUE, Sebastien	フランス	フランス自然史博物館	研究員	分子海洋科学部門
2003.10. 6～2003.12. 4	OSMAN, Abdel-Hamid Kamel	エジプト	エジプト運河大学獣医学部	教授	海洋生命科学部門
2003.10.18～2003.11. 2	BERN, Howard A.	アメリカ	カリフォルニア大学総合生物科学部	名誉教授	生理学分野
2003.10.21～2003.11.10	UNGSON, Julita Ragasa	フィリピン	マリアノマルコス州立大学水産学部	教授	資源生態分野
2003.10.26～2003.11. 9	ALIBO, Dia Sotto	フィリピン	サンカルロス大学	助教授	海洋無機化学分野
2003.11. 5～2004. 4. 5	李毅兵	中国	中国科学院海洋研究所	助教	海洋底テクトニクス分野
2003.11. 6～2003.12. 4	VYSOSKII, Sergei Victorovich	ロシア	ロシア科学院極東支部極東地質研究所	教授	海洋底テクトニクス分野
2003.11. 7～2003.11.30	CHU, Fengyou (初鳳友)	中国	国家海洋局第二海洋研究所	教授	海洋底テクトニクス分野
2003.11. 9～2003.11.30	GAINA, Carmen	オーストラリア	シドニー大学地球化学部門	研究員	海洋底地球物理学分野
2003.11. 9～2003.11.30	ZHAO, Xixi (趙西西)	アメリカ	カリフォルニア大学サンタクルーズ校	教授	海洋底テクトニクス分野
2003.11.10～2003.11.30	郭軍華	中国	中国科学院海洋研究所	大学院生	海洋底地球物理学分野

受入期間	氏名	国籍	所属	職名	受入先
2004. 1. 6～2005. 1. 5	LI, Daoji (李道季)	中国	中華人民共和国上海華東師範大学	教授	生元素動態分野
2004. 2. 5～2004. 3. 1	WU, Shiguo	中国	中国科学院海洋研究所	研究員	海洋底地質学分野
2004. 3. 1～2004. 6.30	MIGLIETTA, Mario Marcello	イタリア	イタリア国立学術会議大気科学・気候研究所	応用研究者	海洋大気力学分野
2004. 3. 7～2004. 5.29	FISCHER, Tobias Patrick	ドイツ	ニューメキシコ大学	助手	海洋環境研究センター
2004. 3.25～2005. 1.24	DOU, Shouzeng	中国	中国科学院海洋研究所	教授	行動生態計測部門
2004. 3.29～2004.11.28	FILIPPI, Jean Baptiste	フランス	コルシカ大学環境物理システム学	助手	海洋生命科学部門
2004. 4. 1～2005. 3.31	MA, Yan (馬艶)	中国	国家海洋局 第一海洋研究所	副研究員	海洋物理学部門
2004. 4. 21～2006. 3.31	GRIESSBAUM, Frank	ドイツ	ミュンスター大学気候学専攻	大学院生	海洋科学国際共同研究センター
2004. 5.15～2004. 6.14	WONG, Kwok Shing	中国	香港中文大学生物学部	大学院生	海洋生命科学部門
2004. 6. 6～2004. 7. 8	LEE, Tae Won (李泰源)	韓国	忠南大学海洋学部	教授	海洋生命科学部門
2004. 6. 6～2004. 7. 8	HWANG, Hak Bin (黄鶴彬)	韓国	忠南大学海洋学部	大学院生	海洋生命科学部門
2004. 7. 6～2004. 8.22	DEVANEY, Shannon C.	アメリカ	カンザス大学生態学・進化生物学専攻	大学院生	海洋生命科学部門
2004. 8. 2～2005. 1.31	STOCK, Joann Miriam	アメリカ	カリフォルニア工科大学地質地球物理学	教授	海洋底地球物理学分野
2004. 8. 2～2005. 1.31	WERNICKE, Brian Philip	アメリカ	カリフォルニア工科大学地質・惑星科学部	教授	海洋底科学部門
2004. 8.18～2005. 3.31	ZHANG, Dan (張丹)	中国	遼寧師範大学生物学部	講師	海洋生態系動態部門
2004. 9. 1～2005. 5.31	MARIPI, Dileep Kumar	インド	国立海洋研究所 海洋化学部門	研究員	海洋科学国際共同研究センター
2004. 9. 1～2008. 3.31	BROWNELL, Jr. Robert L.	アメリカ	海洋大気庁南西漁業科学センター	上級研究員	海洋科学国際共同研究センター
2004.10. 5～2004.11. 3	SÁNCHEZ VEGA, René M.	コロンビア	コンセプション大学動物学科	大学院生/プロジェクト研究員	海洋生命科学部門
2004.10.20～2004.11. 1	WONG, Kwok Shing	中国	香港中文大学生物学部	大学院生	海洋生命科学部門
2004.11. 1～2005. 9.30	ROBINET, Tony Jacques	フランス	レンヌ第一大学生態系機能・保全生物学研究室	—	海洋生命科学部門
2004.11. 1～2004.11.10	ARAYA VALENCIA, Ruben Alonso	チリ	アントファガスタ大学海洋生物資源学部	助手	海洋生物資源部門
2004.11.22～2006.11.21	YANG, Jian (楊健)	中国	中華人民共和国水産科学研究院淡水漁業研究センター	教授	海洋科学国際共同研究センター
2005. 1. 8～2005. 2. 1	DONALD, John	オーストラリア	ディーキン大学生物科学化学学部	上級講師	海洋生命科学部門
2005. 1. 8～2005. 2. 1	TOOP, Tes	オーストラリア	ディーキン大学生物科学化学学部	上級講師	海洋生命科学部門
2005. 1.14～2005. 2. 5	JENNINGS, Brett	オーストラリア	ディーキン大学生物科学化学学部	大学院生	海洋生命科学部門
2005. 1.14～2005. 2. 5	TRAJANOVSKA, Sofie	オーストラリア	ディーキン大学生物科学化学学部	大学院生	海洋生命科学部門
2005. 2.10～2005. 3.18	LUTUI, Kilisimasi	トンガ王国	国土調査天然資源省	上級地質学者	海洋生態系動態部門
2005. 2.11～2005. 5. 9	LIN, Jinhui (林金輝)	中国	成都工業大学材料生物工程学院	副教授	海洋底科学部門
2005. 2.18～2005. 3. 4	CHAUSSIDON, Marc	フランス	国立科学研究センター地球化学・岩石学研究所	主任研究員	先端海洋システム研究センター
2005. 4. 1～2007. 3.20	KIM, Hee-Yong (金熙容)	韓国	愛媛大学沿岸環境科学研究センター	COE研究員	海洋生物資源部門
2005. 4. 1～2005. 9. 5	MESSAOUIK, Christophe	フランス	ブレーズパスカル大学情報モテリング応用高等研究所	大学院生	海洋生命科学部門
2005. 5. 1～2007. 4.30	JOHNSON, Travis B.	アメリカ	東京大学大学院農学生命科学研究科	—	海洋科学国際共同研究センター
2005. 6.14～2005. 6.27	YANG, Yaomin	中国	中国科学院海洋研究所	研究員	海洋底科学部門
2005. 6.14～2005. 6.27	WU, Shiguo	中国	中国科学院海洋研究所	研究員	海洋底科学部門
2005. 6.14～2005. 7. 1	LEE, Sang-Mook	韓国	ソウル国立大学	教授	海洋底科学部門
2005. 6.14～2005. 7. 1	KIM, Yoon-Mi	韓国	ソウル国立大学	大学院生	海洋底科学部門
2005. 6.15～2005. 9.12	BANERJEE, Ranadip	インド	インド国立海洋研究所	所長代理補佐	海洋底科学部門
2005. 6.20～2005. 8.20	DO, Hyung Ki (都亨基)	韓国	韓東大学生命食品科学部	副教授	海洋生態系動態部門
2005. 6.21～2005. 8.23	LANG, Nicholas J.	アメリカ	セントルイス大学	大学院生	海洋生命科学部門
2005. 6.21～2005. 8.23	EGGE, Jacob J.	アメリカ	ミネソタ大学	大学院生	海洋生命科学部門
2005. 6.21～2005. 8.23	BOISNIER, Etienne I.	フランス	インペリアル大学	大学院生	海洋生命科学部門

受入期間	氏名	国籍	所属	職名	受入先
2005. 6.29～2005. 7.16	LEE, Tae Won (李泰源)	韓国	忠南大学	教授	海洋生命科学部門
2005. 6.29～2005. 7.16	HWANG, Hak Bin (黄鶴彬)	韓国	忠南大学	大学院学生	海洋生命科学部門
2005. 7.13～2005. 8.10	LORETZ, Christopher A.	アメリカ	ニューヨーク州立大学	助教授	海洋生命科学部門
2005. 7.13～2005. 8.10	LORETZ, Catherine PolLiNa	アメリカ	ニューヨーク州立大学	助手	海洋生命科学部門
2005. 9. 1～2005.11.23	WEBSTER, Jody Michael	オーストラリア	ジェームスック大学	講師	海洋底科学部門
2005.10.16～2005.11. 6	BERN, Howard A.	アメリカ	カリフォルニア大学総合生物科学部	名誉教授	海洋生命科学部門
2005. 11.1～2007. 4.30	LAVOUE, Sebastien	フランス	フランス政府 (外務省)	奨学金研究者	海洋生命科学部門
2006. 1.19～2006. 3.16	SUN, Yi (孫 羿)	中国	瀋陽薬科大学	大学院生	海洋生態系動態部門
2006. 3.30～2007. 2.27	GRIESSBAUM, Frank	ドイツ	ミュンスター大学	大学院生	海洋科学国際共同研究センター
2006. 5.16～2006. 7.14 2006. 6. 1～2006. 7.31	OBROCHTA, Stephen	アメリカ	デューク大学	大学院生	海洋底地質学分野
2006. 6. 1～2007. 8.31	LANCIEN, Frederic	フランス	ブリターニュ歯科大学	博士研究員	生理学分野
2006. 6. 1～2006. 6.15	DE VARGAS, Colomban	スイス	ジュネーブ大学	CNRS 研究員	海洋底地質学分野
2006. 6. 1～2006. 6.15	FRADA, Miguel	ポルトガル	アゾレス大学	研究生	海洋底地質学分野
2006. 6. 1～2006. 6.15	PROBERT, Ian	イギリス	ウェストミンスター大学	研究員	海洋底地質学分野
2006. 6. 1～2006. 6.15	DE GARIDEL-THORON, Thibault	フランス	エクスマルセイユ第三大学	CNRS 研究員	海洋底地質学分野
2006. 6. 2～2006. 7.31	LORETZ, Christopher A.	アメリカ	ニューヨーク州立大学	助教授	生理学分野
2006. 6. 2～2006. 7.31	LORETZ, Catherine PolLiNa	アメリカ	ニューヨーク州立大学	助手	生理学分野
2006. 6.24～2006. 7.15	HWANG, Sun Do	韓国	国立水産科学院南海水産研究所	研究員	環境動態分野
2006. 6.24～2006. 7.13	BORJA, Valeriano Meneses	フィリピン	国立水産開発研究所	研究員	環境動態分野
2006. 7.13～2006. 7.28	LEE, Tae Won (李泰源)	韓国	忠南大学	教授	行動生態計測分野
2006. 8.13～2006. 9. 6	BAILEY, David Mark	イギリス	アバディーン大学	研究員	行動生態計測分野
2006. 8.13～2006. 9. 6	RIBEIRO HENRIQUES, Camila Ines	ポルトガル	アバディーン大学	研究員	行動生態計測分野
2006. 9.25～2006.10.22	LECROQ, Beatrice	スイス・フランス	ジュネーブ大学	大学院生	海洋底地質学分野
2006.10. 1～2008. 9.30	KHAN, Nurul Huda	バングラデシュ	東京大学海洋研究所	大学院生	分子海洋科学分野
2006.11.20～2006.11.27	ZHAO, Xixi (趙 西西)	アメリカ	カリフォルニア大学サンタクルーズ校	教授	海洋底テクトニクス分野
2006.10.31～2006.12. 5	WOUTHUYEZEN, Sam	インドネシア	インドネシア科学院	主任研究員	行動生態計測分野
2006.10.31～2006.12. 5	SYAHALLATUA, Augy	インドネシア	インドネシア科学院	研究員	行動生態計測分野
2006.11.24～2006.12. 5	ROBINET, Tony	フランス	ラロッシュ大学	研究員	行動生態計測分野
2006.11.24～2006.12. 5	FEUNTEUN, Eric	フランス	フランス国立自然史博物館	主任研究員	行動生態計測分野
2006.11.24～2006.12. 5	BLAMARTO, Dominique	フランス	気象環境科学研究所	主任研究員	行動生態計測分野
2006.11.24～2006.12. 5	SASAL, Pierre	フランス	パーピニオン大学	研究員	行動生態計測分野
2006.11.24～2006.12. 5	BERREBI, Patric	フランス	モンペリエ第2大学	主任研究員	行動生態計測分野
2006.11.24～2006.12. 5	REVEILLAC, Elodie	フランス	ラロッシュ大学	大学院生	行動生態計測分野
2006.11.24～2006.12. 5	BOISIN, Emilie	フランス	モンペリエ大学	博士研究員	行動生態計測分野
2006.11.24～2006.12. 5	HOAREAU, Thierry	フランス	モンペリエ大学	ポスドク研究員	行動生態計測分野
2006.11.24～2006.12. 5	FINIGER ep LECOMTE, Raymonde	フランス	パーピニオン大学	主任研究員	行動生態計測分野
2006.11.24～2006.12. 5	GAGNAIRE, Pierre-Alexandre	フランス	モンペリエ大学	大学院学生	行動生態計測分野
2006.11.24～2006.12. 5	ELLIEN, Céline	フランス	パリ第4大学	研究員	行動生態計測分野
2006.12. 4～2006.12.27	WU, Shiguo	中国	中国科学院海洋研究所	教授	海洋底地質学分野
2006.12. 5～2006.12.24	BOULART, Cédric	フランス	サウザンプトン国立海洋研究所	大学院学生	海洋無機化学分野
2006.12. 5～2006.12.24	CONNELLY, Douglas Patric	イギリス	サウザンプトン国立海洋研究所	研究員	海洋無機化学分野
2006.12. 5～2006.12.24	MASAL, Desiderius	タンザニア	ダニエスラム大学海洋科学研究所	主任研究員	海洋底地球物理学分野
2006.12.25～2007. 1. 5	UNSWORTH, Samantha	イギリス	サウザンプトン国立海洋研究所	大学院生	海洋底地球物理学分野
2007. 1.15～2007. 2. 2	DE OLIVEIRA, Claudio	ブラジル	ポータラ州立大学	教授	分子海洋科学分野
2007. 1.15～2007. 4.13	LUCIANA, Sato Ramos	ブラジル	ポータラ州立大学	大学院生	分子海洋科学分野

受入期間	氏名	国籍	所属	職名	受入先
2007. 1.27～2007. 2. 5	AKOUMIANAKI, Ioanna	ギリシャ	ギリシャ海洋研究所	首席研究員	海洋底地質学分野
2007. 1.27～2007. 2. 5	ALEXANDRI, Stamatina	ギリシャ	ギリシャ海洋研究所	研究員	海洋底地質学分野
2007. 1.31～2007. 5. 2	POULSEN, Jan	デンマーク	コペンハーゲン博物館	大学院生	分子海洋科学分野
2007. 2. 1～2007. 2.28	BENMUSTAPHA, Karim	チュニジア	チュニジア国立海洋科学技術研究所	研究員	行動生態計測分野
2007. 4. 1～2007. 9.10	FAURE, Guillaume	フランス	ブレーズパスカル大学	大学院生	行動生態計測分野
2007. 4. 2～2007. 4.25	BENMUSTAPHA, Karim	チュニジア	チュニジア国立海洋科学技術研究所	研究員	行動生態計測分野
2007. 4.16～2007. 8.15	PADILLA, Patricia Cabezas	スペイン	スペイン国立自然科学博物館	大学院生	分子海洋科学分野
2007. 5. 5～2007. 5.18	WOLK, Fabian	カナダ	Rockland Scientific International Inc	研究技術者	環境動態分野
2007. 5. 7～2007. 5.27	MOYUSUP NUR KHAKIM, Mokhamad	インドネシア	スリウィジャヤ大学	講師	海洋底地質学分野
2007. 5.30～2009. 5.27	ROY, Sonali	インド	ヴィスバパラティ大学	助手	先端海洋システム研究センター
2007. 5.30～2007. 7.12	LORETZ, Christopher A.	アメリカ	ニューヨーク州立大学	准教授	生理学分野
2007. 6. 1～2007.11.30	KEIVANY, Yazdan	イラン	イスファハン工科大学	助教授	分子海洋科学分野
2007. 6.12～2007. 8.22	ASCHLIMAN, Neil C.	—	フロリダ州立大学	大学院生	分子海洋科学分野
2007. 6.15～2007. 6.28	LECROQ, Beatrice	スイス・フランス	ジュネーブ大学	大学院生	海洋底地質学分野
2007. 8.18～2007. 8.29	SARMIENTO, Serigio	コロンビア	ヒューストン大学シーフェアカレッジ	准教授	海洋底地質学分野
2007. 8.18～2007. 8.29	BERGLUND, Heather	アメリカ	ヒューストン大学	大学院生	海洋底地質学分野
2007. 8.18～2007. 8.29	CLEVELAND, Carla	アメリカ	Geoscience Earth and Marine Services	助手	海洋底地質学分野
2007. 9.18～2007.10. 1	SNOW, Jonathan	アメリカ	ヒューストン大学	助教	海洋底地質学分野
2007. 9.18～2007.10. 1	FLYNN, Mareah	—	ヒューストン大学ベイラー医科校	実験助手	海洋底地質学分野
2007. 9.18～2007.10. 1	YOWEL, Jamie	アメリカ	Geoscience Earth and Marine Services	助手	海洋底地質学分野
2007. 9.18～2007.10. 1	ZUNIAGA, Kelly	アメリカ	BPZ Energy, Inc.	技師	海洋底地質学分野
2007. 9.25～2007.10. 4	KIM, Miju	韓国	ソウル国立大学	大学院生	海洋無機化学分野
2007. 9.25～2007.10. 4	KWAK, Jung-Hyun	韓国	釜山国立大学	大学院生	海洋無機化学分野
2007.10.15～2008.10.14	LAN, Tefang Faith (藍 徳芳)	中国・台湾	台湾国立大学	大学院生	先端海洋システム研究センター
2007.10.15～2008. 7.30	NUR DIAN SUARI	インドネシア	国立漁業職業学校	教官	海洋科学国際共同研究センター
2007.10.22～2007.12. 6	JAMIESON, Alan John	イギリス	アバディーン大学	研究員	海洋底地質学分野
2007.10.22～2007.12. 9	FUJII, Toyonobu (藤井 豊展)	イギリス	アバディーン大学	研究員	海洋底地質学分野
2007.11. 5～2008. 4.12	HENDRAWAN, I Gede	インドネシア	海洋科学技術研究所	助教	環境動態分野
2008. 1.23～2008. 2. 1	DONALD, John	オーストラリア	ディーキン大学	准教授	生理学分野
2008. 2.19～2008. 2.27	JAMIESON, Alan John	イギリス	アバディーン大学	研究員	海洋底地質学分野
2008. 3.31～2009. 2.25	TYLER, Jonathan	イギリス	ユニバーシティカレッジロンドン	大学院生	海洋底地質学分野
2008. 4.14～2008. 4.21	MOULIN, Frédéric Yann	フランス	ツールーズ流体力学研究所	准教授	海洋大気力学分野
2008. 5.21～2008. 6. 3	ZHENG, Hongbo	中国	同済大学海洋与地球科学学院	上席教授	海洋底地質学分野
2008. 6.17～2008. 8.21	BARRY, Peter H.	—	スクリップス海洋研究所	大学院生	大気海洋分析化学分野
2008. 6.30～2008. 8.12	LORETZ, Christopher A.	アメリカ	ニューヨーク州立大学バッファロー校生物科学部	准教授	生理学分野
2008. 9. 1～2010. 8.31	WONG, Marty Kwok shing	中国	海洋研究所	博士研究員	生理学分野
2008. 9.21～2008.10.10	JAMIESON, Alan John	イギリス	アバディーン大学	研究員	海洋底地質学分野
2008. 9.21～2008.10.15	FUJII, Toyonobu (藤井 豊展)	日本	アバディーン大学	研究員	海洋底地質学分野
2008. 9.23～2010.11.22	HEALY, Jillian M.	オーストラリア	海洋研究所	博士研究員	生理学分野
2008.10. 1～2008.11.30	YOKOKAWA, Taichi (横川 太一)	日本	オランダ王立海洋研究所	JSPS 海外特別研究員	生元素動態分野
2008.10.14～2010.10.13	HUMBLET, Marc Andre	ベルギー	東北大学	助手	海洋底地質学分野
2008.10.16～2008.11. 8	LORD, Clara Anne	フランス	フランス国立自然史博物館	大学院生	行動生態計測分野
2008.11.30～2010.11.29	OBROCHTA, Stephen P.	中国	—	—	海洋底地質学分野

受入期間	氏名	国籍	所属	職名	受入先
2009. 2. 2～2009. 3. 2	HAMED, Mohamed Abd El-Fattah	エジプト	国立海洋水産研究所	教授	海洋科学国際共同研究センター
2009. 3. 3～2009. 3.25	JAMIESON, Alan John	イギリス	アバディーン大学	上席研究員	海洋底地質学分野
2009. 3. 3～2009. 3.25	FUJII, Toyonobu (藤井 豊展)	日本	アバディーン大学	上席研究員	海洋底地質学分野
2009. 3. 9～2009. 3.25	SOLAN, Martin	イギリス	アバディーン大学	上級講師	海洋底地質学分野
2009. 4. 1～2010. 5.25	LESTARI, Rosbintarti Kartika	インドネシア	バンドン工科大学気象学プログラム	学術研究スタッフ	気候変動研究分野
2009. 5. 6～2009. 6.20	SENTHILKUMARAN, Balasubramanjan	インド	ハイアラバード大学	准教授	先端海洋システム研究センター
2009. 5. 9～2009. 7. 7	DALAI, Tarun Kumar	インド	インド国立工業大学カラグプール	助教授	海洋システム計測分野
2009. 5. 9～2009. 6. 5	HANEL, Reinhold	オーストリア	ヨハン ハイニンリッヒ ティーネン研究所	教授	行動生態計測分野
2009. 5.22～2009. 7.11	LORETZ, Christopher A.	アメリカ	ニューヨーク州立大学バッファロー校生物科学部	准教授	生理学分野
2009. 5.23～2009. 6.30	TANAKA, Tuneo (田中 恒夫)	日本	フランス国立科学センター	研究員	微生物分野
2009. 5.31～2009. 6.27	CLODE, Peta	オーストリア	西オーストラリア大学 / 顕微鏡分析センター	講師	海洋システム計測分野
2009. 6.16～2009. 8.26	HERBERGER, Amanda L.	アメリカ	ニューヨーク州立大学バッファロー校生物科学部	大学院生	生理学分野
2009. 6.16～2009. 8.26	ROULLEAU, Emilie R.	フランス	ケベック大学モントリオール校	大学院生	海洋システム計測分野
2009. 6.18～2009. 7. 2	TOOP, Tes	イギリス, アメリカ	ディーキン大学	助教授	生理学分野
2009. 6.18～2009. 7.11	LORETZ, Chatherine Pollina	アメリカ	ニューヨーク州立大学バッファロー校生物科学部	助手	生理学分野
2009. 9.30～2011. 3.15	TSE, Ka Fai William	中国	分子細胞生物学研究所	研究員	生理学分野
2009.10. 1～2010. 9.30	ZU, Ruiping	中国	中国科学院	准教授	気候変動研究分野
2009.10. 7～2009.10.26	FISCHER, Tobias	アメリカ	ニューメキシコ大学	准教授	海洋システム計測分野
2009.10.10～2010. 2. 1	POULSEN, Jan	デンマーク	ベルゲン大学	大学院生	分子海洋科学分野
2009.10.30～2010. 9.30	NURDIN, Nurjannah	インドネシア	ハサヌディン大学海洋科学部	講師	行動生態計測分野
2009.11. 6～2009.11.25	LI, Qian	中国	廈門大学	研究員	海洋無機化学分野
2009.11. 6～2009.11.25	KAWAI, Michiyo (川合 美千代)	日本	カナダ漁業海洋省海洋科学研究所	研究員	海洋無機化学分野
2009.11.25～2010. 1.12	SARMA, Vedula Venkata Subrahmanyana Srinivasa	インド	インド海洋研究所	研究員	海洋無機化学分野
2009.11.25～2009.12.17	GOSWAMI, Vineet	インド	インド物理学研究所	主任研究員	海洋無機化学分野
2009.11.25～2009.12.17	KONDO, Yoshiko (近藤 能子)	日本	南カリフォルニア大学	博士研究員	海洋無機化学分野
2009.12.17～2010. 1.12	BHUSHAN, Ravi	インド	インド物理学研究所	研究員	海洋無機化学分野
2010. 1.23～2010. 2. 6	DONALD, John	オーストラリア	ディーキン大学	准教授	生理学分野
2010. 1.27～2010. 2.12	FEUNTEUN, Eric	フランス	フランス国立自然史博物館	教授	国際沿岸海洋研究センター
2010. 1.27～2010. 2.12	ROGER	フランス	フランス国立自然史博物館	大学院生	国際沿岸海洋研究センター
2010. 1.27～2010. 2.12	FALIEUX, Elisabeth	フランス	ベルベニャン大学	助教	国際沿岸海洋研究センター
2010. 1.27～2010. 2.12	DUPUY, Christine	フランス	ラロッシュェル大学	助教	国際沿岸海洋研究センター
2010. 1.27～2010. 2.12	ELLIEN, Céline	フランス	パリ第4大学	助教	国際沿岸海洋研究センター
2010. 1.27～2010. 2.12	BLAMARTO, Dominique	フランス	気象環境科学研究所	主任研究員	国際沿岸海洋研究センター
2010. 1.27～2010. 2.12	AMILHAT, Elsa	フランス	パーピニオン大学	技術職員	国際沿岸海洋研究センター
2010. 1.27～2010. 2.12	LECOMTE FINIGER, Raymonde	フランス	パーピニオン大学	主任研究員	国際沿岸海洋研究センター
2010. 1.27～2010. 2.12	REVEILLAC, Elodie	フランス	フランス国立自然史博物館	研究員	国際沿岸海洋研究センター
2010. 1.27～2010. 2.12	POUS, Stephan	フランス	ピエールエマリーキュリー大学	助教	国際沿岸海洋研究センター

受入期間	氏名	国籍	所属	職名	受入先
2010. 1.27～2010. 2.12	ROBINET, Tony	フランス	フランス国立自然史博物館	助教	国際沿岸海洋研究センター
2010. 1.27～2010. 2.12	ALEXANDRE, Carpentier	フランス	レンヌ大学	助教	国際沿岸海洋研究センター
2010. 2.27～2010. 3.21	SYAHALLATUA, Augy	インドネシア	インドネシア科学院	アンボン支所 所長	海洋アライアンス 連携分野
2010. 2.27～2010. 3.21	DJOKO, Hadi Kunarso	インドネシア	インドネシア科学院	研究員	海洋アライアンス 連携分野
2010. 2.27～2010. 3.21	WOUTHUYZEN, Sam	インドネシア	インドネシア科学院	主任研究員	海洋アライアンス 連携分野
2010. 2.27～2010. 3.21	TANTU, Fadly	インドネシア	タドラコ大学	講師	海洋アライアンス 連携分野
2010. 2.27～2010. 3.21	FITRIYA, Nurul	インドネシア	インドネシア科学院	研究員	海洋アライアンス 連携分野
2010. 2.27～2010. 3.21	SUGEHA, Hagi Yulia	インドネシア	インドネシア科学院	研究員	海洋アライアンス 連携分野
2010. 2.27～2010. 3.21	SUHARTI, Sasanti Retno	インドネシア	インドネシア科学院	研究員	海洋アライアンス 連携分野

●気候システム研究センター [1992.4～2010.3]

-印：データなし

受入期間	氏名	所属	職名
1992.10. 1～1992.12.17	ARAKAWA, Akio (荒川昭夫)	カリフォルニア大学	教授
1992.11.26～1992.12.22	TONNA, Glauco	イタリア大気物理研究所	研究員
1993. 3. 1～1993. 3.31	YANAI, Michio (柳井 迪夫)	カリフォルニア大学	—
1993. 3. 8～1993. 6. 7	DEBOOR, Nathalie	ブレーズバスカル大学気象研究所	—
1994. 5. 2～1994. 6. 3	EBEL, Adolf	ドイツ連邦ケルン大学	教授
1994. 5.16～1994. 5.18	CHUN, Hye-Yeong	ソウル大学	研究員
1994. 5.17～1994. 5.20	程 順和	韓国気象研究所	研究官
1994. 6.17～1994. 6.23	WANG, Bing	ハワイ大学気象学部	教授
1994. 9. 5～1994. 9.16	CHEN, Tsing-Chang	ハワイ大学	教授
1994.10.17～1994.12.16	DUBOVIK, Oleg V.	ペラルース科学アカデミー物理研究所	
1994.11.15～1994.11.19	LI, Chengfeng	カリフォルニア大学	研究員
1994.11.15～1994.11.19	ARAKAWA, Akio (荒川 昭夫)	カリフォルニア大学	教授
1994.11.15～1994.11.19	GHIL, Michael	カリフォルニア大学	教授
1994.11.15～1994.11.19	MECHOSO, Carlos R.	カリフォルニア大学	教授
1994.11.15～1994.11.19	TURCO, Richard	カリフォルニア大学	教授
1994.11.15～1994.11.19	HALPERN, David	カリフォルニア大学	教授
1994.11.21～1994.12.16	TONNA, Glauco	イタリア大気物理研究所	研究員
1994.11.21～1994.12.16	OLIVIERI, Bruno	イタリア大気物理研究所	研究員
1995. 4.20～1995. 4.29	HUANG, Ronghui (黄 荣輝)	中国科学院大気物理研究所	副所長
1995. 4.20～1995. 4.29	陳 文	中国科学院大気物理研究所	研究員
1995. 7. 1～1995. 7. 4	TSAY, Si-Chee	アメリカ航空宇宙局ゴダード宇宙科学研究所	研究員
1995. 8.30～1995. 9.19	KIM, Young-Joon	カリフォルニア大学ロサンゼルス校大気科学部	博士研究員
1995.10. 1～1996. 9.30	REN, Yi Young (任 宣勇)	新疆気象局業務センター	—
1996. 2.20～1996. 3.19	RUIZHNG, Rao	中国科学院安徽光学精密機械研究所	助教授
1996. 2.24～1996. 2.29	Seun-Sup So	広州大学	教授
1996. 3. 4～1996. 3.9	LAU, William K.M.	アメリカ航空宇宙局ゴダード宇宙科学研究所	主任研究員
1996. 3. 5～1996. 3.15	SHI, G. Y (石 廣玉)	中国気候センター	教授
1996. 3.11～1996. 3.23	HINDMARASH, Richard	イギリス国立極域研究所	主任研究官
1996. 9.12～1996. 9.21	RIDLEY, Jeff	ロンドン大学	研究員
1996.11. 4～1996.12. 2	ZHANG, Renhe (張 人禾)	中国科学院大気物理研究所	助教授
1997. 1. 6～1997. 2. 6	WANG, Wei	コロンビア大学ラモンドハティ地球観測所	博士研究員
1997. 1.20～1997. 2.28	RAO, Ruizhong	中国科学院安徽光学精密機械研究所	助教授
1997. 5. 9～1997. 6. 1	TONNA, Glauco	イタリア大気物理研究所	研究員

受入期間	氏名	所属	職名
1997. 8.21 ~ 1997. 9.22	FOUILLOUX, Anne	ブレーズバスカル大学	研究員
1997. 9. 1 ~ 1997. 9. 2	OH, Sung-Nam	韓国システム工学研究所	室長
1998. 1.18 ~ 1998. 1.20	ZHOU, Jun	中国科学院安徽光学精密機械研究所	教授
1998. 1.18 ~ 1998. 1.20	HU, Huanling	中国科学院安徽光学精密機械研究所	教授
1998. 3.19 ~ 1998. 3.25	BRUINRJES, Roelof	国立大気研究センター	研究員
1998. 4.21 ~ 1998. 5.20	HUANG, Ronghui (黄 荣輝)	中国科学院大気物理研究所	研究員
1998. 4.21 ~ 1998. 5.20	LU, Riyu	中国科学院大気物理研究所	研究員
1998. 6.29 ~ —	BOX, Elgene	ジョージア大学地質学科	—
1998.10.25 ~ 1998.10.26	TSUCHIYA, M.	SIO	—
1998.10.26 ~ —	KASAHARA, Akira	米国大気研究センター	—
1998.11.18 ~ —	QUENZEL, Heinrich	ミュンヘン大学気象研究所	—
1998.12. 2 ~ —	ZHENG, Xiaogu	ニュージーランド国立水圏大気研究所	—
1999. 1.14 ~ —	SHUKLA, Jagadish	地球環境社会研究所	—
1999. 2.12 ~ —	KANAMITSU, Masao	国立環境予測センター	—
1999. 3.16 ~ —	RASCHKE, Erhard	GKSS-Geesthacht Institut Fur Physik	—
1999. 6.30 ~ —	GAN, Manoel Alonso	国立宇宙科学研究所	—
1999. 6.30 ~ —	KANTHA, L. H.	コロラド大学	—
1999.10.19 ~ —	ROSSOW, William B.	アメリカ航空宇宙局ゴダード宇宙科学研究所	—
1999.10.28 ~ —	YANAI, Michio (柳井 迪夫)	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	—
1999.11. 9 ~ —	FABIAN, Peter	ミュンヘン大学	—
1999.11.29 ~ —	LACIS, Andrew A.	アメリカ航空宇宙局ゴダード宇宙科学研究所	—
1999.11.29 ~ 1999.12. 6	CHURCH, John	オーストラリア科学産業機構	—
2000. 1.17 ~ —	BOVILLE, Byron A.	アメリカ大気研究センター	—
2000. 3. 9 ~ —	WILBRAND, J.	キール大学	—
2000. 3.31 ~ —	FLATAU, Piotr	カリフォルニア大学	—
2000. 5.17 ~ —	SAJI N. H.	地球フロンティア研究システム	—
2000. 6.30 ~ —	CHIN, Mian	アメリカ航空宇宙局ゴダード宇宙飛行センター	—
2000. 7.31 ~ —	YANAI, Michio (柳井 迪夫)	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	—
2000. 9. 4 ~ 2000. 9. 5	HEINTZENBERG, Jost	対流圏科学研究所	—
2000. 9.14 ~ 2000.10. 3	CAMPANELLI, Monica	イタリア大気物理研究所	—
2000. 9.14 ~ 2000.10. 3	OLIVIERI, Bruno	イタリア大気物理研究所	—
2000.10. 1 ~ 2001. 3.31	KIM, Do Hyeong	ソウル大学	—
2000.11.15 ~ —	HUDDLESTON, Matt	イギリス気象庁	—
2001. 2. 6 ~ 2001. 3. 4	KHAIN, Alexander	エルサレムヘブライ大学	—
2001. 2.14 ~ —	LANGEMATZ, Ulrike	ベルリン自由大学気象学科	—
2001. 2.14 ~ —	WEBER, Katja	ベルリン自由大学気象学科	—
2001. 3.17 ~ 2001. 3.25	FIORINO, Mike	カリフォルニア大学	—
2001. 4. 2 ~ —	RASCHKE, Erhard	GKSS-Geesthacht Institut Fur Physik	—
2001. 5.25 ~ —	MECHOSO, C.Roberto	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	—
2001. 8.27 ~ —	OHMURA, Atsumu	スイス連邦工科大学地質学科	—
2001. 8.27 ~ 2003. 8.26	WANG, Biao	中国科学院大気物理研究所	—
2001. 9.27 ~ —	PASCAL, Yiou	気候環境科学研究所 DSM-CEA, France	—
2001.11.12 ~ 2001.12.22	CHEN, Xing	南京大学	—
2001.11.12 ~ 2001.12.22	LIU, Jan	中国科学院南京地理湖沼研究所	—
2001.12.17 ~ —	HUANG, Ronghui (黄 荣輝)	中国科学院大気物理研究所	—
2001.12.20 ~ —	XIE, Shang-Ping (謝 尚平)	ハワイ大学国際太平洋研究センター	—
2001.12.26 ~ —	YONG, Luo	中国気象局国家気候センター	—
2001.12.26 ~ —	SHINGH, Ramesh P.	インド工科大学カンパール校土木工学科	—
2002. 2.26 ~ —	KANG, Hongwen	中国気象科学研究院	—
2002. 3.11 ~ —	KASAHARA, Akira	大気研究センター	名誉研究官
2002. 3.11 ~ —	ARAKAWA, Akio (荒川 昭夫)	カリフォルニア大学ロサンゼルス校大気科学部	名誉研究官

受入期間	氏名	所属	職名	
2002. 3.20～	—	TAO, Wei-Kuo	アメリカ航空宇宙局ゴダード宇宙飛行センター	—
2002. 6.13～	—	LIU, Zhengyu	ウィスコンシン大学マディソン校気候研究センター大気海洋科学研究科	—
2002. 7. 4～	—	YANAI, Michio (柳井 迪夫)	カリフォルニア大学ロサンゼルス校大気圏科学科	—
2002. 7.10～	—	KHAIN, Alexander	エルサレムヘブライ大学	教授
2002.11.27～	—	MURAKAMI, Takio (村上 多喜雄)	ハワイ大学	名誉教授
2003. 4.13～2003. 4.20	—	SHEN, Xueshun	中国気象科学院	—
2003. 6.11～	—	LAWRON, John	イギリス自然環境研究会議	理事長
2003. 6.30～2003. 7.13	—	MADDEN, Roland A.	アメリカ大気研究センター	—
2003. 7.22～	—	MARQUARDT, C.	イギリス気象庁	—
2003. 8. 7～	—	SUGIYAMA, Masahiro (杉山 昌広)	マサチューセッツ工科大学大気海洋気候プログラム	—
2003. 9. 8～2003. 9.30	—	NURHAYATI, Noer	気象・地球物理庁	—
2003.11.11～	—	SALATHE, Eric	ワシントン大学	—
2003.11.27～	—	ANNAN, James D.	地球フロンティア研究システム	—
2004. 1.13～	—	RANDALL, David	コロラド州立大学	—
2004. 2.21～	—	GAVRILOV, Nikolai M.	京都大学宇宙電波科学研究センター	—
2004. 2.26～2004. 3.11	—	THANA, Boossarasiri	チュラロンコン大学	—
2004. 2.29～	—	GREVE, R.	北海道大学	—
2004. 3.10～	—	YANAI, Michio (柳井 迪夫)	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	—
2004. 3.25～2004. 3.31	—	SHEN, Xueshun	中国気象科学院	—
2004. 4.14～	—	SILVA DIAS, Maria Assuncao F.	天気予報気象学環境予報ブラジルセンター	所長
2004.11.13～2004.11.18	—	HARRISON, Sandy	ブリストル大学地質科学科	—
2004.11.30～2004.12.23	—	NURHAYATI, Noer	インドネシア気象地球物理庁	—
2005. 1.29～2005. 1.31	—	KAGEYAMA, Masa	ピエールシモンラプラス研究所	主任研究員
2005. 1.29～2005. 1.31	—	YIOU, Pascal	ピエールシモンラプラス研究所	主任研究員
2005. 2. 3～2005. 2.19	—	THANA, Boossarasiri	チュラロンコン大学理学部地質学科	—
2005. 6.30～2005.12.28	—	GRIBANOV, Konstantin G.	ウラル大学物理学部	主任研究員
2005.11.30～2006. 2.17	—	SHIN, Sunhee	釜山国立大学理学部大気科学科	—
2006. 2. 1～2006. 3.25	—	NURHAYATI, Noer	インドネシア気象地球物理庁	—
2006. 2. 3～2006. 2.19	—	THANA, Boossarasiri	チュラロンコン大学理学部地質学科	—
2006. 9.20～2008. 4.23	—	OMAR, Kassem Mohamed Khalaf Allah	サウスヴァレー大学	エジプト政府奨学金研究員
2009. 3. 1～2009. 3.30	—	WANG, Zhili	ソウル大学	—
2009.10.13～2010.10.12	—	ZU, Ruiping	中国科学院	准教授

●大気海洋研究所

-印: データなし

受入期間	氏名	国籍	所属	職名	受入先
2010. 4. 1～2010. 6.30	MILLER, Michael James	アメリカ	東京大学海洋研究所	特任研究員	行動生態計測分野
2010. 4. 2～2011. 7.31	LORD-DAUNAY, Clara A.	フランス	フランス国立自然史博物館	大学院生	行動生態計測分野
2010. 4.19～2010. 7. 2	SEGUY, Viven	フランス	エコールポリテクニク	大学院生	気候システムモデリング研究分野
2010. 5.31～2010. 6.21	HU, Aixue	中国	米国国立大気研究センター	研究員	気候変動研究分野
2010. 6.11～2010. 7.23	KANG, Dong Jin	韓国	韓国海洋研究&開発研究所	上級研究員	海洋無機化学分野
2010. 6.11～2010. 7.23	JEONG, Seung-Jin	韓国	浦項工科大学海洋科学技術研究所	博士研究員	海洋無機化学分野
2010. 6.11～2010. 7.23	TISCHENKO, Pavel	ロシア	ロシア科学アカデミー太平洋研究所	上席研究員	海洋無機化学分野
2010. 6.11～2010. 7.23	KIM, Yunsuk	韓国	釜慶大学校	博士研究員	海洋無機化学分野
2010. 6.11～2010. 7.23	TISHCHENKO, Petr P.	ロシア	ロシア科学アカデミー太平洋研究所	大学院生	海洋無機化学分野
2010. 6.21～2010. 7.23	GUO, Liguo	中国	廈門大学海洋環境学院	助手	海洋無機化学分野
2010. 6.21～2010. 7.14	LEE, Jiyoung	韓国	釜山国立大学	大学院生	海洋無機化学分野
2010. 6.21～2010. 7.14	PARK, Hyun Je	韓国	浦項工科大学海洋科学技術研究所	研究員	海洋無機化学分野
2010. 6.21～2010. 7.14	KWAK, Jung-Hyun	韓国	浦項工科大学海洋科学技術研究所	研究員	海洋無機化学分野

受入期間	氏名	国籍	所属	職名	受入先
2010. 6.21 ~ 2010. 7.14	RHO, TaeKeun	韓国	釜山国立大学	研究員	海洋無機化学分野
2010. 6.22 ~ 2010. 8.24	THATCHER, Levi	アメリカ	ユタ大学大学院	大学院生	気候データ総合解析研究分野
2010. 7.20 ~ 2010. 9.17	SHAO, Huan-Jie	中国・台湾	国立中山大学	大学院生	海洋大循環分野
2010. 8.19 ~ 2010. 8.26	ROULLEAU, Emilie	カナダ	ケベック大学モントリオール校	大学院生	大気海洋分析化学分野
2010. 8.19 ~ 2010. 8.26	藍 徳芳	中国・台湾	台湾国立大学	大学院生	大気海洋分析化学分野
2010. 9.15 ~ 2010.10.15	Li, Luyan	中国	中山大学	博士研究員	海洋底地質学分野
2010. 9.15 ~ 2010.10.15	ANDRE, Aurore	フランス	リヨン第1大学	大学院生	海洋底地質学分野
2010. 9.15 ~ 2010.10.15	BUCHET, Noelle	フランス	フランス国立科学研究センター	アソシエイトエンジニア	海洋底地質学分野
2010. 9.16 ~ 2011. 3. 1	POULSEN, Jan	デンマーク	ベルゲン大学	大学院生	分子海洋生物学分野
2010. 9.23 ~ 2011. 3.31	HEALY, Jillian M.	オーストラリア	東京大学大気海洋研究所	特別研究員	生理学分野
2010. 9.25 ~ 2010.10. 3	HUIWANG, Gao	中国	中国海洋大学環境科学工程学院	院長/環境保全センター所長	浮遊生物分野
2010.10. 1 ~ 2013. 8.31	SONG, Hayeun (宋 河妍)	韓国	釜慶大学校	博士研究員	分子海洋生物学分野
2010.10. 1 ~ 2011. 9.31	VENTURA, Albert	スペイン	東京大学大学院理学系研究科	大学院生	生理学分野
2010.10.14 ~ 2010.11.30	HUMBLET, Marc Andre	ベルギー	東京大学大気海洋研究所	特別研究員	海洋底地質学分野
2010.11. 1 ~ 2010.12. 6	WOILLEZ, Marie-Noëlle	フランス	気候環境科学研究所	大学院生	気候システムモデリング研究分野
2010.11.26 ~ 2011. 1. 7	TYLER, Jonathan	イギリス	ユニバーシティカレッジロンドン	NERC 博士研究員	海洋底テクトニクス分野
2010.11.27 ~ 2011. 9.30	ROTHAUSLER, Eva Anja	ドイツ	北カトリック大学	助教	行動生態計測分野
2010.11.28 ~ 2012.11.29	NOT, Christelle	フランス	ケベック大学モントリオール校	博士候補生	海洋底テクトニクス分野
2010.11.29 ~ 2012.11.28	THIBODEAU, Benoit	カナダ	ケベック大学モントリオール校	博士候補生	生元素動態分野
2010.12. 9 ~ 2010.12.23	AARESTRUP, Kim	—	デンマーク水産研究所	上級研究員	行動生態計測分野
2011. 1.20 ~ 2011. 1.31	BOURGET, Julien	フランス	アデレード大学	博士研究員	海洋底テクトニクス分野
2011. 1.20 ~ 2011. 1.31	DANIELL, James	オーストラリア	オーストラリア科学局	科学者	海洋底テクトニクス分野
2011. 1.20 ~ 2011. 1.31	WHITEWAY, Tanya	オーストラリア	オーストラリア科学局	地球科学者	海洋底テクトニクス分野
2011. 2. 1 ~ 2011. 9.30	VASQUEZ, Nelson	チリ	北カトリック大学海洋科学部	研究員	行動生態計測分野
2011. 2.10 ~ 2011. 3.16	N/A, Udrekh	インドネシア	技術評価応用庁	研究員	海洋底地質学分野
2011. 2.10 ~ 2011. 3.16	RAHARDIAWAN, Riza	インドネシア	インドネシア海洋地質研究所	研究者	海洋底地質学分野
2011. 2.23 ~ 2011. 3.16	PERMANA, Haryadi	インドネシア	インドネシア科学院地質工学研究センター	上級研究員	海洋底地質学分野
2011. 2.27 ~ 2011. 3.16	SEEBER, Leonardo	アメリカ	ラモンドドーティ地球観測所	上級研究員	海洋底地質学分野
2011. 3. 4 ~ 2011. 3.13	STURM, Christophe	フランス	ストックホルム大学	准教授	気候水循環研究分野
2011. 3. 7 ~ 2011. 3.25	JAMIESON, Alan John	イギリス	アバディーン大学	上席研究員	海洋底地質学分野
2011. 3. 7 ~ 2011. 3.25	KILGALLEN, Niamh Mary	ニュージーランド	ニュージーランド国立水圏大気研究所	研究員	海洋底地質学分野
2011. 3. 7 ~ 2011. 3.25	FUJII, Toyonobu (藤井 豊展)	日本国	アバディーン大学	研究員	海洋底地質学分野
2011. 3. 7 ~ 2011. 3.16	DJAJADIHARDJA, Yusuf Surachman	インドネシア	インドネシア国立測量地図調整機構	会長代理	海洋底地質学分野
2011. 4.12 ~ 2013. 4.11	NOT, Chistelle	フランス	ケベック大学モントリオール校	博士学生	海洋底テクトニクス分野
2011. 6.23 ~ 2013. 5. 3	ROULLEAU, Emilie	フランス	ケベック大学モントリオール校	博士研究員	大気海洋分析化学分野
2011. 6.23 ~ 2011. 7.11	HAN, Yu-San	中国・台湾	国立台湾大学	講師	行動生態計測分野
2011. 6.23 ~ 2011. 7.11	DAVERAT, Françoise	フランス	Cemagref de Bordeaux Cestas・unite Ecosema	研究員	行動生態計測分野
2011. 6.23 ~ 2011. 7.11	MINEGISHI, Yuki (峰岸 有紀)	日本	ライオン大学生物学研究所	博士研究員	行動生態計測分野
2011. 7.16 ~ 2011. 8.2	YANG, Hsu-han	中国・台湾	台湾中央研究院	助手	海洋無機化学分野

受入期間	氏名	国籍	所属	職名	受入先
2011. 7.16～2011. 8.2	YANG, Shun-chung	中国・台湾	国立台湾大学・台湾中央研究院	大学院生・助手	海洋無機化学分野
2011. 7.16～2011. 8.4	TAO, Shuqin	中国	中国海洋大学	大学院生	海洋無機化学分野
2011. 9. 1～2011.10.31	LORETZ, Christopher A.	アメリカ	ニューヨーク州立大学バッファロー校	准教授	生理学分野
2011. 9.30～2013. 9.29	WYATT, Alex	オーストリア	カリフォルニア大学サンディエゴ校スク リップス海洋研究所	研究員	生元素動態分野
2011.10.30～2013.10.29	LIU, Zhongfang (刘 忠方)	中国	天津師範大学天津水環境水資源拠点研究 室	助教	気候水循環研究分 野
2011.11.24～2013.11.23	CUI, Yingshun (崔 英順)	中国	韓国先端科学技術研究所	大学院生	微生物分野
2011.12. 1～2012. 1.27	LENIZ, Barbara	チリ	コンセプション大学海洋学部	大学院生	浮遊生物分野
2011.12. 1～2012. 1.27	SANHUEZA, Sandra	チリ	コンセプション大学海洋学部	助手	浮遊生物分野
2011.12.16～2011.12.31	MOTEGI, Chiaki (茂手木 千晶)	日本	フランス国立科学研究センター・パリ第 6大学ビルフランシュ海洋研究所	博士研究員	生元素動態分野
2012. 3. 1～2012.11. 3	GARCIA SERRANO, Javier	スペイン	Climate Forecasting Unit, Institute Català de Ciències del Clima	博士研究員	気候変動研究分野

資料3 研究施設

資料3-1 共通実験施設

資料3-1-1 電子計算機施設

海洋研究所では、1964年に計算機室を設置し、共用計算機やネットワークの整備、強化を行ってきた。特に、海洋に関する数値シミュレーションやデータ解析を行うため、大型の計算機システムが海洋科学研究用電子計算機システムとして設置された。同システムは、4年または5年の借入による調達品であり、時期による違いはあるが、おおむね並列計算サーバ、ディスクシステム、テープドライブ、利用者用端末、A0判カラープロッター、カラープリンター等で構成されている。1992年度以降では、1994年3月、1998年3月、2002年3月、2007年3月、2012年3月に更新が行われ、いずれも入札の結果、IBMのシステムが導入された。

計算機室は、計算機本体やネットワーク機器が設置されるサーバ室と、利用者が使用する端末や周辺機器が設置される端末室に分けられている。

〈中野キャンパス〉

B棟2階（300m²）1964年度設置。

〈柏キャンパス〉

大気海洋棟2階（138m²）2010年度設置。

〈総合研究棟〉

2階（122m²）2004年度設置。

気候システム系の計算機設備として、20℃恒温の2部屋に、サーバなどの共通計算機10台、各研究室のワークステーション13台、および合計約1ペタバイトのRAID装置が設置されている。気候モデルや衛星データのアーカイブ、解析などに活用されており、専門の常勤職員がメンテナンスや電力管理を行っている。

資料3-1-2 海洋生物飼育実験施設

〈中野キャンパス ～2009年度〉（飼育室）

C棟1階（360m²）1980年度設置。

1965年度に設置されたA棟地下の飼育設備、および1974年度設置のB棟地下の設備を、1980年度にC棟1階に統合移設した。飼育室（252m²）、飼育実験室（3室）、低温実験室、機械室により構成された。

〈柏キャンパス〉

1階（523m²）2010年度設置。

完全循環濾過システムと加熱冷却ユニットを個別装備した250リットルから3トンまでの設置水槽25基、海水・淡水給水システム、プロアー、非常電源設備と接続した制御系を配備し、様々な条件で生物の飼育を可能とする。さらに、処置室、温度・光条件の調節実験室、特殊環境実験室、トランスジェニック実験室、行動撮影室、分析室など15室を備え、多様な研究目的に対応している。圧縮空気と海水は施設全体に常時供給される。

●海洋生物飼育実験施設設置機器一覧

機 器 名					メーカーおよび型番	購入年度
暗室3室						
プレハブ温度光調節室 3室						
水槽番号						
1-1	角型水槽一式	1t角形水槽	外置 加熱冷却ユニット	濾過槽		2010
1-2		(2000x1000x600H)	(冷; 1.5kw, 熱; 1.5kw, ポンプMD-100R)	濾過槽		2010
2-1	円形水槽一式	1t円形水槽	外置 加熱冷却ユニット	濾過槽		2010
2-2		(1370x1530H)	(冷; 1.5kw, 熱; 1.5kw, ポンプMD-100R)	濾過槽		2010
3-1a	2段角型一式	250ℓ角形水槽	外置 加熱冷却ユニット			2010
3-1b		(1200x500x500H)	(冷; 0.4kw, 熱; 0.4kw, ポンプMD-70R)			2010
3-2a			外置 加熱冷却ユニット			2010
3-2b			外置 加熱冷却ユニット			2010
3-3a			外置 加熱冷却ユニット			2010
3-3b			外置 加熱冷却ユニット			2010
3-4a			外置 加熱冷却ユニット			2010
3-4b			外置 加熱冷却ユニット			2010
4	展示FRP水槽	3t角型水槽	外置 加熱冷却ユニット	濾過槽		2010
		(3000x1000x1000H)	(冷; 1.5kw, 熱; 1.5kw, ポンプMD-MX250)			2010
5	円形水槽一式	500ℓ円形水槽	屋内置 加熱冷却ユニット	濾過槽		2010
		(1090x1250H)				2010

機 器 名					メーカーおよび型番	購入 年度
6-1	円形水槽一式	2t円形水槽	外置 加熱冷却ユニット	濾過槽		2010
6-2			(冷; 1.0kw, 熱; 1.0kw, ポンプ265w)	濾過槽		2010
7-1	円形水槽一式	500ℓ円形水槽	屋内置 加熱冷却ユニット	濾過槽		2010
7-2	円形水槽一式	500ℓ円形 (黒色)	屋内置 加熱冷却ユニット	濾過槽		2006
8-1	小型円形一式	250ℓ円形2基	屋内置 加熱冷却ユニット	濾過槽		1987
8-2		250ℓ円形2基	屋内置 加熱冷却ユニット	濾過槽		1987
9	展示FRP水槽	0.6t角型水槽 (1800x600x600H)	屋内置 加熱冷却ユニット (冷; 0.4kw, 熱; 1kw, ポンプ150w)			2010
10-1	角型平置水槽	角型水槽	屋内置 加熱冷却ユニット			2009
10-2	角型平置水槽	角型水槽	屋内置 加熱冷却ユニット			2009
10-3	角型平置水槽	角型水槽	屋内置 加熱冷却ユニット	濾過槽		2008
10-4	角型平置水槽	角型水槽	屋内置 加熱冷却ユニット	濾過槽		2004
10-5	角型平置水槽	角型水槽	屋内置 加熱冷却ユニット			2009
海水設備	海水貯水槽3基 海水ポンプ(2台)	(No. 1, No. 2, No. 3)			カワホープKZB	2010
淡水設備	淡水貯水槽 淡水ポンプ				ポンパー KF	2010
エア設備	ブローポンプ (2台)				アンレット ルーツプロワBSS型	2010
冷凍庫					サンヨー HF210	2010
					ナショナルN12	2000
小型水槽一式						
メダカ水槽一式大 (幅180cm)						2000
メダカ水槽一式小 (幅90cm)						2001
メダカ水槽一式大 (幅180cm)						
インキュベーター		1台			ヤマト1C340S	
		1台			ヤマト1S42	
冷凍庫		1台			サンヨー MDF-330	
ウナギ実験装置	水槽・加熱冷却ユニット・トラフ水槽・水切替え装置	3台				
飲水量測定・制御装置		2台				
血圧等測定記録装置		1台				
脳活動記録装置		1台				
ヘマトクリット遠心機		1台			久保田KH-1200M	
クイーンベンチ		1台			日立PCV 844	1987
インキュベーター					タイヨー M230	
冷蔵遠心機					サクマM150	
製氷機					ホシノ	2010
手術顕微鏡システム					Kom 300	2002
ポリトロン		2台			ポリトロン	
光源					ニコンFOL	
サージトロン					エレマンEMC	
冷凍冷蔵庫					三菱MR-T16P	2010
ドライオープン					イスズSV	
秤					シマズE1320000	
秤					ANDFY 300	
ボルテックス					Iwaki TM252	
保管棚		4基				
実験装置一式						
実験装置一式						
実験水槽一式						
原子吸光光度計					日立Z5300	1997
MURTI LABEL Counter					Perkin Elmer ARVI MX319	2003
イオンクロマト一式					島津CTO10A	2004
冷凍冷蔵庫					サンヨー SR-30NC	1991
クロリドメーター					Buchler Digital Chloridometer	2004
浸透圧計					Wescor Vappar Pressure Osmometer 5520	2010

機 器 名	メーカーおよび型番	購入年度
クロリドメーター	Labconco Digital Chloridometer	2010
導電率計ハンディ型	ミルウォーキー社 Mi306	2010
マルチメーター	Orion 1119000 S-Star	2010
溶存酸素・アンモニア・Ca電極		2010
pHメーター	ザルトリユース PP50	2010
パーソナルpHメーター	YSI ナノラック型式 3824	2010

資料3-1-3 低温施設

〈中野キャンパス ～2009年度〉(冷凍室)

A棟地下 (80m²) 1965年度設置。

B棟地下 (80m²) 1974年度設置。

A棟は、1室を-25℃に設定し試料の冷凍保存のために、また3室を+5℃に設定し低温実験室として利用した。B棟は、2室を-25℃に、また1室を+5℃に設定し、研究船の航海で採集された試料などを冷凍あるいは低温保存する目的に利用した。

〈柏キャンパス〉

2階 (158m²) 2010年度設置。

低温実験室 (+4℃) 1室、試料低温保存室 (+4℃) 2室、試料冷凍保存室 (-30℃) 4室 (内1室は+4℃に変更可能) からなり、低温での実験や研究船およびフィールドで採集した試料の保存が可能である。

資料3-1-4 中央顕微鏡施設

〈中野キャンパス ～2009年度〉(顕微鏡室)

A棟2階 (66m²) 1963年度設置。

透過型と走査電子顕微鏡が設置され、生物試料等の観察、分析が行われた。他の機器としては、超マイクロトーム、凍結試料作製装置、真空蒸着装置、イオンスパッタリング装置、臨界点乾燥装置、

●中央顕微鏡施設設置機器一覧

機器名	メーカー	型番号	購入年度
蛍光X線分析装置	リガク	ZSX PrimusII	2009
電子プローブマイクロアナライザー	日本電子	JXA8230(2CH)	2009
電子プローブマイクロアナライザー	日本電子	JXA8900(5CH)	1997
真空蒸着装置	日本電子	JEE-420(カーボン)	2009
ディスコプランTS新型	ストルアス		2004
ディスコプランTS旧型	ストルアス		1981
ポリリッシャー式 (PotoPol-35 + PdM-Force20)	ストルアス		
アイソメット	ビューラー		2008
超マイクロトーム		REICHERT	1993
		LKB-V	1980
金属蒸着装置		JFC-1100(金蒸着)	1980
		E-1030 (白金・パラジウム蒸着)	1993
凍結乾燥装置		JFD-300	1991
ガラスナイフ作製機		LKBナイフメーカーII	1986
透過電子顕微鏡	日本電子	JEM-1400	2009
走査電子顕微鏡 (EDX装備付属)	日立製作所・堀場製作所	S-4800/EX-2500	2009
引伸機		オメガPRO-LAB4x5	1978
		ダースト	1993

凍結乾燥装置、ガラスナイフ作製機が設置されていた。

〈柏キャンパス〉

2階 (233m²) 2010年度設置。

透過型ならびに走査型電子顕微鏡 (EDX装備) と電子プローブマイクロアナライザー、蛍光X線分析装置などを設置し、試料作製から観察や分析までを施設内で効率的に行うことができる。上記以外の主要機器には、超マイクロトーム、金属蒸着装置、凍結乾燥装置、ディスコプラン、アイソメットなどが設置されている。

資料3-1-5 海洋生物培養施設

〈中野キャンパス ～2009年度〉(培養室)

B棟地下 (80m²) 1970年度設置。

設置時はA棟地下におかれたが、74年度新設されたB棟地下に移転した。準備培養室、空調付無菌接種室、20℃恒温室、培養室 (インキュベーター6台、振盪培養機2台設置) からなり、海洋細菌、微細藻類等の株の保存、植え継ぎ、短期・長期の培養実験を行った。

●海洋生物培養施設設置機器一覧

機器名	メーカー	型番号	購入年度
インキュベーター (M-230FN)-1	タイテック	M-230FN	2004
インキュベーター (M-230FN)-2	タイテック	M-230FN	2004
インキュベーター (M-230FN)-3	タイテック	M-230FN	2003
インキュベーター (BIO CHAMBER)	タイテック	BCP-320F	
インキュベーター (FMU-1321)-1	FUKUSUMA	FMU-1321	2006
インキュベーター (FMU-1321)-2	FUKUSUMA	FMU-1321	
インキュベーター (IL62)	Yamato 科学	IL62	1994
インキュベーター (MIR-262)	SANYO	MR-262	
インキュベーター (GROWTH CABINET)-1	SANYO		1995
インキュベーター (GROWTH CABINET)-2	SANYO		2012
インキュベーター (MTI-1)-1	EYELA	MTI-1-201	2007
インキュベーター (MTI-1)-2	EYELA	MTI-1-202	
インキュベーター (FMS)	EYELA	FMS-1000	
振盪培養機 (TA-20RLS D-736)	高崎科学機械	TA-20RLS D-736	2009
振盪培養機 (TA-20RS D-735)	高崎科学機械	TA-20RS D-735	2009
振盪培養機 (TA-20RLS D-732)	高崎科学機械	TA-20RLS D-732	2008
振盪機 (MULTI SHAKER MMS)	EYELA	MMS	
振盪機 (MULTI SHAKER MMS)	EYELA	MMS	
振盪機 (MULTI SHAKER MMS)	EYELA	MMS	
振盪機 (MULTI SHAKER MMS)	EYELA	MMS	
振盪機 (MULTI SHAKER MMS)	EYELA	MMS	
振盪機 (MULTI SHAKER MMS)	EYELA	MMS	
クリーンベンチ	DALTON	PAU-1900CG	2009
乾熱滅菌器	EYELA	NDO-450N	1992
恒温室 (20℃)			2009
恒温室 (4℃)			2009
オートクレーブ	TOMY	LSX-700	2009
オートクレーブ	TOMY	BS-305	1996
オートクレーブ	TOMY	BS-245	2003

〈柏キャンパス〉

5階 (64m²) 2010年度設置。

20℃恒温室, 4℃恒温室, インキュベーター 13台, 振盪培養機 3台, 振盪機5台, オートクレーブ3台, クリーンベンチ1台, 乾熱滅菌機1台が設置されており, 様々な温度域で, 海洋細菌, 微細藻類などの株の保存, 植え継ぎおよび短期・長期の培養実験を行うことができる。

資料3-1-6 試料処理施設, 試料保管室

〈中野キャンパス ~2009年度〉(資料室)

B棟地下, 1階 (264m²), 3階 (23m²), A棟3階 (3m²), 4階 (3m²) 1969年度設置。

研究船で採集した資料(液浸生物試料, 海水, 岩石, 堆積物コア, 観測資料, 磁気テープ等)を調製, 保管した。海水試料乾燥試料室, 液浸試料室, 観測資料室などからなる。資料の蓄積にとまなない, 場所が不足していた。資料室以外に, B棟地下にもソーティング済み生物試料, 岩石標本が保管されていた。

〈柏キャンパス〉

3階 (39m²) 試料処理施設 2010年度設置。

5階 (46m²) 試料処理施設 2010年度設置。

海洋観測機器棟2階 (166m²) 試料保管庫 2010年度設置。
研究船やフィールドで採集した液浸生物試料, 海水, 岩石, 堆積物コアなどを保管している。特に試料処理施設はドラフトを備えており, 液浸生物試料の処理を行うことができる。試料保管室2室には, それぞれホルマリン系試料, 海水・岩石試料が保管されている。

資料3-1-7 遺伝子実験施設

〈中野キャンパス ~2009年度〉(遺伝子実験施設)

B棟地階 (40m²) 1988年度設置。

E棟2階 (26m²)。

遺伝子工学的な方法を用いてのDNA, RNAの塩基配列を解析したり, 遺伝子の発現を調節するメカニズムを明らかにしたりするための施設として設置された。DNAシーケンサー, サーマルサイクラー, DNA合成装置, 分光光度計, 安全キャビネット, オートクレーブが設置されていた。

〈柏キャンパス〉

3階 (254m²) 2010年度設置。

遺伝子組み換え実験から配列解析, 発現量解析などを行う施設。核酸抽出や有機溶媒を用いた実験のためのドラフト室を整備。主要設備として, 次世代シーケンサー, キャピラリーシーケンサー3台, リアルタイムPCR, サーマルサイクラー, ピペッティングロボット, コロニーピッカー, イメージアナライザー, 純水製造装置, 超遠心機, 高速冷却遠心機, クリオスタットなどを設置している。

●遺伝子解析実験施設設置機器一覧

機器名	メーカー	型番号	購入年度
CO2インキュベーター	HIRASAWA	CDE-1201	2001
インキュベーター	ADVANTEC	FI-612	1988
インキュベーター	ADVANTEC	FI-612	1989
サーモミキサー	TAITEC	Lt-10	1991
シェーカー	EYELA	FMS-100	2011
シェーカー	TAITEC	BR-15	
シェーカー	TAITEC	SI-36	
ハイブリオオープン	IWAKI	HBO-301	1994
ヒートシェーカー	TAITEC	MBR-022	2001
ヒートブロック	TAITEC	TAL-2B	1988
ヒートブロック	TAITEC	TAL-2G	1990
ヒートブロック	IWAKI	ALB-301	2001
ローテーター	TAITEC	RT-50	
遠心機	TOMY	MCX-150	1988
遠心機	HITACHI	SCR20B	1989
遠心機	KUBOTA	KA-1000	1991
遠心機	HITACHI	CF15D	1992
遠心機	TOMY	MX-301	2008
卓上小型遠心機	TOMY	PMC-060	
オートクレーブ	TOMY	ES-315	1997
安全キャビネット	HITACHI	CCV-800E	1998
安全キャビネット	HITACHI	SCV1307ECIAB3	2009
スターラー	CORNING		1994
スターラー	Fine	FS01N	
電子天秤	AND	ER-182A	1990
電子天秤	AND	FB-2000	1991
チューブミキサー	TAITEC	EM-36	1993
ボルテックスミキサー	IWAKI	TM-252	
ボルテックスミキサー	Scientific Industries	G-560	
ボルテックスミキサー	IWAKI	TM-252	
ディープフリーザー	SANYO	MDF-382AT	2001
メディカルフリーザー	SANYO	MDF-536D	2001
冷蔵庫	National	NR-C324M-H	
冷凍室			
電子レンジ	SHARP	RE-M15	1989
コロニーピッカー	Genomyc Solutions	Flexys	2001
掃除機	National	MC-1500	
ピペットマン形式	GILSON 他		
ヒートブロック	AsOne	EB-303	
遠心機	TOMY	MX-300	2001
卓上小型遠心機	eppendorf	Centrifuge 5424	2011
卓上小型遠心機	TOMY	2816	
卓上小型遠心機	TOMY	2320	
卓上大型遠心機	SiGMA	4K15	2001
卓上大型遠心機	Beckman	Allegra X-12R	2011
サーマルサイクラー	Applied Biosystems	GeneAmp PCR System 9700	2002
サーマルサイクラー	Applied Biosystems	GeneAmp PCR System 9700	2002
サーマルサイクラー	BioRad	MyCycler	2003
サーマルサイクラー	Applied Biosystems	Veriti	2011
シーケンサー	Applied Biosystems	3130xl Genetic Analyzer	2001
シーケンサー	Applied Biosystems	3130xl Genetic Analyzer	2001
シーケンサー	Applied Biosystems	3130xl Genetic Analyzer	2001
次世代シーケンサー	Rosche	GS Junior	2011
ナノドロップ	THERMO scientific	ND-1000	2005
ナノドロップ	THERMO scientific	NanoDrop Lite	2011
ボルテックスミキサー	Scientific Industries	G-560	2011
ボルテックスミキサー	Scientific Industries	G-560	

機器名	メーカー	型番号	購入年度
ボルテックスミキサー	Scientific Industries	G-560	
リアルタイムPCR	Applied Biosystems	7900HT	2001
リアルタイムPCR	Applied Biosystems	StepOnePlus	2011
メディカルフリーザー	SANYO	MDF-U537D	2001
冷蔵庫	SHARP	SJ-WH38P-C	2001
電子レンジ	SHARP	RE-T11	
プロイディアナライザー	Partec	PAII	2001
ロボット分注機	BECKMAN	Biomek FX	2001
卓上小型遠心機	eppendorf	Centrifuge 5424	2011
卓上小型遠心機	TOMY	XX42CFORT	2011
バイオアナライザー	Agilent Technologies	Agilent 2100 Bioanalyzer	2011
吸光度計	Promega	Quanti Fluor ST	2011
サーマルサイクラー	Applied Biosystems	Veriti	2011
ドラフト	DALTON	-	2010
ドラフト	DALTON	-	2010
ボルテックス	IKA	MS3 Vortexer	2011
ボルテックスミキサー	Scientific Industries	G-560	2011
マイクロマッシュミキサー	TOMY	MS-100	2008
	IKA	ULTRA TURRAX Tube Drive Control	2011
HYDRO SHEAR plus	DIGILAB		2011
HPLC	SHIMADZU	LC10AD	1992
アスピレーター	AsOne	GAS-1	
イメージアナライザー	FUJI FILM	FLA-2000	
イメージアナライザー	GE healthcare	Ettan DIGE	
ブロックインキュベーター	TAITEC	TAL-1G	
ブロックインキュベーター	TAITEC	DTU-1B	
遠心機	HITACHI	CR5B2	
大型遠心機	BECKMAN	J2-21M/E	1989
大型遠心機	BECKMAN	J2-21M/E	1990
超遠心機	BECKMAN	XPN-90	2011
乾燥機	YAMATO	DN63	1992
蒸留装置	AQUARIUS	RFD 240NA	2011
蒸留装置	AQUARIUS	GS-2000	
超純水装置	MILLIPORE	MILLI-Q SP	1994
超純水装置	MILLIPORE	Integral 3	2011
低温室			2010
冷蔵庫	National	NR-B13T3	
メディカルフリーザー	NIHON FREEZER	GSS-3065	1992
メディカルフリーザー	SANYO	MDF-U442	1996
クリオスタット	LEICA	CM3050S	
超音波洗浄機	YAMATO	1210J	
ピストングラジエントフ	TOWA LAB	BIOCOMP	2004
ラクショネーター			
マニュアルシーケンサー			

資料3-1-8 総合クリーン実験施設（ナノシムス実験室、無機系実験室、生物地球化学実験室）

〈中野キャンパス ～2009年度〉（測定器室）

数カ所の測定機室に使用目的の類似した大型実験機器を設置して、所内外の共同利用に供された。

ナノシムス：FII棟1階（33m²）2004年度設置。

最先端の二次イオン質量分析計「ナノシムス（NanoSIMS）」を設置し、超微小領域（1000分の1mm以下）の分析に使用した。無機系：A棟2階（80m²）1965年度設置 B棟1階（40m²）1995年度設置

分光分析室、質量分析室、天然放射能測定室に、ICP発光分光分析計、偏光ゼーマン型原子吸光度計、ICP質量分析計、表面電離型質量分析計、同位体比質量分析計、アルファ線検出器、アルファ・ベータ線検出器、ガンマ線検出器を設置し、微量元素や天然放射性核種の測定に使用した。

生物地球化学系：A棟地下（40m²）1974年度設置 B棟地下（40m²）1995年度設置

超遠心機・測定器室、生産量測定室に、栄養塩自動分析装置、同位体比質量分析計、元素分析計、分光光度計、蛍光光度計、ガスクロマトグラフ、高速液体クロマトグラフ等を設置し、栄養塩濃度、炭素や窒素などの量や同位体比、酵素活性や有機物量の分析に供した。

〈柏キャンパス〉

1階（41m²）、3階（149m²）、4階（123m²）2010年度設置。

柏移転に伴い、高感度・高精度な化学分析を行うクリーンな環境の実験施設として総合クリーン実験施設が立ち上げられた。中野キャンパスのFII棟にあった二次イオン質量分析計「ナノシムス（NanoSIMS）」は、柏キャンパス1階のナノシムス実験室に設置された。中野キャンパスの分光分析室、質量分析室、天然放射能測定室は、柏キャンパス3階の無機系実験室としてまとめられ、また、超遠心機・測定室、生産量測定室は4階の生物地球化学実験室としてまとめられた。以前よりも測定環境が良くなり、充実した設備が整えられた。

●総合クリーン実験施設設置機器一覧

機器名	メーカー	型番号	購入年度
二次元高分解能二次イオン質量分析計	カメカ	NanoSIMS50	2004
金蒸着装置	エイコー	IB-3	2004
真空乾燥器	アズワン	AVO-250	2008
実体顕微鏡	オリンパス	SZ61	2008
四重極型ICP質量分析計	Agilent Technology	7700x (G3281A)	2009
脱溶媒ネブライザー	CETAC	Aridus II	2009
四重極型ICP質量分析計	Agilent Technology	HP4500 (G1820AJ)	1995
ICP発光分析計		IRIS Advantage	
表面電離型質量分析計	Thermo Fisher	MAT262	
同位体比質量分析計	Thermo Fisher	Delta Plus XP	
γ線計測器	CANBERRA	SAP14244	2009
αβ計測器	CANBERRA	LB4110	2009
α線計測器	EG&G	576A	1980
ラドン計			1979
マッフル炉	Advantec	KL-420	
分光光度計	島津製作所	UV-160A	1992
ターナー蛍光光度計	TURNER DESIGNS	10-AU	1994
分取用HPLC	島津製作所		
ルミネックス			2006
アミノ酸分析用HPLC	島津製作所		
元素分析計 (CHN計)	Thermo Fisher Scientific	FLASH 2000	2011
フローサイトメーター	日本ベクトンディッキンソン	FACS Verse	2011
フローサイトメーター	日本ベクトンディッキンソン	accuri	2011
フローサイトメーター	日本ベクトンディッキンソン	FACSCalibur	2011
フローサイトメーター	partec		2004
オートアナライザー (AACS II)	BRAN LUEBBE	AACS II	2001
オートアナライザー	BLTEC	SWAAT	
冷蔵庫	日本フリーザー	UKS-5410HC	2009
冷凍庫	SANYO	MDF-273	2009
同位体比質量分析計	Termo Finnigan	DELTA plus XP	2002
精密マイクロ天秤	Sartorius	MC 5	
精密天秤	Sartorius	LE225D	
ECD-GC	島津製作所	GC-14B	
FID-GC	HEWLETT PACKARD	5890 SERIES II plus	1993
蒸留水製造装置	ADVANTEC	GS-200	1996
Milli-Q (簡易設置型)	MILLIPORE	Simplicity UV	2008
オープン	EYELA	WFO-400	
シリンダーキャビネット			2010
ドラフト	DALTON		2010
オートアナライザー	BLTEC	QuAAtro 2-HR	2011
オートアナライザー	BRAN LUEBBE	AACS III	1999
クリーンルーム			2010

資料3-1-9 地学試料処理施設

〈中野キャンパス ～2009年度〉(資料準備室)

B棟1階 (20m²) 1975年度設置。

研究船で採集した岩石、堆積物コアを調整する。岩石カッター、卓上岩石ドリル、研磨機、岩石粉碎機が設置されていた。

〈柏キャンパス〉

2階 (99m²) 2010年度設置。

岩石および珪石の切断・研磨、蛍光X線分析用のガラスビードの作製を行う施設。岩石カッター、卓上ドリル、岩石研磨機、岩石クラッシャーを備えている。また、ドレッジ試料・堆積物コア試料の記載、岩石物性測定、サンプリングを行うことができる。

●地学試料処理施設設置機器一覧

機器名	メーカー	型番号	購入年度
ポリッシャー	丸本工業	DP-U4	1981
ポリッシャー	丸本工業	DP-U4	
ディスコプラン	丸本工業	TS	
ディスコプラン	丸本工業	TS	
ミリポア	MIKKIPORE		2002
ミリポア	ヤマト	WEX2	
顕微鏡	Nikon		1979
恒温器	ISUZU		
岩石切断器 (小)	マルトー	MC-100	1984
岩石切断器 (中)	マルトー		1995
岩石切断器 (航海対応)	マルトー		
岩石切断器 (大)	マルトー		
精密岩石切断器	ACCUTOM		
卓上ドリル	NAMIKI	NBD-340	
ポリッシャー	丸本工業		
コンプレッサー	日立	BEBICON	
ビードサンブラー	Rigaku		1991
クラッシャー	FRITSCH		1984
ボールミル	FRITSCH		1984
微量試料熔融装置	NISTAC		1980
ポロシメーター	FISONS	Type 120	2001

資料3-1-10 地学精密分析実験施設

〈柏キャンパス〉

7階 (68m²) 2010年度設置。

炭酸塩試料、海底堆積物、岩石試料などに含まれる微量元素や同位体比を分析するための施設。2基のドラフトとクリーンベンチを備えたクリーンルームがあり、二重収束型高分解能質量分析計が設置されている。個体試料をそのまま測定に供することが可能なレーザーアブレーション装置の導入も予定されている。

●地学精密分析実験施設設置機器一覧

機器名	メーカー	型番号	購入年度
ICP-MS	Thermo	ELEMENT XR	
TOC	Shimazu		

資料3-1-11 RI実験施設

〈中野キャンパス ~2009年度〉(放射線同位元素実験施設)

B棟地下 (212m²) 1969年度設置。

放射線同位元素を用いた物理、化学、生物学的実験を行うための施設で、放射線障害防止法に基づき、本所放射性安全委員会の安全管理のもとに運営された。なお、大槌臨海研究センターならびに白鳳丸にも放射性同位元素実験用施設があり、あわせて年間約400件程度の実験が行われていた。

〈柏キャンパス〉

1階 (226m²) 2010年度設置。

放射線同位元素を用いた生物学・化学・物理学的実験を行うための施設。液体シンチレーションカウンター、ガンマカウンターをはじめとする測定装置のほか、各種遠心機、培養設備、遺伝子実験機器、暗室設備などを備えている。

●RI実験施設設置機器一覧

機器名	メーカー	型番号	購入年度
ハンドフットクロスモニター	ALOKA	MBR-201H	2010
実験水槽			
ガスモニター	ALOKA	DGM-233	2010
ガスモニター	ALOKA	DGM-277	2010
γカウンター	Perkinelmer	Wizard2	2009
液体シンチレーションカウンター	Perkinelmer	Tri-carb	2012
TLDカウンター	KASEI OPTONIX	READER 2500	1990
TLDアニーリングオープン	KASEI OPTONIX		1990
冷蔵庫	mitsubishi	MR-C37R-H	
遠心機	SAKUMA	50A-7	1986
遠心機	SAKUMA	50MA-IV	1994
遠心機	SAKUMA	M-160-IV	1994
アスピレーター	TOKYO RIKAI KIKAI	A-39	
サーモミンスター	TAITEC	Thermo minder 50	1992
サーモミンスター	TAITEC	Thermo minder 50	1993
クリーンベンチ	HITACHI		
メディカルフリーザー	SANYO	MDF-U338	
HPLC	JASCO		1991
ヒートブロック	EYELA	MG-2000	
プリンター	RIKA DENKI		
インキュベーター	MITSUBISHI	CN-40A	
インキュベーター	YAMATO	IC402	
ブロックインキュベーター	ASTEC	BI-516S	
卓上小型遠心機	TOMY	PMC-250	
ボルテックスミキサー	IWAKI	TM-250	
ダイレクトミックス	サーマル化学産業	TS-100	1994
冷蔵庫	MITSUBISHI	MR-23T-H	
薬用冷蔵庫	ShinMaywa	MC29C	1995
ハイブリッドオープン	IWAKI	HBO-301	1988
電子天秤	Sartorius	L2200S	
スターラー	TOYO KAGAKU SANGYO	ss-5	
ブロックインキュベーター	TAITEC	TAH-1G	1993
ハロゲンヒーター	DAIKIN	ERFT11KS	
インキュベーター	TAITEC	M-260F	
遠心機	HITACHI	CS100GX	
遠心機	eppendorf	5417R	
ボルテックスミキサー	IWAKI	TM252	
HPLC	SHIMADZU		1988
フローシンチ	Perkinelmer		2004

資料3-1-12 物理環境実験施設

〈中野キャンパス ~2009年度〉共通実験室

B棟地下 (120m²) 1982年度設置。

1981年のC棟の建設に伴い、共通室の再編成が行われ、B棟地下のピロティの整備に関連して、1982年にB棟地下に、主に物理・生物環境に関わる室内実験的研究を行うための共通施設として共通実験室が設立された。共通実験室には、地球の自転に伴うコリオリ力が海洋・大気中の様々な現象について及ぼす影響を解明するための大型回転台 (直径1.5m、回転数0~15rpm)、密度成層の効果を調べる実験水槽等が整備され、実験に必要な室温制御のための空調設備が設置された。

〈柏キャンパス〉物理環境実験施設

6階 (57m²) 2010年度設置。

大型回転台を始めとした中野キャンパスから移設された設備と新たに整備した空調設備を備え、地球の回転によるコリオリ力や密

度成層の効果の効いた大規模な大気・海洋の運動とその生物環境への影響などを調べる室内実験を行うことができる。簡易型水槽を設置して、海洋中でのグライダー機器の調整等にも利用している。

●物理環境実験施設設置機器一覧

機器名	メーカー	型番号	購入年度
回転実験装置	伊勢屋機械製作所		1981

資料3-1-13 液体窒素タンク施設

〈中野キャンパス ～2009年度〉(液体窒素タンク)
1970年度設置。

1970年に液体窒素タンク1基がB棟脇に設置され、1982年に中庭に移動された。

〈柏キャンパス〉

北側屋外 2010年度設置

研究所の屋外に内容積4.98m³のタンクが1基設置されている。PC制御による自動供給装置が装備されており、容器を登録すれば、タッチパネル操作で容器サイズにあわせて液体窒素を安全かつ容易に充填することができる。

資料3-1-14 観測機器整備室

〈中野キャンパス ～2009年度〉(金工室)
B棟1階 (86m²)

海洋研究所設立以来仮設置されていたが、室としては1969年度に形態を整え、74年度新設されたB棟の1階に独立して設置された。基本方針としてはオープンショップ方式がとられ、必要に応じて技術職員が工作する複合方式をとった。旋盤、スライス盤、ボール盤、溶接機などが設置された。

〈柏キャンパス 2010年度～〉

海洋観測機器棟1階 (46m²)

金工室の設置はなく、海洋観測機器棟に金工室の機器の一部を移

転し、整備室が開設された。支援職員が常駐し、機器のメンテナンスを担当している。また、2010年度末にオープンショップ方式の工作室が設けられ、支援職員が使用希望者の指導を行っている。

●観測機器整備室設置機器一覧

機器名	メーカー	型番号	購入年度
ボール盤	ENSHU	ESD350X	
旋盤	理研精工	RBL-3	1966
フライス盤	理研精工	RTM-2	1966
帯のご盛	岐阜機会(株)	GN-360	1967
シャーリングマシン(板金切断機)	平井鋳金機械店		
グラインダー	SHOWA	SGK-NC	1976
ベルトグラインダー	SHIMOMURA	DRE-034	

資料3-1-15 写真室

〈中野キャンパス ～2009年度〉(写真室)

A棟2階 (40m²) 1963年度～1994年度。

B棟地下 (28m²) 1995年度設置。

A棟の2階に設置された当初は、前室1室、暗室2室で写真の撮影、現像、焼き付け等に利用された。70年代にパナコピー、デザインスコープが導入され、スライド作成、投稿用の図版作成等を含む幅広い写真作業に利用された。1955年にはB棟地下に前室1室、暗室3室を備えた新施設として移設された。資料接写台、引伸機、印画紙乾燥機等が設置され、様々な写真作業に使用された。

資料3-1-16 ガラス工作室

〈中野キャンパス ～2009年度〉(ガラス工作室)

B棟地階 (86m²) 1969年度設置。

Open shop systemをとり、常駐する技術職員のもと、様々な研究分野の実験に必要な各種ガラス装置、器具等の試作、あるいは研究者への技術指導等を行っていた。ガラス旋盤、電気炉、ダイヤモンド円盤、平面研削盤、グラインダー、切断機、溶接機、ドラフトチャンバーなどが設置されていた。

資料3-2 学術研究船

最近の20年間に達成された、もしくは継続中の海洋研究の多くが、学術研究船白鳳丸（第2代）や淡青丸（第2代）を用いて実施され、もしくは実施されつつある。第2代白鳳丸は1989年5月1日に、また第2代淡青丸は1982年10月15日に竣工され、今日まで休むことなく海洋研究に活躍してきた。2004年の大学法人化に伴い、これら2船は、いずれも所属が東京大学から海洋研究開発機構に移行されたが、全国共同利用システムはその後も堅持されており、我が国のボトムアップ海洋研究の中核を担い続けていることに変わりはない。これらの学術研究船の詳細説明については、『東京大学海洋研究所30年史』に書き尽くされているので、ここでは、両船の主要目と一般配置図を再録するとともに、ただし一般配置図は『30年史』に比べてサイズを大きくして見やすくした。

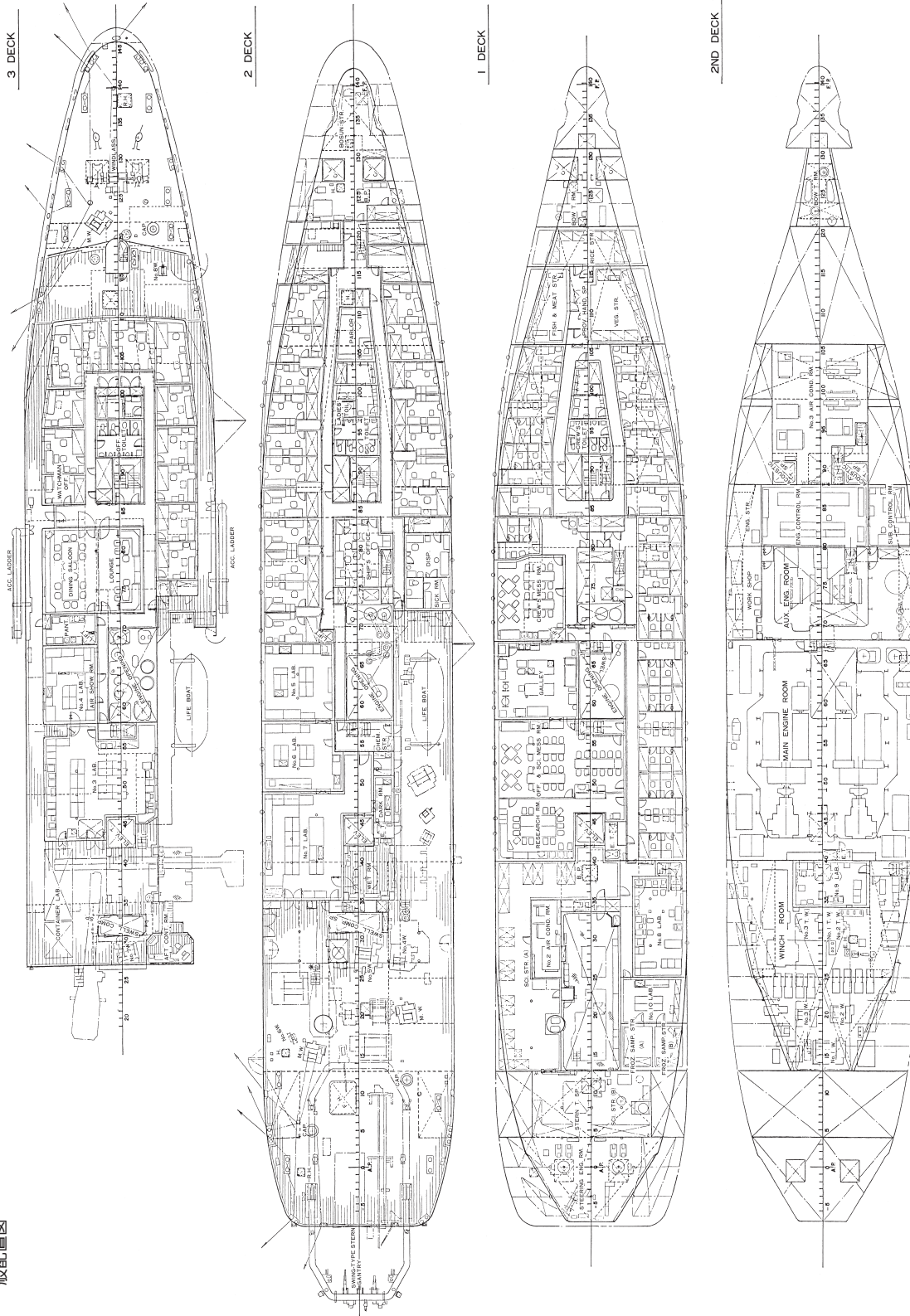
第2代淡青丸の主要目

全長	51.00m
垂線間長	45.00m
幅(型)	9.20m
深さ(型)	4.20m
計画満載喫水	3.70m
夏期満載喫水	4.309m
総トン数	469.84トン
純トン数	125.24トン
試運転最大速度	14.61ノット
航海速度	12.00ノット
航続距離	6,200海里
主機関(ディーゼル)	750PS×2基(1軸)
推進機	4翼可変ピッチ 1軸
主発電機	300KVA(240kW)(60Hz, 230V)×1
パウスラスタ	×1 4翼可変ピッチ
タンク容積	
清水	119.00m ³
バラスト水	16.7m ³
燃料油	162.2m ³
潤滑油	8.3m ³
乗組員定員	27人(予備員4人を含む)
研究員定員	11人

起工年月日	1982年 2月 1日
進水年月日	1982年 7月 9日
竣工年月日	1982年10月15日

第2代白鳳丸の主要目

全長	100.00m
垂線間長	90.00m
幅(型)	16.20m
深さ(型)	8.90m
総トン数	3,987トン
推進方式	ディーゼル推進及び電気推進
原動機	1,900ps×4台
推進用電動機	1,085kw×2台
プロペラ・舵	2軸・2舵
主発電機	715KVA×3台
パウスラスタ	4.2T×2台
スタンスラスタ	6.8T×1台
航海速度	16.0kn
乗船人員	89名(内研究者35名)
起工	1988年 5月 9日
進水	1988年10月28日
竣工	1989年 5月 1日



資料3-3 共通研究施設等

資料3-3-1 海洋観測機器棟

海洋観測機器棟には、研究航海で使用する観測機器や資材を収納する倉庫（吹き抜けで大型観測機器を収納）、研究航海で採集したサンプルを保管する資料保管庫、さらに観測機器の調整や修理、製作を行う整備・工作施設が設けられている。

施設屋外にはコンテナラボ、いざなぎ（曳航式サイドスキャンソナー）の架台、ウインチ架台、NSS（自航式サンプル採取システム）ケーブルウインチなど、大型機器が置かれている。

海洋観測機器棟の南東側は吹き抜けになっており、採水装置架台、ピストンコアラ、マルチプルコアラ、係留作業用可搬型ウインチ、いざなぎ、NSS等の大型観測機器が格納されている。これら大型観測機器の搬出搬入作業のために2.8トンの天井クレーンが装備されている。

2階に設けられた資料保管庫(1)は主にネット等で採集された生物サンプルが保管され、資料保管庫(2)にはドレッジやコアラで採集された鉱物サンプルが保管されている。

1階の機器調整室はCTDセンサーや塩分計等精密機器の調整および研究航海で採集した海水の塩分計測等を行っている。また、器具洗浄室では航海で使用するサンプル瓶の洗浄を行っている。

整備室および工作室には旋盤やボール盤が備えられ、研究支援推進員(3名)が観測機器の修理や製作作業に従事している。また、研究支援推進員の協力のもと、教職員や大学院生が観測機器の製作作業に従事することもある。なお、重量物のプラットフォームへの移動を容易にするため、整備室には1トンの天井クレーンが設けられている。

資料3-3-2 図書室

大気海洋研究所での研究・教育活動を支援するため、関連図書・雑誌などを収集・保存し、利用に供している。

蔵書資料の目録情報は、オンライン蔵書目録を通じて公開し、学内だけでなく他大学や研究機関へも複写や貸出のサービスを提供している。

特色ある蔵書として、三井海洋生物学研究所の旧蔵書を中核とする海洋探査報告のコレクション（Expedition）がある。また、全国の水産研究所・水産試験所等の資料も充実している。

蔵書数 61,596冊（和図書22,937冊、洋図書38,659冊）
 継続購入雑誌 182種（和雑誌25種、洋雑誌157種）
 （2012年3月31日現在）

資料3-3-3 共通施設

■大気海洋研究棟

・講堂、ホワイエ

講堂は、舞台、スクリーン、プロジェクタ、照明、音響、遠隔会議システム等の設備を備え、シンポジウムや講演会などに利用されている。座席数142。講堂入り口にあるホワイエでは簡単

な飲食が可能で、懇親会、またシンポジウム・会議の休憩時間の歓談の場となっている。

・会議室

スクリーンとプロジェクタを備え、講演会や会議等に利用されている。収容人数60名。

・講義室1、講義室2

スクリーンとプロジェクタを備え、講義やセミナーなどに利用されている。収容人数は講義室1は36名、講義室2は52名。なお、講義室2は仕切りを開けることによって隣室と連結して使用することが可能である。

・セミナー室

スクリーンとホワイトボードを備えた、講義室よりも一回り小さな部屋で、セミナーや打ち合わせ等に利用されている。収容人数はそれぞれ16～18名。3階以上の各階に1室ずつ設けられている。

・ラウンジ

3～7階のセミナー室に隣接して設けられたスペースで、テーブルと椅子が設置され、談話などに随時利用できる。また、これを通じて各階のバルコニー、テラスに出ることができる。

・バルコニー、テラス

柏キャンパス全体を見渡しながら休憩できるスペース。テーブルとベンチを備え、簡単な飲食が可能である。

・エントランスホール

玄関を入ってすぐ、1階から7階までの吹き抜けのあるスペース。懇親会など各種イベントに利用されている。テーブルと椅子・ベンチが設置され、待ち合わせなどにも利用できる。

・男子休憩室、女子休憩室

休憩・仮眠に利用できる。

・組合室

組合の会議などに利用できる。

・客員教員室

客員教員が研究室として使用できる。

■総合研究棟

・リフレッシュコーナー

総合研究棟南棟の2、3階に2カ所ずつ設けられている共有スペースである。電磁調理器があり、簡単な調理ができる。2階のリフレッシュコーナーには冷蔵庫・電気ポット・電子レンジ・調理器具なども置かれ、自由に使用することができる。研究の合い間にお茶を飲みながら議論や情報交換をするスペースとしても活

用されている。

・地下倉庫

総合研究棟北棟地階にあるスペースで、博士論文、気候系で発行した資料・印刷物、一部の製本化された蔵書や気候系創立当初のアルバムなどが保管されている。廃棄備品などの一時保管場所としても活用されている。

・気候展示室

総合研究棟北棟1階にある、気候系研究に関するパネルなどの展示スペースである。オープンキャンパスや懇親会などの行事にも利用されている。

・談話室

総合研究棟南棟2階に設けられた和室で、打ち合わせや休憩に利用することができる。非常時に宿泊できるように寝具も常備されている。

・気候図書室

総合研究棟北棟2階にあり、学術雑誌・文献等を所蔵している。

蔵書には、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の報告書も含まれている。専門スタッフによって管理されており、定期的に蔵書点検・製本などが行われている。製本済雑誌・論文は貸出不可だが、文献等図書の貸出は可能である。所蔵数：製本雑誌約5000冊、図書約2500冊。

・シャワー室

総合研究棟北棟に設けられた更衣室兼シャワー室である。キーロック式で、男子用・女子用に分かれている。

・旧4センター共用会議室

総合研究棟北棟の2階、南棟の3階にある会議室で、旧4センター（旧気候システム研究センター、人工物工学研究センター、空間情報科学研究センター、旧高温プラズマ研究センター）の共通利用となっており、講義や各種セミナー、シンポジウムに利用されている。両室ともテレビ会議システムでの会議が可能である。収容人数：2階会議室42名、3階会議室24名。

資料4 年 表

海洋研究所

[1962.4~2010.3]

1958.1	日本海洋学会と日本水産学会の連名で海洋総合研究所設立について日本学術会議に建議
1958.4	日本学術会議が同研究所を設置すべきことを議決
1962.1	総長は文部大臣に海洋研究所設立についての申請書を提出
1962.4	海洋研究所が東京大学附置の全国共同利用研究所として設置
1963.6	初代淡青丸竣工
1967.3	初代白鳳丸竣工
1973.4	大槌臨海研究センター（現在の国際沿岸海洋研究センター）設置
1982.10	第2代淡青丸代船竣工
1988.5	内田海洋学術基金の設立
1989.5	第2代白鳳丸竣工
1994.6	海洋科学国際共同研究センター（現在の国際連携研究センター）設置
1995.3	第1回外部評価
2000.3	第2回外部評価
2000.4	16部門を6部門16分野に改組。海洋環境研究センター設置
2001.4	新領域創成科学研究科が海洋環境サブコース設置
2003.4	大槌臨海研究センターを国際沿岸海洋研究センターに改組
2004.4	東京大学の法人化。海洋環境研究センターを先端海洋システム研究センターに改組。淡青丸と白鳳丸が独立行政法人海洋研究開発機構へ移管
2006.4	新領域創成科学研究科の改組に伴う自然環境学専攻海洋環境学コース発足
2006.11	海洋研究連携分野（生物圏環境学）設置
2008.3	第3回外部評価
2009.3	海洋アライアンス連携分野設置
2010.3	中野キャンパスから柏キャンパスへの移転。先端海洋システム研究センター時限終了

気候システム研究センター

[1991.4~2010.3]

1989.7	文部省測地審議会の建議を通じた気候システム研究センターの設立計画
1990.12	1991年度政府予算（案）の確定により東京大学に気候システム研究センター設置の決定
1991.4	気候システム研究センターが全国共同利用施設として東京大学に設置（10年時限）。理学部7号館に仮住まい
1991.10	寄附研究部門（グローバル気候学）設置（1996年9月まで）
1992.2	第1期工事が完成。駒場リサーチキャンパスに移転
1992.3	気候モデルと気候予測に関するワークショップ（国際シンポジウム）開催。研究の方向性の検討
1992.10	第1回公開講演会「気候システムの謎をさぐる'92」を安田講堂で開催
1993.3	第2期工事完成
1997.4	寄附研究部門（グローバル気候変動学）設置（2000年3月まで）
1999.7	第1回外部評価
2001.4	気候システム研究センター（第2期）発足
2004.4	東京大学の法人化に伴う全学センターとしての位置づけ
2005.3	柏キャンパス総合研究棟へ移転
2007.12	第2回外部評価
2010.3	気候水循環研究分野設置

大気海洋研究所

[2010.4～2012.3]

- 2010.4 大気海洋研究所の発足。開所式を新棟（大気海洋研究棟）にて開催。海洋科学国際共同研究センターを国際連携研究センターに改組。地球表層圏変動研究センターと共同利用共同研究推進センターの発足
- 2010.7 東京大学大気海洋研究所設立・新研究棟竣工披露式典を大気海洋研究棟にて開催
- 2011.3 東日本大震災による国際沿岸海洋研究センターの被災。被災当日（3月11日）に災害対策本部を本所に設置
- 2011.4 本学が東日本大震災に関する救援・復興支援室を設置。同室に大槌復旧建設班（班長：本所所長）を設置
- 2011.11 東北海洋生態系調査研究船（淡青丸後継船）の建造決定
- 2012.3 「東京大学と大槌町との震災復旧及び復興に向けた連携・協力に関する協定書」調印式が大槌町にて開催
-

編集後記

本書は、『東京大学海洋研究所15年史』、『東京大学海洋研究所30年史』に引きつづき、『東京大学大気海洋研究所50年史』としてまとめたものである。最近20年間の歴史を記載することに焦点を絞ったが、『15年史』や『30年史』にくらべてページ数が大幅に増えていることから分かるように、海洋研究所と気候システム研究センターの統合による大気海洋研究所の2010年4月の発足など、記録として残すべきできごとが最近20年間に多く起こっている。編集に携わってみて、まさに激動の20年であったことを実感している。本所のこの激動の20年を、限られたスペースの中にできるだけしっかりとその背景も含めて記述することを心がけた。

50周年記念事業を準備するため、本所に「50周年記念事業準備委員会」（以下、準備委員会）が設けられた。準備委員会は、第1回会合を2011年10月に開催して以来、2012年12月まで17回の会合を持った。この間にメンバーの交替があった。委員長として50年史の基本構想のとりまとめに中心的役割を果たしていた川辺正樹教授が2012年1月に急逝した。このため、同年2月に白木原國雄が委員長として加わり、岡英太郎が委員として参画した。広報室長として委員に加わっていた西田睦は2012年3月に定年退職したが、その後もアドバイザーとして委員会に出席した。準備委員会の主たる任務である50年史作成に関わる各種作業を効率的に行うために、準備委員会のもとに編集委員会（白木原國雄、岡英太郎、西田睦、佐伯かおる、佐賀和美）を置いた。編集委員会は、終日の集中作業を含め、合計11回の会合を持ち、実質的な編集活動を推進した。

原稿の準備は、以下のように行われた。全体構成は、準備委員会で詳細に検討された。それに基づいて原稿依頼がなされた。序章は編集委員会が中心になって作成した。第1～4章は、もっとも関わりのある教職員が執筆し、他の関連メンバーや編集委員会とのやりとりを経て作成された。第5・6章は、各当該分野等で執筆したものを統合して作成された。「資料」は、事務部、共同利用共同研究推進センターおよび広報室の各担当者で基礎情報を掘り起こして整理したものをもとに、編集委員会とやりとりしながら仕上げられた。

編集委員会が苦労したことのひとつは、データのとりまとめであった。記録が不十分なために正確な記載ができなかった項目もあった。日頃からのデータ管理をしっかりと行わない限り、20年間はデータのとりまとめには長すぎることは編集委員会メンバーの共通認識となっている。今後を考える上での参考にしていただきたい。

上記のように、本書の本文・資料の執筆者は在職の教職員であったが、情報収集には多くの旧教職員や大学院修了者の協力を得た。また、濱田純一総長、浅井富雄、平啓介、小池勲元海洋研究所長、松野太郎、住明正、中島映至元気候システム研究センター長、西田睦元大気海洋研究所長から、50周年に寄せる原稿をいただいた。池田貞雄元大気海洋研究所事務部長、吉田雅彦元大気海洋研究所事務長にはていねいに原稿を確認いただいた。これらの方々にお礼申し上げる。

2012年12月

編 者

●東京大学大気海洋研究所50周年記念事業準備委員会

委 員

白木原國雄（委員長，2012年2月から）

川辺正樹（元委員長，2012年1月まで）

岡英太郎（2012年2月から） 川幡穂高 高橋正明 瀧田忠彦（2012年4月から） 塚本久美子（2012年2月から）

西田睦（2012年3月まで） 道田豊 吉田雅彦（2012年3月まで）

事務局

[事務部] 岡部友紀 西井佐和子 平澤敏之

[広報室] 佐伯かおる 佐賀和美 森山彰久 渡部寿賀子 渡辺由紀子

（以上，委員長と元委員長以外は五十音順）



第16回50周年記念事業準備委員会（2012年10月），大気海洋研究所気候システム研究系教職員の入居する総合研究棟320号室にて。

東京大学大気海洋研究所50年史
1962～2012

編者——東京大学大気海洋研究所
50周年記念事業準備委員会

発行日——2013年1月30日

発行者——東京大学大気海洋研究所
千葉県柏市柏の葉5-1-5
電話 04-7136-6006 (代表)
www.aori.u-tokyo.ac.jp

印刷所——株式会社クイックス

本書の掲載内容についてお気づきの点があれば、
大気海洋研究所広報室 kouhou@aori.u-tokyo.ac.jp
までご一報ください。